J

DSP AVアンプ

NATURAL SOUND AV AMPLIFIER

DSP-Z11

取扱説明書

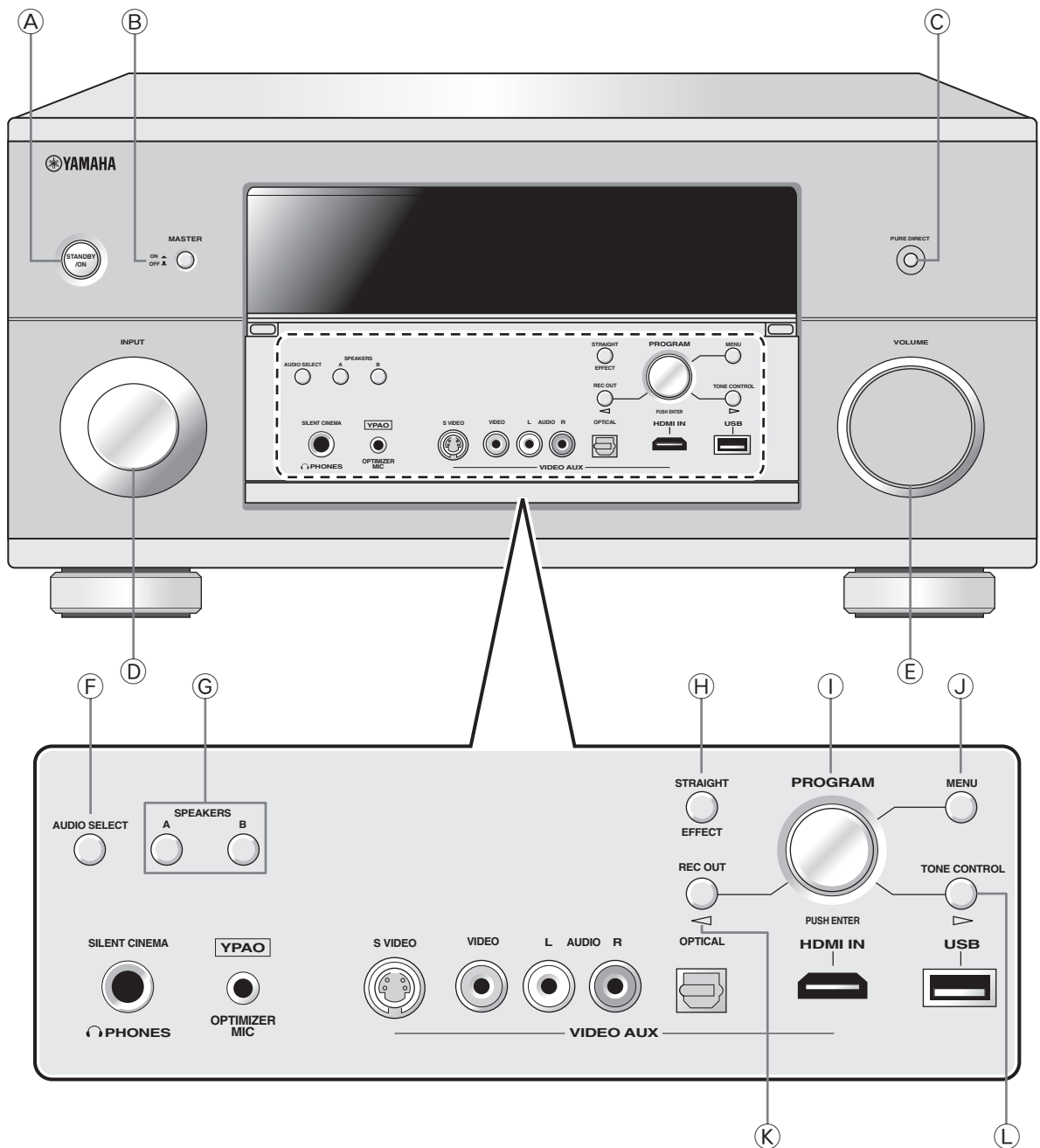
■ 本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

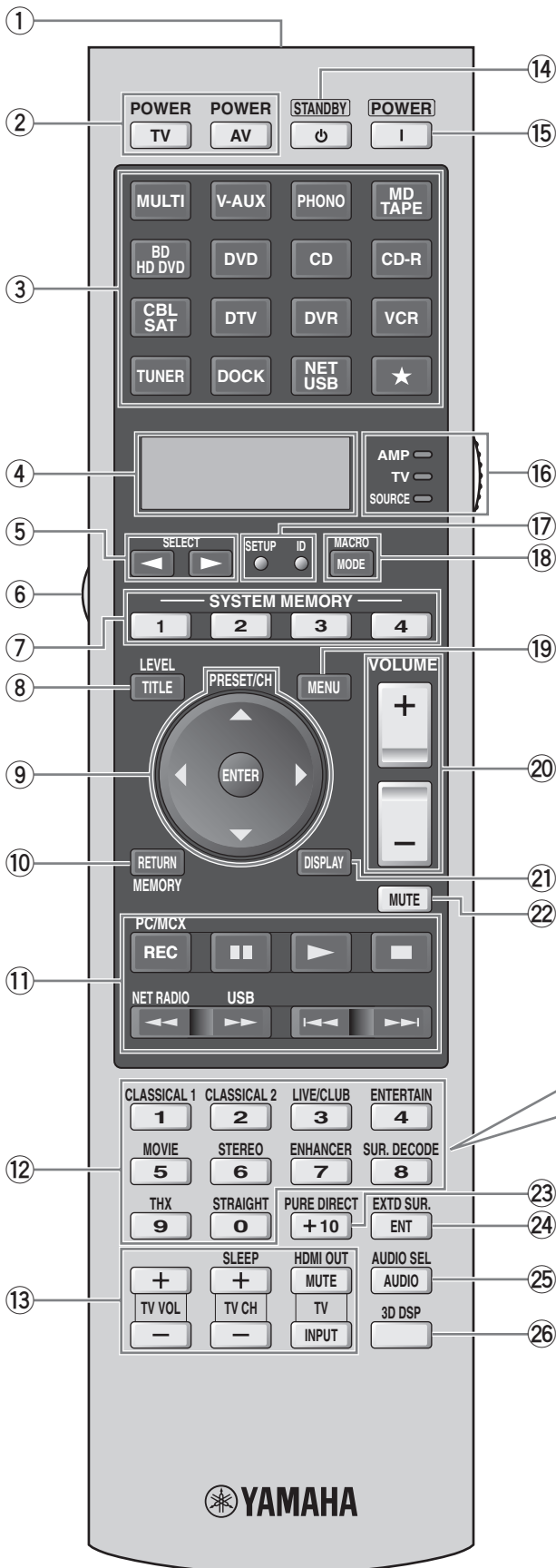
安全上のご注意　本機をお使いいただく前に、「安全上のご注意」をお読みのうえ、正しくお使いください。

保証書別添付

本機のコントロール部

フロントパネル

下記のⒶ～Ⓕまでのアルファベットは、本文中のキーやダイヤルなどの名称に付記されているアルファベットに対応しています。

リモコン

下記の①～㉘までの数字は、本文中のキーやボタンなどの名称に付記されている数字に対応しています。

バックライトについて

本機のリモコンはバックライト機能を搭載しており、初期設定では以下の場合にバックライトが点灯します。

- ⑥**LIGHT**ボタンを押したとき
- キー操作をしたとき
- 振動を感知したとき

バックライトが⑥**LIGHT**ボタンを押したときのみ点灯するように設定（バックライトモード）を変更し、リモコンの消費電力を抑えることもできます。詳しくは「バックライトモードを切り替える」（164ページ）をご覧ください。

③☆キーについて

③☆キーにリモコンコードを設定すれば（165ページ）、入力ソースを切り替えることなく、設定した機器を操作できます。

簡易リモコンについて

この製品には簡易リモコンも付属しています。詳しくは、「簡易リモコンについて」（181ページ）をご覧ください。

もくじ

はじめに

接続する

接続が終わったら

基本的な再生のしかた

いろいろな再生のしかた

iPod とネットワーク機器

便利な機能

メニューで設定を変更する

リモコンを使いこなす

その他の情報

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「～しないでください」という禁止を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

■「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

 警告 この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

 この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

電源／電源コード

必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。

プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- **異常なにおいや音がする。**
- **煙が出る。**
- **内部に水や異物が混入した。**

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

禁止

電源コードを傷つけない。

- **重いものを上に載せない。**
- **ステープルで止めない。**
- **加工をしない。**
- **熱器具には近づけない。**
- **無理な力を加えない。**

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

必ず実行

必ずAC100V(50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

禁止

本機のACアウトレットに、指定された供給電力を超えた機器を接続しない。また、供給電力内であっても電熱器・ドライヤー・電子調理器等は接続しない。

火災の原因になります。

電池

禁止

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

分解禁止

分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置

水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。

- **浴室・台所・海岸・水辺**
- **加湿器を過度にきかせた部屋**
- **雨や雪、水がかかるところ**

水の混入により、火災や感電の原因になります。

(AV-1)

禁止

放熱のため本機を設置する際には：

- **布やテーブルクロスをかけない。**
- **じゅうたん・カーペットの上には設置しない。**
- **仰向けや横倒しには設置しない。**
- **通気性の悪い狭いところへは押し込まない。**

（本機の周囲に左右20cm、上30cm、背面20cm以上のスペースを確保する。）

本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

使用上の注意

放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。

火災や感電の原因になります。

必ず実行

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。

感電の原因になります。

禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

手入れ

必ず実行

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

⚠ 注意

電源／電源コード

必ず実行

必ず付属の専用電源コードを使用する。

専用電源コード以外の使用は、火災や感電の原因になります。

プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因になります。

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因になります。

禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。

禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱および火災の原因になります。

電池

必ず実行

電池は極性表示(プラス＋とマイナス－)に従って、正しく入れる。

間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。

電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

設置

必ず実行

必ず2人以上で開梱や持ち運びをする。

重いので、けがの原因になります。

禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。

本機が落下や転倒して、けがの原因になります。

禁止

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。

禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。

必ず実行

他の電気製品とはできるだけ離して設置する。

本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

禁止

他の電気製品を本機の上に置かない。

本機の上部は高温になります。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

必ず実行

屋外アンテナ工事は販売店に依頼する。

工事には、技術と経験が必要です。

移動

プラグを抜く

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。

接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上の注意

必ず実行

再生を始める前には、アンプの音量(ボリューム)を最小にする。

突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。

禁止

音が歪んだ状態で長時間使用しない。

スピーカーが発熱し、火災の原因になります。

禁止

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。

聴覚障害の原因になります。

注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。

正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

禁止

業務用機器とは接続しない。

デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

手入れ

必ず実行

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。

感電の原因になります。

禁止

薬物厳禁

ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店に依頼する。

ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因になります。

本書の記載について

・本書では、本体とリモコンのどちらでも操作できる場合は、リモコンでの操作を中心に記載しています。

・**ご注意** は操作・設定を行う際に留意すべき事項、ヒント は知っておくと便利な補足情報を記載しています。

・「(○○ページ)」は参照ページを表しています。

・本書は製品の生産に先がけて印刷されています。製品改良などの理由で、実際の製品と仕様が一部異なる場合があります。また、仕様は予告なく変更されることがあります。ご了承ください。

・本文中の「ⒶSTANDBY ON」、「③DVD」(例)は、本書2～3ページの本体前面(フロントパネル)またはリモコンの図に対応し、操作キーなどを表しています。

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」、「Surround EX」およびダブルD記号ＤＤは、ドルビーラボラトリーズの商標です。

米国特許5, 451, 942、5, 956, 674、5, 974, 380、5, 978, 762、6, 226, 616、6, 487, 535およびその他の国における特許(出願中含む)に基づき製造されています。
DTSはDTS社の登録商標です。また、DTSロゴ、記号、およびDTS-HD、DTS-HD Master AudioはDTS社の商標です。
著作権1996－2007年DTS社。不許複製。

THXとTHXロゴ、ならびにUltra2 PlusはTHX社の登録商標です。不許複製。また、その他記載されている商標は各社の商標を許可のもとに使用しています。

iPod

iPodは、米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の商標または登録商標です。

Circle Surround Ⅱ、FOCUS、TruBass、SRSと(●)記号はSRS Labs, Inc.の商標です。Circle Surround Ⅱ、FOCUSとTruBass技術はSRS Labs, Inc.からのライセンスに基づき製品化されています。

SILENT CINEMA

「サイレントシネマ/SILENT CINEMA」はヤマハ株式会社の登録商標です。

HDMI、HDMIロゴおよびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または、登録商標です。

Fraunhofer Institut Integrierte Schaltungen

MPEG Layer 3 音声圧縮技術はFraunhofer IISおよびThomsonによってライセンス供与されています。

Windows XP、Windows Vista、Windows Internet Explorer、Windows Media Audio、Windows Media Connect、Windows Media Playerは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標、または商標です。

PlaysForSureロゴ、Windows Media、Windowsロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標、または登録商標です。

コンテンツプロバイダーは、提供するコンテンツ(セキュアコンテンツ)の安全性を保護するために、著作権を含む自らの知的財産権が不正に使用されないようにお客様のデバイス(WM-DRM)に内蔵されているWindows Media用デジタル権利管理技術を使用しています。

本デバイスは、セキュアコンテンツの再生にWM-DRMソフトウェアを使用しています(WM-DRM Software)。

本デバイスに内蔵されたWM-DRMソフトウェアのセキュリティが危惧されている場合、セキュアコンテンツの所有者(Secure Content Owners)は、セキュアコンテンツをコピー、表示、再生する新しいライセンスを得るためのWM-DRMソフトウェアの権利を無効にするようにマイクロソフト社に要求することがあります。権利が無効でも、WM-DRMソフトウェアの非保護コンテンツ再生機能は変更されません。インターネットやパソコンからセキュアコンテンツのライセンスをダウンロードする際、無効にされたWM-DRMソフトウェアのリストが常にお客様のデバイスに送信されます。マイクロソフト社は、前述のライセンスとともに、無効にされたWM-DRMソフトウェアのリストをセキュアコンテンツの所有者に代わってデバイスにダウンロードすることがあります。

本機はネットワーク接続に対応しています。

AACロゴマーク はドルビーラボラトリーズの商標です。以下はパテントナンバーです。

08/937,95	5,583,962	98/03037	08/039,478	5,490,170
5848391	5,274,740	97/02875	08/211,547	5,264,846
5,291,557	5,633,981	97/02874	5,703,999	5,268,685
5,451,954	5 297 236	98/03036	08/557,046	5,375,189
5 400 433	4,914,701	5,227,788	08/894,844	5,581,654
5,222,189	5,235,671	5,285,498	5,299,238	05-183,988
5,357,594	07/640,550	5,481,614	5,299,239	5,548,574
5 752 225	5,579,430	5,592,584	5,299,240	08/506,729
5,394,473	08/678,666	5,781,888	5,197,087	

本機の特長

高音質11チャンネル パワーアンプ搭載

バランスの良い、11チャンネルパワーアンプを搭載しています。
- フロント左／右： 140W+140W
- センター： 140W
- サラウンド左／右： 140W+140W
- サラウンドバック左／右： 140W+140W
- フロントプレゼンス左／右：50W+50W
- リアプレゼンス左／右： 50W+50W

（定格出力時）

視聴環境最適化システム「YPAO」搭載

YPAO（Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer）により、耳で聞くだけでは正確な調整が難しかったマルチチャンネル用のセットアップを、高性能測定用マイクを使用して自動で行います。お使いになるお部屋やスピーカーシステムの構成に合わせて、最適な視聴空間を作り出します。

HDMI対応

次世代のテレビ向けデジタルインターフェースであるHDMI端子を、入力5つ、出力2つ（切替式）の合計7つ装備しています。1本のHDMIケーブルを接続するだけで、デジタル音声信号とデジタル映像信号をデジタルのまま、高音質／高画質で伝送したり、本機で再生したりすることができます。

ビデオコンバージョン機能

アナログ映像入力信号をHDMI OUTおよびすべてのMONITOR OUT端子から出力できます。また、入力信号を1080pまでの解像度に変換してHDMI端子から出力できます。

THX Ultra2 Plus規格対応

THX社が提唱するホームシアター用音響の最高品質規格に準拠。映画製作者の製作意図をご家庭でも忠実に再現します。またTHX SURROUND EXデコーダーを搭載し、ドルビーデジタルEX方式で収録された映像ソフトを、映画館上映時と同等の臨場感で再生することができます。

多機能リモコン

付属リモコンは16面の機器操作エリアを持っており、内蔵プリセットコードやラーニング機能、マクロ機能を利用して、他のAV機器を本機のリモコンで操作できます。

USBデバイス再生機能

USBデバイスを接続すれば、保存されている音楽ファイルの再生が楽しめます。

システムメモリー

視聴環境やソースの違いなどに応じて10種類の設定状態を保存し、あとで簡単に設定を呼び出して最適な再生を楽しめます。リモコンでは4種類の設定を保存したり呼び出したりすることができます。

日本語GUI表示

本機とユーザーをつなぐインターフェースには、日本語GUI（グラフィカル・ユーザー・インターフェース）を採用。見やすい表示画面によって、より簡単に操作できます。

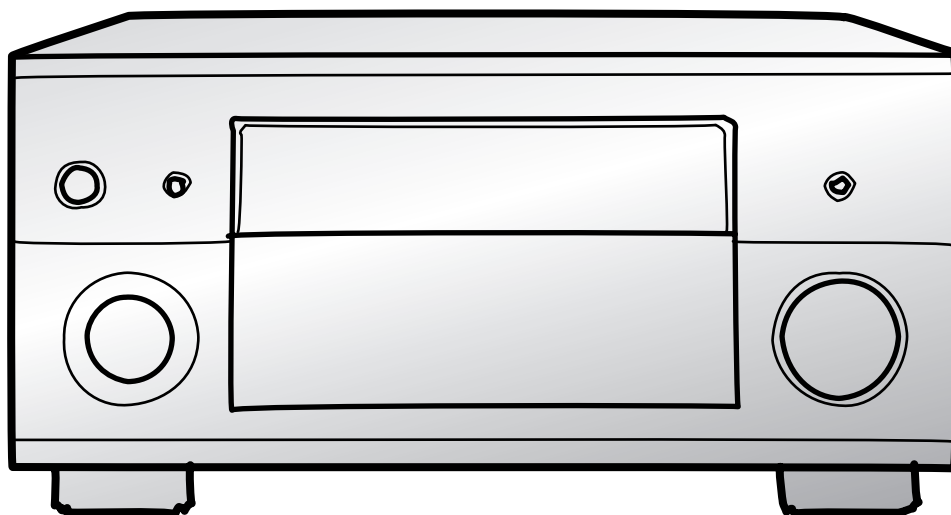
デジタルサウンドフィールドプロセッサー(DSP)搭載

各種デコーダーとヤマハ独自のDSPによる、効果的な音場再生を実現します。ヤマハが誇るDSPをドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTS、AACに融合させて、音場効果を向上させています。
- 「CINEMA DSP HD³」：立体的な音場効果を緻密に再現します。
- 「バーチャルシネマDSP」：サラウンド左／右スピーカーなしでも音場効果を楽しめます。
- 「サイレントシネマ™」：ヘッドホン使用時でも音場効果を楽しめます。

iPod対応のヤマハ製ドック(別売YDS-10など)接続機能

ヤマハ製ドック(別売YDS-10など)を本機に接続すれば、テレビ画面に映し出されるメニューを見ながら、本機のリモコンを使ってiPod(クリックホイール)、iPod nano、iPod miniを再生できます。

ネットワーク機能

ホームネットワークに本機を接続すれば、パソコンに保存されている音楽ファイルの再生や、vTuner社のデータベースサービスを利用してのインターネットラジオ放送が楽しめます。また、パソコンからWebブラウザーを使用して本機を操作することもできます。

多彩なデコーダーを搭載

以下の信号方式に対応したデコーダーを搭載しています。

■ドルビーデジタル
DVDで採用されている5.1チャンネル音声フォーマットです。

■ドルビーデジタルEX
専用のマトリクスデコーダーを使用して、5.1チャンネルソフトのサラウンド左／右チャンネルからサラウンドバックチャンネルを抽出し、6.1チャンネルで再生します。

■ドルビーデジタルプラス
ブルーレイディスクやHD DVDで採用されている次世代音声フォーマットです。最大7.1チャンネルのディスクリート音声信号を最大転送レート6Mbpsで収録可能です。

■ドルビーTrue（トゥルー）HD
ブルーレイディスクやHD DVDで採用されているロスレス（可逆型）次世代音声フォーマットです。96kHz／24bit時には最大8チャンネル、192kHz／24bit時には最大6チャンネルのディスクリート音声信号を最大転送レート18Mbpsで収録可能です。

■ドルビープロロジック
2チャンネルソフトを4チャンネルで再生します。

■ドルビープロロジックⅡx
5.1チャンネルソフトを信号処理し、サラウンドバックチャンネルを加えた6.1／7.1チャンネルで再生します。また、2チャンネル音声（モノラル音声を除く）で記録されたソースも、優れた分離感を保ちながら6.1／7.1チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

■DTS
DVDで採用されている5.1チャンネル音声フォーマットです。

■DTS-ES（エクステンディッド・サラウンド）
フロント3チャンネル、リア2チャンネル、低音チャンネルLFE(ロー・フリークエンシー・エフェクト)という従来の5.1チャンネル構成に、サラウンドバックチャンネルを加えて6.1チャンネルとし、さらにこれらのチャンネルを独立させて収録したディスクリート6.1方式に対応しています。また、マトリクス回路により、5.1チャンネルで収録されたソフトからサラウンドバックチャンネルを抽出するマトリクス6.1方式にも対応しています。

■DTS 96/24
5.1チャンネルすべてを「サンプリング周波数96kHz／量子化ビット数24bit」の高音質で再生します。

■DTS Express（エクスプレス）
ブルーレイディスクやHD DVDのセカンダリーオーディオ、サブオーディオが楽しめます。

■DTS-HD High（ハイ） Resolution（レゾリューション） Audio（オーディオ）
ブルーレイディスクやHD DVDで採用されている次世代音声フォーマットです。96kHz／24bitで最大7.1チャンネルのディスクリート音声信号を、ブルーレイディスクでは最大転送レート6Mbps、HD DVDでは最大3Mbpsで収録可能です。

■DTS-HD Master（マスター） Audio（オーディオ）
ブルーレイディスクやHD DVDで採用されているロスレス（可逆型）次世代音声フォーマットです。96kHz／24bit時には最大7.1チャンネル、192kHz／24bit時には最大6チャンネルのディスクリート音声信号を、ブルーレイディスクでは転送レート最大24.5Mbps、HD DVDでは最大18Mbpsで収録可能です。

■DTS Neo（ネオ）：6（シックス）
2チャンネル音源から最大7チャンネルを抽出し、再生します。ソースに合わせ、音楽用のMusicモードと、映画用のCinemaモードが用意されています。

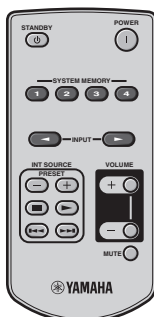
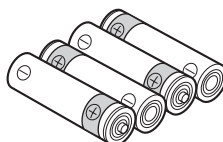
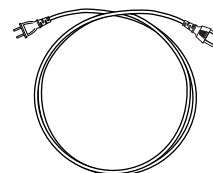
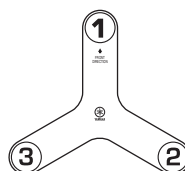
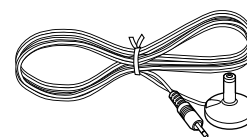
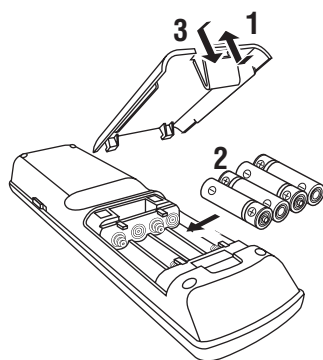
■AAC
（アドバンスト・オーディオ・コーディング）
BSデジタル放送や地上波デジタル放送が採用している音声フォーマットです。高圧縮率と高音質が特長で、通常の2チャンネルステレオ音声に加え、5.1チャンネルのサラウンド音声や多言語の放送を可能にしています。

■SRS Circle（サークル） Surround（サラウンド） Ⅱ
アナログソース、デジタルソースにかかわらず、あらゆる2チャンネルソースをマトリクス処理し、6.1チャンネルで再生します。

付属品を確認する

ご使用の前に付属品を確認してください。

リモコン

簡易リモコン

単4アルカリ乾電池×4本

電源コード(2m)

マイクベース

オプティマイザーマイク(6m)

リモコンに乾電池を入れる

1　電池カバーを取り外す

2　付属の単4乾電池(4本)を、リモコンの電池ケース内の表示に合わせて、プラス(+)とマイナス(−)の向きを間違えないように正しく入れる

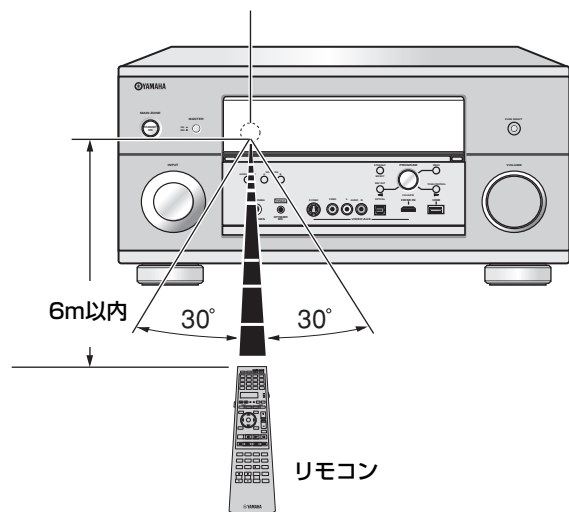
3　電池カバーを閉じる

ご注意

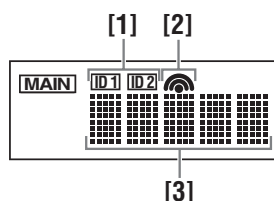
- リモコンで操作しづらくなった場合は、乾電池が消耗しています。すべての乾電池を新品と交換してください。
- 新しい乾電池と、古い乾電池を混ぜて使わないでください。
- 乾電池には、形状が同じでも性能が異なるものがあります。種類の異なる乾電池(アルカリとマンガンなど)を混ぜて使わないでください。
- アルカリ乾電池のご使用をおすすめします。
- 乾電池が液もれした場合は、液に触れないよう注意して廃棄してください。液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。新しい乾電池を入れる前に電池ケース内をきれいに拭いてください。
- 乾電池を一般のゴミといっしょに捨てないでください。地域の決まりに従って正しく処置してください。
- 電池を外したまましばらく(2分以上)放置したり、消耗した乾電池をそのまま入れておいたりすると、リモコンに設定したリモコンコードなどのメモリー内容が消えてしまうことがあります。このような場合は、乾電池を新品に交換して、リモコンコードを再設定してください。

リモコンや本体を準備する

リモコンについて

リモコンは直進性の強い赤外線を使用しています。本体のリモコン受光部に向けて正しく操作してください。

⑥ LIGHT(ライト)ボタン

リモコンボタンやディスプレイが点灯します。

リモコンディスプレイ(④)

[1] ID1/ID2 インジケーター

現在使われているリモコンIDが表示されます（183ページ）。

[2] トランスミッションインジケーター

リモコン操作用の赤外線信号を送信しているときに、表示されます。

[3] インフォメーションディスプレイ

操作できる入力ソースの名前などが表示されます。

① 赤外線送受信部

リモコン操作用の赤外線信号を送受信します。

⑯ 操作機器選択スイッチ

リモコンで操作する機器を選びます。

AMP

本機を操作するときに選びます。

SOURCE

入力選択キーで選んだ機器を操作するときに選びます。

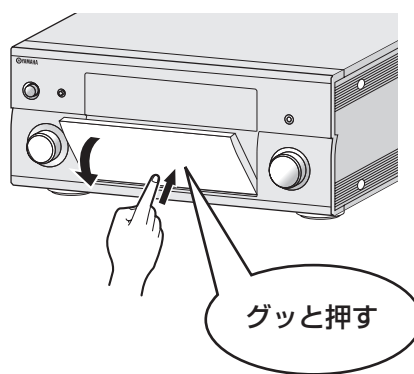
TV

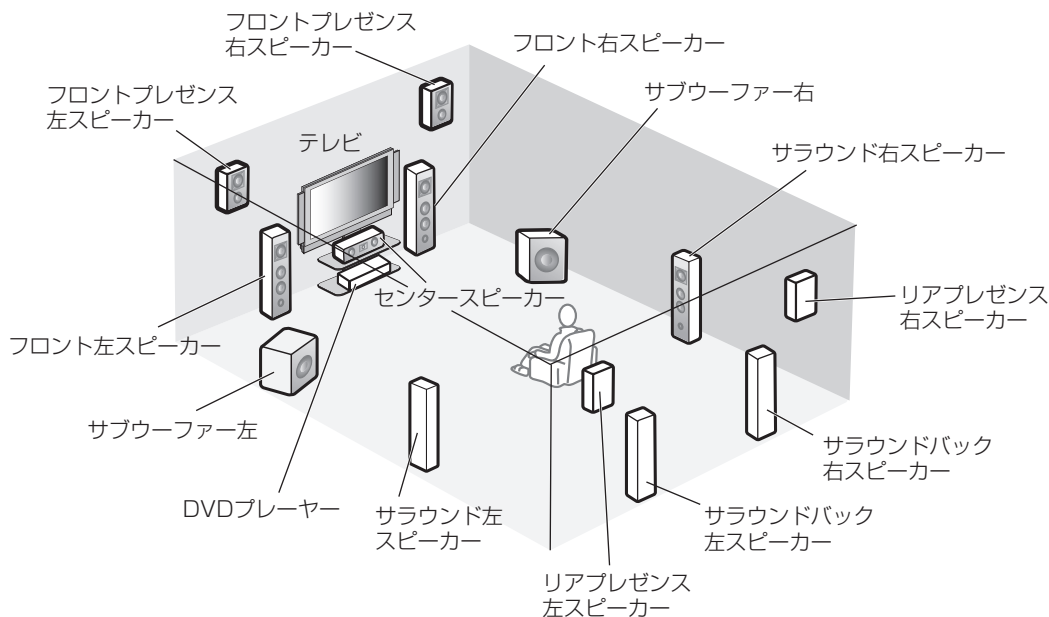
TVを操作するときに選びます。

ご注意

- リモコンに水やお茶をこぼさないでください。
- リモコンを落とさないでください。
- 冷暖房器具のそばなど、極端に温度が低くなったり高くなったりするところや、風呂場など、湿度が高くなるところには置かないでください。

コントロールパネルの開閉

コントロールパネルの中にあるスイッチやキーを使うときは、パネルの下の部分を押すと、パネルが開きます。コントロールパネルの中にあるスイッチやキーを使わないときは、パネルを閉めておきます。パネルの開閉時には指などを挟まないようご注意ください。

簡単接続・操作ガイド

スピーカーや外部機器を接続し、ブルーレイディスクまたはHD DVDの再生を楽しむまでの流れを説明します。
以下の説明では、HDMI端子を装備したプレーヤーとテレビを使って、11.2チャンネルのスピーカー構成でホームシアターを接続する場合を例にしています。このほかのスピーカー構成については23ページをご覧ください。

ヒント
フロント／リアプレゼンススピーカーは、ブラケットなどを使って壁や天井に固定してください。スピーカーの設置について詳しくは、「スピーカーを設置する」をご覧ください(24ページ)。

1 スピーカーを設置・接続する

2 ブルーレイディスク／HD DVD プレーヤーやテレビを接続する

3 ブルーレイディスク／HD DVD を再生する

接続に必要なものを確認しましょう

本製品に付属しているもの

□ 電源コード

本製品に付属していないもの

□ スピーカー【11.2チャンネル構成の場合】
- □ フロントスピーカー(2台)
- □ センタースピーカー(1台)
- □ サラウンドスピーカー(2台)
- □ サラウンドバックスピーカー(2台)
- □ プレゼンススピーカー(4台)
- □ サブウーファー(2台)

□ スピーカーケーブル(11本)【11.2チャンネル構成の場合】
□ サブウーファー用ピンケーブル(2本)
□ ブルーレイディスクまたはHD DVDプレーヤー(1台)
□ テレビ(1台)
□ HDMIケーブル(2本)

Step1: スピーカーを設置・接続する

本機やサブウーファーの電源コードがコンセントに接続されていないことをご確認ください。

フロント
プレゼンス
右スピーカー

リア
プレゼンス
右スピーカー

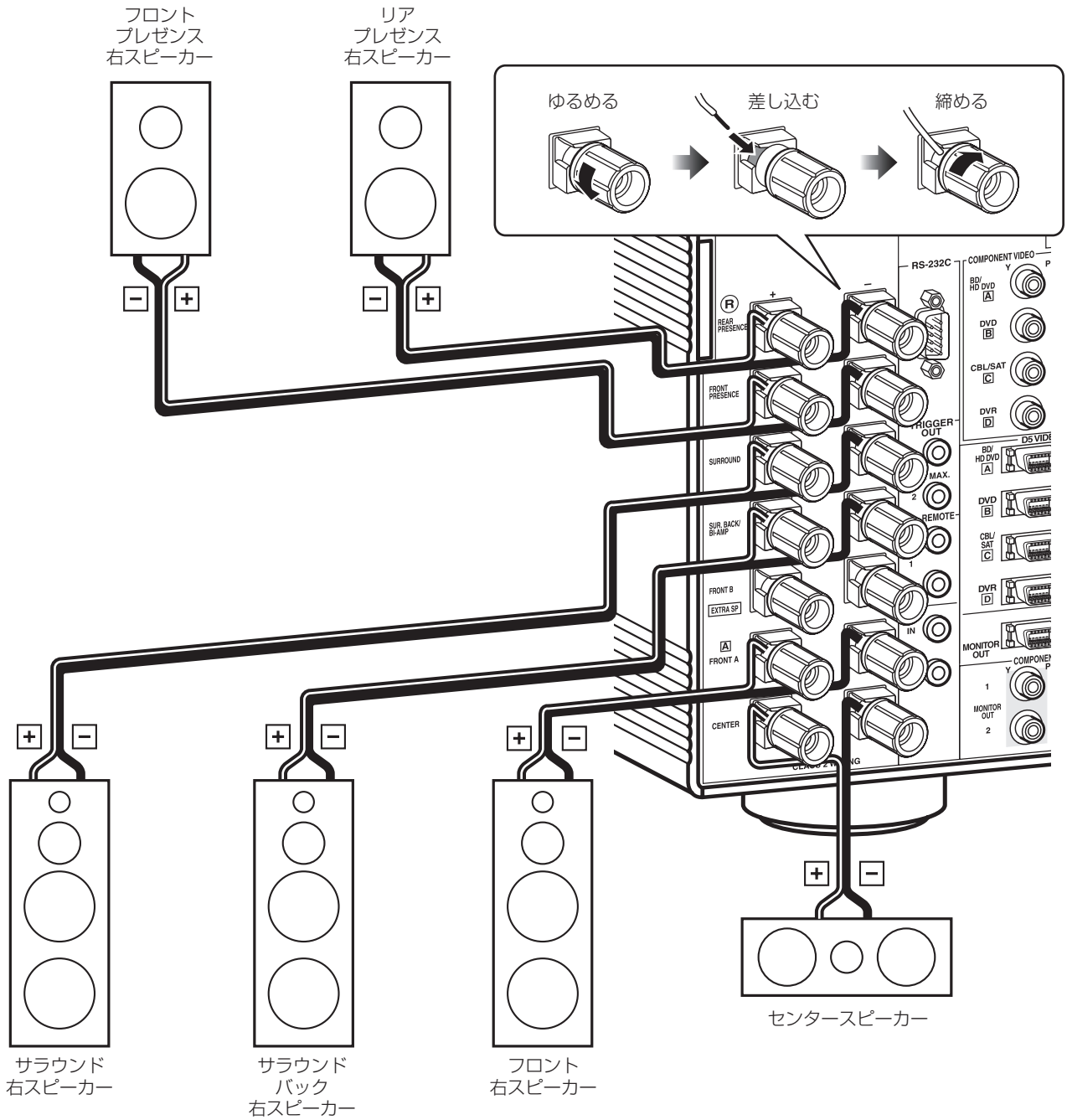
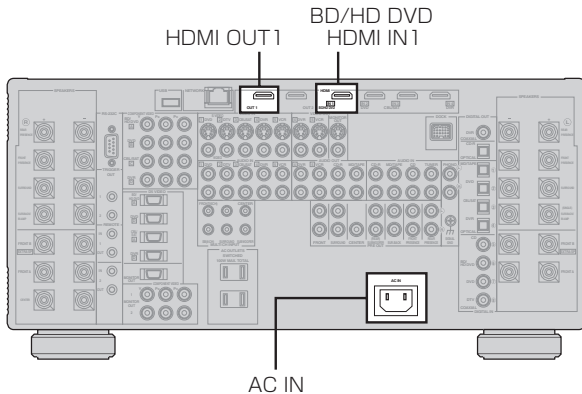
ゆるめる
差し込む
締める

センタースピーカー

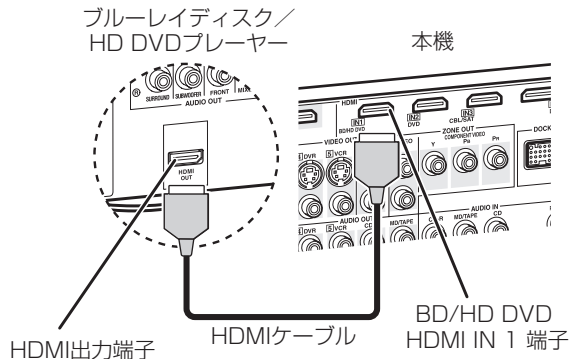
サラウンド
右スピーカー

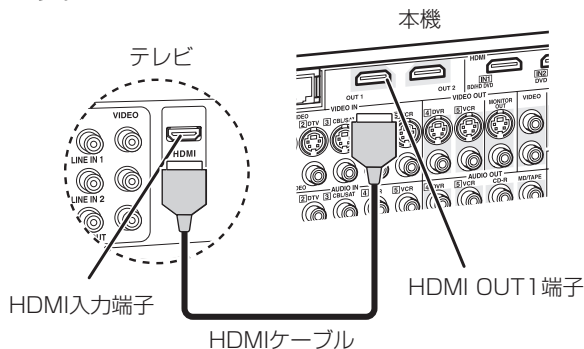
サラウンド
バック
右スピーカー

フロント
右スピーカー

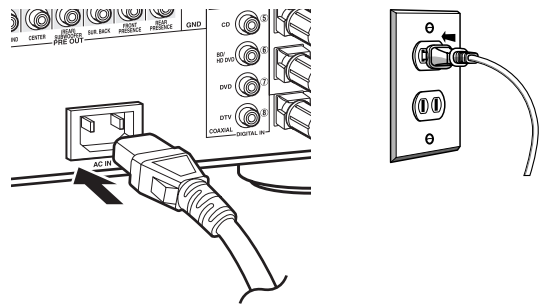
ご注意
・スピーカーとの接続については、スピーカーに付属の取扱説明書もあわせてご覧ください。
・スピーカーケーブルは絶縁部を挟まないように接続してください。音が出ないことがあります。

Step2: ブルーレイディスク／HD DVD プレーヤーやテレビを接続する

本機やブルーレイディスク／HD DVDプレーヤーの電源コードがコンセントに接続されていないことをご確認ください。

1 プレーヤーを接続する

HDMIケーブルを使い、ブルーレイディスク／HD DVDプレーヤーのHDMI出力端子と本機のBD/HD DVD HDMI IN1端子を接続します。

2 テレビを接続する

HDMIケーブルを使って、テレビのHDMI入力端子と本機のHDMI OUT1端子を接続します。

3 本機のAC IN端子に電源コードを差し込んでから、本機と外部機器の電源プラグをコンセントに接続する

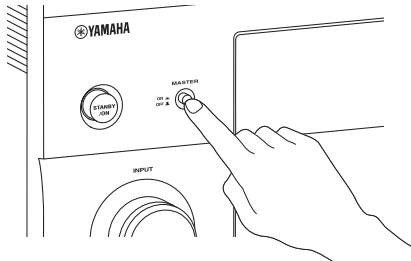
ヒント

本機はブルーレイディスク／HD DVDプレーヤーなどに電源を供給するACアウトレットを装備しています。詳しくは57ページをご覧ください。

Step3: ブルーレイディスク／HD DVDを再生する

1 テレビとサブウーファーの電源をオンにし、テレビの入力を切り替える

テレビとサブウーファーの電源をオンにし、テレビの入力を本機の映像に切り替えます。操作について詳しくは、テレビやサブウーファーの取扱説明書をご覧ください。

2 ⒷMASTER ON/OFFスイッチを押す

本機の電源をオンにします。

ご注意

本機の電源をオンにしてから音が出力されるまで約20秒かかります。また、フロントパネルディスプレイに「Please wait」と表示されている間は、フロントパネルの操作を受け付けません。リモコンの操作は、「Please wait」が消えたあとに内容が反映されます。

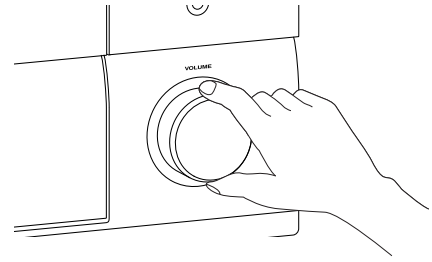
3 ⒹINPUTセレクターを回して「BD/HD DVD」を選ぶ

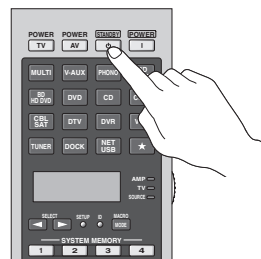
フロントパネルディスプレイに「BD/HD DVD」と表示されるまで、ⒹINPUTセレクターを回します。

4 ブルーレイディスク／HD DVDを再生する

ブルーレイディスク／HD DVDの操作については、プレーヤーに付属の取扱説明書をご覧ください。

5 音量を調整する

お好みの音量になるようにⒺVOLUMEコントロールを回して音量を調節します。右に回すと音量は大きくなり、左に回すと小さくなります。

ヒント

- 本機の電源がオンのときにリモコンの⑭STANDBYキーを押すと、電源はスタンバイになります。また、電源がスタンバイのときにリモコンの⑮POWERキーを押すと、電源はオンになります。
- 本体のⒶSTANDBY/ONキーを押して、オン／スタンバイを切り替えることもできます。

視聴環境最適化システム(YPAO)について

本機は視聴環境最適化システム(YPAO)を搭載し、ご使用になるスピーカーの配置、能力やお部屋の音響特性を測定し、最適な視聴空間を自動的に測定することができます。本機を本格的にご使用になる前に、視聴環境最適化システムを使用し、本機のスピーカー設定を最適化することをおすすめします。詳しくは「最適な視聴空間を自動的に設定する(自動測定メニュー)」(63ページ)をご覧ください。

こんなことをしたいときは・・・

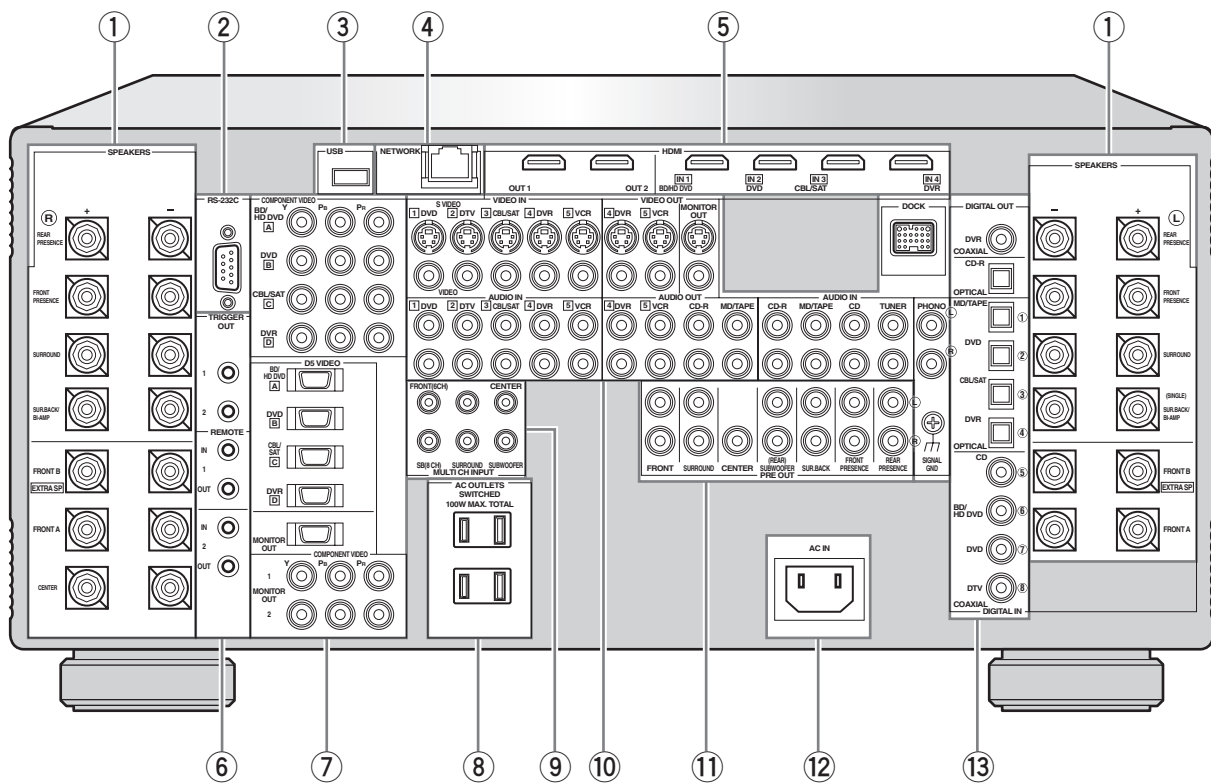
接続

再生

サウンド

設定

接続する

リアパネル

① SPEAKERS端子

スピーカーと接続します。

② RS－232C端子

サービス用の端子です。通常は使用しません。

③ USB端子

USB機器を接続します。

④ NETWORK端子

ホームネットワークに接続します。

⑤ HDMI端子

HDMI信号を入力／出力します。

⑥ 外部機器コントロール端子

TRIGGER OUT端子

12 V／15 mAの直流電流を出力します。対応する機器を本機と連動して起動させることができます。

REMOTE IN／OUT端子

外部のリモートコントロール機器や本機を経由して制御する外部機器などを接続します。

⑦ COMPONENT VIDEO／D5端子

コンポーネントビデオ信号を伝送します。D5ビデオ端子の場合はコントロール信号(走査線、アスペクト比などの情報)も同時に伝送します。

コンポーネントビデオまたはD1～D5入出力端子がある機器を接続すれば、Sビデオ端子やビデオ端子よりも高画質な映像を再生できます。

⑧ AC OUTLETS

外部機器の電源コードを接続します。

⑨ MULTI CH INPUT端子

アナログマルチチャンネル出力端子がある機器を接続します。

⑩ VIDEO IN／OUT、AUDIO IN／OUT、DOCK機器接続端子

DVDプレーヤーやDVDレコーダー、ヤマハ製ドック(別売YDS-10など)などの外部機器を接続します。

⑪ PRE OUT端子

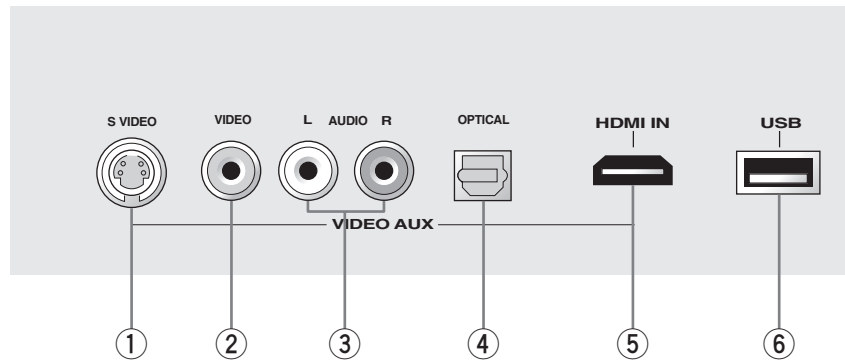
外部パワーアンプを接続します。

⑫ AC IN

本機の電源コードを接続します。

⑬ DIGITAL IN／OUT端子

デジタル音声信号を入力／出力します。

フロントパネル

① S VIDEO（ビデオ）入力端子
Sビデオ信号を入力します。

② VIDEO（ビデオ）入力端子
コンポジットビデオ信号を入力します。

③ AUDIO（オーディオ）入力端子
アナログ音声信号を入力します。

④ OPTICAL（オプティカル）入力端子
光デジタル音声信号を入力します。

⑤ HDMI IN（イン）端子
HDMI信号を入力します。

⑥ USB端子
USBデバイスを接続します。

スピーカーシステムの構成

使用するスピーカーの本数および種類に応じて、スピーカー構成を設定してください。スピーカー構成は、「自動測定メニュー」(63ページ)、またはセットメニュー「基本設定」(123ページ)で設定できます。これにより、環境に応じた最適な再生が可能になります。下図は本機が対応している、代表的なスピーカー構成を表しています。24～31ページでは、例として11.2／7.2／5.2チャンネル構成の場合を説明しています。

スピーカー構成 / 使用するスピーカー	11.2／11.1	9.2／9.1	7.2／7.1*1		6.2／6.1	5.2／5.1	3.2／3.1	2.2／2.1
フロント左	○	○	○		○	○	○	○
フロント右	○	○	○		○	○	○	○
センター	○	○	○		○	○	○	
サラウンド左	○	○	○		○	○		
サラウンド右	○	○	○		○	○		
サラウンドバック左	○	○	○	×	○			
サラウンドバック右	○	○	○	×				
フロントプレゼンス左	○	○	×	○				
フロントプレゼンス右	○	○	×	○				
リアプレゼンス左	○							
リアプレゼンス右	○							
サブウーファー左	○	○	○		○	○	○	○
サブウーファー右*2	○／×	○／×	○／×		○／×	○／×	○／×	○／×

○：使用する　×：使用しない

*1 サラウンドバック左／右スピーカーとプレゼンス左／右スピーカーのどちらかを使います。サラウンドバック左／右スピーカーを使う場合は、セットメニュー「スピーカーの設定」で、「サラウンドバック」(124ページ)を「大2台」、または「小2台」、「フロントプレゼンス」(125ページ)を「使用しない」に設定してください。フロントプレゼンス左／右スピーカーを使う場合は、「サラウンドバック」を「無」、「フロントプレゼンス」を「使用する」に設定してください。

*2 サブウーファーを2台接続する場合に使います。サブウーファーを1台のみ接続する場合は使いません。セットメニュー「スピーカーの設定」の「構成」(125ページ)で、使用する台数や配置方法を設定してください。

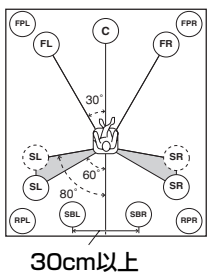
本機では、映画の迫力と臨場感を、Movieプログラムによってリアルに再現しています。会話は画面上に定位し、効果音は画面後方、音楽はさらにその後方に広がりを持って再現されます。
次ページの図は本機が最も性能を発揮できるスピーカー配置を示したものです。このようにスピーカーを配置することにより、お気に入りの映画をシネマDSPプログラムによってさらに臨場感豊かに再生したり、スーパーオーディオCDやDVDオーディオなどのマルチチャンネルオーディオを、音声に包み込まれるような雰囲気でお楽しみいただけます。

スピーカーを設置する

下のイラストのようなスピーカーレイアウトで、CINEMA DSPやマルチチャンネルの音声入力を楽しめます。

■ 11.2／11.1チャンネルスピーカーの場合

下図のように11.2チャンネルのスピーカー構成を使用することで、ブルーレイディスク、HD DVDの高音質なサラウンドサウンドをリアルに再生できるだけではなく、CINEMA DSP HD³モードの立体的な音場をより効果的に作り出すことができます。
スピーカー構成が7.2／5.2の場合は、25ページをご覧ください。

30cm以上

スピーカー構成

FL／FR：フロント左／右
C：センター
SL／SR：サラウンド左／右
SBL／SBR：サラウンドバック左／右
FPL／FPR：フロントプレゼンス左／右
RPL／RPR：リアプレゼンス左／右
LSW／RSW：サブウーファー左／右

ヒント

フロント／リアプレゼンススピーカーは、ブラケットなどを使って壁や天井に固定してください。

フロント左／右スピーカー

左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置します。
スクリーンをお使いの場合は、スクリーンの下辺から1／4位の高さが適当です。

センタースピーカー

フロント左／右スピーカーの中間に設置します。
スクリーンをお使いの場合は、スクリーン真下の中央に設置します。
テレビをお使いの場合は、画面とスピーカー前面とを揃え、テレビの上や下など、できるだけ画面に近いところに設置します。

サラウンド左／右スピーカー

左右後方に、スピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。

サラウンドバック左／右スピーカー

リスニングポジションの後方にスピーカーをリスニングポジションに向け、2本の間隔を30cm以上離して設置します。6.1／6.2チャンネルシステムでサラウンドバックスピーカーを1本のみ設置する場合は、リスニングポジションの真後ろに設置します。

フロント／リアプレゼンス左／右スピーカー

詳しくは26ページをご覧ください。

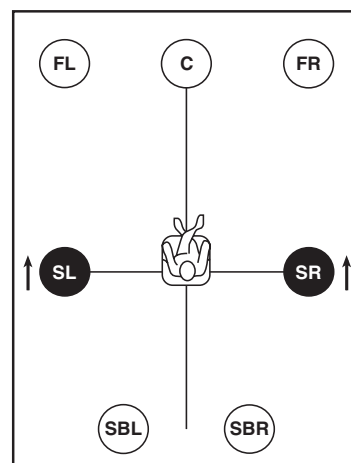
サブウーファー左／右

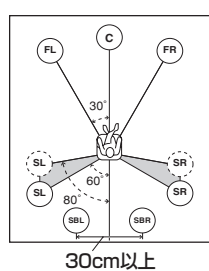
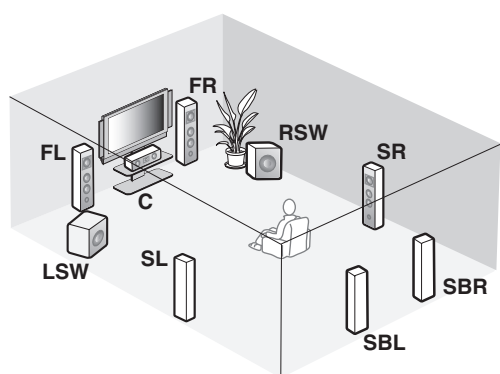
詳しくは32ページをご覧ください。

ご注意

スピーカーは防磁型のものをご使用ください。防磁型以外のスピーカーをご使用になると、テレビの画像が乱れる場合があります。特に画面近くに設置するセンタースピーカーやフロントスピーカーには、防磁型スピーカーの使用をおすすめします。防磁型スピーカーをご使用の場合でも画像が乱れるときは、テレビとスピーカーを離して設置してください。

ダイポールスピーカーを使用する場合

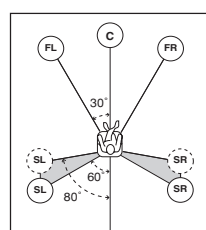
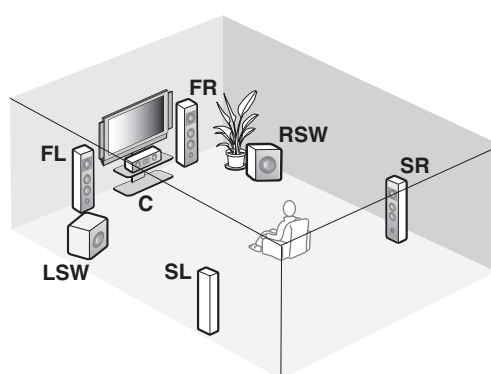
THXサラウンドモードで再生するときは、モノポールまたはダイポールスピーカーの両方が使用可能です。ダイポールスピーカーを使用する場合は、下図のように配置してください。

●：ダイポールスピーカー
↑：ダイポールスピーカーの位相の向き

■ 7.2／7.1チャンネルスピーカーの場合

スピーカー構成

FL／FR：フロント左／右
C：センター
SL／SR：サラウンド左／右
SBL／SBR：サラウンドバック左／右
LSW／RSW：サブウーファー左／右

ヒント

- 各スピーカーの設置については、24ページをご覧ください。
- セットメニュー「スピーカーの設定」の「サラウンドバック」を、「小2台」または「大2台」に設定してください(124ページ)。
- セットメニュー「スピーカーの設定」の「フロントプレゼンス」および「リアプレゼンス」を「使用しない」に設定してください(125ページ)。

■ 5.2／5.1チャンネルスピーカーの場合

スピーカー構成

FL／FR：フロント左／右
C：センター
SL／SR：サラウンド左／右
LSW／RSW：サブウーファー左／右

ヒント

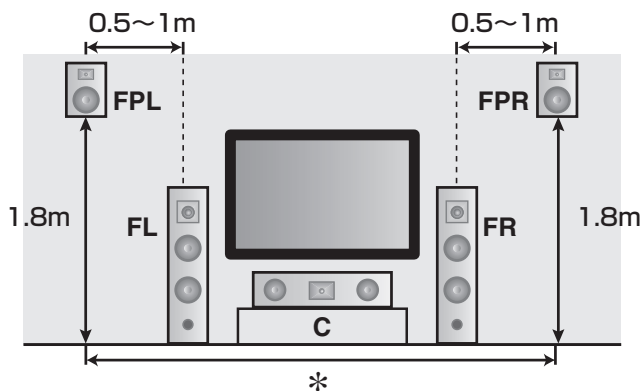
- 各スピーカーの設置については、24ページをご覧ください。
- サラウンドバックチャンネルの音声信号は、サラウンド左／右チャンネルにミックスされてサラウンド左／右スピーカーから出力されます。
- より自然な音のつながりを得るために、サラウンド左／右スピーカーはやや後方寄りに設置してください。
- セットメニュー「スピーカーの設定」の「サラウンドバック」を、「無」に設定してください(124ページ)。

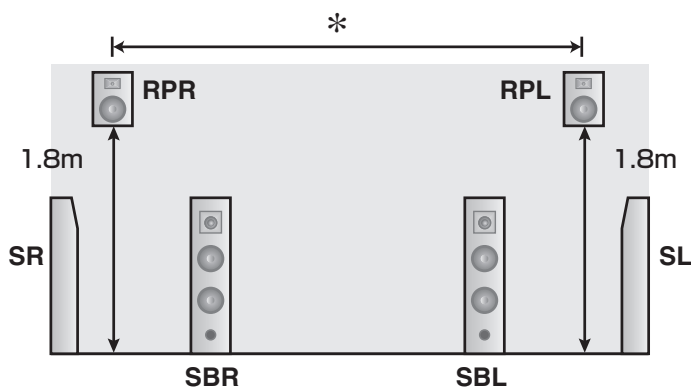
プレゼンススピーカーについて

フロントプレゼンススピーカーとリアプレゼンススピーカーを使用すれば、シネマDSPプログラム（198ページ）を選んでいるときに前方と後方の効果音を出力することによって、より豊かな音場効果（197ページ）を演出できます。また、CINEMA DSP HD³（HDキュービック）モードをオンにすれば、音場の「高さ」が正確に表現され、より緻密で立体的な音場効果を楽しめます（91ページ）。フロントプレゼンススピーカーは、フロント左／右スピーカーの外側0.5〜1mの範囲に、リスニングポジションに向けて設置します。床から1.5〜1.8mの高さが適当です。リアプレゼンススピーカーは、フロントスピーカーと同じ高さに、フロントプレゼンススピーカーと同じ間隔で設置します。フロント／リアプレゼンススピーカーを設置する際は、ブラケットなどを使って壁や天井に固定してください。

ご注意

セットメニュー「スピーカーの設定」の「フロントプレゼンス」（125ページ）が「使用しない」に設定されている場合は、リアプレゼンスも機能しません。また、CINEMA DSP HD³モード（91ページ）も動作しなくなります。

■ フロントプレゼンススピーカー

スピーカー構成
FL：フロント左
FR：フロント右
C：センター
FPL：フロントプレゼンス左
FPR：フロントプレゼンス右

■ リアプレゼンススピーカー

スピーカー構成
SL：サラウンド左
SR：サラウンド右
SBL：サラウンドバック左
SBR：サラウンドバック右
RPL：リアプレゼンス左
RPR：リアプレゼンス右

＊リアプレゼンススピーカーは、フロントプレゼンススピーカーと同じ間隔で設置してください。

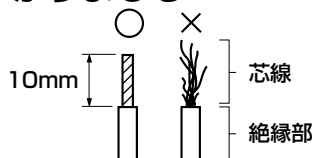
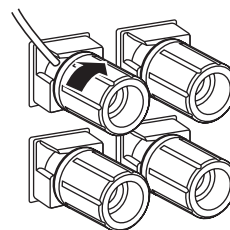
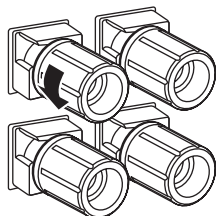
スピーカーを接続する

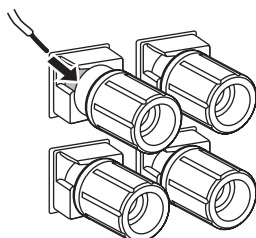
左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、＋(赤線)、－(白線)をよく確認して正しく接続してください。

重　要

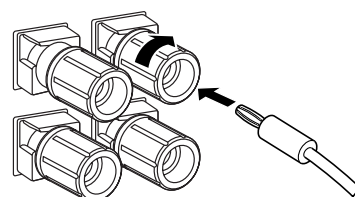
- スピーカーケーブルを接続する前に本機の電源プラグがコンセントに接続されていないことをご確認ください。
- スピーカーケーブルの芯線部分が互いに接触したり、本機の金属部分に触れないようにしてください。
- 防磁スピーカーをご使用ください。もし、スピーカーがテレビモニターに影響を及ぼす場合はスピーカーをモニターから遠ざけてください。

■ ケーブルのつなぎかた

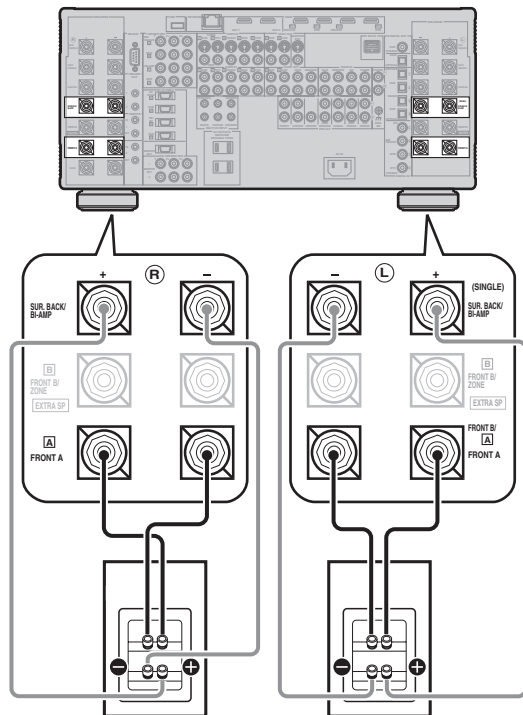
1　スピーカーケーブル先端の絶縁部(被覆)を、10mmぐらいはがし、芯線をしっかりよじる

2　スピーカー端子を左に回して、ゆるめる

3　スピーカー端子の根元のすき間に、スピーカーケーブルの芯線を差し込む

4　スピーカー端子を右に回して、締める

ご注意

- スピーカーは、インピーダンスが6Ω以上のものをお使いください。
- スピーカーケーブルの芯線はしっかりよじり、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルに接触したり、＋側と－側が接触したりすると、保護回路がはたらいて電源がスタンバイになることがあります。
- スピーカーケーブルの芯線が、スピーカー端子の金属部にしっかりと接触するように接続してください。絶縁部(被覆)をスピーカー端子に挟み込むと、音声が出力されない場合があります。
- スピーカーの＋端子と本機の＋端子、スピーカーの－端子と本機の－端子をそれぞれ接続してください。間違えて接続すると、音が不自然になります。

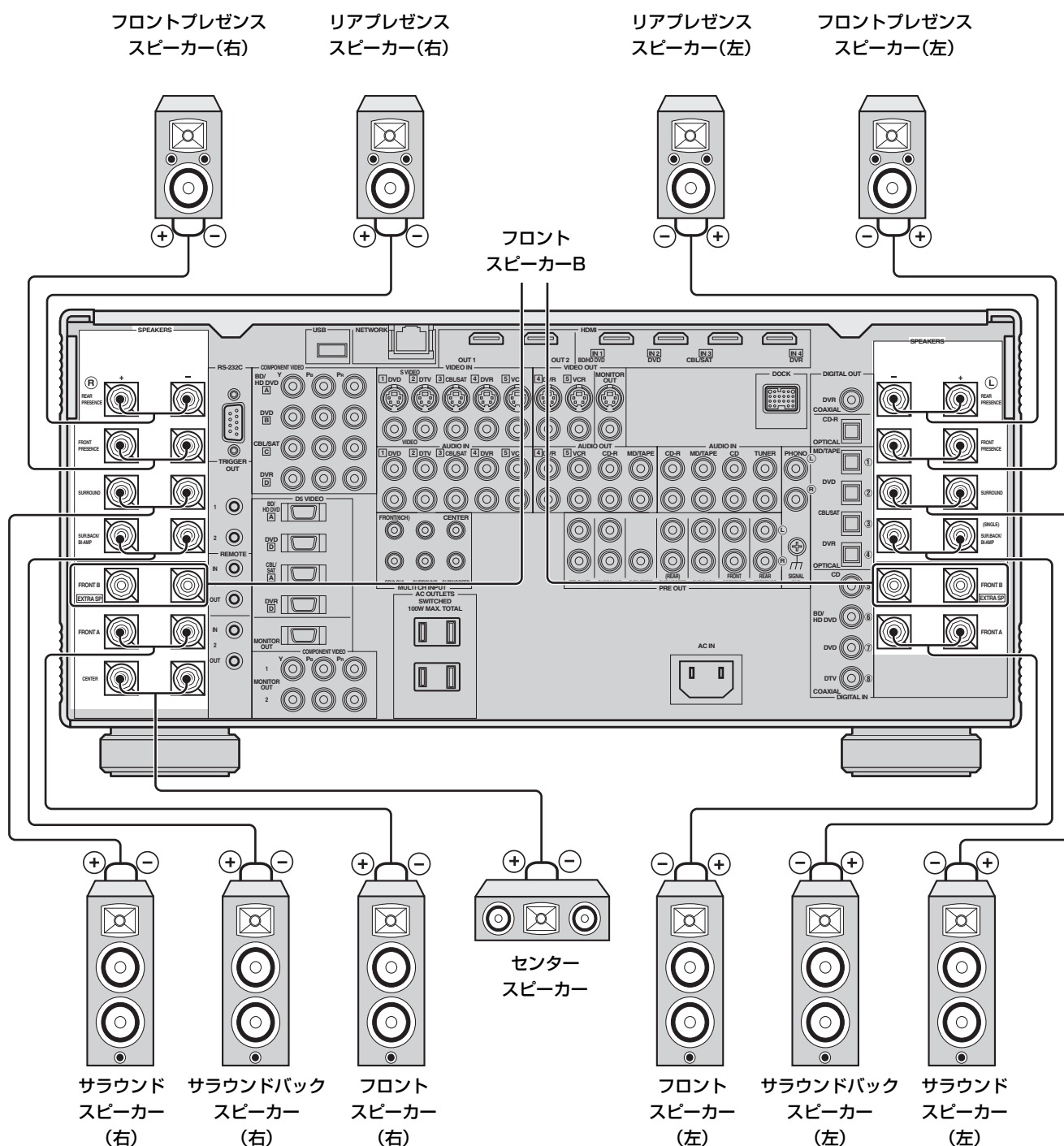
市販のバナナプラグを使用する場合

端子を強く締めてから差し込んでください。

バイアンプ接続する場合

スピーカーのウーファー端子とツィーター端子を、それぞれFRONT端子とSUR. BACK/BI-AMP端子に接続します。
ご使用になるときは、アドバンストセットアップメニュー「BI-AMP」を設定してください（184ページ）。

ご注意

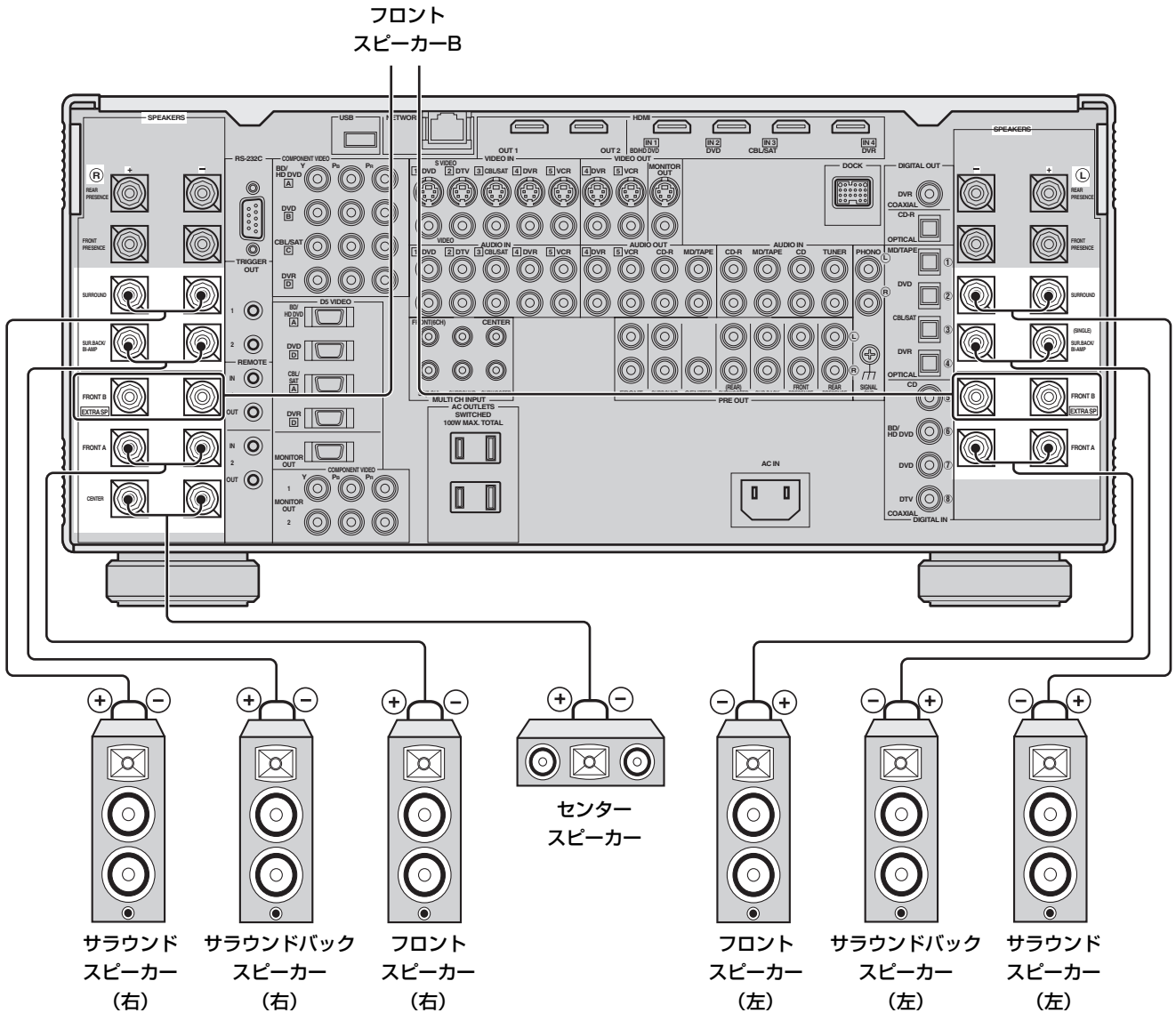
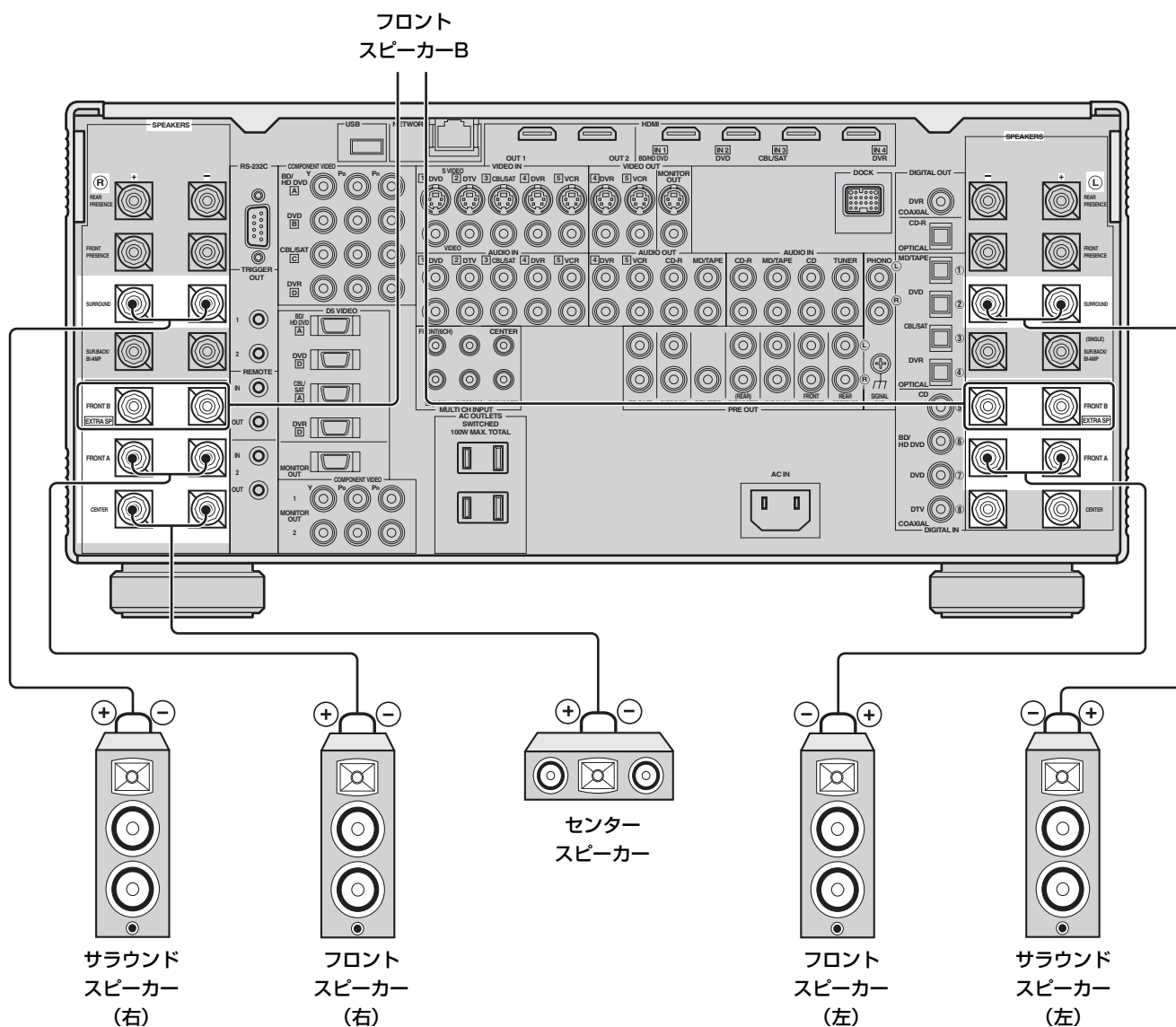
- バイアンプ接続する場合は、サラウンドバックスピーカーは接続できません。
- 本機とスピーカーを接続する前に、必ずウーファー端子とツィーター端子をつないでいる金具またはケーブルを取り外してください。

■ 11.2／11.1（または9.2／9.1）チャンネル

9.2または9.1チャンネルの場合は、フロントプレゼンススピーカーを接続してください。

■ 7.2／7.1（または6.2／6.1）チャンネル

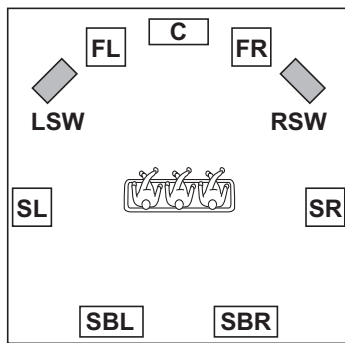
6.2または6.1チャンネルの場合は、サラウンドバックスピーカーをSUR.BACK/BI-AMP(SINGLE)端子に接続してください。

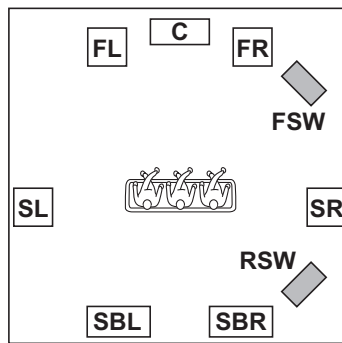
■ 5.2／5.1チャンネル

フロント
スピーカーB
センター
スピーカー
サラウンド
スピーカー
（右）
フロント
スピーカー
（右）
フロント
スピーカー
（左）
サラウンド
スピーカー
（左）

サブウーファーを設置する

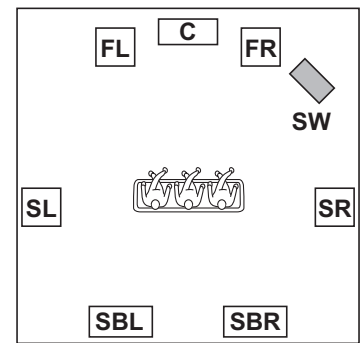
サブウーファーを使用することで、低音の補強をするだけでなく、LFE(低域効果音)も効果的に再生することができます。フロント左／右スピーカーの外側に壁の反射を防ぐために少し内向きに設置してください。
サブウーファーは1つまたは2つ接続することができます。以下を参考に設置してください。

■ 設置方法1：フロント右、左

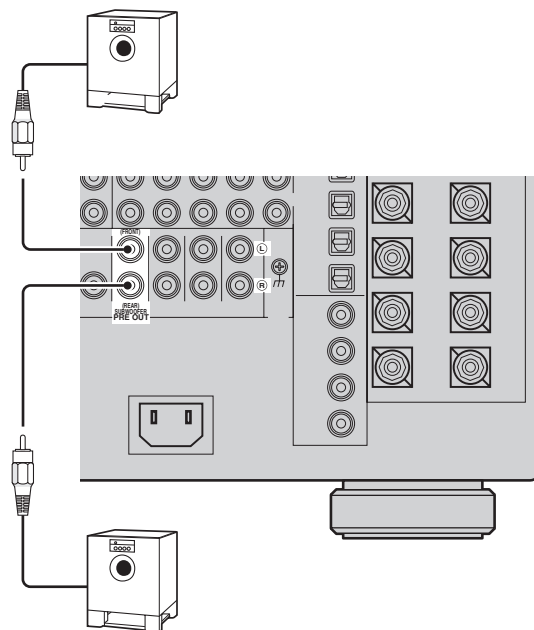
セットメニュー「サブウーファー」の「構成」を「ステレオ」に設定してください(125ページ)。

■ 設置方法2：フロント、リア

セットメニュー「サブウーファー」の「構成」を「前後設置」に設定してください(125ページ)。

■ 設置方法3：モノラル

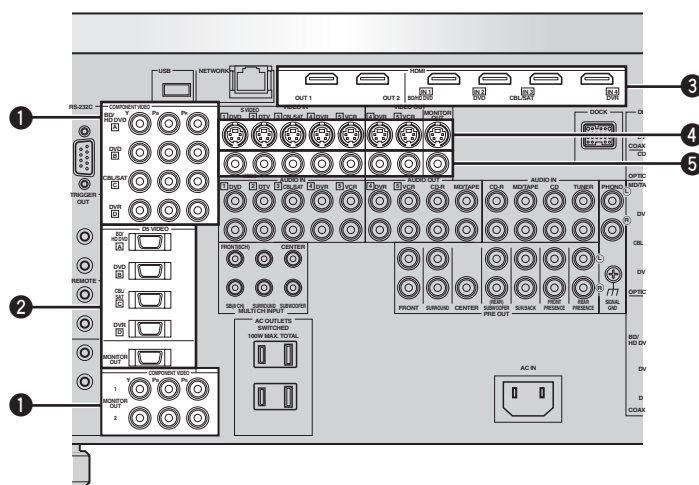
セットメニュー「サブウーファー」の「構成」を「モノラル」に設定してください(125ページ)。

FL
C
FR
LSW
RSW
SL
SR
SBL
SBR

■ サブウーファーを接続する

サブウーファーを1つ接続する場合は、L側の端子に接続してください。

左(またはフロント)サブウーファー

右(またはリア)サブウーファー

映像端子について

本機は5種類の映像端子を装備しています。接続に使うケーブルについては、39ページをご覧ください。

❶ コンポーネントビデオ端子

コンポーネントビデオ信号を伝送します。
コンポーネントビデオ入出力端子がある機器を接続すれば、ビデオ端子(❺)またはSビデオ端子(❹)よりも高画質な映像を再生できます。

❷ D5ビデオ端子

1080pまでのコンポーネントビデオ信号とコントロール信号(走査線、アスペクト比などの情報)を伝送します。

❸ HDMI端子

HDMI IN1～4と本体前面の入力端子から入力したHDMI映像信号を、HDMI OUT端子に伝送します。
HDMI入出力端子がある機器を接続すれば、すべてのビデオ端子の中で最も高画質な映像を再生できます。
音声信号も同時に伝送します。

❹ Sビデオ端子

Sビデオ信号を伝送します。
Sビデオ入出力端子がある機器を接続すれば、ビデオ端子(❺)よりも高画質な映像を再生できます。

❺ ビデオ端子

コンポジットビデオ信号を伝送します。

ヒント

- 最良の画質でお楽しみいただくために、なるべく画質の良い端子を使って接続してください。
- 各端子に同時に信号が入力されている場合は、HDMI、コンポーネント／D5ビデオ、Sビデオ、ビデオ信号の順に入力信号が優先されます。
- HDMI入力信号をリピート再生している場合は、アナログ映像信号をビデオコンバージョン機能(34ページ)によって別のアナログ映像端子から出力できます。
- コンポーネントビデオ出力(MONITOR OUT)端子とD5ビデオ出力(MONITOR OUT)端子は同時に使うことができます。たとえば、コンポーネントビデオ出力端子にプロジェクターを、D5ビデオ出力端子にテレビを接続して、同じ映像を両方でお楽しみいただけます。

ご注意

- 同じ機器名が書かれたコンポーネントビデオ入力端子とD5ビデオ入力端子の両方を同時に接続することはできません(例：❶のBDVDと❷のBDVD端子)。
- コンポーネントビデオ、D5ビデオ、HDMI端子を使って接続する場合、再生機器に装備されている各端子の規格(D1～D5など)よりもテレビに装備されている各端子の規格が低いと、映像が高画質で再生されません。
- 本機のSビデオ出力端子は、S1／S2規格には対応していません。
- VCR IN端子に入力した信号は、VCR OUT端子から出力できません。同様に、DVR IN端子に入力した信号はDVR OUT端子から出力できません。

ビデオコンバージョン機能について

セットメニュー「映像の設定」の「ビデオコンバージョン」(136ページ)を「する」に設定すると、HDMI端子を除くすべての種類のビデオ入力端子(D5、コンポーネント、Sビデオ、ビデオ)へ入力した信号を、HDMI OUT端子およびすべてのMONITOR OUT端子(D5、コンポーネント、Sビデオ、ビデオ)から出力できます。これにより、入力端子と出力端子の種類の違いを気にすることなく、映像を楽しめます。(例:ビデオ入力端子に接続したDVDプレーヤーの映像を、HDMI出力端子に接続したテレビで楽しめます。)

○:対応
×:非対応

入力端子 \ 出力端子	HDMI端子	D5ビデオ端子	コンポーネントビデオ端子	Sビデオ端子	ビデオ端子
HDMI端子	○	×	×	×	×
D5ビデオ端子	○	○	○	○ (480i信号のみ)	○ (480i信号のみ)
コンポーネントビデオ端子	○	○	○	○ (480i信号のみ)	○ (480i信号のみ)
Sビデオ端子	○	○	○	○	○
ビデオ端子	○	○	○	○	○

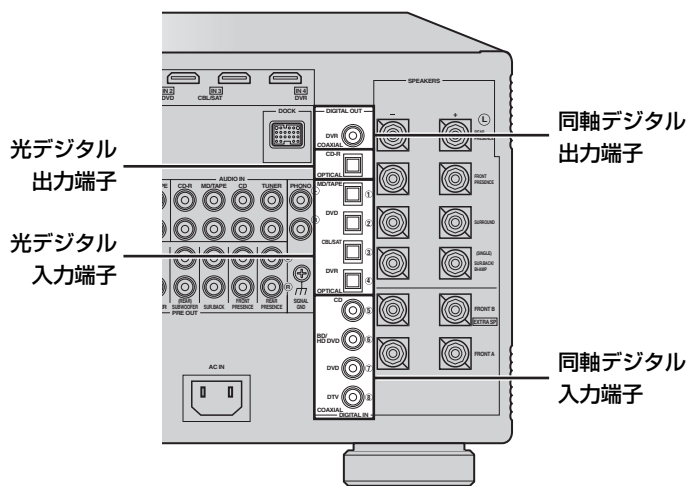
ご注意

- D5、コンポーネントビデオ端子へ入力した映像信号が480i以外の場合、Sビデオ、ビデオ端子からは出力されません。
- 特殊な映像信号を出力する機器(ゲーム機など)と接続した場合、ショートメッセージ(138ページ)が正しく出力されない場合があります。

ヒント

セットメニュー「映像の設定」の「コンポーネントI/P」や「HDMI解像度」で、映像信号の解像度を変換できます(137ページ)。

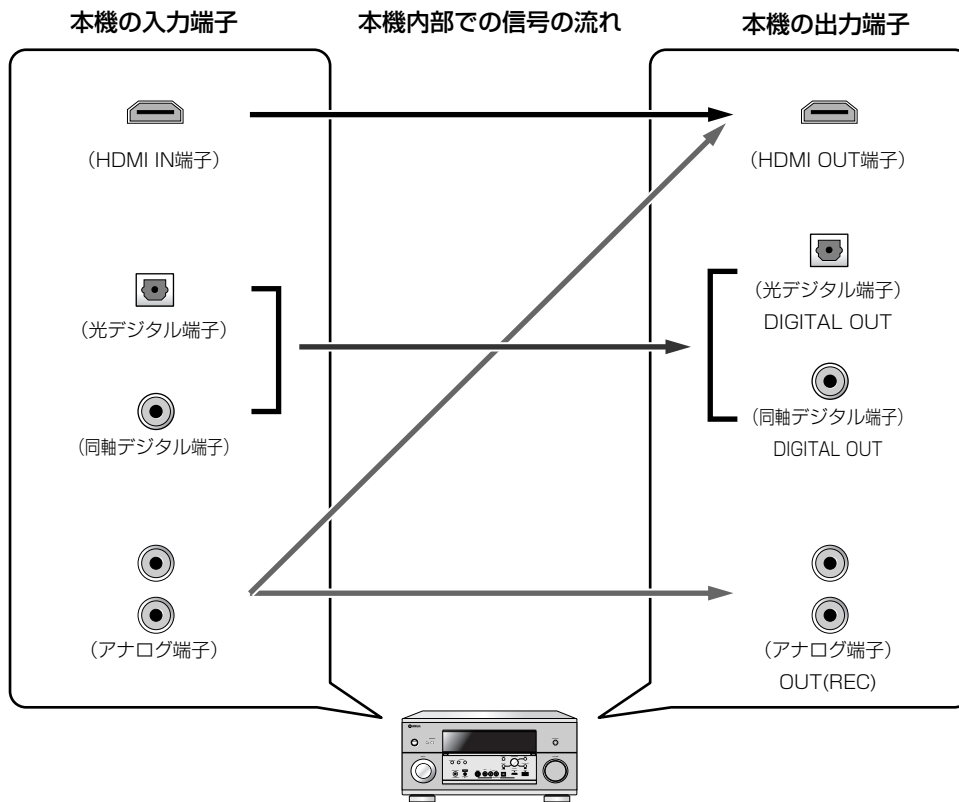
デジタル音声端子(光／同軸)について

本機は、デジタル音声信号を直接伝送できる光デジタル(OPTICAL)端子と同軸デジタル(COAXIAL)端子を装備しています。サンプリング周波数は96kHzまでの信号に対応しています。接続に使うケーブルについては、39ページをご覧ください。

- 光デジタル端子と同軸デジタル端子は、PCM、ドルビーデジタル、DTS、AAC(BS／地上波デジタル放送)兼用です。
- 同じ機器に割り当てられた同軸デジタル入力端子と光デジタル入力端子に同時に信号が入力されると、同軸デジタル入力端子に入力された信号が優先されます。初期設定では、DVDプレーヤーに同軸／光の両端子が割り当てられています。
- 本機のデジタル信号回路とアナログ信号回路は独立しています。デジタル入力端子に入力されたデジタル信号は、デジタル出力端子からのみ出力されます。

ご注意

本機の光デジタル端子は、JEITA(社会法人 電子情報技術産業協会)規格に基づいて設計されています。JEITA規格を満たさない光ファイバーケーブルを使うと、正常に動作しないことがあります。

音声信号について

本機は4種類の音声入出力端子を装備しています。

ヒント

- 本機の音声入力端子に入力された音声信号は、PRE OUT端子からも出力されます（52ページ）。
- HDMI IN端子に入力されたPCM、ドルビーデジタル、DTS信号は、セットメニュー「対応音声」（144ページ）を「その他の機器」に設定しているときのみHDMI OUT端子から出力されます。
- 以下の種類の音声信号は、HDMI IN端子からのみ入力されます。
  - DSD
  - ドルビーTrueHD
  - ドルビーデジタルプラス
  - DTS-HDマスターオーディオ
  - DTS-HDハイレゾリューションオーディオ
  - マルチチャンネルPCM

ご注意

MD/TAPE IN(PLAY)端子に入力した信号は、MD/TAPE OUT(REC)端子から出力されません。同様に、CD-R IN(PLAY)端子に入力した信号はCD-R OUT(REC)端子から出力されません。

HDMI端子について

HDMIとは、High-Definition Multimedia Interfaceの略です。パソコンディスプレイなどで使われているDVI(Digital Video Interface)端子を拡張した、次世代テレビ向けのデジタルインターフェースの規格です。HDMI対応機器とHDMI対応のプラズマディスプレイなどを接続することで、圧縮されていないデジタル映像と音声(ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AAC、またはリニアPCM)を1本のケーブルで伝送できます。接続にはHDMIケーブルをお使いください(39ページ)。

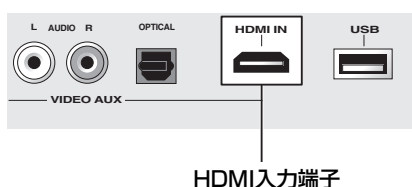
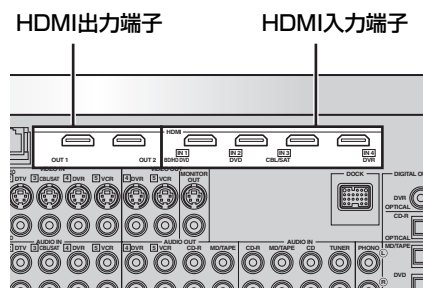
- 本機はHDMI Ver. 1.3aに対応しており、HDMI対応機器をHDMIケーブル1本で接続すれば、ブルーレイディスクなどの高画質デジタルビデオ信号に加え、従来の2チャンネルPCM信号やマルチチャンネル圧縮オーディオ信号、DVDオーディオ(マルチチャンネルPCM信号)などのマルチチャンネルオーディオ信号、DSD信号をデジタルのまま伝送したり、本機で再生したりすることができます。
- 著作権保護技術(HDCP: High-bandwidth Digital Content Protection System)に対応しているため、デジタルビデオ／オーディオ信号をデジタルのまま劣化させることなく伝送できます。

この機器のHDMIインターフェースは、以下の規格に準拠しています。
High-Definition Multimedia Interface Specification Version 1.3a

〈フロントパネル〉

HDMI入力端子

〈リアパネル〉

HDMI出力端子　HDMI入力端子

ヒント

- 接続には、19ピンのHDMIケーブルで、HDMIロゴのついているものをお使いください。また、長さ5.0m以下のものを使うことをおすすめします。
- セットメニュー「信号の情報」で、HDMI接続した機器との入出力信号情報を確認できます(159ページ)。
- HDMI IN端子に入力された映像および音声信号は、HDMI OUT端子からのみ出力されます。
- 本機はHDMI OUT端子を2つ装備していますが、その両方から同時に信号を出力することはできません。リモコンの⑬**HDMI OUT**キーを押して、信号を出力するHDMI OUT端子を選べます。詳しくは、「信号を出力するHDMI端子を選ぶ」(81ページ)をご覧ください。
- セットメニュー「ビデオコンバージョン」(136ページ)を「する」に設定すれば、コンポジットビデオ、Sビデオ、コンポーネントビデオ端子から入力した映像信号をHDMI OUT端子から出力できます。
- セットメニュー「対応音声」(144ページ)を「その他機器」に設定した場合、HDMI IN端子から入力した音声信号を本機からではなく、HDMI OUT端子から出力できます。

ご注意

- 本機はHDCP非対応のHDMI機器またはDVI機器には対応していません。HDCP対応の有無については、HDMI機器またはDVI機器の取扱説明書をご覧ください。
- 本機をDVI端子のある機器に接続する場合は、HDMI端子 ⇔ DVI-D端子の変換ケーブルが必要です。
- お使いのテレビやプロジェクターによっては、本機とDVI接続した場合、それらの電源がオフ、またはスタンバイのときや、DVI入力を選んでいないときに、HDMI接続したプレーヤーからの音声が出力されない場合があります。この場合、HDMIインジケーターが点滅します。
- 制限台数を超えるHDMI機器を接続すると、HDMI接続した機器を再生できない場合があります。
- 本機をスタンバイやオフにすると、本機のHDMI IN1～4端子およびフロントパネルのHDMI IN端子から入力された信号は、本機のHDMI OUT端子へ伝送しません。ただし、セットメニュー「その他設定」の「スタンバイスルー」（144ページ）を「オン」にすると、スタンバイ中でも特定のHDMI IN端子から入力した信号をHDMI OUT端子から出力できます。
- HDMIで接続した機器を再生中に、本機のHDMI OUT端子に接続しているHDMI／DVI機器の電源をオン／オフしたり、HDMIケーブルを抜き差ししたりしないでください。音声が途切れたり、ノイズが発生したりすることがあります。
- HDMIで接続した場合は、入力モードを「AUTO」または「HDMI」に設定して再生してください（107ページ）。

入力端子の割り当てについて

本機のHDMI入力端子には、以下の機器が割り当てられています。

HDMI入力端子	機器
IN1	BD／HD DVDプレーヤー
IN2	DVDプレーヤー
IN3	ケーブルテレビチューナー／衛星放送チューナー
IN4	DVDレコーダー
フロントパネル HDMI IN	ゲーム機器／ビデオカメラなど

セットメニュー「端子の割り当て」の「HDMI IN」で、HDMI入力端子の割り当てを変更できます（146ページ）。

映像信号について

本機の HDMI は以下の映像信号に対応しています。

映像信号の種類	480i／480p／720p／1080i／1080p
リフレッシュレート	59.94(60)／50Hz、24Hz

HDMI IN端子から入力したディープカラーやxvYCC映像信号をHDMI OUT端子から出力し、ディープカラーやxvYCC対応のテレビで楽しめます。

ヒント

ディープカラー映像信号は、30ビットまたは36ビットに対応しています。

ご注意

「HDMI解像度」を「スルー」以外、「HDMI処理」を「する」に設定すると、本機はディープカラー映像信号を通常の色深度や色空間に変換して出力します。

音声信号について

本機の HDMI は以下の音声信号フォーマットに対応しています。

音声フォーマット	詳細	ディスク（例）
2チャンネル リニア PCM	2ch 32-192kHz 16／20／24bit	CD DVD-Video DVD-Audio
マルチチャンネル リニア PCM	8ch 32-192kHz 16／20／24bit	DVD-Audio
DSD	2／5.1ch 2.8224MHz 1bit	SACD
ビットストリーム	ドルビーデジタル、 DTS、AAC	DVD-Video
ビットストリーム （HDオーディオ）	ドルビーTrueHD、 ドルビーデジタルプラス、DTS-HDマスターオーディオ、 DTS-HDハイレゾリューションオーディオ	ブルーレイディスク HD DVD

ヒント

再生機器がブルーレイディスクやHD DVDの音声解説（例：インターネットからダウンロードした音声コンテンツなど）のビットストリーム信号をデコードできる場合、本機と再生機器をアナログマルチチャンネル接続（53ページ）またはデジタル音声接続すれば、音声解説を楽しめます。再生機器で音声解説をデコードし、本機へ出力する方法について詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。

接続に使うケーブルの種類

お使いになる機器に合わせて、ケーブルをご用意ください。

音　声

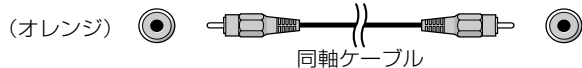
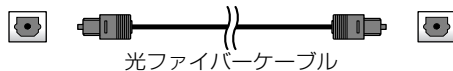
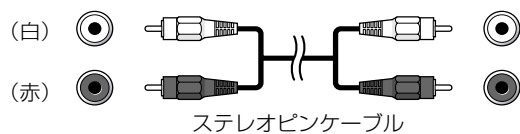
同軸デジタル端子

（オレンジ）

光デジタル端子

アナログ端子

（白）

（赤）

映　像

D端子

コンポーネントビデオ端子

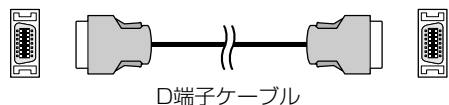
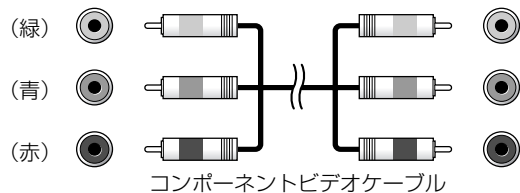
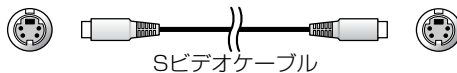
（緑）

（青）

（赤）

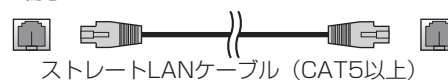
Sビデオ端子

ビデオ端子

（黄）

音　声・映　像

HDMI端子

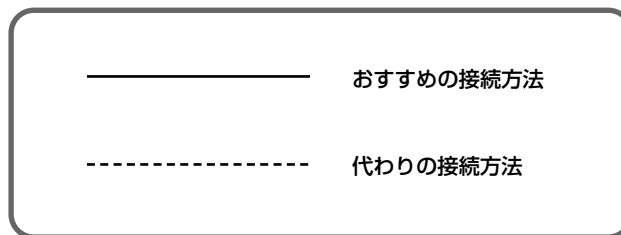
ネットワーク

NETWORK端子

外部機器と接続する

左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、入力(IN)、出力(OUT)をご確認のうえ、正しく接続してください。また、接続機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

接続する前に、本機および接続する機器の電源コードがコンセントに接続されていないことをご確認ください。

各機器との接続図について

各機器との接続図(42ページ〜)では、初期設定で割り当てられている端子に合わせて本機に外部機器を接続しています。各機器を図のように接続すれば、入力選択したい機器を呼び出す場合にリモコンの③入力選択キーに書かれている機器名や、フロントパネルディスプレイ／テレビ画面(61ページ)表示と、実際に呼び出す機器を一致させられます。たとえば、「DVD」と書かれた端子にDVDプレーヤーを接続すれば、リモコンの③入力選択キーを押す、または本体のⒹ**INPUT**セレクターを回して「**DVD**」を選べば、DVDプレーヤーを入力選択できます。
機器によっては、本機に音声用と映像用のそれぞれに複数の端子をその機器の接続用として装備している場合があります。その場合は、接続する機器が装備している端子に合わせて、音声で1つ、映像で1つを接続してください。すべての端子を接続する必要はありません。
接続図では、下図のように、おすすめの接続方法を実線、代わりの接続方法を破線で表しています。

外部機器を接続図とは違う端子に接続する場合

外部機器を、各機器との接続図(42ページ〜)で接続している端子とは違う端子に接続することもできます。たとえば、「CBL/SAT」と書かれた端子にDVDレコーダーを接続できます。そのように、端子に書かれた機器名とは異なる機器を接続した場合は、セットメニュー「端子の割り当て」(146ページ)で、端子の割り当てを変更することをおすすめします。また、各機器との接続図には記載されていない機器を接続することもできます。その場合は、接続した端子に書かれている機器名で入力ソースを選んでください(80ページ)。セットメニュー「入力名変更」で入力ソース名を変更すれば、変更した名前で入力ソースを選ぶこともできます(147ページ)。

録音機器との接続について

本機では、同軸／光デジタル端子、またはアナログ端子から入力した音声信号を本機に接続した録音機器で録音できます。再生機器と本機、および本機と録音機器の音声接続は、必ず同じ方法で行ってください。たとえば、再生機器と本機をアナログ接続した場合、本機と録音機器もアナログ接続してください。デジタル接続する場合は、再生機器と本機を同軸接続しても、光デジタル接続した録音機器で録音できます。

録画機器との接続について

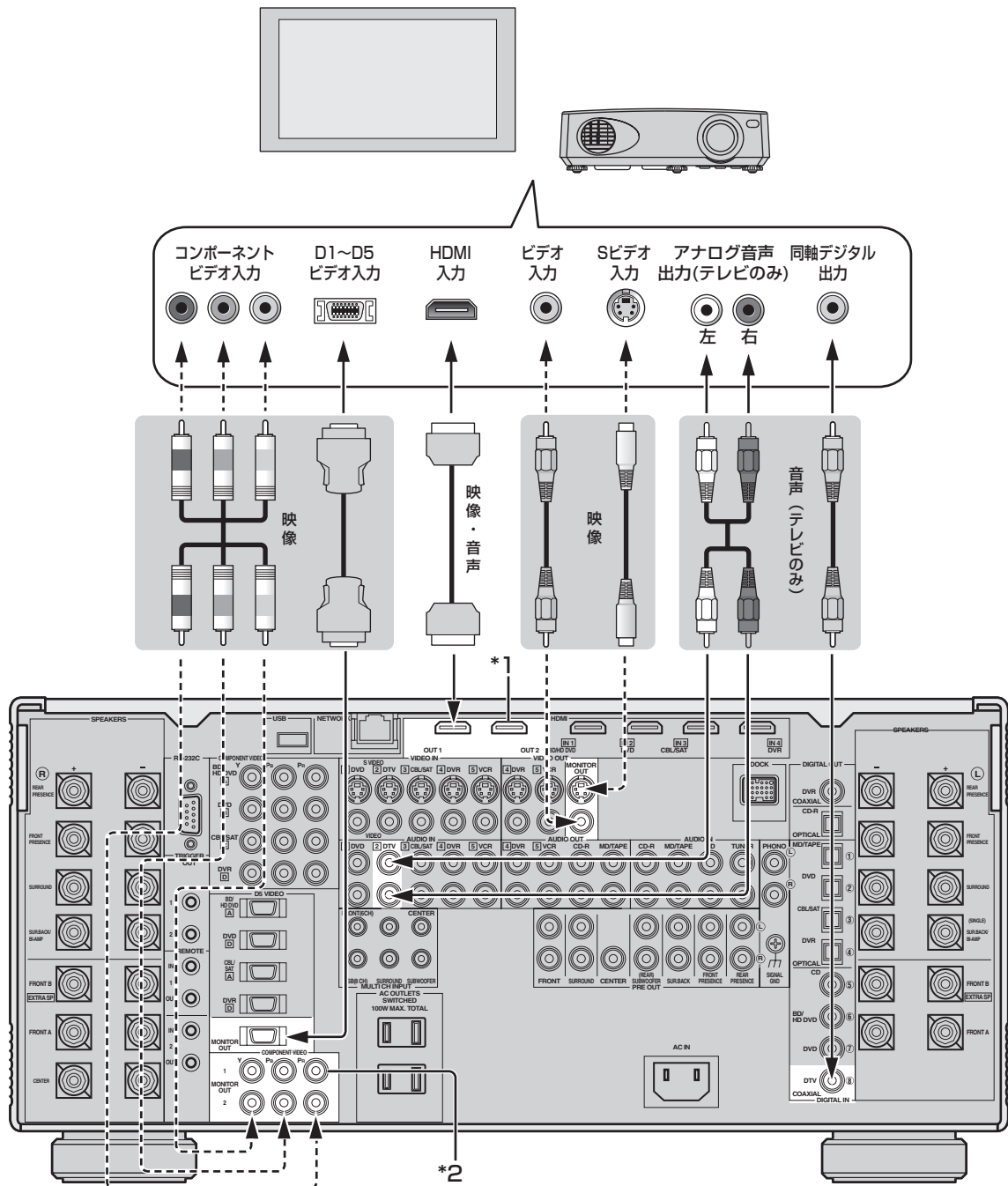
本機では、Sビデオまたはビデオ端子から入力した映像信号を本機に接続した録画機器で録画できます。テレビと本機、および本機と再生／録画機器は、必ず同じ種類の映像端子を使って接続してください。たとえば、テレビと本機をSビデオ接続した場合、本機と再生／録画機器もSビデオ接続してください。

ご注意

本機の入力／出力端子は電源をオンにした状態で正常に機能します（HDMI端子を除く）。必ずオンにした状態でお使いください。

テレビ／プロジェクターを接続する

本機のメニュー画面や、映像機器の映像信号を表示するため、テレビ／プロジェクターを接続します。

テレビ／プロジェクターのHDMI入力端子を本機のHDMI OUT端子に接続します。または、テレビ／プロジェクターの映像入力端子を本機のMONITOR OUT端子に接続します。お使いになるテレビ／プロジェクターの端子をよく確認して、**1つ**を選んで接続してください。テレビの音声信号を本機に入力する場合は、テレビの音声出力端子を本機の音声入力端子に接続します。お使いになるテレビの端子をよく確認して、**1つ**を選んで接続してください。

*1 モニターまたはプロジェクターをもう1台接続できますが、HDMI OUT1とHDMI OUT2に同時に信号を出力することはできません。詳しくは、「信号を出力するHDMI端子を選ぶ」(81ページ)をご覧ください。

*2 モニターまたはプロジェクターをもう1台接続できます。

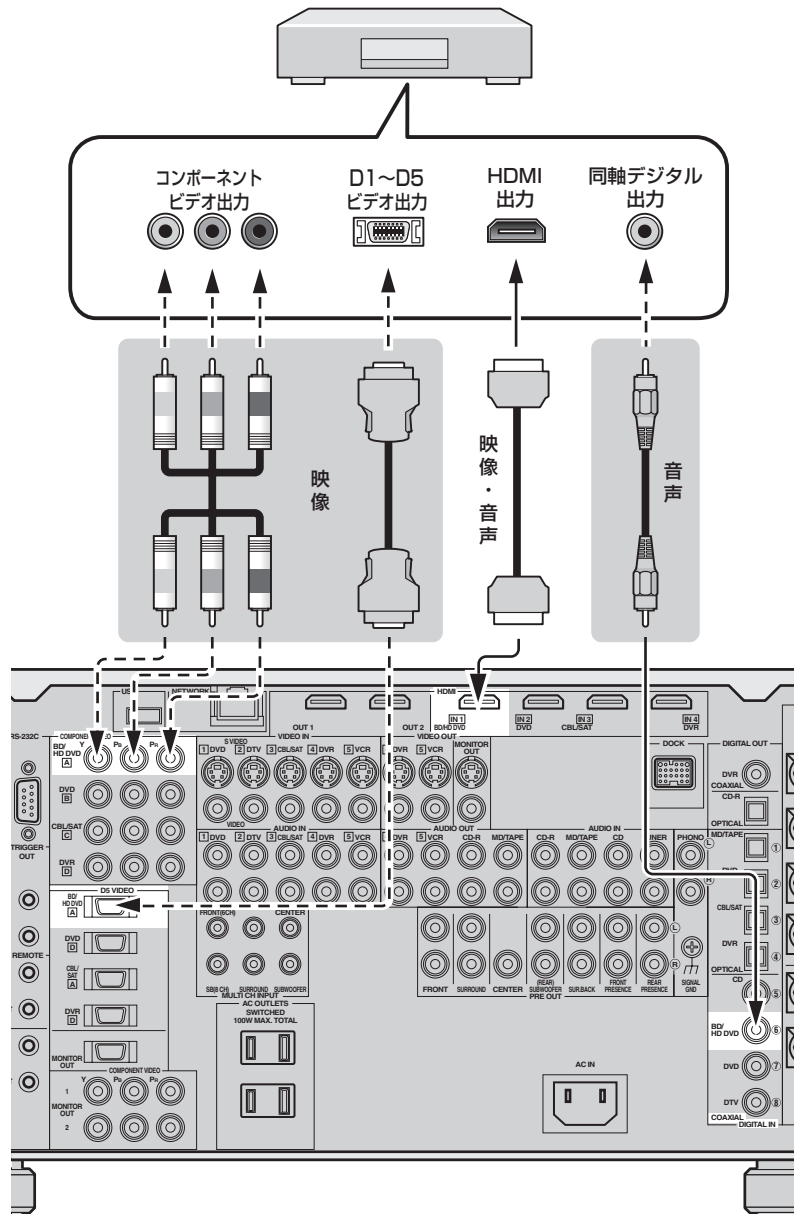
ヒント

- テレビと本機をHDMI接続した場合、セットメニュー「対応音声」で、本機とHDMI接続した再生機器の音声を本機で出力するか、テレビで出力するかを設定できます(144ページ)。
- リップシンク(音声と映像の出力タイミング補正)の自動補正機能と互換性を持つテレビと、本機をHDMI接続した場合、本機は自動的に出力タイミングを補正します。リップシンクの自動補正機能について詳しくは、セットメニュー「リップシンク」をご覧ください(133ページ)。
- コンポーネントビデオ出力(MONITOR OUT)端子とD5ビデオ出力(MONITOR OUT)端子は同時に使用できます。たとえば、コンポーネントビデオ出力端子にプロジェクターを、D5ビデオ出力端子にテレビを接続して、同じ映像を両方でお楽しみいただけます。
- 本機はHDMI OUT端子を2つ装備していますが、その両方から同時に信号を出力することはできません。リモコンの⑬**HDMI OUT**キーを押して出力する端子を選んでください(81ページ)。

その他の機器を接続する

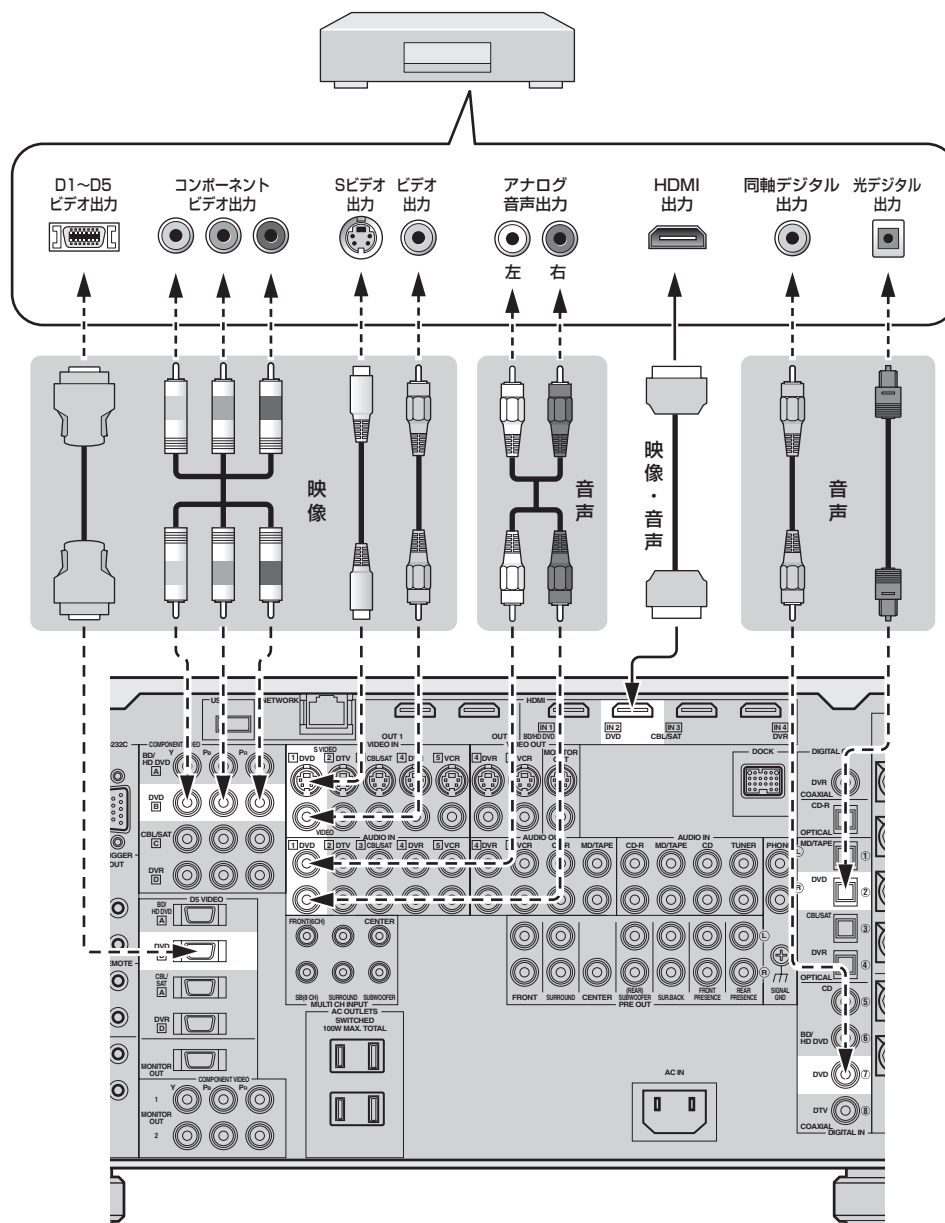
■ ブルーレイディスク／HD DVDプレーヤーを接続する

ブルーレイディスク／HD DVDプレーヤーのHDMI出力端子と本機のHDMI IN1端子を接続します。または、ブルーレイディスク／HD DVDプレーヤーの音声／映像出力端子と本機の音声／映像入力端子を接続します。お使いになる機器の端子をよく確認して、**音声で1つ、映像で1つ**を選んで接続してください。

ご注意

コンポーネントビデオ入力端子とD5ビデオ入力端子の両方を同時に接続することはできません。お使いになるブルーレイディスク／HD DVDプレーヤーを確認のうえ、どちらか片方を接続してください。

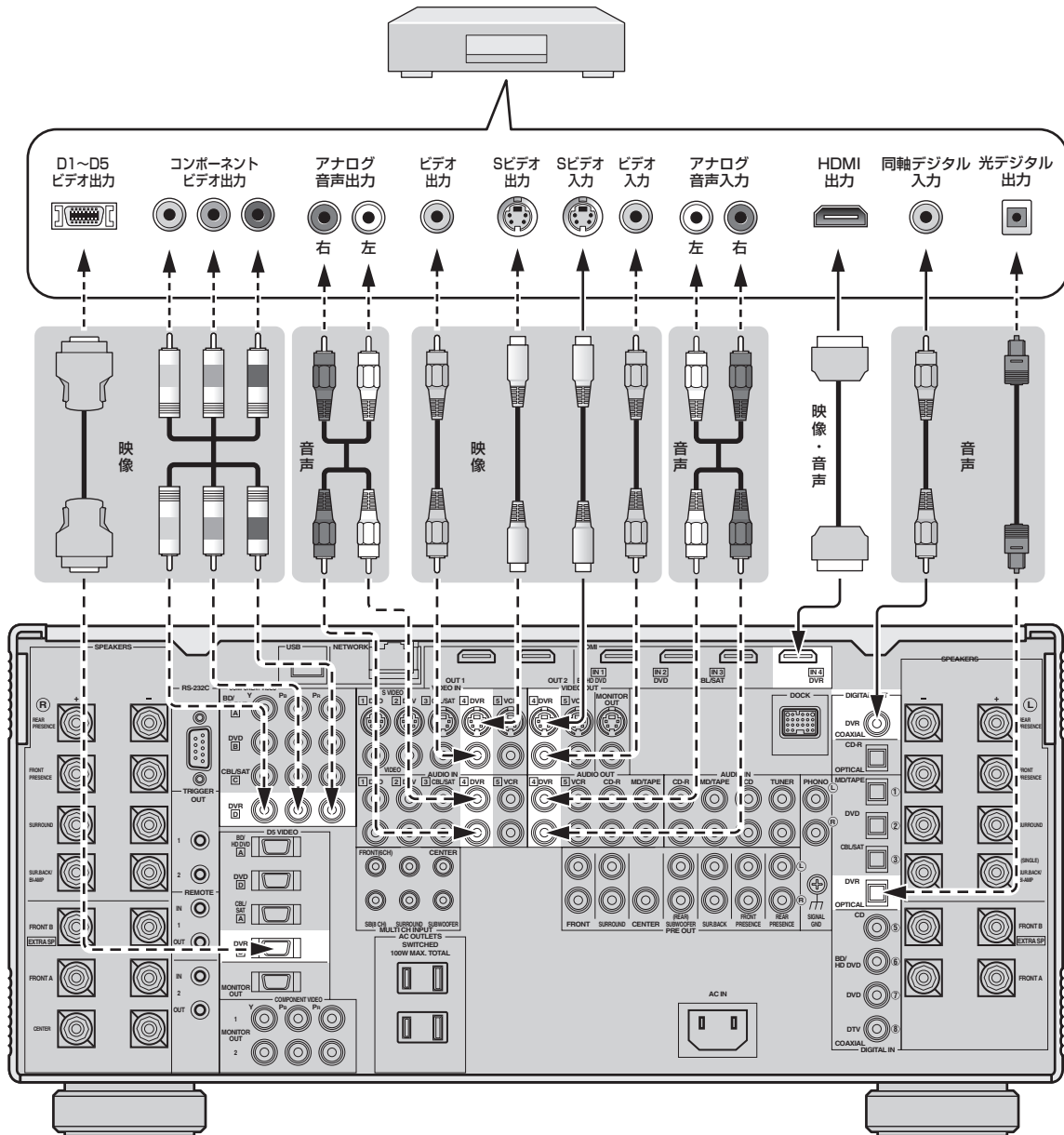
■ DVDプレーヤーを接続する

DVDプレーヤーのHDMI出力端子と本機のHDMI IN2端子を接続します。または、DVDプレーヤーの音声／映像出力端子と本機の音声／映像入力端子を接続します。お使いになる機器の端子をよく確認して、**音声で1つ、映像で1つ**を選んで接続してください。

ご注意

コンポーネントビデオ入力端子とD5ビデオ入力端子の両方を同時に接続することはできません。お使いになるDVDプレーヤーを確認のうえ、どちらか片方を接続してください。

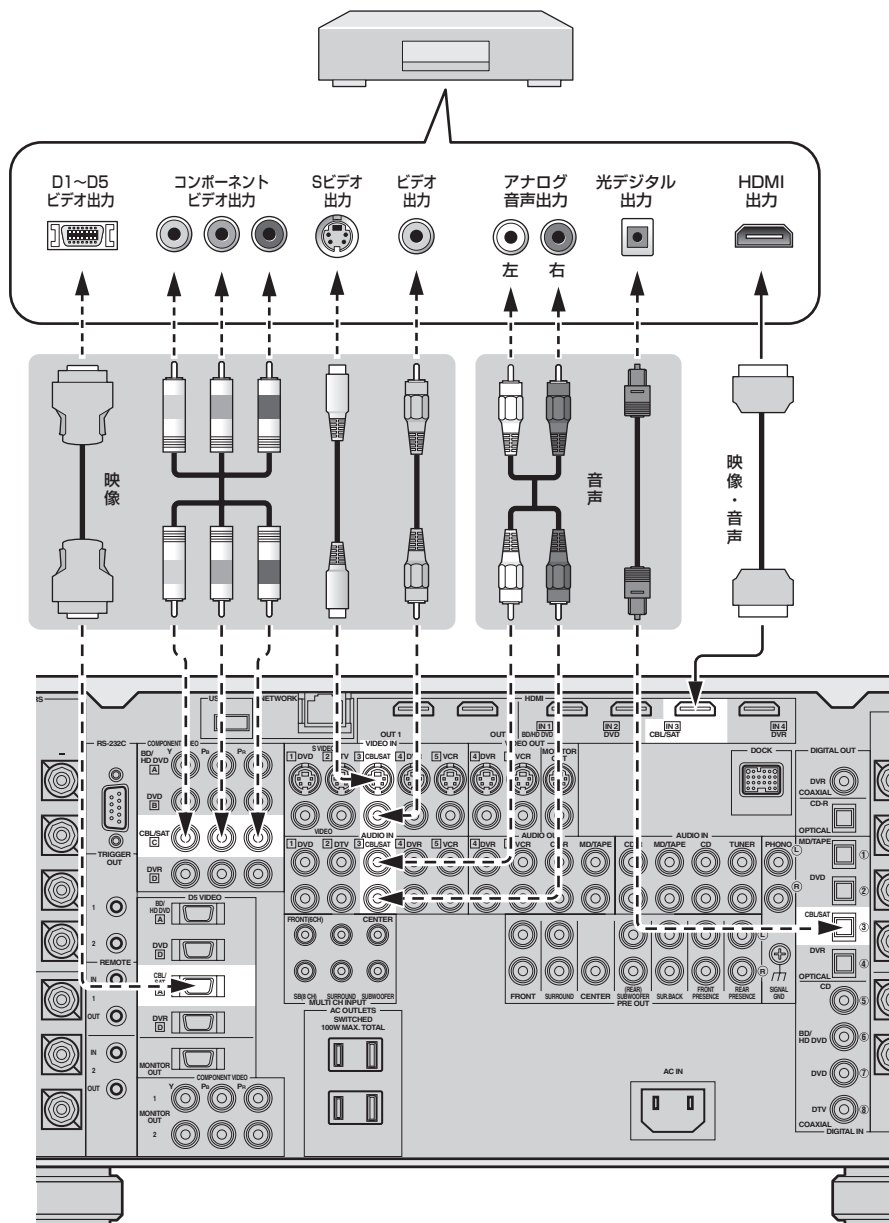
■ DVDレコーダーを接続する

DVDレコーダーのHDMI出力端子と本機のHDMI IN4端子を接続します。または、DVDレコーダーの音声／映像出力端子と本機の音声／映像入力端子を接続します。さらに、DVDレコーダーの音声／映像入力端子と本機の音声／映像出力端子を接続します。お使いになる機器の端子をよく確認して、入出力それぞれ**音声で1つ、映像で1つ**を選んで接続してください。

ご注意

コンポーネントビデオ入力端子とD5ビデオ入力端子の両方を同時に接続することはできません。お使いになるDVDレコーダーを確認のうえ、どちらか片方を接続してください。

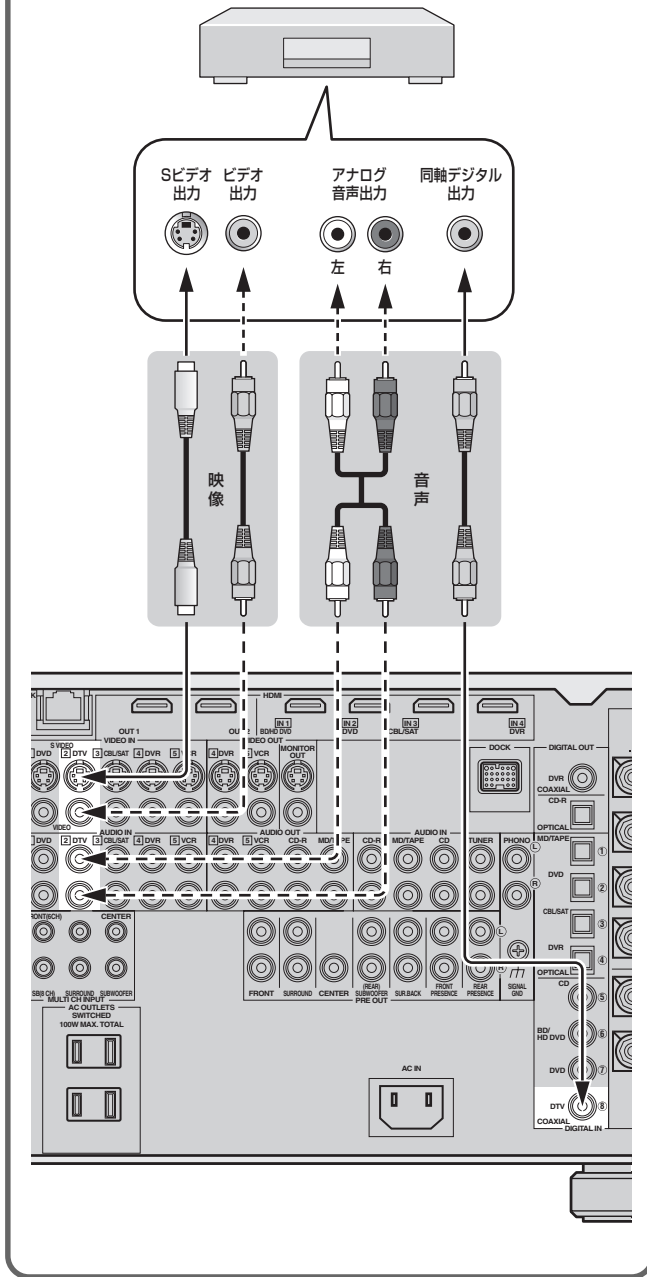
■ ケーブルテレビ／衛星放送チューナーを接続する

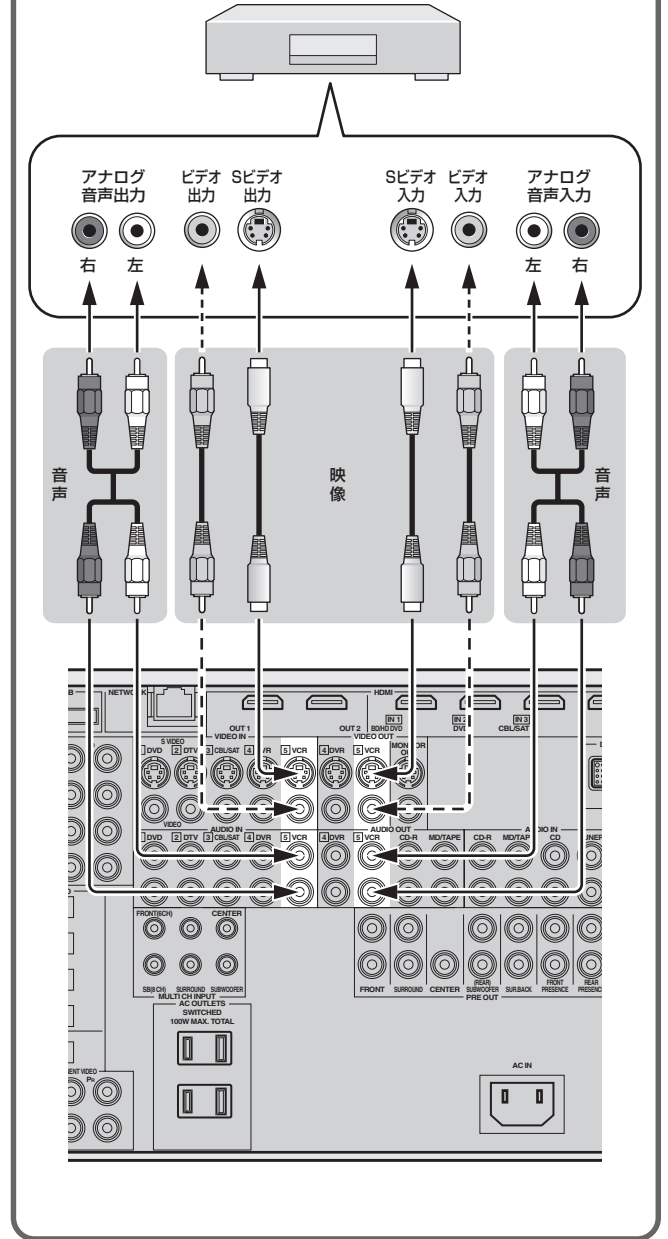
チューナーのHDMI出力端子と本機のHDMI IN3端子を接続します。または、チューナーの音声／映像出力端子と本機の音声／映像入力端子を接続します。お使いになる機器の端子をよく確認して、**音声で1つ、映像で1つ**を選んで接続してください。

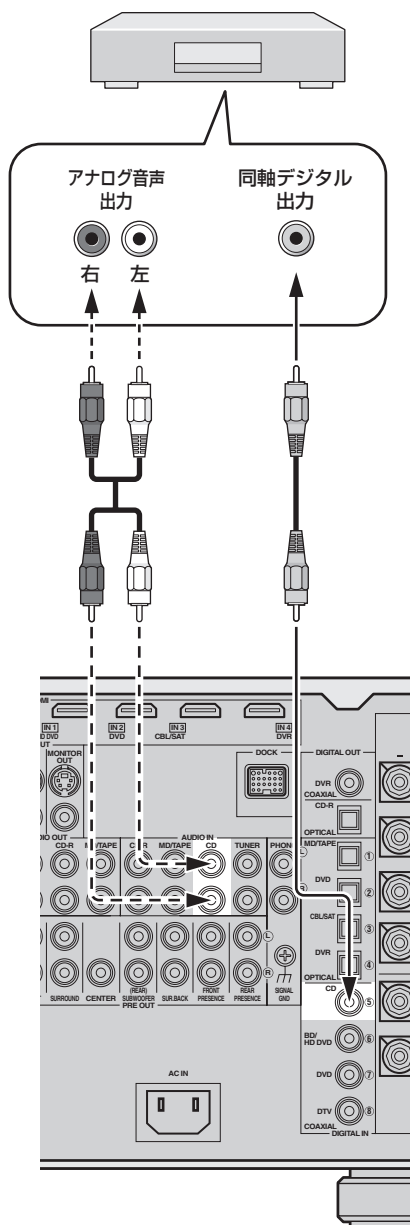
ご注意

コンポーネントビデオ入力端子とD5ビデオ入力端子の両方を同時に接続することはできません。お使いになるチューナーを確認のうえ、どちらか片方を接続してください。

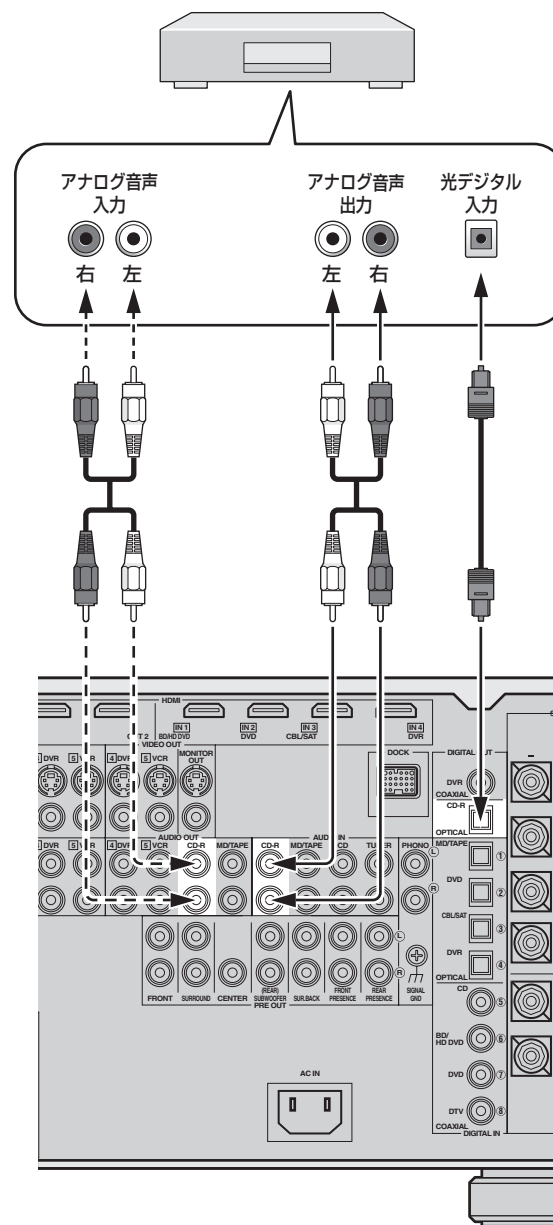
■ デジタルテレビチューナーを接続する

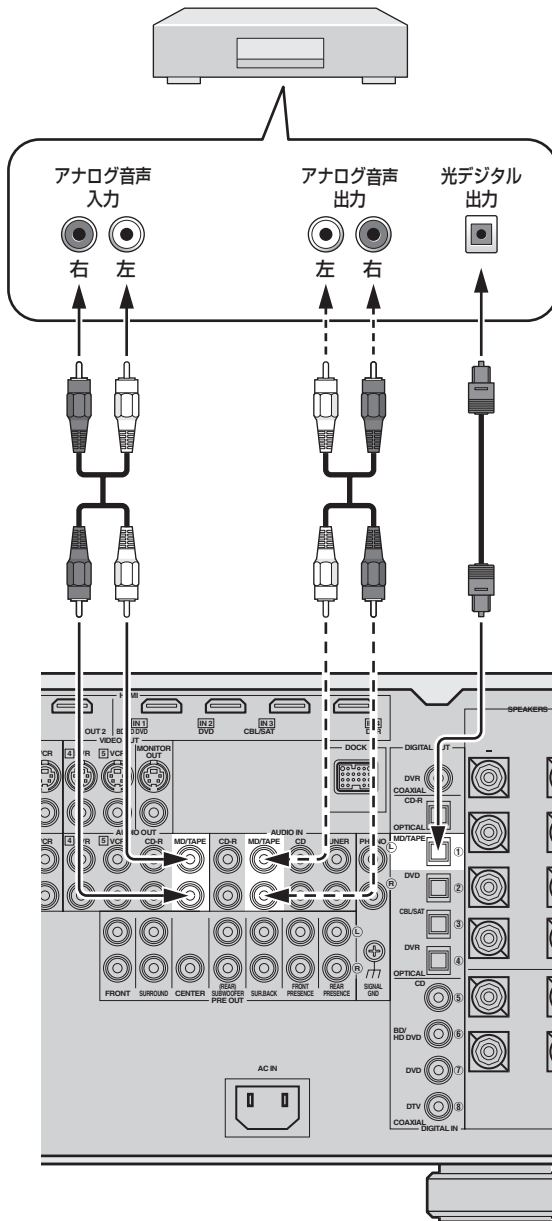
お使いになる機器の端子をよく確認して、**音声で1つ、映像で1つ**を選んで接続してください。

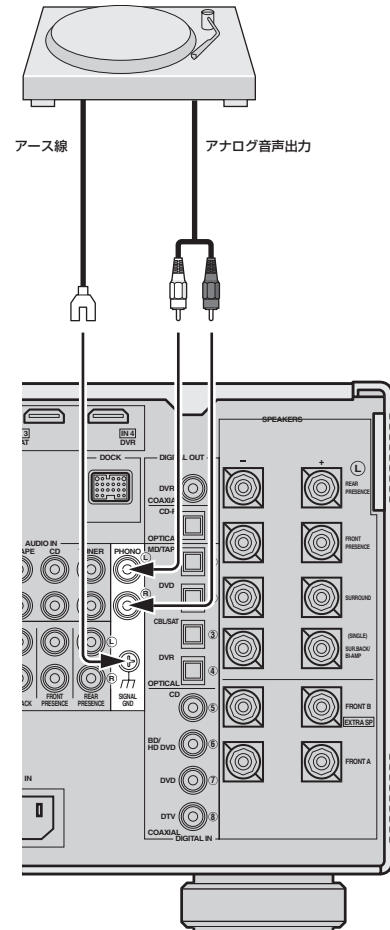
Sビデオ出力
ビデオ出力
アナログ音声出力
同軸デジタル出力
左
右
映像
音声

■ ビデオデッキを接続する

お使いになる機器の端子をよく確認して、入出力それぞれ**音声で1つ、映像で1つ**を選んで接続してください。

■ CDプレーヤーを接続する

お使いになる機器の端子をよく確認して、**どちらか1つ**を選んで接続してください。

■ CDレコーダーを接続する

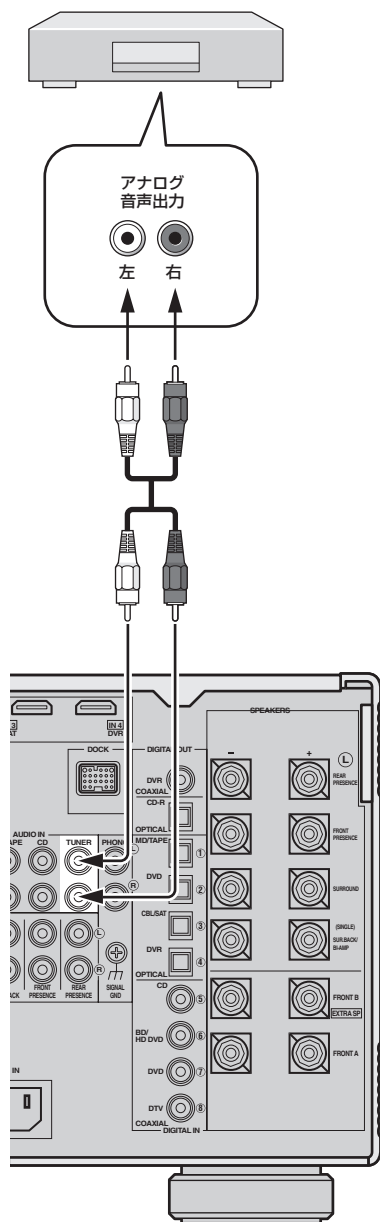
お使いになる機器の端子をよく確認して、アナログ音源を録音する場合はアナログ接続を、デジタル音源を録音する場合はデジタル接続の中から**どれか1つ**を選んで接続してください。

■ MDレコーダー／テープデッキを接続する

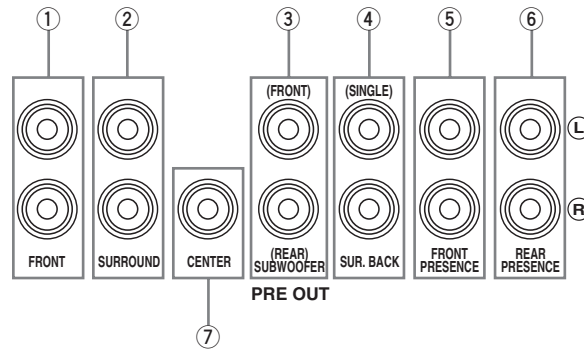
お使いになる機器の端子をよく確認して、アナログ音源を録音する場合はアナログ接続を、デジタル音源を録音する場合はデジタル接続の中から**どれか1つ**を選んで接続してください。

■ レコードプレーヤーを接続する

低出力型MCカートリッジ付のレコードプレーヤーを接続するときは、昇圧トランスまたはMCヘッドアンプを使って接続します。

ご注意

GND端子は安全アースではありません。一般的に、ノイズが多いときに接続するとノイズレベルを低減できます。レコードプレーヤーによってはノイズレベルが高くなってしまうことがありますので、お使いのレコードプレーヤーに合った接続をお試しください。

■ FM／AMチューナーを接続する

チューナーの音声出力端子と本機の音声入力端子を接続します。お使いになる機器の端子をよく確認して接続してください。

■ 外部パワーアンプを接続する

外部パワーアンプを使う場合や、お手持ちのアンプを使う場合などは、PRE OUT端子と接続します。

① FRONT端子

フロント左／右チャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプを接続して、フロント左／右スピーカーを駆動させせる場合に使います。

② SURROUND端子

サラウンド左／右チャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプを接続して、サラウンド左／右スピーカーを駆動させる場合に使います。

③ SUBWOOFER端子

ヤマハアクティブサーボサブウーファーシステムなどの、アンプ内蔵サブウーファーを使うときに、この端子に接続します。フロント、センター、サラウンドおよびサラウンドバックチャンネルの低音信号が出力されます。また、ドルビーデジタル、DTSやAACデコード時のLFE信号も、この端子に出力されます。詳しくは「サブウーファーを設置する」(32ページ)をご覧ください。

④ SUR. BACK端子

サラウンドバック左／右チャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプを接続して、サラウンドバック左／右スピーカーを駆動させる場合に使います。

⑤ FRONT PRESENCE端子

フロントプレゼンス左／右チャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプを接続して、フロントプレゼンス左／右スピーカーを駆動させる場合に使います。

⑥ REAR PRESENCE端子

リアプレゼンス左／右チャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプを接続して、リアプレゼンス左／右スピーカーを駆動させる場合に使います。

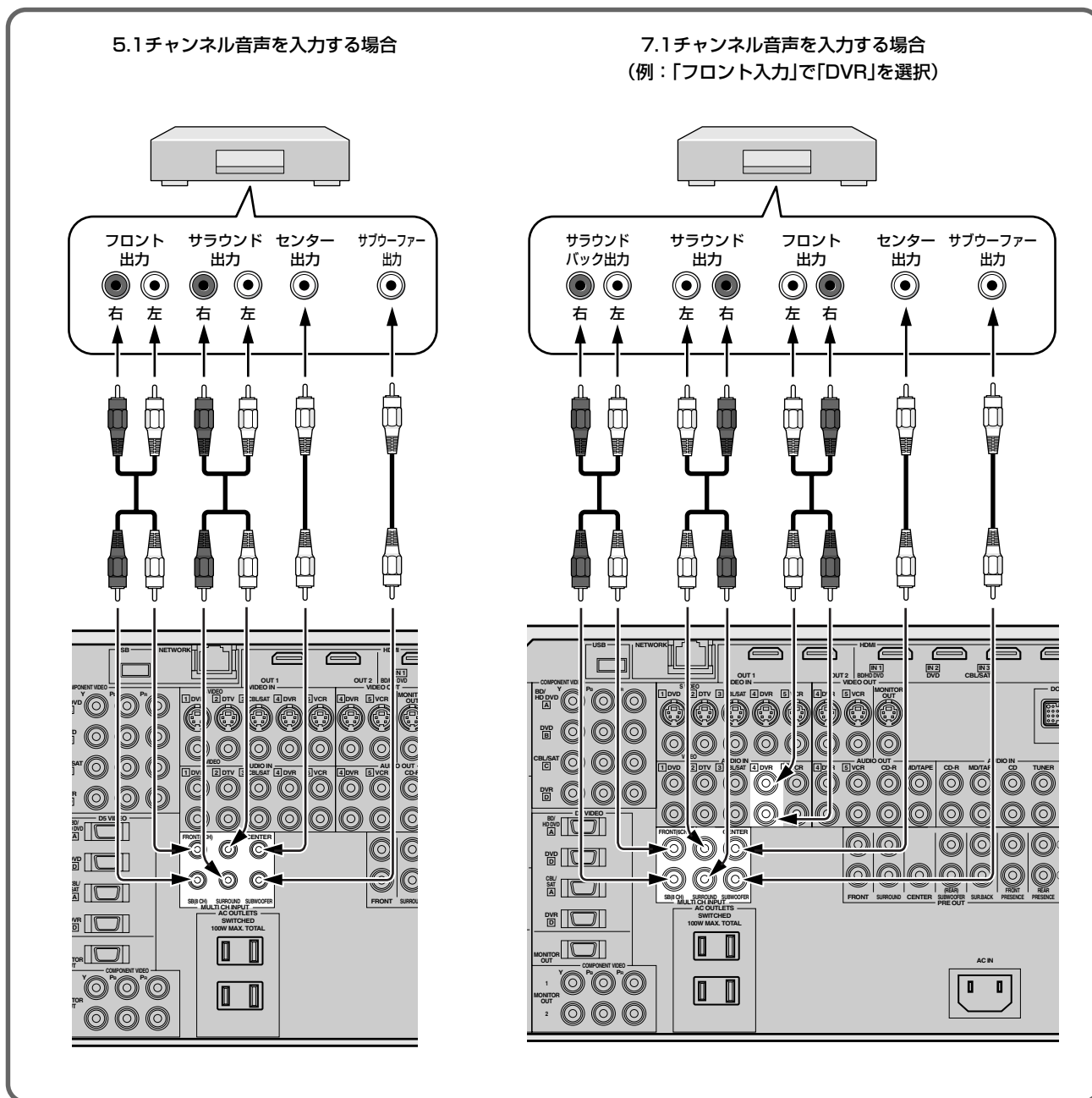
⑦ CENTER端子

センターチャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプを接続して、センタースピーカーを駆動させる場合に使います。

ヒント

すべてのスピーカーを外部パワーアンプで駆動する場合は、「アドバンスセットアップ」の「PREAMP MODE」(184ページ)を「ON」に設定し、スピーカー端子からの信号の出力を停止することで本機の消費電力を減らせます。

■ マルチチャンネル出力端子のある機器を接続する

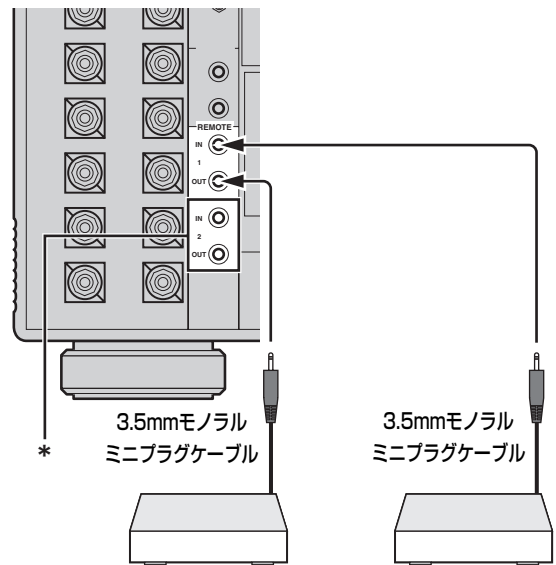
DVDプレーヤーやスーパーオーディオCDプレーヤーなど、マルチチャンネル出力端子がある機器を接続します。7.1チャンネル音声を入力する場合は、空いているアナログ音声入力端子をフロント左／右チャンネル用として使います。セットメニュー「入力チャンネル」を「8チャンネル」に設定し、「フロント入力」で、フロント左／右チャンネル用として使うアナログ音声入力端子を設定してください（148ページ）。

ご注意

- 音場プログラム（83ページ）およびTHXサラウンドモード（95ページ）の効果や、いくつかのセットメニュー項目の設定は無効になります。
- セットメニュー「スピーカーの設定」（124ページ）の「センター」を「無」、「サブウーファー」の「構成」を「使用しない」に設定した場合、センターおよびサブウーファーチャンネル信号は、フロントスピーカーに振り分けられます。また、「サラウンド」および「サラウンドバック」を「無」に設定した場合、サラウンドおよびサラウンドバックチャンネル信号は出力されません。
- ヘッドホンを接続している場合、センターおよびサブウーファーチャンネル信号は、ヘッドホンの左右チャンネルに振り分けられます。
- サブウーファーの音量が小さく感じられる場合は、サブウーファーに装備されている音量調節機能を使って音量を大きくしてください。

■ ヤマハ製ドックを接続する

ヤマハ製ドック(別売 YDS-10など)の接続ケーブルのプラグを本機のDOCK端子に接続します。

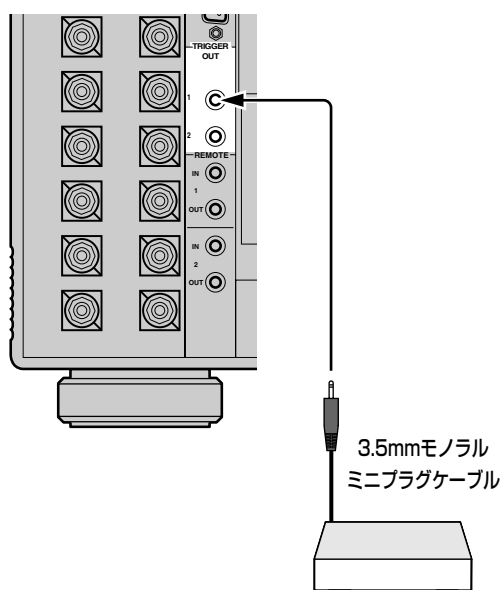
■ REMOTE IN／OUT端子を使用する

REMOTE OUT端子に他の機器を接続すれば、本機のリモコン受光部から他のヤマハ製機器に信号を送ることにより、それらの機器を操作できます。また、REMOTE IN端子に市販の赤外線受信機を接続すれば、赤外線受信機から本機や他のヤマハ製機器に信号を送ることにより、それらの機器を操作できます。

* 2台目の機器を接続するときはREMOTE IN1端子、REMOTE OUT1端子と同じようにREMOTE IN2端子、REMOTE OUT2端子に接続してください。

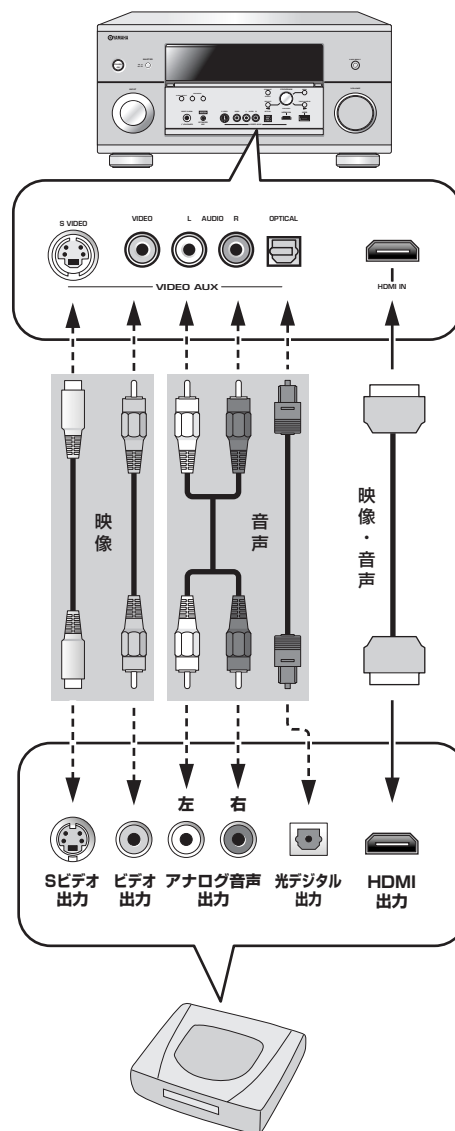
ヒント

上図のようにヤマハ製ドックを本機に接続し、iPodをセットすれば、本機でiPodの再生を楽しんだり、付属のリモコンでiPodを操作できます。詳しくは、「iPodを再生する」(97ページ)をご覧ください。

■ TRIGGER OUT（トリガーアウト）端子を使用する

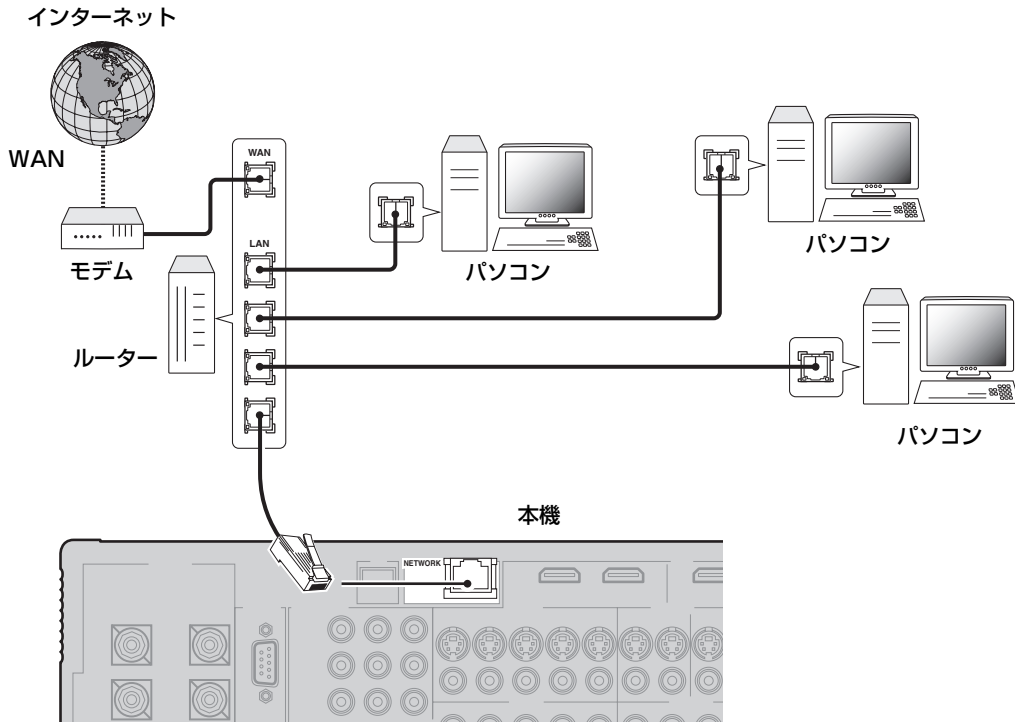
TRIGGER OUT端子から12V／15mAの電気信号を出力します。
他の機器（電動スクリーンなど）を本機のTRIGGER OUT端子にモノラルミニプラグケーブルで接続し、本機の電源のオン／スタンバイや入力ソースの選択に連動させて、接続した機器の電源のオン／スタンバイを操作できます。

* 2台目の機器を接続するときはTRIGGER OUT1端子と同じようにTRIGGER OUT2端子に接続してください。

V-AUX(補助入力)端子を使用する

ゲーム機器やビデオカメラを本機前面にあるV-AUX(補助入力)端子に接続します。

ご注意

接続する前に必ず本機と他の機器の音量を下げてください。

ホームネットワークに接続する

本機をホームネットワークに接続すれば、パソコンに保存されている音楽ファイルやインターネットラジオの音声をお楽しみいただけます。また、パソコンからWebブラウザーで本機をコントロールできます。
本機のNETWORK端子を、CAT5以上のストレートLANケーブルで、ルーターの空いているNETWORK端子に接続します。
ルーターのDHCPサーバー機能をオンにします。
下図はホームネットワーク環境の一例を表しています。

ネットワークについて詳しくは、ネットワーク機器の取扱説明書をお読みになるか、接続業者にお問い合わせください。

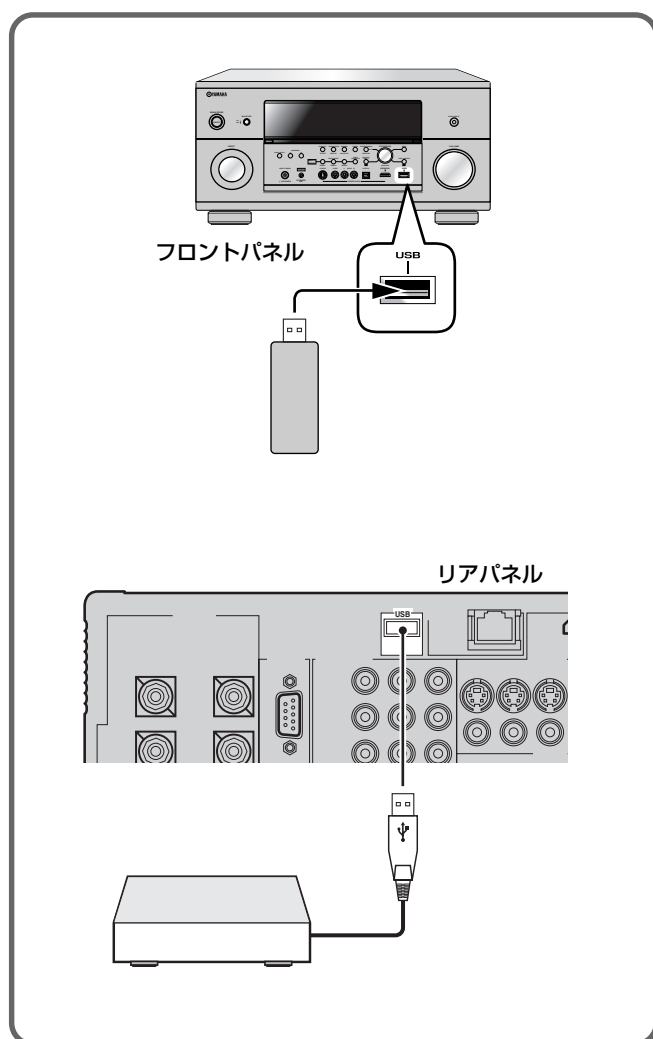
- インターネットに接続してインターネットラジオを聴くには、インターネットサービスを提供するプロバイダーとの契約が必要です。
- ストレートLANケーブルは、必ずSTPケーブルをご使用ください。

ご注意

映像ファイルは再生できません。

USBデバイスを接続する

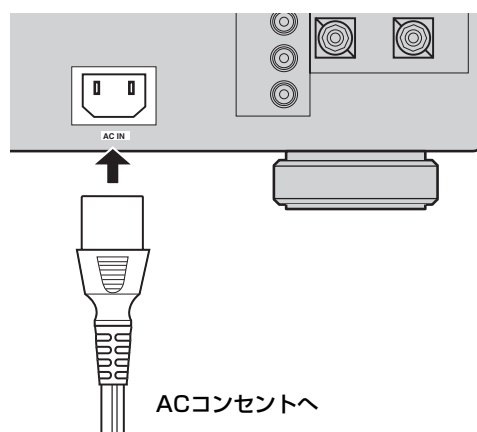
フロントパネル(前面)のUSB端子、またはリアパネルのUSB端子に接続します。
フロントパネルの端子とリアパネルの端子は同時に使用できません。
セットメニュー「入力選択・設定」の「USB端子選択」で、使用するUSB端子を設定してください(149ページ)。

ヒント
初期設定ではフロントパネルのUSB端子を使用できます。

ヒント
USBデバイスが500mAを超える電流を必要とする場合は、USBデバイスに付属しているACアダプターなどで電源を供給してください。

ご注意
- USBデバイスのメーカーや種類により、ファイルを再生できない場合があります。
- 映像ファイルは再生できません。

電源を接続する

■ 電源コードを接続する

すべての接続が終了したら、電源コードを本機のAC IN端子にしっかりと差し込み、家庭用AC100V、50／60Hzのコンセントに電源プラグを接続します。
接続するときの電源プラグの向き(極性)によって音質が変わることがありますので、お好みの向きで接続してください。

■ ACアウトレット

外部オーディオ機器に電源を供給するコンセントで、本機のⒶ **STANDBY/ON**キーと連動しています。
Ⓐ**STANDBY/ON**キーがONのとき、合計で消費電力100Wまでのオーディオ機器を接続し、電源を供給できます。本機の電源について詳しくは、58ページをご覧ください。
接続するときの電源プラグの向き(極性)によって音質が変わることがありますので、お好みの向きで接続してください。

ご注意
本機のACアウトレットに消費電力100Wを超える機器(サブウーファーなど)を接続しないでください。本機が故障するおそれがあります。

電源をオン／スタンバイにする

本機の電源の操作方法を説明します。

電源の入れかた

本体のⒷ**MASTER ON/OFF**スイッチを押して、ONにします。本体スイッチやリモコンキーで本機を操作できるようになります。

ご注意

- フロントパネルディスプレイに「CHECK SP WIRES!」と表示された場合は、本機の電源を切り、すべてのスピーカーケーブルについて以下の事項をご確認ください。
  - スピーカーケーブルがリアパネルに接触していないか。
  - スピーカーケーブル同士が接触していないか。
- 本機の電源をオンにしてから音が出力されるまで約20秒かかります。また、フロントパネルディスプレイに「Please wait」と表示されている間は、フロントパネルの操作を受け付けません。リモコンの操作は、「Please wait」が消えたあとに内容が反映されます。

電源の切りかた

本体のⒷ**MASTER ON/OFF**スイッチを押して、OFFにします。電源がオフになり、本体スイッチやリモコンキーで本機を操作できなくなります。

オン／スタンバイの切り替えかた

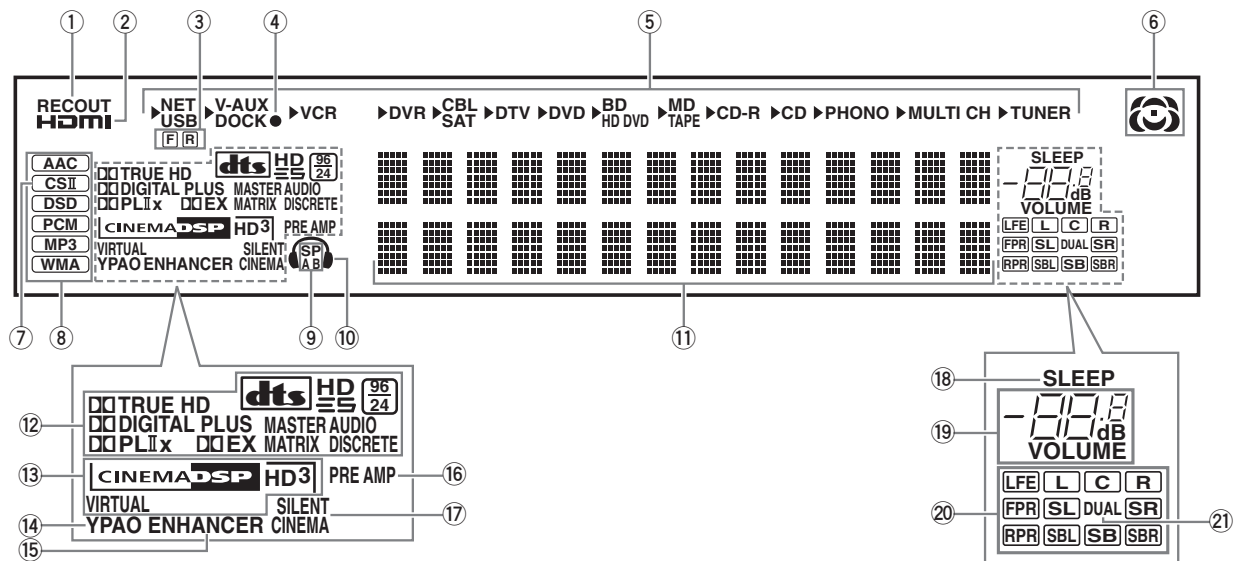
本機の電源がオンのときにリモコンの⑭**STANDBY**キーを押すと、電源はスタンバイになります。また、電源がスタンバイのときにリモコンの⑭**POWER**キーを押すと、電源はオンになります。

本体のⒶ**STANDBY/ON**キーを押して、オン／スタンバイを切り替えることもできます。

本機をご使用中に問題が発生したときは．．．

・電源をオフにして、もう一度オンにしてください。
・問題が解決しないときは、本機を初期化してください。詳しくは184ページをご覧ください。

フロントパネルディスプレイについて

① RECOUT（レコーディングアウト）インジケーター

録音／録画するソースを選ぶときに点灯します（110ページ）。

② HDMIインジケーター

HDMI IN 端子に他の機器を接続し、HDMI入力信号を選んでいるときに点灯します。HDMI入力信号を選んでいないときには消灯します。

③ USB端子インジケーター

セットメニュー「USB端子選択」の設定に応じて点灯します（149ページ）。

F

「前面端子を使用」を選んでいるときに点灯します。

R

「背面端子を使用」を選んでいるときに点灯します。

④ 充電インジケーター

本機がスタンバイのときにiPodを充電しているときは「●」が赤色で点灯し、充電が完了すると自動的に消灯します。

⑤ 入力ソースインジケーター

現在選んでいる入力ソース名の左側に、「 ▶ 」が点灯します。

ヒント

アドバンストセットアップ「NET STANDBY」（183ページ）が「YES」に設定されていて、本機がスタンバイのときにNETインジケーターが点灯します。

⑥ 音場インジケーター

DSP音場プログラムを使っているときに、本機がどのように音場を処理しているかを表示します（83ページ）。

⑦ CS IIインジケーター

SRS Circle Surround IIデコーダーが作動しているときに点灯します。

⑧ 入力信号インジケーター

現在入力されている入力信号を表示します。

⑨ スピーカー A、Bインジケーター

選んでいるフロントスピーカー（スピーカーAまたはB）を表示します（81ページ）。

⑩ ヘッドホンインジケーター

PHONES（SILENT CINEMA）端子にヘッドホンを接続しているときに点灯します。

⑪ マルチインフォメーションディスプレイ

音場プログラムの名前など、さまざまな情報を表示します。

⑫ デコーダーインジケーター

本機内蔵のデコーダー（94ページ）が作動しているときに、それぞれのインジケーターが点灯します。

⑬ DSPインジケーター

CINEMA（シネマ） DSP HDインジケーター

CINEMA DSPまたはHiFi DSP音場プログラムを使って再生しているときに点灯します。

VIRTUAL（バーチャル）インジケーター

バーチャルシネマDSPモードで再生しているときに点灯します（91ページ）。

HD³インジケーター

CINEMA DSP HD³（HDキュービック）モードで再生しているときに点灯します（91ページ）。

⑭ YPAOインジケーター

「自動測定メニュー」での設定が有効になっているときに点灯します。

⑮ ENHANCERインジケーター

コンプレストミュージック・エンハンサーモードで再生しているときに点灯します（89ページ）。

⑯ PRE AMPインジケーター

本機がプリアンプモードのときに点灯します（184ページ）。

⑰ SILENT CINEMAインジケーター

ヘッドホンを接続して「サイレントシネマ™」で再生しているときに点灯します（96ページ）。

⑱ SLEEPインジケーター

スリープタイマーが作動しているときに点灯します（109ページ）。

⑲ VOLUMEインジケーター

現在の音量を表示します（--～+16.5dB）。

⑳ LFE／入力信号チャンネルインジケーター

入力信号チャンネルインジケーター

入力されているデジタル信号に含まれているチャンネルに合わせて点灯します。

プレゼンススピーカーインジケーター

セットメニュー「スピーカーの設定」（125ページ）の「プレゼンス」を「使用する」、「テストトーン」（123ページ）を「出力する」に設定しているときに、「パラメトリックEQ」（131ページ）、「スピーカーの設定」、「スピーカーの距離」（126ページ）、「スピーカーの音量」（127ページ）でプレゼンススピーカーの項目を選んでいるときに点灯します。

㉑ DUALインジケーター

ドルビーデジタル、DTSおよびAACのDUAL MONOまたはMULTI MONOなど、音声多重モノラルのデジタル信号が入力されているときに点灯します（134ページ）。

テレビ画面を見ながら操作する

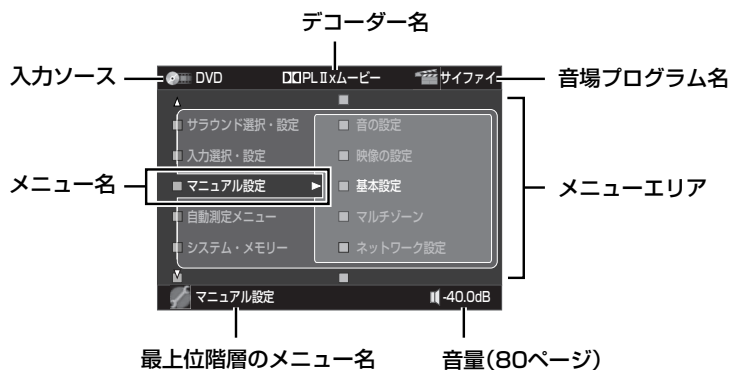
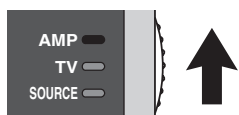
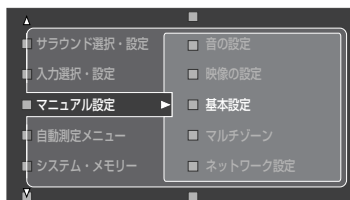
本機にテレビを接続すれば、メニュー画面や音場パラメーター、メッセージなどをテレビに表示できます。テレビ画面に表示されるセットメニューを見ながら本機を操作したり、設定を変更したりできます。

1 ⑯操作機器選択スイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ

2 ⑲MENUキーを押す

セットメニュー画面が表示されます。

ヒント

セットメニュー画面が表示されない場合は、以下のことをご確認ください。

- 本機とテレビが正しく映像接続されている(42ページ)
- テレビの入力切替が正しく選択されている

3 以下のリモコンキーを使用して、メニューを操作する

接続が終わったら

選べるカテゴリーは以下のとおりです。

- 「サラウンド選択・設定」:
  音場プログラムの選択や、パラメーターの設定(114ページ)
- 「入力選択・設定」:
  入力ソースの選択や、ソースごとの設定(146ページ)
- 「マニュアル設定」:
  音声出力やスピーカーの設定など、本機のシステム設定(123ページ)
- 「自動測定メニュー」:
  YPAOによる自動システム設定(63ページ)
- 「システム・メモリー」:
  音声プログラムなどの設定の保存・呼び出し(150ページ)
- 「信号の情報」:
  信号情報の確認(158ページ)
- 「表示言語」:
  テレビ画面に表示する言語の選択(160ページ)

4 *変更し終わったら、⑲MENUキーを押して終了する*

セットメニュー画面の表示が消えます。

フロントパネルのキーによる操作

フロントパネルのキーを使用してメニュー画面を操作することもできます。

1 *ⓙMENUキーを押す*

セットメニュー画面が表示されます。

2 *以下のキーを使用してメニューを操作する*

3 *変更し終わったら、ⓙMENUキーを押して終了する*

セットメニュー画面の表示が消えます。

最適な視聴空間を自動的に設定する（自動測定メニュー）

本機に搭載の「YPAO（Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer）」により、ご使用になるスピーカーの配置、能力やお部屋の音響特性を測定し、最適な視聴空間を自動的に設定できます。スピーカーから出力されるテストトーンを、付属のマイク（オプティマイザーマイク）で拾い、自動的に測定、設定します。

ご注意

本機のPRE OUT端子に外部パワーアンプを接続している場合でも自動測定メニューによる設定は可能ですが、本機の出力レベルと接続したパワーアンプの出力レベルの差が大きい場合など、YPAOの補正範囲を超えてしまう場合は正しく設定できません。

本機は多彩な測定機能を装備しています。用途に応じて以下の3つの測定方法を選んでください。

フロントパネルディスプレイを使った自動測定（簡易自動測定）

フロントパネルディスプレイの表示を見ながら、自動的に測定します。測定する項目があらかじめ決められているので、簡単な操作で測定できます。
測定には約30秒〜5分かかります。

☞ 64ページ

テレビ画面を使った自動測定（通常自動測定）

テレビ画面に表示されるメニューを見ながら、自動的に測定します。測定する項目を選んだり、測定の詳細な結果を確認したりできます。
測定には約30秒〜5分かかります。

☞ 66ページ

テレビ画面を使った自動測定（詳細自動測定）

テレビ画面に表示されるメニューを見ながら、自動的に測定します。複数の視聴位置（リスニングポジション）で測定することにより、どこの視聴位置でもバランスの良いサラウンドサウンドが楽しめます。
上記に加え、スピーカーの角度も測定できます。これにより、音場プログラムの効果をより最適化できます。
測定にはリスニングポジション1箇所につき、約30秒〜3分かかります。

☞ 69ページ

ご注意

- フロントスピーカーの音量やリスニングポジションからの距離を自動測定メニューで測定・設定した場合、部屋との相互作用によって正しい結果が得られないことがあります。このような場合、THX社では、手動で設定することを推奨しています。
- THX社では、サブウーファーの音量および距離は手動で設定することを推奨しています。

測定する前に

正しく測定するために、測定を始める前に以下の事項をご確認ください。

- □ すべてのスピーカーおよびサブウーファーが正しく接続されているか
- □ テレビが正しく映像接続されているか
- □ ヘッドホンが取り外されているか
- □ リスニングルームや周囲の環境ができるだけ静かに保たれているか
- □ 外部アンプを使用している場合、正しく音が出るように設定されているか

フロントパネルを使った自動測定(簡易自動測定)

フロントパネルに表示されるメニューを見ながら自動測定メニューを実施します。

接続しているスピーカーの数やリスニングルームの環境により、測定には約30秒〜5分かかります。

ご注意

- 測定中は大きなテストトーンが出ます。小さなお子様などをリスニングルームに立ち入らせないようご配慮ください。
- 各スピーカーとオプティマイザーマイクの間に、障害物がないか確認してください。障害物があると、正しく測定できない場合があります。
- 測定中に声を出したり、周囲の騒音が大きかったりすと、正しく測定ができなかったり、エラー表示が出たりする場合があります。測定中はなるべく静かにしてください。

1 本機の電源をオンにする

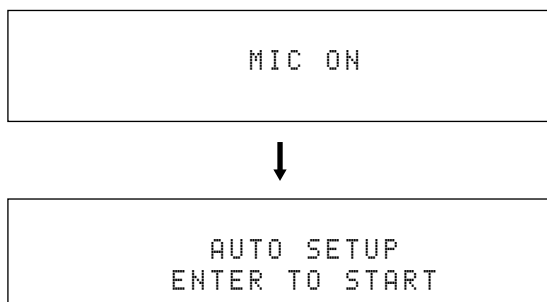
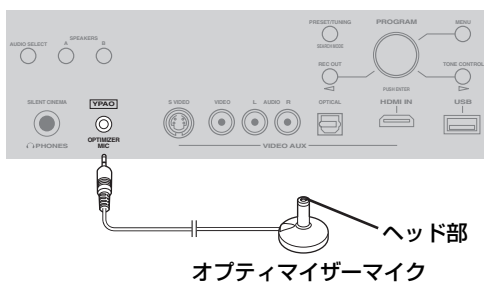
本機の電源について詳しくは「電源をオン／スタンバイにする」(58ページ)をご覧ください。

2 本機前面のOPTIMIZER MIC端子に、付属のオプティマイザーマイクを接続する

フロントパネルディスプレイに、以下のように表示されます。

```
MIC ON
```

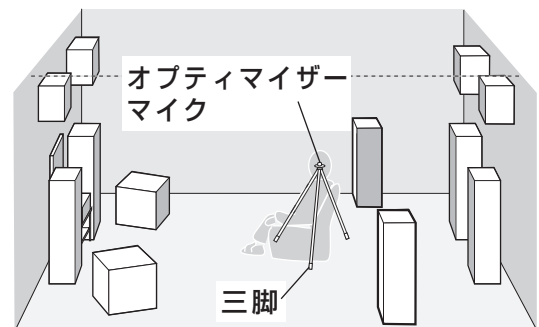
↓

```
AUTO SETUP
ENTER TO START
```

ご注意

フロントパネルディスプレイに、以下のように表示されている場合はテレビ画面にメニューが表示されているため、以降の手順で簡易自動測定を行うことはできません。⑲**MENU**キーを押してメニュー表示を消してから簡易自動測定を続けるか、「テレビ画面を使った自動測定(通常測定)」(66ページ)を参照して測定を行ってください。

```
GUI
DSP-Z11
```

3 オプティマイザーマイクを視聴位置(リスニングポジション)に、ヘッド部を上に向けて耳と同じ高さに置く

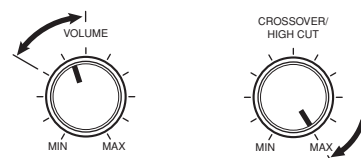
耳と同じ高さに設置するために三脚などを使うことをおすすめします。その場合は、三脚に付属のネジでオプティマイザーマイクを固定してください。

4 以下のことを確認する

次の手順で測定を開始します。測定を開始する前に、以下の内容をご確認ください。また、測定中は大きなテストトーンが出ますのでご注意ください。

より正確な測定結果を得るため、測定中はリスニングルームの外で待機するか、測定を妨げない位置(オプティマイザーマイクから離れた位置など)に移動することをおすすめします。リスニングルームの中にいる場合は、測定が終わるまで物音を立てたり話したりしないでください。測定終了まで、最長約5分かかります。

サブウーファーについて

サブウーファーを接続している場合は電源を入れて、下図の位置(半分または半分よりやや小さめ)に音量を設定してください。
クロスオーバー周波数の設定機能がある場合は、クロスオーバー周波数を最大に設定してください。

ご注意

測定中は本機を操作しないでください。測定中に本機を操作すると、測定が中止されます。

5 ⓘPROGRAM*ダイヤルを押す*

測定を開始します。大きなテストトーンが各スピーカーから出力されます。

フロントパネルディスプレイは下図のように変わります。手順の途中で測定を中止したい場合は、ⓔ**VOLUME**コントロールを回してください。

```
AUTO SETUP
PREPARING
```

↓

```
AUTO SETUP
MEASURING
```

↓

```
AUTO SETUP
ANALIZING
```

以下のメッセージが表示されると、測定終了です。

```
COMPLETED
PLS UNPLUG MIC
```

「E○○」と表示されている場合は、「エラーメッセージが表示された場合」(73ページ)を、また、「W○○」と表示されている場合は、「警告メッセージが表示された場合」(74ページ)をご覧になり、問題を解決してください。問題を解決したら、ⓘ**PROGRAM**ダイヤルを押してください。「ENTER TO START」と表示されたら、手順5から自動測定メニューを続行してください。

ヒント

- 測定の結果を確認する場合は、テレビの画面に測定結果を表示します。詳しくは、「結果を確認する」(75ページ)をご覧ください。
- 測定を中止する場合はⓔ**VOLUME**コントロールを回して「ERROR: E-09」を表示させ、ⓘ**PROGRAM**ダイヤルを押してください。

6 *本機前面のOPTIMIZER MIC端子から、オプティマイザーマイクを取りはずす*

オプティマイザーマイクは熱に弱いため、直射日光が当たる場所や、AV機器の上など、高温になる場所を避けて保管してください。

ヒント

- 以下の場合は、もう一度自動測定メニューで設定し直すことをおすすめします。
  －リスニングルームを変更した
  －リスニングポジションを変更した
  －スピーカーの設置位置を変更した
  －スピーカーの数を変更した
  －スピーカーを別のものに変更した
  －すべての設定を初期設定に戻した(184ページ)
- 手動で視聴環境を設定したい場合や、自動測定メニューでの設定値を変更したい場合、より細かい設定をしたい場合は、マニュアル設定を実施してください(111ページ)。
- 「テレビ画面を使った自動測定」で、測定する項目を選んで自動測定メニューを実施することもできます(66ページ)。
- 「設定値を以前の状態に戻す」で、以前実施した自動測定メニューの設定値に戻せます(77ページ)。

メモリー機能(SYSTEM MEMORY)について

本機のメモリー機能を使えば、自動測定メニューによる複数の設定を記憶し、その中から、使い方や環境に応じて最適な設定を呼び出せます。メモリー機能について詳しくは、150ページをご覧ください。

テレビ画面を使った自動測定（通常自動測定）

テレビ画面に表示されるメニューを見ながら、測定する項目を選んで自動測定メニューを実施します。

ヒント

- 設定中に前の画面に戻りたいときは、リモコンの⑩**RETURN**キーを押します。
- 接続しているスピーカーの数やリスニングルームの環境により、測定には約30秒〜5分かかります。

ご注意

- 測定中は大きなテストトーンが出ます。小さなお子様などをリスニングルームに立ち入らせないようご配慮ください。
- 各スピーカーとオプティマイザーマイクの間に、障害物がないか確認してください。障害物があると、正しく測定できない場合があります。
- 測定中に声を出したり、周囲の騒音が大きかったりすと、正しく測定ができなかったり、エラー表示が出たりする場合があります。測定中はなるべく静かにしてください。

1 本機とテレビの電源をオンにする

本機の電源について詳しくは「電源をオン／スタンバイにする」（58ページ）をご覧ください。テレビの電源についてはテレビの取扱説明書をご覧ください。

2 テレビの映像入力を切り替えて、本機の映像に合わせる

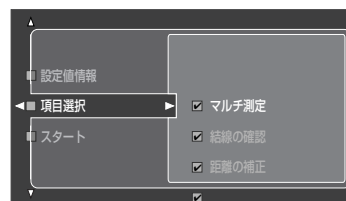
詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

3 本機前面のOPTIMIZER MIC端子に、付属のオプティマイザーマイクを接続し、視聴位置に設置する

オプティマイザーマイクの接続・設置について詳しくは、64ページの手順2、3をご覧ください。

4 ⑲MENUキーを押す。

テレビ画面に以下の画面が表示されます。

5 ⑨△キーを押して、「項目選択」を選ぶ

6 ⑨ENTERキーを押す

7 ⑨△／▽キーを押して、項目を選ぶ

項目	内容
マルチ測定	複数箇所で測定します。詳しくは「より詳細な自動測定」(69ページ)をご覧ください。「通常自動測定」では、初期設定(1)のまま測定してください。
結線の確認	スピーカーの接続状態や極性をチェックします。
距離の補正	リスニングポジションから各スピーカーまでの距離の差を補正します。
大きさ判定	各スピーカーのサイズを設定します。
周波数補正	各スピーカーの周波数特性を補正します。
音量の調整	各スピーカーの音量を調整します。
定在波	パラメトリックイコライザーを使用して定在波(202ページ)の影響を抑えます。
角度	スピーカーの角度を測定します。詳しくは「より詳細な自動測定」(69ページ)をご覧ください。通常自動測定では、チェックマークが外れている状態で測定してください。

ヒント

THX認証スピーカーをご使用の場合は、「大きさ判定」のチェックマークを外し、測定しないようにしてください。また「基本設定: スピーカーの設定」で、すべてのスピーカーが「小」／「小2台」に設定されていることと、「クロスオーバー」が「80dB(THX)」に設定されていることを確認してください(124ページ)。

8 ⑨ENTERキーを押して、測定するかしないかを選ぶ

測定する場合は⑨ENTERキーを押してチェックマークを入れ、測定しない場合はチェックマークを外してください。
「マルチ測定」は「1」、「角度」はチェックマークが外れている状態に設定してください。

9 手順7～8を繰り返す

10 各項目の設定が終わったら、⑨◁キーを押して「項目選択」に戻る

11 ⑨▽キーを押して「スタート」を選ぶ

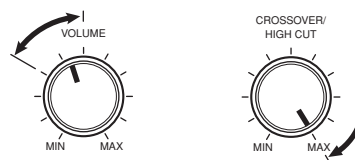
12 以下のことを確認する

次の手順で測定を開始します。測定を開始する前に、以下の内容をご確認ください。また、測定中は大きなテストトーンが出ますのでご注意ください。

より正確な測定結果を得るため、測定中はリスニングルームの外で待機するか、測定を妨げない位置(オプティマイザーマイクから離れた位置など)に移動することをおすすめします。リスニングルームの中にいる場合は、測定が終わるまで物音を立てたり話したりしないでください。測定終了まで、最長約5分かかります。

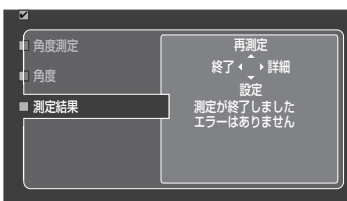
サブウーファーについて

サブウーファーを接続している場合は電源を入れて、下図の位置(半分または半分よりやや小さめ)に音量を設定してください。
クロスオーバー周波数の設定機能がある場合は、クロスオーバー周波数を最大に設定してください。

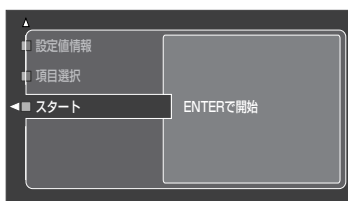
ご注意

測定中は本機を操作しないでください。測定中に本機を操作すると、測定が中止されます。

13 ⑨ENTERキーを押す

選んだ項目のみ測定を開始します。手順の途中で測定を中止したい場合は、⑩RETURNキーを押してください。

以下の画面が表示されると、測定終了です。「E◯◯」と表示されている場合は、「エラーメッセージが表示された場合」(73ページ)をご覧ください。また、「W◯」と表示されている場合は、「警告メッセージが表示された場合」(74ページ)をご覧ください。

- 測定をやり直す場合は、⑨∆キーを押して、「再測定」を選びます。
- 各項目の測定結果を確認する場合は、⑨▷キーを押して、「詳細」を選びます。詳しくは、「結果を確認する」(75ページ)をご覧ください。
- 設定せずに自動測定メニューから抜ける場合は、⑨◁キーを押して、「終了」を選びます。測定されたデータは破棄されます。
- 測定結果に基づいて本機を設定する場合は、手順14へお進みください。

14 ⑨∇キーを押す

自動測定メニューで測定、最適化した視聴環境を適用します。テレビ画面に、自動測定メニューの初期画面が表示されます。

15 ⑲MENUキーを押す

自動測定メニューを終了します。テレビ画面の表示が消えます。

16 本機前面のOPTIMIZER MIC端子から、オプティマイザーマイクを取りはずす

オプティマイザーマイクは熱に弱いため、直射日光が当たる場所や、AV機器の上など、高温になる場所を避けて保管してください。

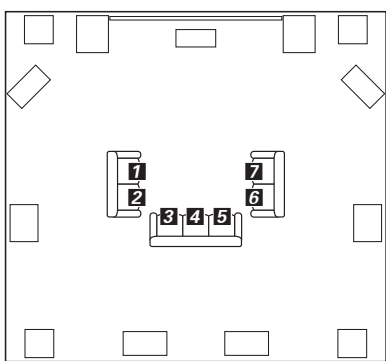
ヒント

- 以下の場合は、もう一度自動測定メニューで設定し直すことをおすすめします。
  - －リスニングルームを変更した
  - －リスニングポジションを変更した
  - －スピーカーの設置位置を変更した
  - －スピーカーの数を変更した
  - －スピーカーを別のものに変更した
  - －すべての設定を初期設定に戻した(184ページ)
- 手動で視聴環境を設定したい場合や、自動測定メニューでの設定値を変更したい場合、より細かい設定をしたい場合は、マニュアル設定を実施してください(111ページ)。
- 「設定値を以前の状態に戻す」で、以前実施した自動測定メニューの設定値に戻せます(77ページ)。

メモリー機能(SYSTEM MEMORY)について

本機のメモリー機能を使えば、自動測定メニューによる複数の設定を記憶し、その中から、使い方や環境に応じて最適な設定を呼び出せます。メモリー機能について詳しくは、150ページをご覧ください。

より詳細な自動測定（詳細自動測定）

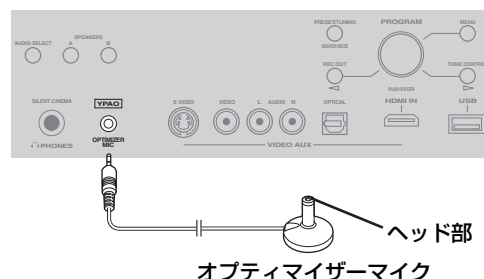
複数の視聴位置（リスニングポジション）がある場合、ある1箇所の視聴位置で測定を行うと、その視聴位置では最適化されたサラウンドサウンドを楽しむことができますが、他の視聴位置ではサウンドのバランスに若干の狂いが生じてしまいます。本機のマルチ測定機能を使用し、複数の視聴位置で測定すれば、最大8箇所の視聴位置でバランスの良いサウンドを楽しむことができるようになるだけでなく、正確な再生を妨げる定在波の影響を減少させられます。また、スピーカーの角度（開き角）を測定することにより、音場プログラムの効果をより最適化できます。
ここでは、下図のような部屋に7箇所の視聴位置を設定し、それぞれの場所で測定する場合と、スピーカーの角度を測定する場合の操作を例として説明します。

ご注意
- スピーカーの角度測定では、付属のマイクベースを使用します。
- マルチ測定機能を使って測定したり、スピーカーの角度を測定したりすると、正確な測定をすることができますが、通常の測定に比べて時間がかかります。測定にはリスニングポジション1箇所につき、30秒〜3分かかります。

1 本機とテレビの電源を入れる

本機の電源について詳しくは、「電源をオン/スタンバイにする」（58ページ）をご覧ください。
テレビの電源についてはテレビの取扱説明書をご覧ください。

2 テレビの映像入力を切り替えて、本期の映像に合わせる

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

3 本機前面のOPTIMIZER MIC端子に付属のオプティマイザーマイクを接続し、視聴位置1に設置する

4 リモコンの ⑲MENUキーを押す

テレビ画面に以下の画面が表示されます。

5 ⑨△キーを押して、「項目選択」を選ぶ

6 ⑨ENTERキーを押す

自動測定の項目が表示されます。

7 ⑨△／▽キーを押して、「マルチ測定」を選ぶ

8 ⑨ENTERキーを押す

9 ⑨△／▽キーを押して、測定したい視聴位置の数を選ぶ

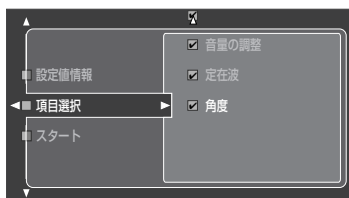
測定する視聴位置の数は最大で8箇所まで設定できます。ここでは、7箇所で測定する場合を例として表示しています。

10 ⑨◁キーを押す

11 ⑨▽キーを繰り返し押して、「角度」を選ぶ

12 「角度」の左にチェックマークが表示されていることを確認する

チェックマークがついていないときは、⑨**ENTER**を押してチェックマークを表示してください。

13 ⑨◁キーを繰り返し押して、「項目選択」に戻る

14 ⑨▽キーを押して、「スタート」を選ぶ

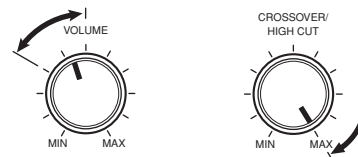
15 以下のことを確認する

次の手順で測定を開始します。測定を開始する前に、以下の内容をご確認ください。また、測定中は大きなテストトーンが出ますのでご注意ください。

より正確な測定結果を得るため、測定中は測定を妨げない位置（オプティマイザーマイクから離れた位置など）に移動することをおすすめします。測定が終わるまで物音を立てたり話したりしないでください。測定にはリスニングポジション1箇所につき、最長約3分かかります。

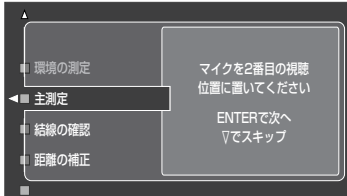
サブウーファーについて

サブウーファーを接続している場合は電源を入れて、下図の位置（半分または半分よりやや小さめ）に音量を設定してください。
クロスオーバー周波数の設定機能がある場合は、クロスオーバー周波数を最大に設定してください。

ご注意

測定中は本機を操作しないでください。測定中に本機を操作すると、測定が中止されます。

16 ⑨ENTERキーを押す

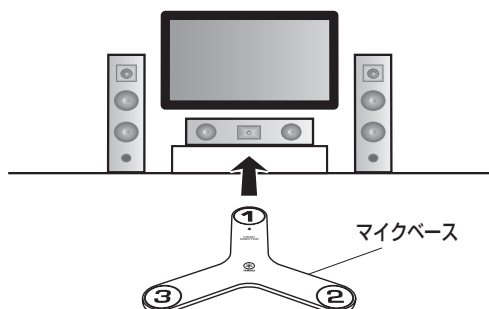
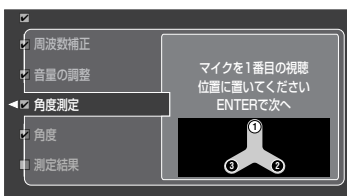
測定を開始します。手順の途中で中止したい場合は、⑩**RETURN**キーを押してください。測定項目について詳しくは、67ページをご覧ください。

17 自動測定の途中で一時停止し、画面に「マイクを2番目の視聴位置に置いてください」と表示されたら、オプティマイザーマイクを視聴位置2に移動する

18 ⑨ENTERキーを押し、次の視聴位置での測定を開始する

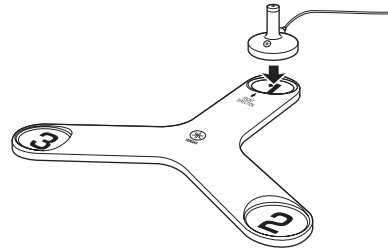
⑨∇キーを押すと、残りの視聴位置での測定をスキップし、次の項目の測定に入ります。
測定の手順については、手順20からご覧ください。

19 すべての視聴位置(手順9で選んだ視聴位置の数)での測定が終わるまで手順17、18を参考に操作を繰り返す

20 以下のように表示されたら、一番よく視聴する場所に付属のマイクベースを置く

マイクベースの矢印がセンタースピーカー、またはフロント左／右スピーカーの間を指しているか確認してください。

ヒント

正確な測定のため、マイクベースを三脚などを使って固定することをおすすめします。その場合は、三脚に付属のネジでオプティマイザーマイクを固定してください。また、オプティマイザーマイクが耳と同じ高さになるように高さを調節してください。

21 オプティマイザーマイクをマイクベースの「1」に置く

22 ⑨ENTERキーを押す

スピーカーの角度測定を開始します。

23 以下のように表示されたら、オプティマイザーマイクをマイクベースの「2」に移動する

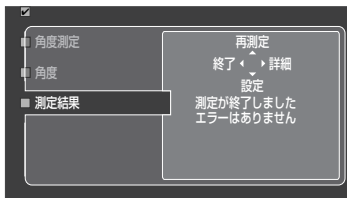
ご注意

オプティマイザーマイクを移動する際は、マイクベースが動かないようご注意ください。

24 ⑨ENTERキーを押す

25 以下のように表示されたら、オプティマイザーマイクをマイクベースの「3」に移動する

26 ⑨ENTERキーを押す

以下の画面が表示されると、測定終了です。「E○○」と表示されている場合は、「エラーメッセージが表示された場合」(73ページ)をご覧ください。また、「W○」と表示されている場合は、「警告メッセージが表示された場合」(74ページ)をご覧ください。

- 測定をやり直す場合は、⑨△キーを押して、「再測定」を選びます。
- 各項目の測定結果を確認する場合は、⑨▷キーを押して、「詳細」を選びます。詳しくは、「結果を確認する」(75ページ)をご覧ください。
- 設定せずに自動測定メニューから抜ける場合は、⑨◁キーを押して、「終了」を選びます。測定されたデータは破棄されます。
- 測定結果に基づいて本機を設定する場合は、手順27へお進みください。

27 ⑨▽キーを押す

自動測定メニューで測定、最適化した視聴環境を適用します。テレビ画面に、自動測定メニューの初期画面が表示されます。

28 ⑲MENUキーを押す

自動測定メニューを終了します。テレビ画面の表示が消えます。

29 本機前面のOPTIMIZER MIC端子から、オプティマイザーマイクを取りはずす

オプティマイザーマイクは熱に弱いため、直射日光が当たる場所や、AV機器の上など、高温になる場所を避けて保管してください。

ヒント

- 以下の場合は、もう一度自動測定メニューで設定し直すことをおすすめします。
  - リスニングルームを変更した
  - リスニングポジションを変更した
  - スピーカーの設置位置を変更した
  - スピーカーの数を変更した
  - スピーカーを別のものに変更した
  - すべての設定を初期設定に戻した(184ページ)
- 手動で視聴環境を設定したい場合や、自動測定メニューでの設定値を変更したい場合、より細かい設定をしたい場合は、マニュアル設定を実施してください(111ページ)。
- 「テレビ画面を使った自動測定」で、測定する項目を選んで自動測定メニューを実施することもできます(66ページ)。
- 「設定値を以前の状態に戻す」で、以前実施した自動測定メニューの設定値に戻せます(77ページ)。

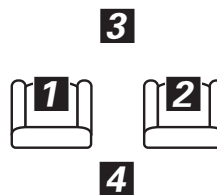
メモリー機能(SYSTEM MEMORY)について

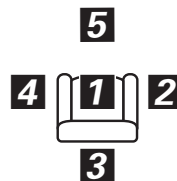
本機のメモリー機能を使えば、自動測定メニューによる複数の設定を記憶し、その中から、使い方や環境に応じて最適な設定を呼び出せます。メモリー機能について詳しくは、150ページをご覧ください。

マルチ測定でのオプティマイザーマイクの設置例

視聴位置が1箇所、または2箇所の場合の測定位置の例を示します。

例1：視聴位置が2箇所の場合

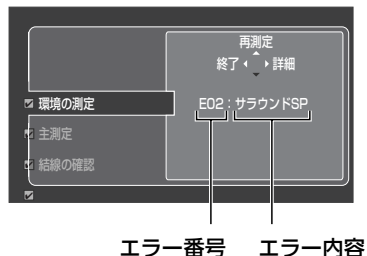
視聴位置と、視聴位置の前後で測定することをおすすめします。

例2：視聴位置が1箇所の場合

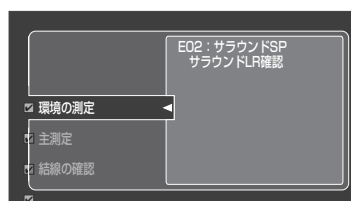
視聴位置と、視聴位置の前後左右で測定することをおすすめします。

ヒント

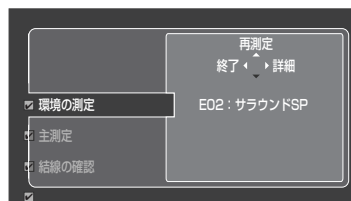
視聴位置が1箇所の場合でも複数の位置で測定すれば、スウィートスポット(視聴に適した位置)が広がり、定在波の影響を減らすことができます。

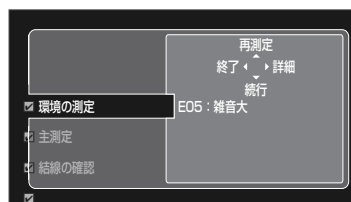
エラーメッセージが表示された場合

「E○○：○○○○」と表示されている場合は、以下の手順で再測定することをおすすめします。

1 エラー番号とエラー内容を確認する

2 ⑨▷キーを押す

より詳しいエラー内容が表示されます。エラー内容について詳しくは、「測定中のエラーメッセージ」をご覧ください(78ページ)。

3 問題を解決する

4 ⑨◁キーを押す

ヒント

「E05:雑音大」が表示された場合、⑨▽キーを押せば、自動測定メニューを続行できます。

ご注意

「E10:内部エラー」が表示された場合、「再測定」は表示されません。

5 ⑨△キーを押す

自動測定メニューの設定を始めからやり直します。

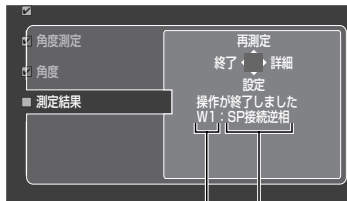
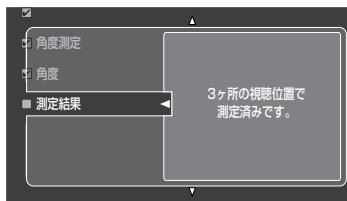
ヒント

終了する場合は⑨◁キーを押してください。

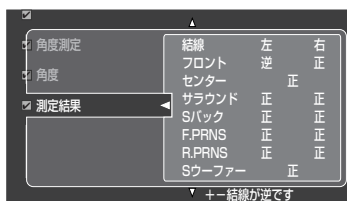
6 「テレビ画面を使った自動測定」の手順14(68ページ)、または「より詳細な自動設定」の手順27(72ページ)から自動測定メニューを続行する

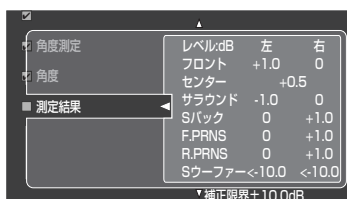
警告メッセージが表示された場合

「結果は保障されません　再測定をおすすめします　W○：○○○○」と表示されている場合は、以下の手順で再測定することをおすすめします。

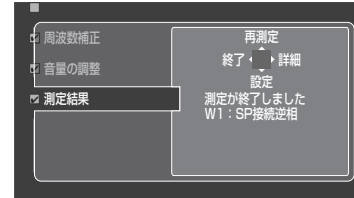
1 警告番号と警告内容を確認する

2 ⑨▷キーを押す

3 ⑨△または▽キーを押す

より詳しい警告内容と、警告対象のスピーカーが表示されます。警告が2つ以上ある場合は、⑨△／▽キーを押して表示内容を切り替えてください。

ヒント

- 警告対象のスピーカーは、赤色で表示されます。
- 接続しているサブウーファーの音量が大きすぎたり小さすぎたりすると、「レベル：dB」画面に「<-10.0」または「>+10.0」、および「補正限界±10dB」と表示されます。このような場合は、サブウーファーの音量を調節してください。

4 表示されている問題を解決する

警告内容について詳しくは、「測定終了後の警告メッセージ」をご覧ください(79ページ)。

5 ⑨◁キーを押す

6 ⑨△キーを押す

自動測定メニューで再度測定します。

ヒント

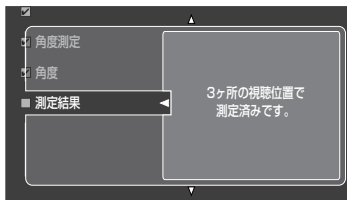
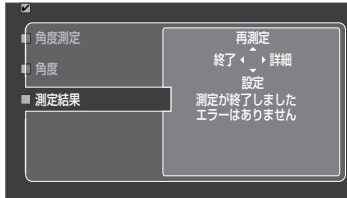
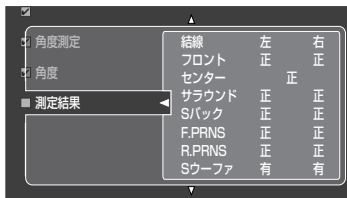
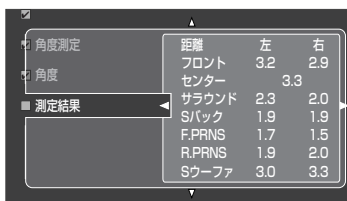
再測定せずに設定する場合は⑨▽キーを、終了する場合は⑨◁キーを押してください。

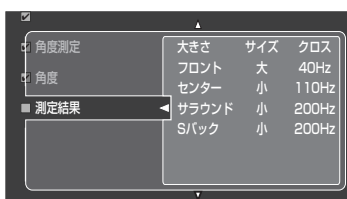
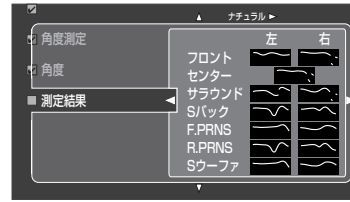
ご注意

⑨▽ キーを押して設定した場合、設定値は最適ではありません。

7 「テレビ画面を使った自動測定」の手順14(68ページ)、または「より詳細な自動設定」の手順27(72ページ)から自動測定メニューを続行する

結果を確認する

すべての測定が終わると、「測定が終了しました」と表示されます。⑨▷キーを押して測定結果の詳細を確認します。表示されている項目を切り替えるには⑨△／▽キーを押してください。

測定をした視聴位置の数を表示します。

各スピーカーの接続状態や極性を表示します。

リスニングポジションから各スピーカーまでの距離を表示します。

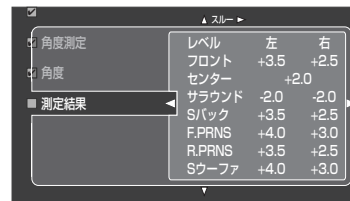
⑨▷キーを押して、距離の単位をメートルからフィートに変更できます。

各スピーカーのサイズとクロスオーバー周波数を表示します。

各スピーカーの周波数補正結果を表示します。

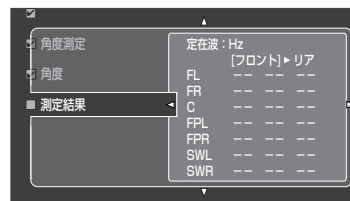
⑨▷キーを押して、表示しているパラメトリックイコライザーの種類を変更できます。

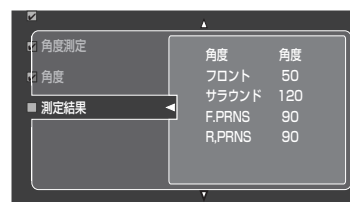
ナチュラル：　すべてのスピーカーの音質を、高域特性を下げた状態に揃えます。高域がきつく聞こえるときに設定してください。

フラット：　各スピーカーの特性を均一（フラット）にします。

フロントに近似：　フロント左／右スピーカーの特性に、各スピーカーの特性を合わせます。

セットメニュー「PEQ選択」（131ページ）の設定を変更しても、周波数補正結果画面に表示されるイコライザーの種類は変わりません。

各スピーカーの音量の補正結果を表示します。

⑨▷キーを押して、パラメトリックイコライザーの種類ごとに音量の補正結果を表示できます。パラメトリックイコライザー（131ページ）を使っていない場合は、「スルー」の設定が選ばれます。

各スピーカーの定在波の影響を表示します。

⑨▷キーを押して、フロント側のスピーカーとリア側のスピーカーの補助結果を切り替えます。

フロント左／右、サラウンド左／右、フロントプレゼンス左／右、リアプレゼンス左／右スピーカーの角度（開き角）を表示します。

ご注意

- 設定後は、「設定値情報」で設定値を確認できます。
- より細かい設定をしたい場合は、マニュアルで各項目を設定できます（111〜149ページ）。マニュアル設定後に、各項目の設定を自動測定メニューでの設定に戻したい場合は、「設定値情報」で戻せます。⑨∆／∇キーで戻したい項目を選び、⑨**ENTER**キーを押してください。
- 「距離の補正」では、ご使用のサブウーファーの特性により、サブウーファーの設定値が実際の配置距離よりも長くなることがあります。また、外部アンプ使用時にも、各スピーカーの測定値が実際の配置距離よりも長くなることがあります。
- 「周波数特性」では、周波数をより精密に補正するため、同じ周波数帯域で違うレベル値が測定されることがあります。

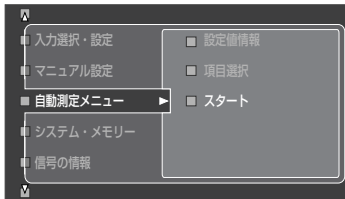
元の画面に戻るには、⑨⊲キーを押してください。

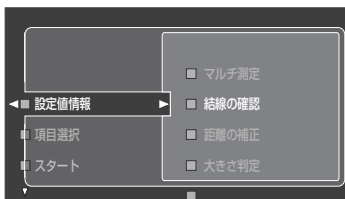
設定値を以前の状態に戻す

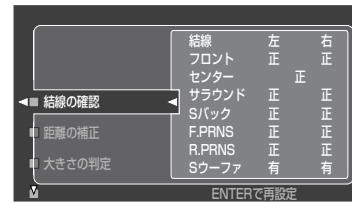
自動測定メニューで測定・設定してから、マニュアル設定（111〜149ページ）で設定値を変更しても、前回測定・設定した自動測定メニューの値に戻せます。

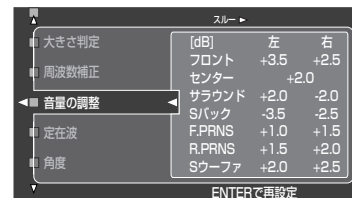
1 ⑲**MENUキーを押す**

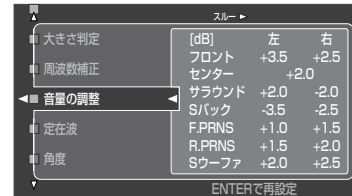
テレビ画面にメニューが表示されます。

2 ⑨△／▽**キーを押して、「自動測定メニュー」を選ぶ**

3 ⑨**ENTERキーを押す**

4 ⑨△／▽**キーを押して、「設定値情報」を選ぶ**

5 ⑨**ENTERキーを押す**

前回自動測定メニューで測定・設定した値が呼び出されます。

6 ⑨△／▽**キーを押して、以前の状態に戻す項目を選ぶ**

マニュアル設定で設定が変更されている項目は、「ENTERで再設定」が水色で表示されています。

7 ⑨**ENTERキーを押す**

前回自動測定メニューで測定・設定した値に戻ります。

8 ⑲**MENUキーを押す**

自動測定メニューを終了します。テレビ画面の表示が消えます。

表示メッセージについて

測定開始前の表示

エラーメッセージ	原因	対策
「マイク接続確認」	付属のオプティマイザーマイクが接続されていません。	本機前面のOPTIMIZER MIC端子に、オプティマイザーマイクを接続してください。
「HPを抜いてください」	ヘッドホンが接続されています。	ヘッドホンを抜いてください。
「測定項目 未選択」	測定する項目が選択されていません。	測定する項目を選んでください。
「保護されています」	設定が保護されています。	セットメニュー「設定の保護」を「可変」に設定してください（143ページ）。

測定中のエラーメッセージ

エラー表示画面で「詳細」を選ぶと、各メッセージの詳細を表示することができます。各メッセージの内容を確認のうえ、「再実行」を選んで測定をやり直してください。

エラーメッセージ	原因	対策
「E01:フロントSP」	フロント左／右スピーカーが検出されませんでした。	フロント左／右スピーカーが正しく接続されているか確認してください。
「E02:サラウンドSP」	サラウンド左／右スピーカーが片側しか検出されませんでした。	サラウンド左／右スピーカーが正しく接続されているか確認してください。
「E03:FプレゼンスSP」	フロントプレゼンス左／右スピーカーが片側しか検出されませんでした。	フロントプレゼンス左／右スピーカーが正しく接続されているか確認してください。
「E04:SBR→SBL」	サラウンドバックスピーカーを1本のみ接続している場合に、R側から検出されました。	サラウンドバックスピーカーを１本のみ接続する場合は、L側（SINGLE）端子に接続してください。
「E05:雑音大」	暗騒音（部屋の騒音）が大きすぎて、正確な測定ができません。	エアコンなど騒音を発生する機器の電源を一時的に切るか、遠ざけてみてください。
		周囲が静かな時間帯にやり直してみてください。
「E06:サラウンド確認」	サラウンド左／右スピーカーが接続されておらず、サラウンドバックスピーカーだけが接続されています。	サラウンドバックスピーカーを使うときは、サラウンド左／右スピーカーを接続する必要があります。正しく接続されているか確認してください。 後方にスピーカーを2台のみ接続する場合は、SURROUND L／R端子に接続してください。
「E07:マイク未接続」	測定の途中でオプティマイザーマイクが外れました。	本機前面のOPTIMIZER MIC端子に、オプティマイザーマイクを接続してください。
「E08:RプレゼンスSP」	リアプレゼンス左／右スピーカーが片側しか検出されませんでした。	各スピーカーが正しく接続・設置されているか確認してください。
「E09:測定キャンセル」	音量の調節や消音などの操作をしたため、測定をキャンセルしました。	測定を再実行してください。
「E10:内部エラー」	アンプ内部のエラーが発生しました。	測定を再実行してください。

ご注意

「E10：内部エラー」が頻繁に起きる場合は、お近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせください。

測定終了後の警告メッセージ

測定は終了しましたが、測定値に問題がある可能性がある場合に表示されます。各メッセージの内容をご確認のうえ、「再測定」を選んで測定をやり直すことをおすすめします。

警告メッセージ	原因	対策
「W1:SP接続逆相」	表示されたスピーカーの極性が、逆に接続されています。	スピーカーが正しく接続されているか確認してください。
		スピーカーによっては、正しく接続してもこの表示が出ることがあります。 接続が正しければ、このエラーメッセージが出ても設定は正常に終了しています。
「W2:距離補正限界」	表示されたスピーカーとリスニングポジションとの距離が、24m以上あります。	スピーカーの設置場所を確認してください。
「W3:音量補正限界」	各チャンネル間の音量差が大きすぎて、補正ができません。	スピーカーの設置場所を確認してください。
		スピーカーが正しく接続されているか確認してください。
		なるべく近い性能のスピーカーを使用することをおすすめします。
		サブウーファーの音量を調節してください。
「W4:SPの不一致」	各スピーカーの設定内容と測定結果が異なります(「結線の確認」を実行しなかった場合のみ表示されます)	セットメニュー「マニュアル設定」の「スピーカーの設定」でスピーカーの設定を手動で調整してください(123ページ)。
	「結線の確認」がスキップされました。	「選択項目」で「結線の確認」を選んでください。

基本的な再生のしかた

DVDプレーヤーを例に、基本的な再生のしかたを説明します。DVDプレーヤー以外の機器を再生する場合も、手順3で機器を選べばDVDプレーヤーと同様に再生できます。「こんなときは」(82ページ)も合わせてご覧ください。

DTS LD／DTS CD音声の再生について

DTS信号は、デジタルビットストリームで伝送されるため、DTS信号をデジタル録音した音源をデコーダーを通さずに再生するとノイズだけが再生されます。
DTS LD／DTS CDを再生する場合は、セットメニュー「デコードモード」を「DTS固定」に設定してください(147ページ)。

操作を始める前にリモコンの⑯操作機器選択スイッチをスライドさせて「AMP」を選びます。

基本的な再生のしかた

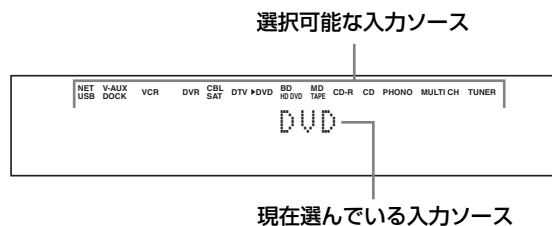
1 本機に接続したモニターの電源をオンにする

- 音の大きさを調節するには?(108ページ)
- 本機の使用を終了するには?(82ページ)
- リモコンコードを設定すれば、本機のリモコンで、お使いの外部機器を操作できます。詳しくは「本機のリモコンで本機以外の機器を操作する」(165ページ)をご覧ください。

2 本体のⒹINPUTセレクターを回して(またはリモコンの③DVDキーを押して)本機の入力ソースをDVDに切り替える

現在選んでいる入力ソースの名前がフロントパネルディスプレイに表示されます。ここでは「DVD」と表示されます。

選択可能な入力ソース

現在選んでいる入力ソース

3 DVDの再生を始める

DVDの再生方法について詳しくは、DVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

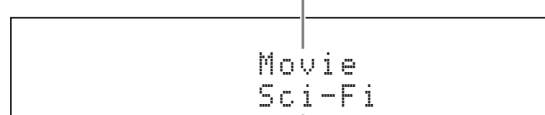
4 ⒺVOLUMEコントロール、またはリモコンの⑳VOLUME +/–キーを押して、お好みの音量に調節する

調整範囲：MUTE、−80dB(最小)、+16.5dB(最大)

ヒント

各スピーカーの音量の調整については108ページをご覧ください。

5 ⒾPROGRAMダイヤルを回す、または㉗音場プログラムキーを繰り返し押して、お好みの音場プログラムを選ぶ

現在選んでいる音場プログラム

現在選んでいる音場サブプログラム

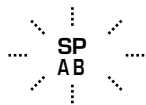
ご注意

MULTI CH INPUT端子に接続した機器を入力ソースとして選んでいるときは、音場プログラムを選べません。

ヒント

- 音場プログラムや名前や説明にこだわらず、最も心地よく聞こえる音場プログラムをお選びください。
- 本機の入力ソースを切り替えると、前回その入力ソースを再生したときに選んでいた音場プログラムが呼び出されます。

音声を出力するフロント スピーカーを選ぶ

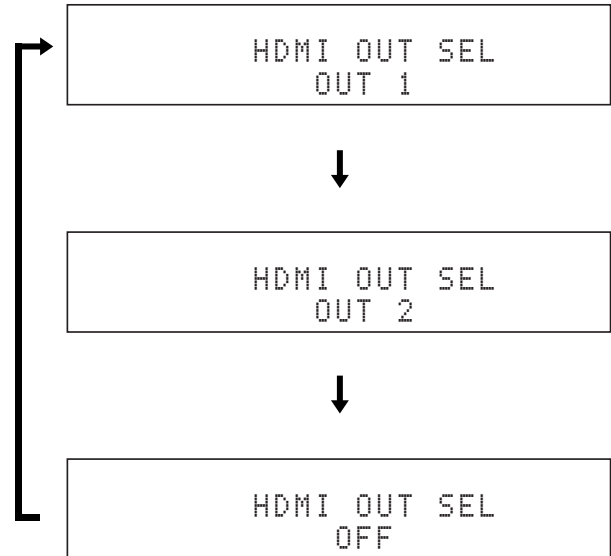
フロントスピーカー(FRONT A／FRONT B)のオン／オフを選びます。本体のⒼ**SPEAKERS A**またはⒼ**SPEAKERS B**を繰り返し押してFRONT A端子またはEXTRA SP端子に接続したスピーカーのオン／オフを切り替えます。
フロントパネルディスプレイに、音声を再生するスピーカーが表示されます。

ご注意

スピーカーを切り替えるときはボリュームを下げてください。

ヒント

セットメニュー「スピーカーB」で、スピーカーBの設置場所を設定できます。

信号を出力するHDMI端子を選ぶ

本機は、HDMI OUT端子を2つ装備しています。
リモコンの⑯操作機器選択スイッチをスライドさせて「**AMP**」を選び、⑬**HDMI OUT**キーを繰り返し押して、入力信号を出力するHDMI OUT端子を選びます。⑬**HDMI OUT**キーを押すごとに、フロントパネルディスプレイの表示は以下のように切り替わります。

OUT 1：HDMI OUT 1端子から出力
OUT 2：HDMI OUT 2端子から出力
OFF：HDMI OUT1およびHDMI OUT 2端子から信号を出力しません。テレビなどをHDMI OUT端子に接続していないときに選んでください。

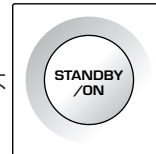
ご注意

2つの端子から同時に信号を出力することはできません。

こんなときは・・・

●使い終わった！

STANDBYキー、または本体のⒶ**STANDBY/ON**スイッチを押すと、本機の電源をスタンバイできます。

本体では

●DVDプレーヤー以外の機器を再生したい！

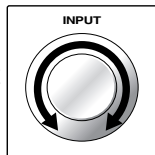
③入力選択キーを押して、再生する機器を選びます。たとえば、CDプレーヤーを再生するときは、**CD**キーを押すか、本体のⒹ**INPUT**セレクターを回して「CD」を選びます。

本体では

●一時的に音を下げたい！（消音）

㉒**MUTE**キーを押します。もう一度㉒**MUTE**キーを押すと元の音量に戻ります。

お知らせ

- 消音中は、本体ディスプレイに「MUTE　ON」と表示され、VOLUMEインジケーターが点滅します。
- ⑳**VOLUME**キーを押しても消音は解除されます。
- セットメニュー「音量の設定」の「ミューティング量」で下げる音量を選べます。詳しくは129ページをご覧ください。

●本機のリモコンで他の機器を操作したい！

リモコンコードを設定すれば、本機のリモコンでテレビなど他の機器を操作できます。詳しくは165ページをご覧ください。

音場プログラムについて

本機には、音楽鑑賞に最適なHiFi DSP音場プログラム、映画や音楽ビデオの視聴に最適なCINEMA DSP音場プログラムが搭載されています。また、コンプレストミュージック・エンハンサーモードで圧縮オーディオフォーマットをダイナミックに再生したり、ノーマルサラウンドプログラムで元の音を忠実にデコードして再現したりすることもできます。さらにCINEMA DSP HD³モードをオンにすれば、より緻密で立体的な音場効果を楽しめます。⑯操作機器選択スイッチをスライドさせて「**AMP**」を選んでから、㉗音場プログラムキーを押して、音場プログラムのグループを変更します。繰り返し押すと、グループの中の音場プログラムが切り替わります。

ご注意

- 本機の音場プログラムは、世界各地の実在のホールなどの音響特性を測定した結果に基づいて設計されています。そのため、前後左右で響きの強さや音量が異なると感じられる場合がありますが故障ではありません。
- 音場プログラムの名前や説明にこだわらず、最も心地よく聞こえる音場プログラムをお選びください。

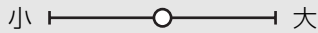
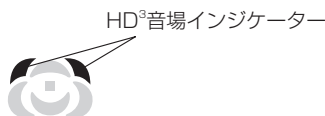
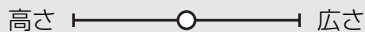
ヒント

各音場プログラムやデコーダーのパラメーターを変更して、ソースやリスニングルームの音響にあわせて音場効果を調節できます（114ページ）。

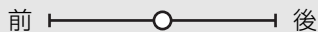
音場プログラムと特長

表の見かた

音場インジケーターについて

プログラムが作り出す音場を表示します。作り出される音場の種類は、入力ソースやスピーカーの設定などにより変わる場合があります。

CINEMA DSP HD³（HDキュービック）モードで再生している場合は、HD³音場インジケーターが点灯します。

音場プログラムの傾向について

各音場プログラムの初期設定時の特長を以下の指標によって表現します。これらの特長は、リスニングルームの設定や音場パラメーターの設定などによっては異なって感じられる場合があります。

音場空間の大きさ(大きさ)

生成する音場の大小を表します。小さいと小規模な空間の響きになり、大きいと広大な空間の響きになります。

高さと広さのバランス(高さ／広さ)

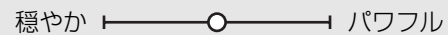
高さ　広さ

生成する音場の垂直方向(高さ)と水平方向(広さ)のバランスを表します。
この項目が横(水平方向)寄りだと壁面からの反射が強い空間の響きになり、たて(垂直方向)寄りだと天井からの反射が強い空間の響きになります。

前後のバランス(前／後)

前　後

CINEMA DSPプログラムを選んでいるときに適用される指標です。前方と後方のどちらの効果がより大きいかを表します。
前方の効果が大きい場合は画面方向の開放感や奥行き感が、後方の効果が大きい場合は周囲の包囲感や移動感が感じられやすくなります。
前方／後方のバランスがとれているプログラムは比較的にどのようなソースにも合いやすく、どちらかに振られているプログラムはソースに合わせて選ぶとより効果的です。

音場の雰囲気(雰囲気)

生成する音場の雰囲気が、以下のどちらに近い傾向かを表します。選んでいる音場プログラムの種類(HiFi DSPまたはCINEMA DSP)により、評価の基準が異なります。
(HiFi DSPの場合)

すっきり　複雑

すっきり：　響きの消え方が素直で、軽やかで穏やかな印象です。華やかさや迫力は少なめですが、比較的どのようなソースにも合いやすいプログラムです。

複雑：　響きが複雑に変化しながら減衰し、豊かで華やかな印象です。ソースによって相性がありますが、相性が良いソースに対しては非常に効果的なプログラムです。

(CINEMA DSPの場合)

穏やか　パワフル

穏やか：　全般的に穏やかで控えめな効果です。派手さや迫力は少なめですが、比較的どのようなソースにも合いやすいプログラムです。

パワフル：　広大な空間表現や熱狂感などがあり、SF映画やスペクタクル感のある映画などによく合うプログラムです。ソースによって相性がありますが、相性が良いソースに対しては非常に効果的なプログラムです。

音楽鑑賞に適したプログラム

CLASSICAL 1
1　CLASSICAL 1 (クラシカル)

Hall in Frankfurt　HiFi DSP

ホール イン フランクフルト

内装材が木製のフランクフルトにある2400席程度のシューボックス型コンサートホールです。ステージ上方のマホガニー色に塗装された幾層もの反射板によって、ステージ方向からの反射音が強く、直接音が増強される傾向にあり、力強い響きが特長です。座席の位置は1階中央右寄りです。

大きさ 小 — 大
高さ／広さ 高 — 広
雰囲気 すっきり — 複雑

Hall in Stuttgart　HiFi DSP

ホール イン シュトゥットガルト

大胆な非対称形の、シュトゥットガルトの中心街にある2000席程度の大型コンサートホールです。ステージに向かって左側にコンクリートの壁があり、その方向からの反射音が強く感じられます。

大きさ 小 — 大
高さ／広さ 高 — 広
雰囲気 すっきり — 複雑

Hall in Vienna　HiFi DSP

ホール イン ウィーン

1700席程度のウィーンの伝統的なシューボックス型の中規模コンサートホールです。周囲の柱や彫刻により、全方向からの複雑な反射音を生み出しています。豊かな響きが特長です。

大きさ 小 — 大
高さ／広さ 高 — 広
雰囲気 すっきり — 複雑

Hall in Amsterdam　HiFi DSP

ホール イン アムステルダム

アムステルダムの広幅化したシューボックス型の大ホールで、サークルステージ、ステージバック席があり、客席は2200程度です。

大きさ 小 — 大
高さ／広さ 高 — 広
雰囲気 すっきり — 複雑

CLASSICAL 2　2　CLASSICAL 2

クラシカル

Hall in USA A　HiFi DSP

ホール イン

ヨーロッパの伝統をふまえて設計された、ボストンにある大規模なコンサートホールです。客席数は2600席程度で、内装はよりシンプルにまとめられ、アメリカ的な処理が感じられます。中高音の豊かな響きが特長です。

大きさ 小 — 大
高さ／広さ 高 — 広
雰囲気 すっきり — 複雑

Hall in USA B　HiFi DSP

ホール イン

シカゴにある2600席程度の半円形ドーム型天井を持つ大型コンサートホールです。残響時間が長めで、豊かな残響を感じることができます。またステージ上方につり下げられた反射板により、ステージ方向からの反射音が強くなっています。

大きさ 小 — 大
高さ／広さ 高 — 広
雰囲気 すっきり — 複雑

Chamber　HiFi DSP

チェンバー

宮廷の大広間のような天井の高い比較的広めの空間で、宮廷音楽や室内楽に適した心地よい残響が特長の音場です。

大きさ 小 — 大
高さ／広さ 高 — 広
雰囲気 すっきり — 複雑

Church in Tokyo　HiFi DSP

チャーチ イン トーキョー

残響時間2.5秒と適度な残響音を伴う教会の音場感です。パイプオルガンや教会音楽などの再生に適しています。

大きさ 小 — 大
高さ／広さ 高 — 広
雰囲気 すっきり — 複雑

チャーチ イン フライブルグ
Church in Freiburg　HiFi DSP

ドイツ南部の120m近い尖塔を持つ大きな教会です。石を積み上げて造られており、天井が高く、細長い空間を持っています。残響時間は非常に長くなりますが、逆に初期反射は少なくなります。そのため、直接音の厚みはあまりありませんが、響きが多く、教会特有の音場を再現します。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
雰囲気	すっきり	複雑

チャーチ イン ロワイヨーモン
Church in Royaumont　HiFi DSP

パリ近郊ロワイヨーモンにある美しい中世ゴシック建築の修道院の食堂大広間の音場です。天井をささえる石柱ごとに構成されるドーム状の多くの天井空間に残響が響きあい、余韻の美しい音場です。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
雰囲気	すっきり	複雑

LIVE/CLUB 3
ライブ クラブ
LIVE/CLUB

ビレッジ ゲート
Village Gate　HiFi DSP

かつてニューヨークに存在したライブハウスで、比較的広いことから小ホールのような響きです。ステージに向かい中央左寄りの音場です。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
雰囲気	すっきり	複雑

ビレッジ バンガード
Village Vanguard　HiFi DSP

ニューヨークの7番街にあるジャズクラブです。天井が低く、狭い室内の角にあるステージ付近に強い反射音が集中しています。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
雰囲気	すっきり	複雑

ザ ボトム ライン
The Bottom Line　HiFi DSP

かつてニューヨークに存在した有名なライブハウス「ザ・ボトム・ライン」のステージ正面の音場です。フロアは300席ある左右に幅広い客席で占められ、リアルでライブな音場です。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
雰囲気	すっきり	複雑

セラー クラブ
Cellar Club　HiFi DSP

天井の低いアットホームなライブハウスです。小さなステージのすぐ前にいるような、リアルでライブな音場で、強い響きが特長です。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
雰囲気	すっきり	複雑

ザ ロキシー シアター
The Roxy Theatre　HiFi DSP

ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、客席は最高時で約460程度です。客席中央左寄りの音場です。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
雰囲気	すっきり	複雑

ウェアハウス ロフト
Warehouse Loft　HiFi DSP

ソーホーのロフトを思わせるコンクリートの空間です。壁面からの反射音は比較的明瞭で、エネルギッシュな音場です。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
雰囲気	すっきり	複雑

広いアリーナの音場で、ステージとの適度な距離感があります。ライブの勢いが感じられる、活気のある音場です。

スポーツ番組などの鑑賞に適したプログラム

ENTERTAIN 4 ENTERTAIN（エンターテイメント）

ステレオ放送のスポーツ中継やスタジオバラエティ番組がライブ感豊かに楽しめます。スポーツ中継では解説者やアナウンサーの声はセンターに明瞭に定位し、歓声も含め場内の雰囲気は適度な空間の中で周囲に拡がり、その場にいるような臨場感が体感できます。

音楽ビデオなどの鑑賞に適したプログラム

ENTERTAIN 4 ENTERTAIN（エンターテイメント）

Music Video：ポップス・ロック・ジャズなどのライブコンサート会場のイメージです。ステージ上のボーカルやソロ楽器のリアル感と、リズム音楽のノリを重視したプレゼンス音場に加え、広大なライブ会場の空間を再現するサラウンド音場により、ホットなライブ空間に浸れます。

Recital/Opera：響きの量を適度に抑えてあり、声の奥行き感、明瞭度に優れています。オペラではステージでの定位や臨場感とともに、オーケストラボックスの響きが眼前にくり広げられます。サラウンド音場は控えめながら、コンサートホールのデータを使用することで音楽の楽しさを演出。長時間のオペラものでも疲れません。

Pavilion：ボーカルの実在感があり、大きく拡がりのある空間を感じさせる音場です。やや遅れてくる多くの残響は、パビリオン独特のライブ感ある音場を再現し、熱狂的なコンサートシーンを盛り上げます。

ホームパーティーなどに適したプログラム

ENTERTAIN 4 ENTERTAIN（エンターテイメント）

ディスコミュージックに包まれる、乗りの良い音場空間を演出するプログラムです。

ゲームに適したプログラム

ENTERTAIN 4 ENTERTAIN（エンターテイメント）

Action Game（アクション ゲーム）

CINEMA DSP

カーレースやFPS (First Person Shooter)などのアクションゲームに合わせてデザインされた音場です。チャンネルごとに効果の範囲を制限した反射音データを用いることで、明瞭な方位感を保ちつつさまざまな効果音の存在感を高め、臨場感と迫力のあるプレイ環境を提供します。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
前／後	前	後
雰囲気	穏やか	パワフル

Roleplaying Game（ロールプレイング ゲーム）

CINEMA DSP

RPG やアドベンチャーゲームなどに合わせてデザインされた音場です。映画用の音場効果と、Action Game で用いた音場デザインを組み合わせることで、プレイ中のフィールドの奥行きや立体感を演出し、ムービーシーンでは映画的なサラウンド効果を提供します。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
前／後	前	後
雰囲気	穏やか	パワフル

映画に適したプログラム

MOVIEプログラム（Mono Movieを除く）を選んでいる場合は、音場パラメーター「デコーダー選択」（119ページ）でデコーダーを選べます。

MOVIE（ムービー）

Standard（スタンダード）

CINEMA DSP

ドルビーデジタル、DTSおよびAACなどの各種マルチチャンネル音声のオリジナル定位を乱すことなく、サラウンドの包囲感を重視した音場です。「理想的な映画館」をコンセプトにデザインされた音場で、視聴者を左右後方から美しい響きで包み込みます。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
前／後	前	後
雰囲気	穏やか	パワフル

Spectacle（スペクタクル）

CINEMA DSP

壮大なスケール感を演出するスペクタクルな音場です。シネスコサイズのワイド画面にマッチする広大な空間再現と微少な効果音から迫力の大音響まで、ダイナミックレンジの広い音場感が特長です。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
前／後	前	後
雰囲気	穏やか	パワフル

Sci-Fi（サイファイ）

CINEMA DSP

最新のSFX映画の緻密なサウンドデザインを鮮やかに描き分ける抜けの良い音場です。セリフ、効果音、BGMの明快な分離感を保ちつつ各々の異なった空間を鮮やかに再現します。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
前／後	前	後
雰囲気	穏やか	パワフル

Adventure（アドベンチャー）

CINEMA DSP

アクション＆アドベンチャー映画に最適な音場です。響きを抑え、左右の拡がり感を重視した力強い空間を再現します。奥行感は浅めで各チャンネルのセパレーションや音の明瞭度を保ちつつ、クリアで力強い空間を再現します。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
前／後	前	後
雰囲気	穏やか	パワフル

シリアスなドラマからミュージカルやコメディまで、幅広いジャンルの映画に対応する落ち着いた響きが特長の音場です。控えめな響きでありながら適度な立体感を持ち、セリフの明瞭度とセンター定位を軸に効果音やBGMが柔らかな響きで立体的に再現されます。長時間聴いていても疲れません。

往年のモノラル映画を当時の映画館の雰囲気で楽しめる音場です。音声に拡がりと適度な残響が付加され、奥行感を伴った心地よい空間が再現されます。

ステレオによる再生

STEREO 6 STEREO

2ch Stereo

フロント左／右スピーカーからステレオ音声で再生します。マルチチャンネルソースの場合はフロント左／右チャンネル以外の音声をフロント左／右チャンネルにミックスして、フロント左／右スピーカーからステレオ音声で再生します。LFEチャンネルはセットメニュー「サブウーファー」の「低音出力先」を「フロントに出力」（125ページ）に設定した場合にのみ、フロント左／右スピーカーにミックスして出力します。

11ch Stereo　HiFi DSP

すべてのスピーカーから音を出力し、広いエリアで音を楽しむことができるプログラムです。ホームパーティーのBGMなどに適しています。マルチチャンネルソースの場合はフロント左／右チャンネル以外の音声をフロント左／右チャンネルにミックスして、すべてのスピーカーから音を出力します。

MP3などの圧縮音源の再生に適したプログラム

ENHANCER 7 ENHANCER

MP3やAACなどの圧縮オーディオフォーマットは、圧縮される際に高音域がカットされています。コンプレストミュージック・エンハンサーモードを設定すると、高音域を拡張するうえに、低音域を強調することによって、圧縮オーディオをダイナミックかつ臨場感たっぷりに再生できます。

Straight Enhancer

2チャンネル／マルチチャンネル圧縮オーディオフォーマットを、音源のチャンネル数はそのままにダイナミックに再生します。

11ch Enhancer

圧縮された音源を11チャンネルステレオ音声でダイナミックに再生します。

サラウンドデコードモード

SUR. DECODE
8 SUR. DECODE

Surround Decode
ドルビープロロジックIIxやDTS Neo:6、SRS サークルサラウンドIIなどのデコーダーを使用し、2チャンネル音声の入力ソースをマルチチャンネルで再生します。詳しくは「2チャンネルソースをマルチチャンネルで楽しむ」(94ページ)をご覧ください。

THXサラウンドモード

THX
9 THX

THX
THX社の開発した技術を使用し、入力ソースをTHX社が定める仕様に沿って正確に処理します。詳しくは「THXサラウンドモードで再生する」(95ページ)をご覧ください。

音場効果をかけずに再生する（ストレートデコードモード）

入力された信号を、音場効果をかけずにそのまま再生します。本体のⒽ**STRAIGHT**キー(またはリモコンの㉘**STRAIGHT**キー)を押すと、ストレートデコードモードで再生します。

STRAIGHT

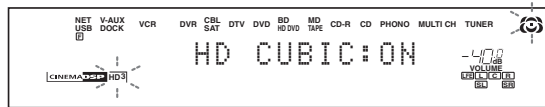
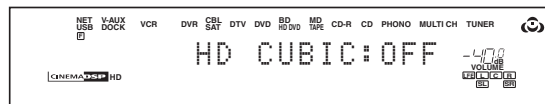
2チャンネルソースの場合：
フロント左／右スピーカーからステレオ音声で再生します。

マルチチャンネルソースの場合：
入力信号により、適切なデコーダーでデコードしたあと、マルチチャンネル音声で再生します。

元の状態(音場効果をかけた状態)に戻すには、もう一度本体のⒽ**STRAIGHT**キー(またはリモコンの㉘**STRAIGHT**キー)キーを押します。

テレビ画面表示を見ながら、ストレートデコードモードに切り変えることもできます。

CINEMA DSP HD³(HDキュービック)モード

フロントプレゼンススピーカーとリアプレゼンススピーカーを使用してCINEMA DSPまたはHiFi DSP(11ch Stereoを除く)をお楽しみの場合、CINEMA DSP HD³(HDキュービック)モードを選べます。CINEMA DSP HD³モードでは、より緻密で立体的な3D感覚の音場をリスニングルームに再現します。
CINEMA DSP HD³モードをオン／オフするには、⑯操作機器選択スイッチをスライドさせて「**AMP**」を選び、㉖**3D DSP**キーを押します。
オンにすると、フロントパネルディスプレイに「HD CUBIC：ON」と表示され、HD³インジケーターとHD³音場インジケーターが点灯します。音に包み込まれるような立体的な音場効果を楽しめます。

オフにすると、フロントパネルディスプレイに「HD CUBIC：OFF」と表示され、HD³インジケーターが消灯します。元の音場プログラムが持つ個性や拡がり感が強調されます。

ご注意

- セットメニュー「フロントプレゼンス」を「使用しない」に設定している場合は、CINEMA DSP HD³モードを選べません。
- ヘッドホンを接続しているときは、CINEMA DSP HD³モードを選べません。
- CINEMA DSP HD³モードを選べない場合、フロントパネルディスプレイに「HD CUBIC：－－」と表示されます。

サラウンド左／右スピーカーなしで音場プログラムを楽しむ(バーチャルシネマDSP)

サラウンド左／右スピーカーがない場合でも、バーチャルシネマDSPモードにより、臨場感あふれる再生を楽しめます。セットメニュー「スピーカーの設定」の「サラウンド」を「無」に設定すると(124ページ)、バーチャルシネマDSPモードで再生を楽しめます。

バーチャルシネマDSPモードでは、入力ソースの音声に、選んだ音場プログラムの音場効果を付加して、フロント左／右スピーカー、センタースピーカーとサブウーファーから出力します。バーチャルシネマDSPモードで再生している間は、フロントパネルディスプレイのVIRTUALインジケーターが点灯します。

ご注意

以下の場合は、セットメニュー「スピーカーの設定」の「サラウンド」を「無」に設定しても、バーチャルシネマDSPモードには切り替わりません。
- 11ch Stereoで再生しているとき(89ページ)
- ヘッドホンを接続しているとき
- MULTI CH INPUT端子に接続した機器を入力ソースとして選んでいるとき

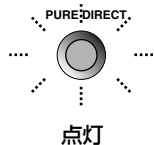
高音質で再生を楽しむ

操作を始める前にリモコンの⑯操作機器選択スイッチをスライドさせて「AMP」を選びます。

原音に忠実な音質で再生する（ピュアダイレクトモード）

音声信号に与えるビデオ回路の影響を抑え、原音に忠実な高品質音声で再生します。
ドルビーデジタル、DTS、マルチチャンネルPCM、DSD信号を再生する場合、入力モード（107ページ）を「AUTO」または「HDMI」、「COAX/OPT」に設定すれば、本機は入力信号をデコードして再生します。
本体のⓒ**PURE DIRECT**キー（またはリモコンの㉓**PURE DIRECT**キー）を押します。

ピュアダイレクトモードで再生している間は、本体のⓒ**PURE DIRECT**キーが青色に点灯します。

点灯

ピュアダイレクトモードをキャンセルするには、もう一度ⓒ**PURE DIRECT**キー（またはリモコンの㉓**PURE DIRECT**キー）を押します。

ご注意

- ピュアダイレクトモードで再生しているときは、以下の操作ができません（「Not Available」と表示されます）。
  - 音場プログラムの切り替え
  - セットメニューの設定
  - システムメモリーの呼び出し
- ピュアダイレクトモードで再生しているときは、以下の設定が無効になります。
  - セットメニュー「Adaptive DRC」の設定
  - セットメニュー「パラメトリックEQ」の設定
  - フロント左／右スピーカーの音質（トーンコントロール）設定
- ピュアダイレクトモードで再生しているときは、フロントパネルディスプレイの表示が消えます。入力切り替えや音量調節などの操作をすると、数秒間だけ点灯します。
- ピュアダイレクトモードで再生しているときは、VIDEO OUT端子、AUDIO OUT端子、DIGITAL OUT端子から映像／音声信号は出力されません。また、MONITOR OUT端子、HDMI端子から映像信号は出力されません。
- セットメニュー「音の設定」の「ピュアダイレクト」を「ビデオ　オン」に設定すると、ピュアダイレクトモードで再生中も映像を楽しめます（134ページ）。ただし、セットメニュー画面は表示できません。
- 本機をスタンバイにすると、ピュアダイレクトモードは解除されます。

音色を調整する

フロント左／右、センターチャンネルおよびサブウーファーの音色を調整できます。

1 ***フロントパネルのⓁTONE CONTROLキーを押す***

2 ***ⓘPROGRAMダイヤルを繰り返し押して、高音域（TREBLE）または低音域（BASS）を選ぶ***

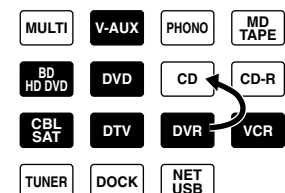
3 ***ⓘPROGRAMダイヤルを回して、高音域または低音域の音色を調整する***
可変範囲：　−6.0dB〜+6.0dB

ご注意

- 高音域または低音域を極端に増強、減衰した場合、スピーカー同士の音のつながりが悪くなることがあります。
- ピュアダイレクトモードまたはTHXサラウンドモードで再生しているときや、MULTI CH INPUT端子に接続した機器を入力ソースとして選んでいるときは、TONE CONTROLの操作は無効になります。

その他の再生のしかた

音楽と映像で異なるソースを楽しむ（バックグラウンドビデオ機能）

バックグラウンドビデオ機能とは、映像系ソースの映像と、音楽系ソースの音声を組み合わせて楽しむ機能です（たとえばビデオを見ながら、クラシック音楽を楽しめます）。
下図のようにリモコンの③入力選択キーを押して、映像系ソースを選んでから、オーディオ系ソースを選びます。

……音楽系入力ソース
……映像系入力ソース

ヒント

セットメニュー「映像選択」（148ページ）で、MULTI CH INPUT端子からの入力音声と組み合わせて再生する映像系ソースを選べます。

サラウンド再生を楽しむ

2チャンネルソースをマルチチャンネルで楽しむ(サラウンドデコード)

デコーダーを選んで、2チャンネルソースをマルチチャンネルにしてお楽しみいただけます。⑯操作機器選択スイッチをスライドさせて「**AMP**」を選び、㉗**SUR. DECODE**キーを繰り返し押してサラウンドデコードモードを選んでください。

ヒント

テレビ画面表示を見ながらデコーダーを選んだり、デコーダーのパラメーターを調整したりすることもできます。詳しくは114ページをご覧ください。

ヒント

- 各デコーダーのパラメーターを変更することで、ソースやリスニングルームの音響にあわせて音場効果を調節できます(114ページ)。
- 音場パラメーター「デコーダー選択」で、デコーダーを選ぶこともできます(119ページ)。

ご注意

セットメニュー「スピーカーの設定」の「サラウンドバック」を「無」に設定しているときは、プロロジックⅡxデコーダーは自動的にプロロジックⅡデコーダーに切り替わり、表示されている「PLⅡx」は「PLⅡ」と表示されます(124ページ)。

ヒント

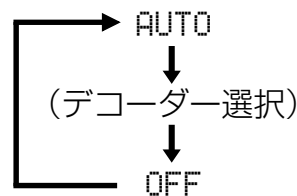
マルチチャンネルデジタル音声信号を入力している場合、本機は自動的に入力信号に適したデコーダーを選んで再生します。

ドルビーデジタル/DTSソフトを6.1/7.1チャンネルで楽しむ

マルチチャンネルで記録されたドルビーデジタルまたはDTS信号をサラウンドバックスピーカーを使って6.1/7.1チャンネルで再生するときの再生モード(デコーダー)を選びます。

1 ***⑯操作機器選択スイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ***

2 ***㉔EXTD SUR.キーを押す***

押すごとにフロントパネルディスプレイの表示が下記のように切り替わります。「(デコーダー選択)」を選んだ場合は、お好みに応じてデコーダーを選べます。⑨◁/▷キーを押して、デコーダーを切り替えてください。

AUTO

本機が確認できる信号(フラグ)が記録されているソースが入力されると、信号に応じて最適なデコーダーを自動的に選び、6.1または7.1チャンネルで再生します。
本機がフラグを認識できない、またはソース自体にフラグが記録されていない場合は、5.1チャンネルで再生されます。

PLⅡxMovie

プロロジックⅡxデコーダーにより、ドルビーデジタル、DTS、AACを7.1チャンネルで再生します。

PLⅡxMusic

プロロジックⅡxデコーダーにより、ドルビーデジタル、DTS、AACを6.1/7.1チャンネルで再生します。

EX/ES

ドルビーデジタルEXデコーダーにより、ドルビーデジタルおよびAACを6.1/7.1チャンネルで再生します。
またDTS-ESデコーダーにより、DTSを6.1チャンネルで再生します。

EX

ドルビーデジタルEXデコーダーにより、ドルビーデジタル、DTS、AACを6.1/7.1チャンネルで再生します。

OFF

6.1/7.1チャンネルでの再生はしません。5.1チャンネルで再生します。

ご注意

- 以下の場合は、㉔**EXTD SUR.**キーを押しても、6.1または7.1チャンネルで再生されません。
  - セットメニュー「スピーカーの設定」の「サラウンド」を、「無」に設定しているとき（124ページ）
  - セットメニュー「スピーカーの設定」の「サラウンドバック」を、「無」に設定しているとき（124ページ）
  - 2ch Stereo、11ch Stereoを、音場プログラムとして選んでいるとき（89ページ）
  - ピュアダイレクトモードで再生しているとき（92ページ）
  - サラウンド左／右成分のないソース（2チャンネルPCM、アナログ信号など）を再生しているとき
  - MULTI CH INPUT端子に接続したソースを再生しているとき
  - ヘッドホンを接続しているとき
- セットメニュー「スピーカーの設定」の「サラウンドバック」を、「大１台」または「小１台」に設定しているときは、「ＰＬⅡx Movie」を選べません（124ページ）。
- 「その他の設定」の「EXTDサラウンド初期値」で、本機の電源を入れたときに、前回使っていたデコーダーをそのまま使うか、「自動判別」に戻すかを設定できます。

THXサラウンドモードで再生する

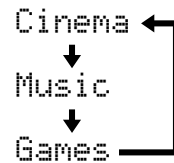
THXサラウンドモードでは、映画のサウンドトラックを、一般家庭でリアルに再現することができます。どのようなソフトに対しても効果的ですが、ドルビーデジタル、DTSソフトを再生するときには、特に威力を発揮します。

1 ***⑯操作機器選択スイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ***

2 ***㉗THXキーを押す***

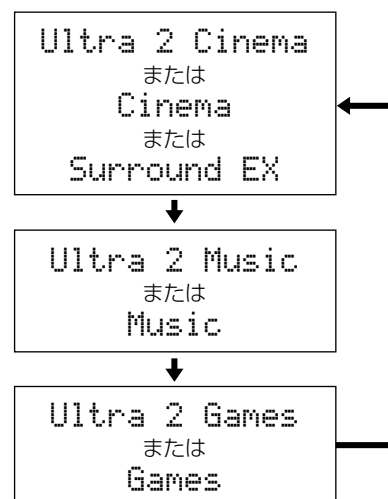
THXサラウンドモードで再生します。㉗**THX**キーを押すごとに映画用のモード、音楽用のモード、ゲーム用のモードが下記のように切り替わります。

2チャンネルソースの場合：

マルチチャンネル化してから、THX処理をして再生します。THX Cinema、THX Music、THX Gamesモードを選べます。フロントパネルディスプレイに「THX」と表示され、続けて以下のように表示されます。

マルチチャンネルソースの場合：

入力信号の種類により、最適なデコーダーで忠実にデコードしてから、THX処理をして再生します。THX Ultra 2 Cinema、THX Cinema、THX Surround EX、THX Ultra 2 Music、THX Music、THX Ultra 2 Games、THX Gamesモードを選べます。選んだ6.1／7.1チャンネル再生用のデコーダー（94ページ）に応じて自動的に最適なモードに切り替わります。

フロントパネルディスプレイに「THX」と表示され、続けて以下のように表示されます。

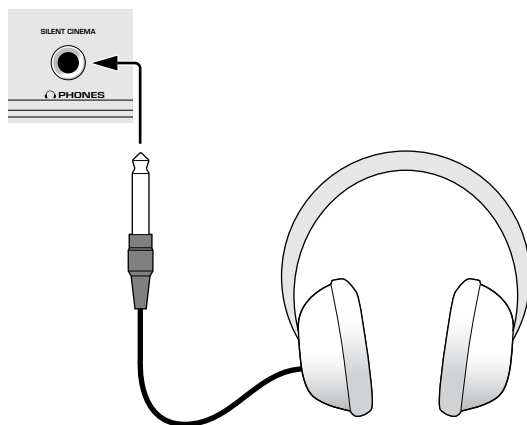
いろいろな再生のしかた

ヒント

各モードについての詳細は、「THX編」(193ページ)をご覧ください。

ご注意

- セットメニュー「スピーカーの設定」の「サラウンドバック」を「無」に設定しているときは、THX Surround EXモードを選べません。また、「大2台」または「小2台」以外に設定しているときは、THX Ultra 2 Cinema、THX Ultra 2 Music、THX Ultra 2 Gamesモードを選べません(124ページ)。
- EXデコーダーで6.1または7.1チャンネル再生すると、THX Ultra 2 CinemaモードはTHX Surround EXモードに切り替わります。また、EXデコーダー以外のデコーダーで6.1または7.1チャンネル再生すると、THX Cinemaモードに切り替わります(94ページ)。

ヘッドホンで音場プログラムを楽しむ(サイレントシネマ™)

ヘッドホンを本体のPHONES端子に接続しているときでも、「サイレントシネマ™」によって音場プログラムを楽しめます。

「サイレントシネマ™」モードでは、マルチスピーカーによる音場プログラムの効果をヘッドホンで擬似的に再現します。
「サイレントシネマ™」モードで再生している間は、フロントパネルディスプレイのSILENT CINEMAインジケーターが点灯します。

音場効果をかけずに通常のヘッドホン再生を楽しむには

以下のプログラム/モードを選びます。

- 2ch Stereo(89ページ)
- ピュアダイレクトモード(92ページ)
- ストレートデコードモード(90ページ)

ヒント

マルチチャンネルデジタル音声信号は、ヘッドホンの左右チャンネルに振り分けられます(DSD信号を除く)。

ご注意

- MULTI CH INPUT端子に接続した機器を入力ソースとして選んでいる場合は、「サイレントシネマ™」モードには切り替わりません。
- MULTI CH INPUT端子に接続した機器を入力ソースとして選んでいる場合、CENTERおよびSUBWOOFER MULTI CH INPUT端子から入力した信号は、ヘッドホンの左右チャンネルに振り分けられます。

iPodを再生する

本機では、ヤマハ製ドック(別売YDS-10など)にセットしたiPod(クリックホイール)、iPod nano、iPod miniの再生を楽しめます。

1 iPodをヤマハ製ドック(別売YDS-10など)にセットする

2 本機とiPodの電源をオンにする

iPodの操作について詳しくは、iPodの取扱説明書をご覧ください。

3 リモコンの操作モードを切り替える

⑥操作機器選択スイッチをスライドさせて、「**AMP**」を選びます。

4 本機の入力をDOCKに切り替える

フロントパネルディスプレイに、「DOCK」と数秒間表示されます。

5 再生を始める

詳しくは97～99ページをご覧ください。

ご注意

iPodの種類やソフトウェアのバージョンにより、一部の機能が使えない場合があります。

ヒント

- セットメニュー「スタンバイ時の充電」で、ヤマハ製ドック(別売YDS-10など)にセットしたiPodの充電モードを設定できます。詳しくは142ページをご覧ください。
- セットメニュー「スクロール表示」で、再生されている曲の名前が14文字を超える場合のフロントパネルディスプレイの表示方法を設定できます。詳しくは142ページをご覧ください。

ノーマルモードで再生する

リアパネルのDOCK端子に接続したヤマハ製ドック(別売YDS-10など)にiPodをセットすると、ノーマルモードに入ります。ノーマルモードでは、テレビ画面を表示させずに、以下の基本的な操作をすることができます。

・再生
・停止
・巻戻し
・早送り
・スキップ
・一時停止

ヒント

- iPod本体でも操作できます。
- iPod上で映像系のファイルを楽しめます(一部モデルを除く)。

⑯操作機器選択スイッチをスライドさせて「**SOURCE**」を選び、③**DOCK**キーを押してから操作してください。

メニュー表示モードで再生する

テレビ画面に表示されるメニュー画面を見ながら、基本的な操作をしたり、お好みに合わせて設定を変更したりすることができます。また、コンテンツの情報を見たり、本機の動作状況などを確認したりすることもできます。操作にはリモコンを使用します。

ヒント

メニュー表示モードで操作中に1つ前の画面表示に戻りたい場合は、リモコンの⑲**MENU**キーまたは⑨◁キーを押します。

ご注意

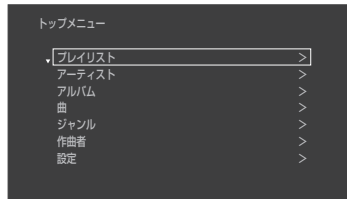
- 映像系のファイルはメニュー表示モードで選べません。ノーマルモードで再生してください。
- 本機が認識できない文字は「＿」(アンダーバー)で表示されます。

1 ⑯操作機器選択スイッチをスライドさせて、SOURCEを選ぶ

2 ③DOCKキーを押す

3　㉑DISPLAYキーを押す

iPod再生メニューがテレビ画面に表示されます。

プレイリスト
アーティスト
アルバム
曲
ジャンル
作曲者
設定

4　⑨△／▽キーを繰り返し押して、設定したいメニューを選ぶ

5　⑨ENTERキーを押す

選んだメニューに入ります。

・プレイリスト → 曲
・アーティスト → アルバム → 曲
・アルバム → 曲
・曲
・ジャンル → アーティスト → アルバム → 曲
・作曲者 → アルバム → 曲
・設定 → リピート、シャッフル

■リピート

曲やアルバムを繰り返し（リピート）再生します。

オフ：リピート再生しません
1曲：選んだ曲をリピート再生します
すべて：すべての曲をリピート再生します

「1曲」または「すべて」を選んでいるときは、テレビ画面右上に「🔁」または「🔂」が表示されます。

■シャッフル

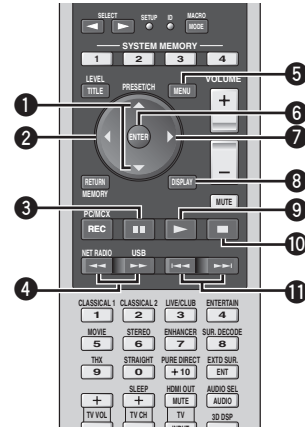
曲やアルバムの順番をランダムに再生します。

オフ：ランダム再生しません
曲：曲の順番をランダムに再生します
アルバム：アルバムの順番をランダムに再生します

ヒント

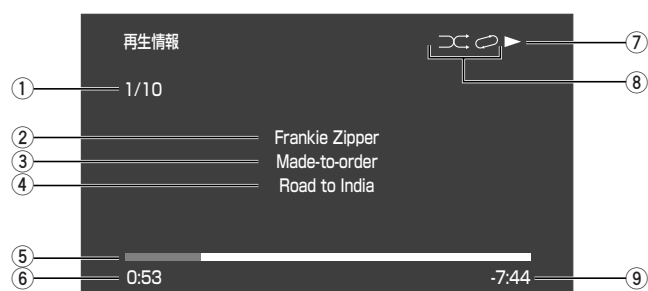
「曲」または「アルバム」を選んでいるときは、テレビ画面右上に「🔀」が表示されます。

6　メニュー表示モードを終了するときは、㉑DISPLAYキーを押す

■リモコンの操作

⑯操作機器選択スイッチで「**SOURCE**」を選び、③入力選択キーの**DOCK**キーを押すと、ヤマハ製ドックにセットしたiPodを操作できます。

操作例

❶ カーソルを上下に移動する
❷ 前の画面に戻る
❸ 再生を一時停止する（ノーマルモード時は再生／一時停止）
❹ 早送り／早戻しをする
❺ 前のメニューに戻る
❻ メニュー項目を選択する
❼ メニュー項目を選択する／決定する
❽ ノーマルモード／メニュー表示モードを切り替える
❾ 再生を開始する（ノーマルモード時は再生／一時停止）
❿ 停止する
⓫ 現在／次の曲の頭出しをする

■再生情報画面表示について

① トラック番号／トラック数
② アーティスト名
③ アルバム名
④ 曲名
⑤ 進捗表示
⑥ 経過時間
⑦ ▶（再生）、▮▮（一時停止）、▶▶（早送り）、◀◀（巻戻し）
⑧ シャッフル／リピート表示
⑨ 残り時間

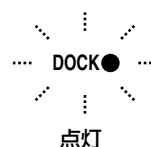
■iPod接続時のメッセージについて

本機に接続したヤマハ製ドック（別売YDS-10など）にiPodをセットし、DOCKを入力選択しているときに、フロントパネルディスプレイに表示されるメッセージの一覧です。

メッセージ	内容
Loading...	iPodとの接続を確認中です。 iPodから情報を取得中です。
Connect error	iPodが正しく接続されていません。 iPodとの通信に問題が発生しています。
Unknown iPod	本機に対応していない種類のiPodが接続されています。
iPod connected	iPodがヤマハ製ドックに正しく接続されました。
Disconnected	iPodがヤマハ製ドックから取り外されました。
Unable to play	何らかの原因で再生できません。

■iPodの充電について

本機に接続したヤマハ製ドック（別売YDS-10など）にiPodをセットしているときは、本機でiPodを充電できます。本機の電源がオンのときは、常に充電状態になります。
本機がスタンバイのときも、セットメニュー「スタンバイ時の充電」（142ページ）で、充電モードを設定できます。「スタンバイ時の充電」を「自動」に設定し、スタンバイ中にiPodを充電しているときは、DOCKインジケーターおよび右側の「●」が点灯します。充電が終了すると、自動的に消灯します。

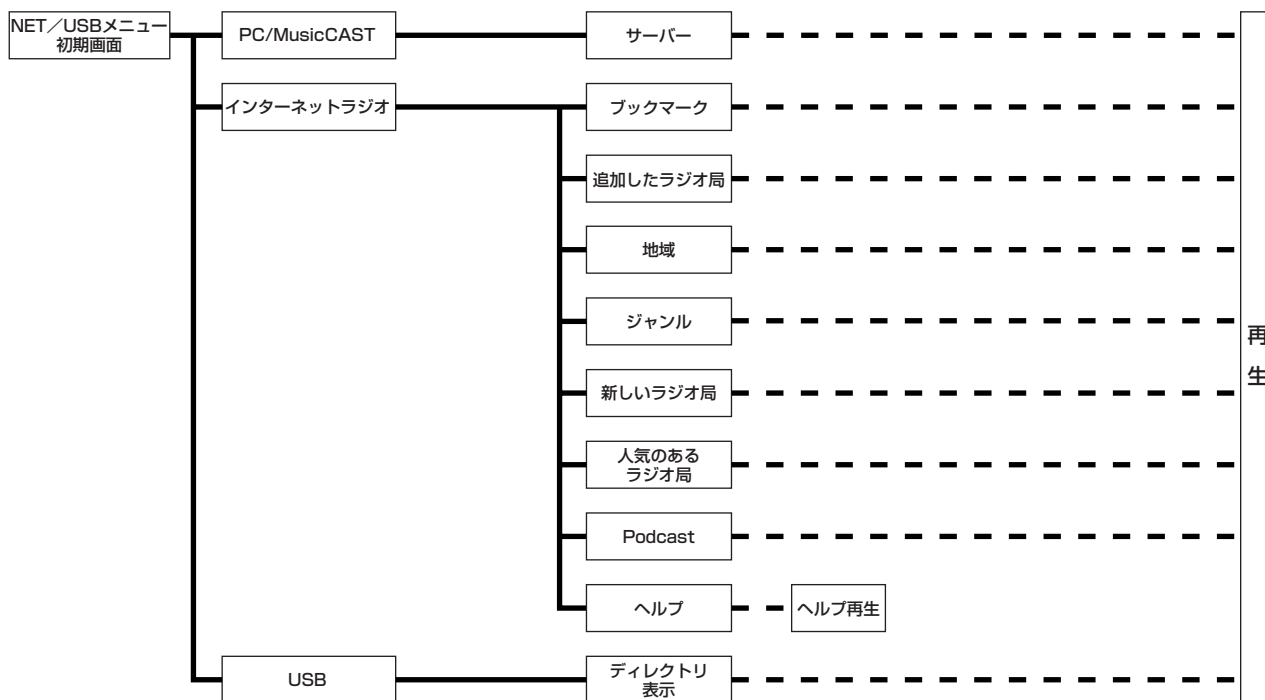
点灯

ヒント
iPodからの充電情報が取得できない場合は、約4時間後に自動的に充電を終了し、インジケーターが消灯します。

iPodとネットワーク機器

ネットワークオーディオ／USBデバイスの再生を楽しむ

ホームネットワークに接続したパソコンおよびUSBデバイス（USBメモリーやUSBハードディスク、ポータブルオーディオプレーヤーなど）に保存されている音楽ファイルや、インターネットラジオ放送を再生します。ネットワークオーディオを楽しむ場合は、セットメニュー「ネットワーク設定」（140ページ）を設定してください。

NET／USBメニュー一覧

下図は、ネットワークオーディオやUSBを再生するときのメニュー構造を表しています。メニューの操作方法については、「ネットワークオーディオ／USBデバイスを再生する」をご覧ください（101ページ）。

パソコンからWebブラウザーで本機をコントロールできます（161ページ）。

ネットワークオーディオ／USBデバイスを再生する

パソコンまたはUSBデバイスに保存されている音楽ファイルやインターネットラジオを再生します。

ヒント

- 以下のフォーマットで記録された音楽ファイルを再生できます。インターネットラジオを聴く場合は、MP3のみ再生できます。
  - MP3： 2チャンネル音声信号に対応。MP3 PROには対応していません。
  - MPEG-4 AAC： 2チャンネル音声信号に対応。DRM(著作権保護)がかけられているファイルは再生できません。
  - WAV： 2チャンネルリニアPCMに対応。PCM以外のフォーマットは、ブラウズできますが再生できません。
  - WMA： 2チャンネル音声信号に対応。WMA PRO、Losslessには対応していません。
- NET／USBメニュー操作中に1つ前の操作に戻りたい場合は、リモコンの⊲キーを押します。
- メニュー名右側の「>」は、下の階層にサブメニューがあることを表しています。
- リモコンの⑪▷／□／⏮／⏭などのキーで、再生や停止、頭出しなどの操作ができます。ネットワークオーディオ／USBデバイスを操作するときに使うキーについて詳しくは、「リモコンの操作」(102ページ)をご覧ください。

ご注意

- 選んだ音楽ファイルにより、上記のフォーマットで記録されていても再生できない場合やノイズが出力される場合があります。
- 映像ファイルは再生できません。

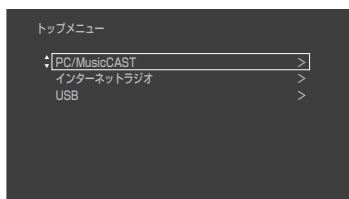
1 ⑯操作機器選択スイッチをスライドさせて、SOURCEを選ぶ

2 ③NET/USBキーを押す

ヒント

ネットワークオーディオまたはUSBデバイスを2回目以降に再生する場合は、前回聴いた入力ソースの再生が自動的に始まります。

3 ㉑DISPLAYキーを押す

テレビ画面にトップメニューが表示されます。

4 ⑨△／▽キーを押して、聴きたいソースを選ぶ

PC/MusicCAST：サーバー(パソコン)を選びます。

インターネットラジオ：インターネットラジオを選びます。

USB：USBデバイスを選びます。

ご注意

本機とネットワーク接続して使用できるミュージックキャスト(MusicCAST)は、日本国内では販売されていません。

5 ⑨ENTERキーを押す

PC/MusicCASTを選んだ場合は、サーバー(パソコン)選択画面が表示されます。⑨△／▽キーを押して、聴きたい音楽ファイルが保存されているパソコンを選び、⑨**ENTER**キーを押してください。

ヒント

- ⑨▷キーでも操作できます。
- 手順3～5の代わりに、リモコンの⑪**PC/MCX**キーまたは⑪**NET RADIO**キー、⑪**USB**キーを押して、聴きたいソースを選ぶこともできます。各ソースを2回目以降に再生する場合は、前回聴いたコンテンツの再生が自動的に始まります。

6 ⑨△／▽キーを押して聴きたい項目を選び、⑨ENTERキーを押す

メニュー表示に従って、再生する項目が表示されるまで繰り返します。

曲名やラジオ局名が表示されているときに⑨**ENTER**キーを押すと、再生が始まります。再生が始まると、テレビ画面に再生情報が表示されます。

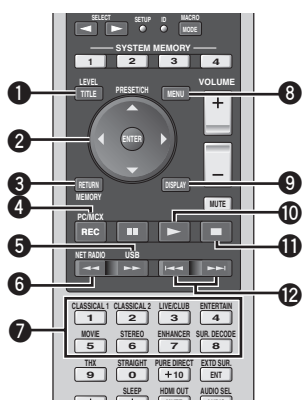
パソコンまたはUSBデバイスに保存されている音楽ファイルを再生しているときは、リモコンの⑪⏮／⏭キーや⑪▷キー、⑪□キーで、スキップや再生、停止の各操作をすることができます。

7 ㉑DISPLAYキーを押す

メニュー画面が消えます。

ヒント

- メニュー画面では、最大で40文字のディレクトリおよびファイル名を表示できます。
- 再生情報画面について詳しくは、「再生情報画面表示について」をご覧ください(99ページ)。
- 再生情報画面を表示中にメニュー画面に戻りたい場合は、⑲**MENU**キーを押してください。
- セットメニュー「プレイスタイル」で、再生スタイルを設定できます(149ページ)。
- セットメニュー「スクロール表示」で、フロントパネルディスプレイの表示方法を設定できます(142ページ)。

リモコンの操作

⑯**操作機器選択**スイッチで「**SOURCE**」を選び、③入力選択キーの**NET/USB**キーを押すと、ネットワークオーディオ／USBを操作できます。

操作例

❶ ブックマークを登録／削除する（インターネットラジオ時）
❷ △：上のメニューにカーソルを移動する
　▽：下のメニューにカーソルを移動する
　◁：1つ前の表示に戻る
　▷：メニュー項目を選択する
　ENTER：メニュー項目を選択する／決定する
❸ ショートカットを登録する
❹ パソコンを入力選択する
❺ USBを入力選択する
❻ インターネットラジオを入力選択する
❼ ショートカットの番号を選択する
❽ 1つ前の表示に戻る
❾ ディスプレイ表示を切り替える
❿ 再生を開始する
⓫ 再生を停止する
⓬ 次／前の曲の頭出しをする

パソコンに保存されている音楽ファイルを聴く

「ネットワークオーディオ／USBデバイスを再生する」（101ページ）の手順4で「PC/MusicCAST」を選んで、パソコンに保存されている音楽ファイルを再生します。

ヒント

- 同一サブネットに接続されている、15台までのパソコンをブラウズできます。
- 操作中に1つ前の画面表示に戻りたい場合は、リモコンの⑲**MENU**キーを押します。
- プレイリストのフォーマットやプレイリストの作成方法などについて詳しくは、サーバーソフトの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- パソコンにインストールされているセキュリティソフト（ウィルス対策ソフトやファイアウォールソフトなど）により、本機がパソコンにアクセスできない場合があります。パソコンに保存された音楽ファイルを再生するときは、セキュリティソフトの設定をご確認ください。
- 選んだ音楽ファイルにより、本機が対応しているフォーマットで記録されていても再生できない場合やノイズが出力される場合があります。

Windows Media Player 11をインストールする

パソコンに保存されている音楽ファイルを再生するための準備をします。再生のしかたについて詳しくは、「ネットワークオーディオ／USBデバイスを再生する」（101ページ）をご覧ください。

1 ***パソコンにWindows Media Player 11をインストールする***

Windows Media Player 11やアップグレードファイルは、マイクロソフト社のウェブサイトからダウンロードできます。

2 ***パソコンを再起動し、音楽ファイルを共有ディレクトリに保存する***

パソコンに保存されている音楽ファイルを再生できるようになります。

ヒント

- 上記の手順は、パソコンに保存されている音楽ファイルを本機ではじめて再生するときのみ必要です。1度Windows Media Player 11をインストールすれば、2回目以降は必要ありません。
- 音楽ファイルを再生するためにWindows Media Playerの設定が必要な場合があります。設定について詳しくは、Windows Media Playerに付属の取扱説明書などをご覧ください。
- Windows Media Connect 2.0でも再生できます。

インターネットラジオを聴く

「ネットワークオーディオ／USBデバイスを再生する」(101ページ)の手順4で「インターネットラジオ」を選んで、インターネットラジオ放送を聴きます。本機のインターネットラジオ局リストは、ラジオ局データベースサービス(vTuner)を利用しています。このデータベースサービスは、本機用に編集・作成されたリストです。

ブックマーク：
　インターネットラジオ局を、登録したラジオ局から選びます。登録のしかたについて詳しくは、右記「ブックマークにラジオ局を登録する」をご覧ください。

追加したラジオ局：
　下記のヤマハウェブサイトから登録したインターネットラジオ局を選びます。
　URL: http://yradio.vtuner.com/
　アカウントを取得するには、MACアドレス(これがIDになります)およびメールアドレスが必要です。
　MACアドレスを確認するには、セットメニュー「ネットワーク設定」の「ネットワーク情報」をご覧ください(141ページ)。

地域：
　配信されている場所からインターネットラジオ局またはポッドキャストを選びます。

ジャンル：
　聴きたいジャンルからインターネットラジオ局またはポッドキャストを選びます。

新しいラジオ局：
　新しく始まった放送局の中からインターネットラジオ局を選びます。

人気のあるラジオ局：
　人気がある放送局の中からインターネットラジオ局を選びます。

Podcast（ポッドキャスト）：
　配信されている場所または聴きたいジャンルからポッドキャストを選びます。

ヘルプ：
　操作方法などのヘルプメニューが再生されます。

ヒント

- インターネットラジオは、ラジオ局により異なったポート番号を利用しています。インターネットラジオを再生するときは、ファイアウォールの設定をご確認ください。
- ポッドキャストはインターネットサービスの一つで、インターネット上に数多く存在しています。インターネットラジオ番組が音声ファイルとして配信されるため、通常のインターネットラジオ番組とは異なり、放送開始時間にとらわれることなく好きな時間に楽しめるのが特長です。1回分の放送が終わると、再生が停止します。
- リモコンの⑪▷キーや⑪□キーで再生、停止の各操作をすることができます。

ご注意

- ラジオ局データベースサービスは、予告なく停止される場合があります。
- インターネットラジオメニューで選択できる放送局であっても、再生できない場合があります。
- インターネットラジオを再生中は、スキップや一時停止できません。
- インターネットがナローバンド(56Kモデム、ISDNなど)で接続されていると、インターネットラジオを十分にお楽しみいただけません。ブロードバンド(ケーブルモデム、xDSLなど)で接続してください。詳しくは、インターネットサービスプロバイダーにお問い合わせください。

ブックマークにラジオ局を登録する

お気に入りのインターネットラジオ局をブックマークに登録します。

登録したいラジオ局を再生中に、リモコンの⑧TITLEキーを約2秒間押し続ける

テレビ画面に「ブックマーク　オン」と表示され、ラジオ局がブックマークに登録されます。

ヒント

- ブックマークの登録を解除するには、以下の手順を操作してください。
  1. 「ネットワークオーディオ／USBデバイスを再生する」(101ページ)の手順4で「インターネットラジオ」を選ぶ
  2. 手順5で決定する
  3. 手順6で「ブックマーク」を選ぶ
  4. ブックマーク画面に表示されている項目の中から、削除するものを選ぶ
  5. テレビ画面に「ブックマーク　オフ」と表示されるまで、⑧**TITLE**キーを約2秒間押し続ける
- パソコンから以下のヤマハウェブサイトにアクセスしてお気に入りのインターネットラジオ局を登録することもできます。
  URL: http://yradio.vtuner.com/
  アカウントを取得するには、MACアドレス(これがIDになります)およびメールアドレスが必要です。
  MACアドレスを確認するには、セットメニュー「ネットワーク設定」の「ネットワーク情報」をご覧ください(141ページ)。

USBデバイスに保存されている音楽ファイルを聴く

「ネットワークオーディオ／USBデバイスを再生する」（101ページ）の手順4で「USB」を選んで、USBデバイスに保存されている音楽ファイルを再生します。USBメニューで表示されたディレクトリイメージから、再生するファイルを選びます。

ヒント

- 本機でUSBデバイスに保存された音楽ファイルを再生する際は、以下のことをご確認ください。
  - USBデバイスがUSBマスストレージクラスまたはUSB MTPクラスに対応している
  - データがFAT16またはFAT32ファイルシステムで記録されている
- USBデバイスが複数のパーティションに分割されている場合は、先頭にあるパーティションのみブラウスできます。
- 最大8階層までのディレクトリにあるファイルをブラウズ、再生できます。
- 1つのディレクトリにつき、最大500までのディレクトリ／ファイルをブラウズ、再生できます。
- リモコンの⑪⏮／⏭キーや⑪▷キー、⑪□キーで、スキップや再生、停止の各操作をすることができます。
- エラーメッセージが表示された場合、⑪⏮または⑪⏭キーを押すと、再生できるファイルをサーチします。
- サーチしているときに、再生できるファイルが見つからない場合、ディレクトリの最初または最後まで到達したら自動的にサーチを停止します。
- セットメニュー「USB端子選択」で使用するUSB端子を選択できます（149ページ）。
- セットメニュー「プレイスタイル」で、再生スタイルを設定できます（149ページ）。
- セットメニュー「スクロール表示」で、フロントパネルディスプレイの表示方法を設定できます（142ページ）。

ご注意

- USBデバイスのメーカーや種類により、ファイルを再生できない場合があります。
- 選んだ音楽ファイルにより、本機が対応しているフォーマットで記録されていても再生できない場合やノイズを出力する場合があります。
- USBデバイスを接続した際に、約10秒間音が出ない場合があります。
- プレイリストには対応していません。

ショートカットを登録する

数字キー（1～8）にショートカットを登録することにより、お気に入りの音楽ファイルやインターネットラジオを、1つのキーを押すだけで簡単に呼び出して再生できます。

ショートカットを登録する

1 ***⑯操作機器選択スイッチをスライドさせて、SOURCEを選ぶ***

2 ***③NET/USBキーを押す***

3 ***登録したい音楽ファイルやインターネットラジオを再生する***

再生のしかたについて詳しくは、101～103ページをご覧ください、

4 ***⑩MEMORYキーを押す***

フロントパネルディスプレイのMEMORYインジケーターが点滅し、ショートカット登録モードに入ります。

登録する数字　点滅

ヒント

以下の手順5および手順6の操作は、10秒以内に行ってください。

5 ***ショートカットを登録する数字キー（1～8）を押す***

フロントパネルディスプレイに、登録する数字が表示されます。

登録する数字　点滅

6 ***⑩MEMORYキーを押す***

ショートカットが登録されます。

登録したショートカットを選んで再生する

1 ⑯**操作機器選択スイッチをスライドさせて、SOURCEを選ぶ**

2 ③**NET/USBキーを押す**

3 ⑪**ネットワークオーディオ／USBデバイス入力選択キー（PC／MCX／NET RADIO／USB）を押して、入力ソースを選ぶ**

4 ⑫**数字キー（1～8）を押す**

ショートカットに登録した曲またはインターネットラジオの再生が始まります。

選んだ数字

ヒント

- ショートカットを登録する数字キーにあらかじめ音楽ファイルやラジオ局が登録されていない場合は、フロントパネルディスプレイに「Empty Memory!」と表示されます。
- 以下の場合は、ショートカットを登録した⑫数字キーを押しても登録した音楽ファイルやラジオ局は呼び出されません。
  - 音楽ファイルを登録したときとは異なるUSBデバイスを接続している
  - パソコンの電源が切れている、またはホームネットワークから切断されている
  - 登録したラジオ局に一時的に接続できない、または放送を停止した
- USBデバイスおよびパソコンに保存されている音楽ファイルをショートカットに登録する際、本機では音楽ファイル名を記憶するのではなく、ディレクトリやプレイリスト内における音楽ファイルの相対的な位置を記憶しています。従って、ディレクトリやプレイリスト内で音楽ファイルの位置を変更したり、音楽ファイルを追加／削除したりした場合は、登録した音楽ファイルとは異なるファイルが呼び出されることがあります。そのような場合は、必要に応じてショートカットを再登録してください。
  以下は、ショートカット機能を上手に利用するためのおすすめの方法です。
  - USBデバイス内にディレクトリを8つ作成し、その中に音楽ファイルを保存します。次に、それぞれのディレクトリ内の先頭の音楽ファイルを1から8までのショートカットに登録します。ショートカットで呼び出す音楽ファイルを変更する場合は、ディレクトリは削除せずに、現在登録されている音楽ファイルを、新しく登録する音楽ファイルと入れ替えます。
  - パソコンにプレイリストを8つ作成します。次に、それぞれのプレイリストの先頭の音楽ファイルを1から8までのショートカットに登録します。ショートカットで呼び出す音楽ファイルを変更する場合は、プレイリストは削除せずに、現在登録されている音楽ファイルを、新しく登録する音楽ファイルと入れ替えます。

表示メッセージについて

本機でネットワークオーディオまたはUSBデバイスを再生するときに、フロントパネルディスプレイに表示されるメッセージの一覧です。

メッセージ	内容	対策
Disconnected	USBデバイスが取り外されました。	USBデバイスが正しく接続されているか確認してください。
	パソコンとの接続が遮断されました。	再度パソコンにアクセスしてください。
	USBデバイスとの通信に異常があります。	Ⓑ**MASTER ON/OFF**スイッチを押して本機の電源をオフにしてからUSBデバイスを接続し直してください。
		USBデバイスを再セットアップしてください。
Access error	選んだファイルまたはラジオ局にアクセスできません。	ホームネットワーク環境内にある機器(本機、ルーター、モデムなど)が正しく接続され、電源がオンになっているか確認してください。
	USBデバイスにアクセスできません。	別のUSBデバイスをお試しください。USBデバイスを再セットアップしてください。
	ＵＳＢデバイスの電源に異常があります。	Ⓑ**MASTER ON/OFF**スイッチを押して本機の電源をオフにしてからUSBデバイスを接続し直してください。
Unable to play	パソコンに保存されている音楽ファイルを再生できません。	Windows Media Player 11がパソコンに正しくインストールされているか確認してください。
		パソコンに保存されている音楽ファイルが、本機で再生可能なファイル形式(MP3、MPEG4 AAC、WMA、WAV)か確認してください。
	ネットワークが混雑しているため再生できません。	
List updated	パソコンのリストが更新されました。	
Bookmark ON	ブックマークにお気に入りのラジオ局が登録されました。	
Bookmark OFF	ブックマークからお気に入りのラジオ局が削除されました。	
Empty Memory!	曲やラジオ局がショートカットに登録されていません。	ショートカットを登録してください。
Not found	ショートカット先が見つかりません。	ショートカットを登録したUSBデバイスを接続してください。
		パソコンの電源をオンにしてください。
		ショートカットを登録したインターネットラジオが放送している時間に再度お試しください。
USB Overloaded	USBに過電流が流れました。	Ⓑ**MASTER ON/OFF**スイッチを押して本機の電源をオフにしてからUSBデバイスを接続し直してください。もし、再度このメッセージが表示された場合は、接続されたUSBデバイスは使用できません。
License Unavailable	DRM保護を解除するのに必要なライセンスが見つかりません。	DRM保護コンテンツのライセンスを取得してください。取得方法などについては、コンテンツを購入したサイトにお問い合わせください。

入力信号を切り替える(入力モード切り替え)

1つの再生機器を複数の方法で音声接続している場合(例:ブルーレイディスクプレーヤーをHDMI、同軸／光デジタル、アナログの4種類の方法で同時に接続している)に入力する音声信号を切り替えます。

フロントパネルのⒻ**AUDIO SELECT**キー、またはリモコンの㉕**AUDIO SEL**キーを押すと、現在の入力モードが表示されます。入力モード表示中にもう一度押すと、入力モードが切り替わります。

AUTO

以下の順序で入力信号を自動的に選びます。通常はこの設定でお使いください。

① HDMI信号
② 同軸／光デジタル信号
③ アナログ信号

HDMI

HDMI信号を入力します。HDMI信号以外の信号が同時に入力されても再生されません。

COAX/OPT

同軸デジタル信号または光デジタル信号を入力します。両方の信号が同時に入力された場合は、同軸デジタル端子が優先されます。同軸／光デジタル信号以外の信号が同時に入力されても再生されません。

ANALOG

アナログ信号を入力します。アナログ信号以外の信号が入力されても再生されません。

ヒント

- セットメニュー「音声入力選択」(146ページ)で、入力モードを切り替えることもできます。
- セットメニュー「音声入力初期値」(143ページ)で、電源を入れたときに適用する入力モードを設定できます。
- デジタル入力信号をピュアダイレクトモード(92ページ)で楽しみたい場合は、「自動判別」または「HDMI」、「同軸/光」に設定してください。

ご注意

- 各入力端子に外部機器が接続されていない場合、入力端子を指定しても音声は出力されません。
- セットメニュー「デコードモード」(147ページ)で、「DTS固定」または「AAC固定」を選んでいる場合、入力モードを「アナログ」にしてもアナログ音声は本機から出力されません。
- 各端子に外部機器が割り当てられていない場合、その端子は選べません。

スピーカーの音量を調節する

再生しながら調節する

再生音を聴きながら、各スピーカーからの音量を調節します。

1 リモコンの⑯操作機器選択スイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ

2 ⑧LEVELキーを繰り返し押して、調節したいスピーカーを選ぶ

調節するスピーカー　音量

FRONT L	フロント左スピーカー
FRONT R	フロント右スピーカー
CENTER	センタースピーカー
SUR.L	サラウンド左スピーカー
SUR.R	サラウンド右スピーカー
SB L	サラウンドバック左スピーカー
SB R	サラウンドバック右スピーカー
FP L	フロントプレゼンス左スピーカー
FP R	フロントプレゼンス右スピーカー
RP L	リアプレゼンス左スピーカー
RP R	リアプレゼンス右スピーカー
SWFR L	サブウーファー左
SWFR R	サブウーファー右

セットメニュー「スピーカーの設定」の「サラウンドバック」を「大1台」または「小1台」に設定した場合、「SB R」は表示されません（124ページ）。

3 ⑨◁／▷キーを押して、スピーカーの音量を調節する

音量の調節範囲は、－10.0～＋10.0dBです。

ご注意

- セットメニュー「スピーカーの設定」で「無」に設定されているスピーカーの音量は調節できません（124ページ）。
- セットメニュー「スピーカーの設定」の「低音出力先」を「フロントに出力」に設定している場合、サブウーファーは調節はできません（125ページ）。
- ⑧**LEVEL**キーでスピーカーの音量を調節すると、セットメニュー「スピーカーの音量」（127ページ）で調節したスピーカーの音量も自動的に変更されます。

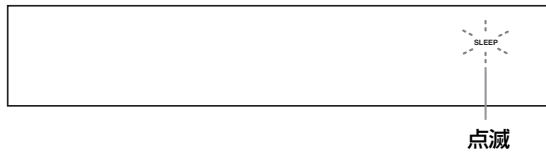
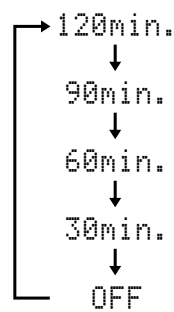
一定時間後に自動的に電源を切る(スリープタイマー)

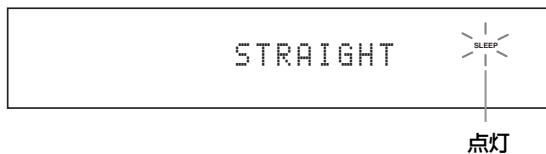
設定した時間が経過すると、自動的にスタンバイになるように設定します。聴きながら、または録音しながらおやすみになりたいときに便利です。スリープタイマーが作動すると、本機背面のACアウトレットに接続した機器の電源も切れます。

1 *ソースを再生する*

2 *⑬SLEEPキーを繰り返し押して、スタンバイになるまでの時間を選ぶ*

⑬SLEEPキーを押すごとに、下記のように時間が切り替わります。時間を選んでいる間は、フロントパネルディスプレイにSLEEPインジケーターが点滅します。

点滅

SLEEPインジケーターが点灯に変わると、スリープタイマーの設定は完了です。

点灯

ヒント

- スリープタイマーを解除するには、「SLEEP OFF」を選んでください。
- リモコンの⑭**STANDBY**キー、本体のⒶ**STANDBY/ON**キーやⒷ**MASTER ON/OFF**スイッチを押して本機の電源をスタンバイ、またはオフにしたり、電源コードを抜いたりすると、スリープタイマーは解除されます。
- タイマー再生したいときは、市販のタイマーを使います。本機では再生したい入力ソースを選び、音量を調節しておきます。セットメニュー「音量の初期値」を設定すれば、設定した音量で再生を始めることもできます(129ページ)。再生機器やタイマーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

外部機器で録音／録画する

本機に接続した録音／録画機器で、音声や映像を録音／録画できます。

あなたが録音したものは、個人で楽しむ場合以外は、著作権者に無断で使用することはできません。

1 ***本機および本機に接続されている、すべての機器の電源を入れる***

2 ***ⓚREC OUTキーを押す***

RECOUTインジケーターが点滅します。

3 ***ⓚRECOUTインジケーター点灯中に、ⓘPROGRAMダイヤルで録音／録画したいソースを選ぶ***

フロントパネルディスプレイに、録音／録画する入力名が表示されます。「SOURCE」を選べば、見ている（聴いている）ソースを録音／録画できます。

4 ***ソースを再生する***

再生する機器の取扱説明書をご覧ください。

FM／AM放送を録音したいときは、放送局を選びます（169ページ）。

5 ***録音／録画を開始する***

録音／録画する機器の取扱説明書をご覧ください。

- 録音／録画する前に、あらかじめ「試し録音」「試し録画」をしてください。
- 録音されるレベルの調節や操作は、それぞれの録音機器で行います。お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 本機をスタンバイにすると、接続した機器間で録音／録画できません。
- 再生している機器の音声／映像を、同じ機器で録音／録画できません（例：DVDレコーダーで再生している音声／映像を、同じDVDレコーダーで録音／録画できません）。
- 本機のDSP処理による音場効果は録音できません。
- 録音中に、音量や音質を調節したり、音場プログラムを変更したりしても、録音される音声には影響しません。
- MULTI CH INPUT端子またはHDMI IN端子に入力された信号は録音できません。
- ピュアダイレクトモード（92ページ）で再生しているときは録音できません。
- アナログ音声出力端子からアナログで録音する場合は、録音したい入力ソースをアナログで接続します。また、光デジタル出力端子から、デジタルで録音する場合は、録音したい入力ソースをデジタルで接続します。
- Sビデオ入力端子に入力されたSビデオ信号は、Sビデオ出力端子からのみ録画できます。同様に、ビデオ入力端子に入力されたビデオ信号は、ビデオ出力端子からのみ録画できます。ビデオコンバージョン機能は作動しません。

DTS LD／DTS CD音声の録音について

DTS信号は、デジタルビットストリームで伝送されるため、DTS信号をデジタルで録音したものをデコーダーを通さずに再生するとノイズだけが再生されます。

DTS CDの音声を録音する場合は、DTSデコーダー内蔵のDVDプレーヤーからアナログで録音することをおすすめします。詳しくは、お使いのプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

セットメニュー一覧

本機ではお使いのシステムで最適な音声や映像をお楽しみいただけるように、下記のセットメニューで設定を変更できます。お使いの環境に合わせて設定を変更してください。セットメニューの表示と操作方法については「テレビ画面を見ながら操作する」(61ページ)をご覧ください。

サラウンド選択・設定

各音場プログラムやサラウンドデコードモードのパラメーターを調整します。(114ページ)

入力選択・設定

入出力端子の割り当て変更や、表示される入力機器名の変更など、信号の入出力に関して以下のメニューを設定／変更できます。

項目	内容	参照ページ
端子の割り当て	使用する機器が本機の入出力端子の機器名と異なる場合に、使用する機器に合わせて端子を割り当てます。	146
音声入力選択	音声入力端子の種類を選びます。	146
デコードモード	アナログ／デジタル信号の入力モードを切り替えます。	147
再生レベル補正	選んでいる入力の再生レベルを補正します。	147
入力名変更	各入力名を変更します。	147
入力端子設定	MULTI CH INPUT端子に入力する信号を設定します。	148
映像選択	MULTI CH INPUT端子に入力された音声信号に組み合わせる映像入力ソースを設定します。	148
プレイスタイル	パソコンやUSBデバイスを楽しむ際のリピート／シャッフル再生を設定します。	149
USB端子選択	フロントパネルまたはリアパネルのどちらの端子を使用するかを選びます。	149

マニュアル設定：音量の設定

ダイナミックレンジや音量に関して以下のメニューを設定／変更できます。

項目	内容	参照ページ
Adaptive DRC	本機の音量とダイナミックレンジを連動して調節します。	128
Adaptive DSP Level	本機の音量とDSPレベルを連動して調節します。	128
音量の上限	音量の最大値を設定します。	129
音量の初期値	電源をオンにしたときの音量を設定します。	129
ミューティング量	ミュート時に下げる音量を調節します。	129

マニュアル設定：音の設定

音質や音色の調整など、音声の出力に関して以下のメニューを設定／変更できます。

項目	内容	参照ページ
LFEレベル	ドルビーデジタル、DTSおよびAACでのLFE信号の再生レベルを調節します。	130
ダイナミックレンジ	ドルビーデジタル、DTSおよびAAC再生時のダイナミックレンジを調節します。	130
定在波コントロール	自動測定メニューで測定･設定した定在波EQを使用するかしないかを設定します。	131
パラメトリックEQ	パラメトリックイコライザーを使って、各スピーカーの音色を調節します。	131
トーンコントロール	スピーカーまたはヘッドホンの低音域と高音域を調節します。	132
リップシンク	音声と映像のずれを補正します。	133
ピュアダイレクト	ピュアダイレクトモードのときに映像信号を出力するかしないかを設定します。	134
多重モノラル音声	AACモノラル音声入力時に出力する音声を選びます。	134
チャンネルミュート	チャンネルごとに音声をミュートします。	135

マニュアル設定：映像の設定

映像の出力に関して以下のメニューを設定／変更できます。

項目	内容	参照ページ
ビデオコンバージョン	映像信号を、違う種類の映像信号に変換するかしないかを設定します。	136
HDMI処理	HDMI IN端子に入力する映像信号を処理するかしないかを設定します。	136
コンポーネントI/P	インターレース信号をプログレッシブ信号へ変換するかしないかを設定します。	136
HDMI解像度	HDMI端子から出力する映像信号の解像度変換を設定します。	137
HDMIアスペクト	縦横比4：3のHDMI映像信号を画面に映し出すときに、16：9に変換します。	137
ショートメッセージ	テレビ画面表示下部に表示されるメッセージについて設定します。	138
オンスクリーン表示	iPodやUSBデバイス、ネットワークオーディオ操作時のメニュー画面表示時間を設定します。	138
表示位置の調整	テレビ画面に表示されるメニューや、ショートメッセージの表示位置を調節します。	138
壁紙の設定	壁紙の種類を設定します。	138

マニュアル設定：基本設定

お使いのスピーカーシステムに合わせ、以下のメニューを設定／変更できます。

項目	内容	参照ページ
テストトーン	基本設定を行うときに、テストトーンを使うか使わないかを設定します。	123
THXの設定	THXサラウンドモードに関する設定をします。	123
スピーカーの設定	ご使用になるスピーカーに合わせて、サイズや有無などを設定します。	124
スピーカーの距離	各スピーカーからリスニングポジションまでの距離に合わせて、音の到達するタイミングを設定します。	126
スピーカーの音量	各スピーカーからの出力レベルを設定します。	127

マニュアル設定：マルチゾーン

スピーカーBの使用方法について設定します。

項目	内容	参照ページ
スピーカーB	スピーカーB設置場所を設定します。	139

マニュアル設定：ネットワーク設定

IPアドレスの設定や再生スタイルの変更など、ネットワーク接続や再生方法に関して以下のメニューを設定／変更できます。

項目	内容	参照ページ
構成	本機のIPアドレスやサブネットマスクなど、ネットワーク接続に関するメニューを設定します。	140
ネットワーク情報	MACアドレスなどの情報を表示します。	141

マニュアル設定：その他の設定

その他さまざまな機能に関して以下のメニューを設定／変更できます。

項目	内容	参照ページ
本体表示器の設定	フロントパネルディスプレイ表示について設定します。	142
iPod	iPodの充電モードを設定します。	142
音声入力初期値	電源を入れたときに適用する音声入力端子を設定します。	143
デコードモード初期値	電源を入れたときに適用するデコードモードを設定します。	143
EXTDサラウンド初期値	電源を入れたときに適用する6.1／7.1チャンネルの再生モードを設定します。	143
設定の保護	誤操作によって設定値が変更されないように保護します。	143
HDMI設定	HDMI音声入力信号を本機で再生するか、他の機器に伝送するかを設定します。	144
トリガー出力	トリガーアウト端子に関する設定をします。	144

自動測定メニュー

YPAO(Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer)により、最適な視聴空間を自動的に設定します(63ページ)。

システム・メモリー

お好みに合わせて設定した音場プログラムやパラメーターなどの設定を呼び出したり記憶させたりします(150ページ)。

信号の情報

入力されている音声信号および映像信号の情報を表示します(158ページ)。

表示言語

テレビ画面表示の言語を選びます(160ページ)。

音場パラメーターを変更する

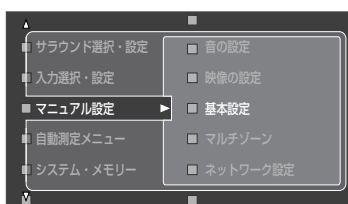
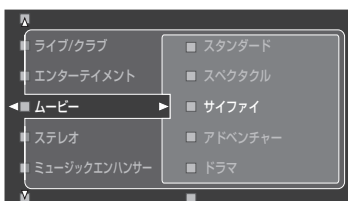
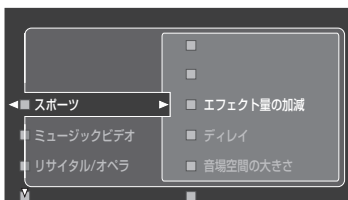
各音場プログラムおよびサラウンドデコードモードは初期設定のままで十分お楽しみいただけますが、音場パラメーターを変更することにより、ソースやリスニングルームの音響に合わせて音場効果をアレンジできます。

ご注意

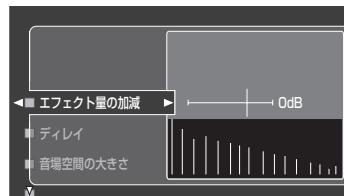
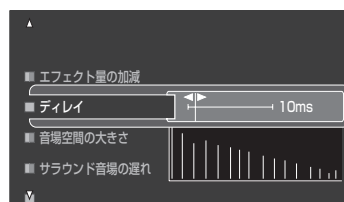
- 操作を始める前に、本機および本機に接続したテレビの電源が入っていることを確認してください。
- セットメニュー「設定の保護」を「保護」に設定しているとパラメーターを変更できません。変更する前に、「可変」に設定してください(143ページ)。

1 ⑯操作機器選択スイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ

2 ⑲MENUキーを押す

セットメニュー画面が表示されます。

3 ⑨△キーを押して「サラウンド選択・設定」を選び、⑨▷キーを押す

4 ⑨△／▽キーを押して音場プログラムまたは「サラウンドデコード」を選び、⑨▷キーを押す

5 ⑨△／▽キーを押してサブプログラムを選び、⑨▷キーを押す

「サラウンドデコード」を選んだ場合は、「デコーダー選択」でパラメーターを変更するデコーダーを選び、⑨◁キーを1度押してから手順6へ進みます。

6 ⑨△／▽キーを押して変更したいパラメーターを選び、⑨▷キーを押す

7 ⑨△／▽／◁／▷キーを押して、設定値を変更する

8 他の音場プログラムまたはサラウンドデコードモードのパラメーターを変更する場合は、手順2～7を繰り返す

9 ⑲MENUキーを押して終了する

メモリー機能(SYSTEM MEMORY)について

本機のメモリー機能を使えば、音場パラメーターによる複数の設定を記憶し、その中から、使い方や環境に応じて最適な設定を呼び出せます。メモリー機能について詳しくは、150ページをご覧ください。

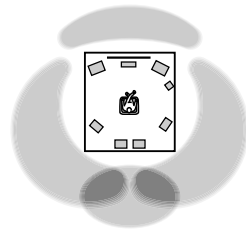
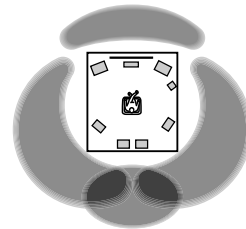
音場パラメーター一覧

項　目	内　　容	参照ページ
エフェクト量の加減	エフェクトレベル(効果音)を微調節します。	116
セリフの位置調整	セリフなど、中央に定位する音の高さを調節します(フロントプレゼンススピーカー使用時のみ有効)。	116
ディレイ	音源と壁面との距離感を調節します。	117
音場空間の大きさ	広がり感を調節します。	117
響きの強さ	響き具合を調節します。	118
サラウンド音場の遅れ	サラウンド音場の遅延時間を調節します。	118
サラウンド音場の広さ	サラウンド音場の広がり感を調節します。	118
サラウンド音場の響き	サラウンド音場の響き具合を調節します。	118
サラウンドバックの遅れ	サラウンドバック音場の遅延時間を調節します(6.1または7.1チャンネルで再生しているときのみ有効)。	118
サラウンドバックの広さ	サラウンドバック音場の広がり感を調節します(6.1または7.1チャンネルで再生しているときのみ有効)。	118
サラウンドバックの響き	サラウンドバック音場の響き具合を調節します(6.1または7.1チャンネルで再生しているときのみ有効)。	118
デコーダー選択	Movieプログラム(Mono Movie以外)およびサラウンドデコードモードを選んでいるときのデコーダーを設定します。	119
ダイレクト	2チャンネルアナログソースを、デコーダーをバイパスして出力します。	119
センター音量	11ch Stereo音場でのセンターチャンネルの出力レベルを調節します。	119
サラウンド左音量	11ch Stereo音場でのサラウンド左チャンネルの出力レベルを調節します。	119
サラウンド右音量	11ch Stereo音場でのサラウンド右チャンネルの出力レベルを調節します。	119
サラウンドバック音量	11ch Stereo音場でのサラウンドバックチャンネルの出力レベルを調節します。	119
フロントプレゼンス左音量	11ch Stereo音場でのプレゼンス左チャンネルの出力レベルを調節します。	120
フロントプレゼンス右音量	11ch Stereo音場でのプレゼンス右チャンネルの出力レベルを調節します。	120
リアプレゼンス左音量	11ch Stereo音場でのプレゼンス左チャンネルの出力レベルを調節します。	120
リアプレゼンス右音量	11ch Stereo音場でのプレゼンス右チャンネルの出力レベルを調節します。	120
レベル	11chコンプレストミュージック・エンハンサーモードの効果レベルを調節します。	120
パノラマ	ドルビープロロジックⅡxおよびドルビープロロジックⅡのフロント音場の広がり感を調節します(ドルビープロロジックⅡxおよびドルビープロロジックⅡデコーダーのMusicモード再生時のみ有効)。	120
センターの広がり	ドルビープロロジックⅡxおよびドルビープロロジックⅡのセンター音声左右への広がり感を調節します(ドルビープロロジックⅡxおよびドルビープロロジックⅡデコーダーのMusicモード再生時のみ有効)。	120
ディメンション	ドルビープロロジックⅡxおよびドルビープロロジックⅡのサラウンド音場のフロント側とリア側のレベル差を調節します(ドルビープロロジックⅡxおよびドルビープロロジックⅡデコーダーのMusicモード再生時のみ有効)。	120
センター・イメージ	DTS Neo:6のフロント音場の広がり感を調節します(DTS Neo:6デコーダーのMusicモード再生時のみ有効)。	121
フォーカス	SRS CSⅡのフロント定位感を調節します(SRS CSⅡデコーダーのCinemaおよびMusicモード再生時のみ有効)。	121
トゥルーベース	SRS CSⅡの低音域出力レベルを調節します(SRS CSⅡデコーダーのCinemaおよびMusicモード再生時のみ有効)。	121
残響時間	余韻の長さを調節します。	121
残響音の遅れ	残響音の遅延時間を調節します。	122
残響音の強さ	余韻の強さを調節します。	122
初期化	サブプログラムごとに、変更した音場パラメーターを初期化します。	122

基本的な音場パラメーター

音場パラメーターを変更する際は、始めに「エフェクト量の加減」および「セリフの位置調整」を調節し、音場効果を一度確認したあとでその他のパラメーターを変更することをおすすめします。

エフェクト量の加減

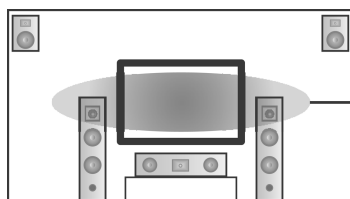
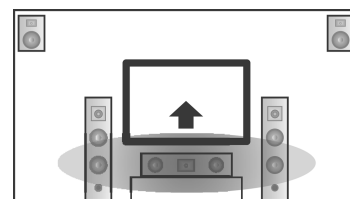
エフェクト音量（音場効果のかかり具合＝DSPレベル）を微調節するパラメーターです。視聴環境に合わせて、直接音のレベルを確認しながら音場効果のかかり具合を変更できます。

エフェクト量　小

エフェクト量　大

効果音が小さく感じられたり、各音場プログラム間の違いが感じ取れない場合は：
効果レベルを大きくしてください。

音がぼんやりと聴こえたり、音場効果のかかり具合が過剰に感じられる場合は：
効果レベルを小さくしてください。

可変範囲：－6～＋3dB

セリフの位置調整

フロントプレゼンススピーカーを使っている場合に、セリフなどの中央に定位する音の定位位置（上下方向）を調節するパラメーターです。値を小さくすると音が下方に定位し、大きくすると上方に定位します。

理想的な定位位置に移動

セリフがテレビ画面よりも低い位置から聞こえる場合、セリフの上下位置を上に移動してください。数値を大きく設定するほど、セリフの位置は上に移動します。

可変範囲：0～5
初期設定値：0

ご注意

- フロントプレゼンススピーカーを使用していない場合は、「セリフの位置調整」を調節できません。
- セリフの上下位置を初期設定よりも下に移動することはできません。

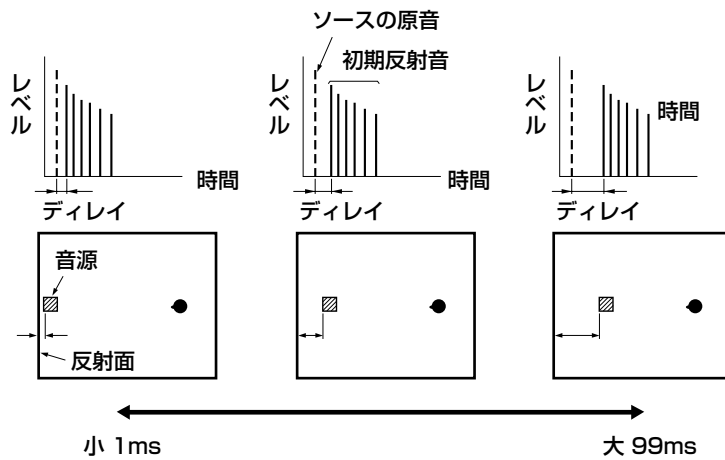
その他の音場パラメーター

「エフェクト量の加減」および「セリフの位置調整」のほかにも、以下の音場パラメーターを変更できます。

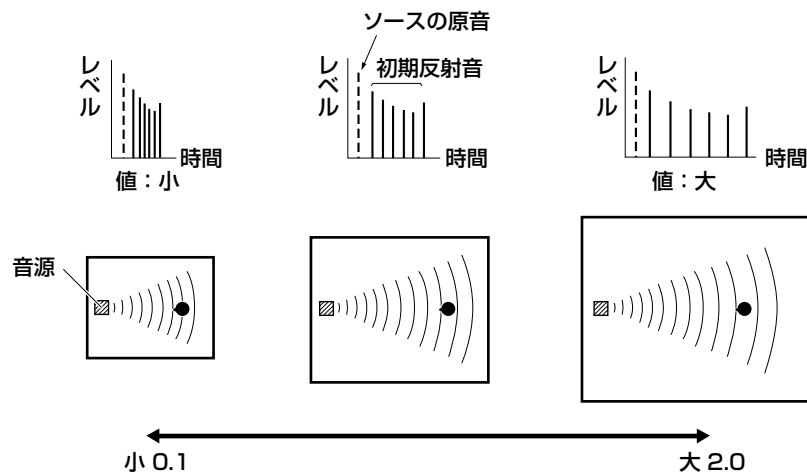
すべてのプログラム用

ディレイ

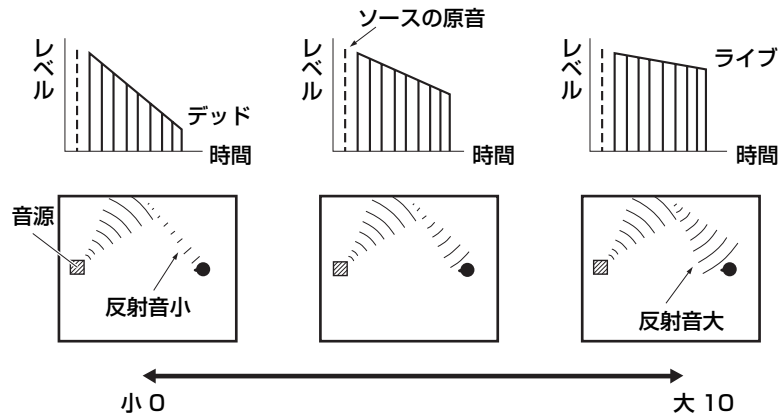
直接音から初期反射音が始まるまでの時間(遅延時間)を調節するパラメーターです。初期反射音の遅れは、音源と反射面との距離によって決まります。つまり、遅延時間を短くすると、音源が壁面に近づいた感じになり、逆に遅延時間を長くすると、音源は壁面から離れた感じになります。「ディレイ」を調節することにより、ソースの原音から周りの壁までの距離感、空間の大きさ感、音像のできかたなどが調節できます。

可変範囲：1〜99ms

音場空間の大きさ

空間の広がり感を調節するパラメーターです。値を大きくするほど広い空間(部屋)になり、値を小さくするほど狭い空間になります。壁と壁の間が広くあいている大きなホールほど、音が反射を繰り返す間隔が長くなります。従って、反射音同士の時間間隔をコントロールすれば、広がり感を変えることができます。1.0で実測値そのままに、2.0にすると、1辺の長さが倍の空間になります。

可変範囲：0.1〜2.0

響きの強さ

初期反射音の減衰特性を決めるパラメーターです。値を大きくするほど、ライブな(反響が多い)音場になり、値を小さくするほどデッドな(反響が少ない)音場になります。実際のホールでのライブ感／デッド感は、反射面の吸音特性によって決定され、反射音の減衰が早ければデッドに、遅ければライブに感じられます。

可変範囲：0〜10

サラウンド音場の遅れ

直接音が出てからサラウンド音場が発生するまでの時間を調節するパラメーターです。値を大きくするほどサラウンド音場が遅れて発生します。

可変範囲：1〜49ms

サラウンド音場の広さ

サラウンド音場の広がり感を調節するパラメーターです。値を大きくするほどサラウンドの音場空間が広がります。

可変範囲：0.1〜2.0

サラウンド音場の響き

サラウンド音場の減衰量を調節するパラメーターです。値を大きくするほどサラウンド音場の響きが強くなります。

可変範囲：0〜10

サラウンドバックの遅れ

直接音が出てからサラウンドバック音場が発生するまでの時間を調節するパラメーターです。値を大きくするほどサラウンドバック音場が遅れて発生します。

6.1または7.1チャンネルで再生しているときのみ有効です。

可変範囲：1〜49ms

サラウンドバックの広さ

サラウンドバック音場の広がり感を調節するパラメーターです。値を大きくするほどサラウンドバックの音場空間が広がります。

6.1または7.1チャンネルで再生しているときのみ有効です。

可変範囲：0.1〜2.0

サラウンドバックの響き

サラウンドバック音場の減衰量を調節するパラメーターです。値を大きくするほどサラウンドバック音場の響きが強くなります。

6.1または7.1チャンネルで再生しているときのみ有効です。

可変範囲：0〜10

Movie／SUR.DECODE用

デコーダー選択

Movieプログラム（Mono Movieは除く）およびサラウンドデコードモードを選んでいるときのデコーダーを設定します。セットメニュー「スピーカーの設定」の「サラウンドバック」（124ページ）が「なし」の設定になっている場合は「PLIIx」は「PLII」に変わります。

Movie用

選択項目：PLIIxムービー、PLIIムービー、Neo:6シネマ
初期設定：PLIIxムービー

SUR. DECODE用

選択項目： プロロジック、PLIIxムービー、PLIIxミュージック、PLIIxゲーム、
Neo:6シネマ、Neo:6ミュージック、CSIIシネマ、CSIIミュージック
初期設定：プロロジック

2ch Stereo用

ダイレクト

「自動判別」に設定すると、本機のデコーダーをバイパスして2チャンネルアナログソースを出力します。セットメニュー「Adaptive DRC」（128ページ）が「OFF」で、音色の調節（TONE CONTROL）の「BASS」および「TREBLE」が「0dB」に設定されている場合や、「自動測定メニュー」の「周波数補正」を、「フロントに近似」または「測定を行わない」で設定した場合（75ページ）、セットメニュー「パラメトリックEQ」ですべてのチャンネルのゲインを0dBに設定している場合、「トーンコントロール」（132ページ）の「低音」と「高音」を0dBに設定している場合に有効になります。

選択項目：自動判別、オフ
初期設定：自動判別

ご注意

- ドルビーデジタル、DTSまたはAACのマルチチャンネル信号が入力されると、2チャンネル（フロント左／右スピーカー）に振り分けられます。
- 以下の場合は、フロント左／右スピーカーの低音はサブウーファーから出力されます。
  - セットメニュー「スピーカーの設定」の「低音出力先」が「フロントとサブウーファー」に設定されているとき
  - セットメニュー「スピーカーの設定」の「フロント」が「小」に設定されていて、「低音出力先」が「サブウーファー」に設定されているとき

11ch Stereo用

センター音量

11ch Stereoプログラムでのセンターチャンネルの音量を調節します。

可変範囲：0〜100%
初期設定値：100%

サラウンド左音量

11ch Stereoプログラムでのサラウンド左チャンネルの音量を調節します。

可変範囲：0〜100%
初期設定値：100%

サラウンド右音量

11ch Stereoプログラムでのサラウンド右チャンネルの音量を調節します。

可変範囲：0〜100%
初期設定値：100%

サラウンドバック音量

11ch Stereoプログラムでのサラウンドバックチャンネルの音量を調節します。

可変範囲：0〜100%
初期設定値：35%（サラウンドバックスピーカー2本使用時）
50%（サラウンドバックスピーカー1本使用時）

フロントプレゼンス左音量

11ch Stereoプログラムでのフロントプレゼンス左チャンネルの音量を調節します。

可変範囲：0～100%
初期設定値：33%

フロントプレゼンス右音量

11ch Stereoプログラムでのフロントプレゼンス右チャンネルの音量を調節します。

可変範囲：0～100%
初期設定値：33%

リアプレゼンス左音量

11ch Stereoプログラムでのリアプレゼンス左チャンネルの音量を調節します。

可変範囲：0～100%
初期設定値：33%

リアプレゼンス右音量

11ch Stereoプログラムでのリアプレゼンス右チャンネルの音量を調節します。

可変範囲：0～100%
初期設定値：33%

コンプレストミュージック・エンハンサー用

レベル

コンプレストミュージック・エンハンサーモードの効果レベルを調節します。「効果小」にすると効果レベルは弱くなり、「効果大」にすると強くなります。

可変範囲：効果小、効果大
初期設定：効果大

PLIIx Music／PLII Music用

パノラマ

PRO LOGIC Ⅱx MusicおよびPRO LOGIC ⅡMusicプログラムでのフロント音場の広がり感を調節するパラメーターです。フロント左／右の音声を左右に大きく回り込ませることで、サラウンド音場につながるような広がり感が得られます。

選択項目：オン、オフ
初期設定：オフ

センターの広がり

PRO LOGIC Ⅱx MusicおよびPRO LOGIC ⅡMusicプログラムでのセンター音声の左右への広がり感を調節するパラメーターです。センターからの音声をお好みに合わせて左右に振り分けることができます。0にするとセンターのみ、7にするとフロント左／右のみからセンター音声が出力されます。

可変範囲：0～7
初期設定値：3

ディメンション

PRO LOGIC Ⅱx MusicおよびPRO LOGIC ⅡMusicプログラムでのフロント音場とサラウンド音場のレベル差を調節するパラメーターです。再生するソフトによって生じる、フロントとサラウンドのレベル差を調節してお好みのバランスにすることができます。－にするとサラウンド側、＋にするとフロント側が強くなります。

可変範囲：－3～標準～＋3
初期設定値：標準

Neo:6 Music用

センター・イメージ

DTS Neo: 6 Musicプログラムでのフロント音場の広がり感を調節するパラメーターです。値を小さくするとフロント音場の広がりが大きくなり、大きくすると狭く(センターへの定位が強く)なります。

可変範囲：0.0〜1.0
初期設定値：0.3

SRS CSⅡ用

フォーカス

SRS CSⅡプログラムでのセリフの明瞭感を調節するパラメーターです。値を大きくするほどセリフがはっきりと聞こえるようになります。

可変範囲：0〜8
初期設定値：0

トゥルーベース

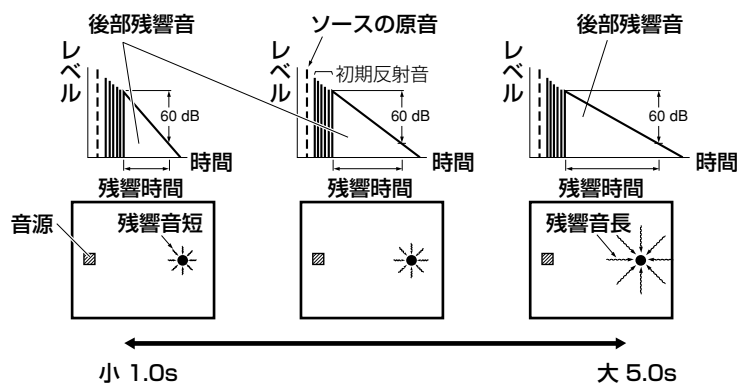
SRS CSⅡプログラムでの低音域を調節するパラメーターです。値を大きくするほど低音域が強調され、サブウーファーがない場合でも効果的に低音を再生することができます。サブウーファーがある場合は、より重厚な低音を再生することができます。

可変範囲：0〜8
初期設定値：0

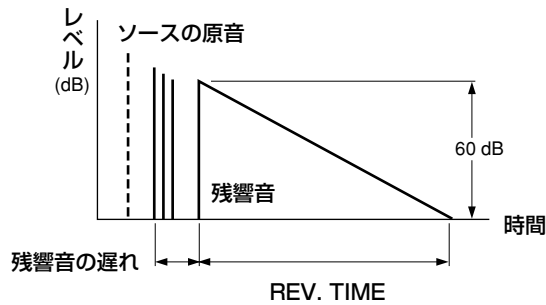
その他

残響時間

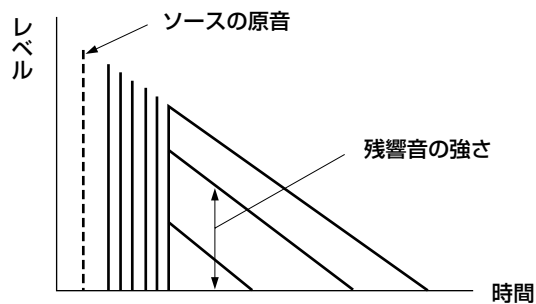
後部残響音が減衰していく時間を調節するパラメーターです。約1kHzの残響音が60dB減衰するのにかかる時間を基準にしています。値を小さくするほど残響音が早く減衰します。長めの残響時間を設定すれば豊かな残響音に、短めの残響時間を設定すればすっきりした残響音になります。

可変範囲：1.0〜5.0s

残響音の遅れ

残響音が発生し始めるまでの時間を調節するパラメーターです。値を大きくするほど残響音が初期反射音より遅れて発生するようになります。同じ「残響時間」でも、「残響音の遅れ」を長くしていくと大きな空間の残響感になります。

可変範囲：0～250ms

残響音の強さ

後部残響音のレベルを調節するパラメーターです。値を大きくするほど後部残響音のレベルが大きくなり、余韻が強く感じられます。値を小さくするほど後部残響音のレベルが小さくなり、余韻が弱く感じられます。

可変範囲：0～100%

初期化

変更した音場パラメーターをサブプログラムごとに初期設定に戻します。

音場パラメーターを初期設定に戻す

すべてを初期設定に戻す

アドバンストセットアップメニュー「INITIALIZE」の「DSP PARAM」で、すべての音場パラメーターを初期設定に戻せます（184ページ）。

サブプログラムごとに初期設定に戻す

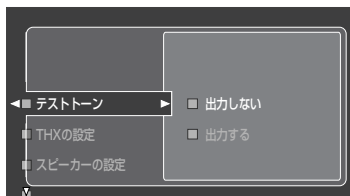
「初期化」（上記）で、設定を変更したすべてのパラメーターをサブプログラムごとに初期設定に戻せます。

スピーカーの設定を変更する(基本設定)

お使いのスピーカーシステムに合わせて、視聴環境を設定します。操作方法について詳しくは、「テレビ画面を見ながら操作する」(61ページ)をご覧ください。

テストトーン

基本設定のほかの項目(「スピーカーの設定」、「スピーカーの距離」、「スピーカーの音量」)を使って調整するときに、テストトーンを使うか使わないかを設定します。

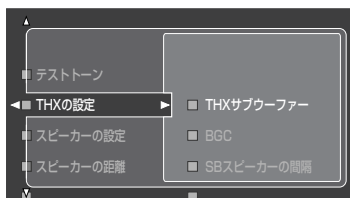
(「マニュアル設定」→「基本設定」→「テストトーン」)

選択項目：出力しない、出力する
初期設定：出力しない

ご注意

- 「出力する」に設定すると、大きなテストトーンが出ます。小さなお子様などをリスニングルームに立ち入らせないようご配慮ください。
- ヘッドホンを接続しているときは、「テストトーン」を「出力する」に設定できません。

THXの設定

THXサラウンドモードに最適な視聴空間を設定します。

(「マニュアル設定」→「基本設定」→「THXの設定」)

THXサブウーファー

お使いのサブウーファーがTHXウルトラ2対応か、非対応かを設定します(「サブウーファー設定：構成」を、「前後配置」、「ステレオ」、「モノラル」に設定したときのみ)。

選択項目：ウルトラ2非対応、ウルトラ2対応
初期設定：ウルトラ2非対応

ヒント

20Hz以下の周波数まで再生できるサブウーファーをお使いの場合も、「ウルトラ2対応」に設定してください。

BGC

リスニングポジションがリスニングルーム後方の壁に近い場合に、サブウーファーの響きを抑えて低音のバランスを整えるBoundary Gain Compensation機能(193ページ)のオン／オフを設定します(「THXサブウーファー」を「ウルトラ2対応」に設定しているときのみ)。

選択項目：オフ、オン
初期設定：オフ

SBスピーカーの間隔

サラウンドバックスピーカーを2つ設定している場合に、サラウンドバック左スピーカーとサラウンドバック右スピーカーの間隔を調節します。

選択項目：0.3m以下、0.3～1.2m、1.2m以上 (1フィート以下、1～4フィート、4フィート以上)
初期設定値：1.2m以上 (4フィート以上)

0.3m以下
2つのサラウンドバックスピーカーの間隔が0.3m以下の場合に選びます。

0.3～1.2m
2つのサラウンドバックスピーカーの間隔が0.3m～1.2mの場合に選びます。

1.2m以上
2つのサラウンドバックスピーカーの間隔が1.2m以上の場合に選びます。

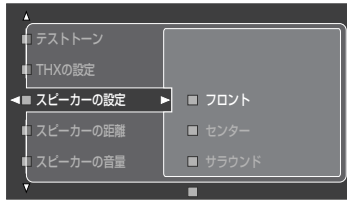
THXラウドネスプラス

小さな音量でもソースの持つ音色と音場をリアルに再現するTHX Loudness Plus機能(194ページ)のオン／オフを設定します。

選択項目：オフ、オン
初期設定：オン

スピーカーの設定

ご使用になるスピーカーに合わせて、スピーカーのサイズ、有無などを設定します。

（「マニュアル設定」→「基本設定」→「スピーカーの設定」）

THX推奨の設定

• 全スピーカー：　小
• 低音出力先：　サブウーファーのみ
• クロスオーバー：　80Hz（THX）

フロント

フロント左／右スピーカーのサイズを設定します。

選択項目：大、小
初期設定：小

ウーファーの口径が16cm未満のフロントスピーカーを接続している場合：

「**小**」を選びます。「クロスオーバー」（125ページ）で、低音成分の周波数下限を設定してください。

ウーファーの口径が16cm以上のスピーカーを接続している場合：

「**大**」を選びます。

ヒント

• 「低音出力先」を「フロントに出力」に設定している場合、LFE信号、フロント左／右チャンネルの低音域、「小」に設定した各スピーカーの低音域は、「フロント」の設定にかかわらずフロント左／右スピーカーから出力されます。
• 「低音出力先」を「フロントに出力」に設定している場合は、「大」のみ選べます。また、「フロント」を「小」に設定している場合でも、「低音出力先」を「フロントに出力」に変更すると、設定は自動的に「大」に変更されます。

センター

センタースピーカーのサイズ、有無を設定します。

選択項目：大、小、無
初期設定：小

センタースピーカーを接続していない場合：

「**無**」を選びます。センターチャンネル信号はフロント左／右スピーカーに同じ音量レベルで振り分けられます。

ウーファーの口径が16cm未満のセンタースピーカーを接続している場合：

「**小**」を選びます。「クロスオーバー」（125ページ）で、低音成分の周波数下限を設定してください。

ウーファーの口径が16cm以上のセンタースピーカーを接続している場合：

「**大**」を選びます。

サラウンド

サラウンド左／右スピーカーのサイズ、有無を設定します。

選択項目：大、小、無
初期設定：小

サラウンド左／右スピーカーを接続していない場合：

「**無**」を選びます。自動的にバーチャルシネマDSP（91ページ）が選択され、サラウンド左／右チャンネル信号はフロント左／右スピーカーに同じ音量レベルで振り分けられます。

ウーファーの口径が16cm未満のサラウンド左／右スピーカーを接続している場合：

「**小**」を選びます。「クロスオーバー」（125ページ）で、低音成分の周波数下限を設定してください。

ウーファーの口径が16cm以上のサラウンド左／右スピーカーを接続している場合：

「**大**」を選びます。

サラウンドバック

サラウンドバックスピーカーのサイズ、本数、有無を設定します。

選択項目：大1台、小1台、大2台、小2台、無
初期設定：小2台

サラウンドバック左／右スピーカーを接続していない場合：

「**無**」を選びます。サラウンドバックチャンネル信号はサラウンド左／右スピーカーに同じ音量レベルで振り分けられます。

ウーファーの口径が16cm未満のサラウンドバックスピーカーを1本のみ接続している場合：

「**小1台**」を選びます。「クロスオーバー」（125ページ）で、低音成分の周波数下限を設定してください。

ウーファーの口径が16cm未満のサラウンドバック左／右スピーカーを接続している場合：

「**小2台**」を選びます。「クロスオーバー」（125ページ）で、低音成分の周波数下限を設定してください。

ウーファーの口径が16cm以上のサラウンドバックスピーカーを1本のみ接続している場合：

「**大1台**」を選びます。

ウーファーの口径が16cm以上のサラウンドバック左／右スピーカーを接続している場合：

「**大2台**」を選びます。

ヒント

アドバンストセットアップメニューの「BI-AMP」を「ON」に設定した場合は、自動的に「無」が選択されます（184ページ）。

クロスオーバー

「小」に設定した各スピーカーに出力する低音成分の周波数下限を設定します。設定値よりも低い周波数の低音成分は、サブウーファーまたは「大」に設定した各スピーカーから出力されます。「低音出力先」を「フロントに出力」に設定している場合は、フロントスピーカーから出力されます。

選択項目：40Hz、60Hz、80Hz(THX)、90Hz、100Hz、110Hz、120Hz、160Hz、200Hz
初期設定：80Hz(THX)

ヒント

お使いのサブウーファーに音量およびクロスオーバー周波数の設定機能がある場合は、音量を半分または半分よりやや小さめ、クロスオーバー周波数を最大に設定してください。

フロントプレゼンス

フロントプレゼンス左／右スピーカーを使うか、使わないかを設定します。

選択項目：使用する、使用しない
初期設定：使用する

フロントプレゼンス左／右スピーカーを接続していない場合：

「**使用しない**」を選びます。プレゼンス左／右チャンネル信号はフロント左／右スピーカーに同じ音量レベルで振り分けられます。

フロントプレゼンス左／右スピーカーを接続している場合：

「**使用する**」を選びます。

ヒント

- 「使用する」に設定している場合、音場パラメーター「セリフの位置調整」を調節できます(116ページ)。
- 「使用する」に設定している場合、CINEMA DSP HD³モード(91ページ)を選べます。

リアプレゼンス

リアプレゼンス左／右スピーカーを使うか、使わないかを設定します。「フロントプレゼンス」を「使用する」に設定した場合のみ設定できます。

選択項目：使用する、使用しない
初期設定：使用する

リアプレゼンス左／右スピーカーを接続していない場合：

「**使用しない**」を選びます。

リアプレゼンス左／右スピーカーを接続している場合：

「**使用する**」を選びます。

サブウーファー

ご使用になるサブウーファーに合わせて、数や配置などを設定します。

構成

ご使用になるサブウーファーの数と、配置方法を設定します。サブウーファーの配置方法については32ページをご覧ください。

選択項目：前後配置、ステレオ、モノラル、使用しない
初期設定：ステレオ

ヒント

サブウーファーを1台のみ使う場合は、「モノラル」に設定してください。

位相

ご使用になるサブウーファーの位相を設定します。低音が物足りない場合などにお試しください。

選択項目：正相、Lを逆相、Rを逆相、LとRを逆相
初期設定：正相

低音出力先

低音成分を出力するスピーカーを設定します。

選択項目：フロントとサブウーファー、サブウーファーのみ、フロントに出力
初期設定：サブウーファーのみ

サブウーファーを接続していて、自然な再生を楽しみたい場合：

「**サブウーファーのみ**」に設定します。LFE信号と、「小」に設定した各チャンネルの低音域がサブウーファーに出力されます。

サブウーファーを接続していない場合：

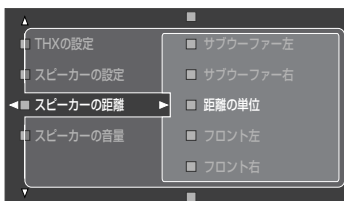
「**フロントに出力**」に設定します。LFE信号と、フロント左／右チャンネルおよび「小」に設定した各チャンネルの低音域がフロント左／右スピーカーに出力されます。

サブウーファーを接続していて、より豊な低音を楽しみたい場合：

「**フロントとサブウーファー**」に設定します。LFE信号と、「小」に設定した、フロント左／右以外の各チャンネルの低音域がサブウーファーから出力されます。
フロント左／右チャンネルの低音域は、「フロント」の設定にかかわらずフロント左／右スピーカーとサブウーファーから出力されます。
CDを再生するときに、サブウーファーを使って低音域を補強したい場合などにこの設定にすると効果的です。

スピーカーの距離

各スピーカーからの音が同時にリスニングポジション(視聴位置)に届くように、スピーカーから音が出るタイミングを調節します。音が出るタイミングは、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定することで調節されます。

(「マニュアル設定」→「基本設定」→「スピーカーの距離」)

距離の単位

表示する距離の単位を切り替えます。

選択項目:メートル、フィート
初期設定:メートル

フロント左

フロント左スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲:0.30~24.00m(1.0~80.0ft)
初期設定値:3.00m(10.0ft)

フロント右

フロント右スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲:0.30~24.00m(1.0~80.0ft)
初期設定値:3.00m(10.0ft)

センター

センタースピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲:0.30~24.00m(1.0~80.0ft)
初期設定値:3.00m(10.0ft)

サラウンド左

サラウンド左スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲:0.30~24.00m(1.0~80.0ft)
初期設定値:3.00m(10.0ft)

サラウンド右

サラウンド右スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲:0.30~24.00m(1.0~80.0ft)
初期設定値:3.00m(10.0ft)

サラウンドバック左

サラウンドバック左スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲:0.30~24.00m(1.0~80.0ft)
初期設定値:3.00m(10.0ft)

ヒント

サラウンドバックスピーカーを1台のみ使っている場合は、「サラウンドバック左」で調節してください。

サラウンドバック右

サラウンドバック右スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲:0.30~24.00m(1.0~80.0ft)
初期設定値:3.00m(10.0ft)

フロントプレゼンス左

フロントプレゼンス左スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲:0.30~24.00m(1.0~80.0ft)
初期設定値:3.00m(10.0ft)

フロントプレゼンス右

フロントプレゼンス右スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲:0.30~24.00m(1.0~80.0ft)
初期設定値:3.00m(10.0ft)

リアプレゼンス左

リアプレゼンス左スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲:0.30~24.00m(1.0~80.0ft)
初期設定値:3.00m(10.0ft)

リアプレゼンス右

リアプレゼンス右スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲:0.30~24.00m(1.0~80.0ft)
初期設定値:3.00m(10.0ft)

サブウーファー左

サブウーファー左からリスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲:0.30~24.00m(1.0~80.0ft)
初期設定値:3.00m(10.0ft)

サブウーファー右

サブウーファー右からリスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲:0.30~24.00m(1.0~80.0ft)
初期設定値:3.00m(10.0ft)

ヒント

2台のサブウーファーを前後に設置している場合は、前側のサブウーファーの距離は「サブウーファー左」で、後側のサブウーファーの距離は「サブウーファー右」で設定してください。

ご注意

- 「スピーカーの設定」で「無」に設定されているスピーカーの距離は調節できません。
- 「スピーカーの設定」の「低音出力先」を、「フロントに出力」に設定している場合は、サブウーファーの距離は調節できません。

スピーカーの音量

リスニングポジションで聞こえる各スピーカーからの音量が同じになるように、それぞれのスピーカーの音量を個別に調節します。
（「マニュアル設定」→「基本設定」→「スピーカーの音量」）

ヒント
- 音圧計をお持ちの場合は、音圧計をC特性／スローモードに設定したうえで、各スピーカーからの音量がリスニングポジションで75dB SPLになるよう調節してください。
- 音量を0dBにして調整することをおすすめします。

フロント左

フロント左スピーカーからの音量を調節します。

可変範囲：−10.0〜+10.0dB
初期設定値：0.0dB

フロント右

フロント右スピーカーからの音量を調節します。

可変範囲：−10.0〜+10.0dB
初期設定値：0.0dB

センター

センタースピーカーからの音量を調節します。

可変範囲：−10.0〜+10.0dB
初期設定値：0.0dB

サラウンド左

サラウンド左スピーカーからの音量を調節します。

可変範囲：−10.0〜+10.0dB
初期設定値：0.0dB

サラウンド右

サラウンド右スピーカーからの音量を調節します。

可変範囲：−10.0〜+10.0dB
初期設定値：−1.0dB

サラウンドバック左

サラウンドバック左スピーカーからの音量を調節します。

可変範囲：−10.0〜+10.0dB
初期設定値：0.0dB

ヒント

サラウンドバックスピーカーを1台のみ使っている場合は、「サラウンドバック左」で調節してください。

サラウンドバック右

サラウンドバック右スピーカーからの音量を調節します。

可変範囲：−10.0〜+10.0dB
初期設定値：0.0dB

フロントプレゼンス左

フロントプレゼンス左スピーカーからの音量を調節します。

可変範囲：−10.0〜+10.0dB
初期設定値：0.0dB

フロントプレゼンス右

フロントプレゼンス右スピーカーからの音量を調節します。

可変範囲：−10.0〜+10.0dB
初期設定値：0.0dB

リアプレゼンス左

リアプレゼンス左スピーカーからの音量を調節します。

可変範囲：−10.0〜+10.0dB
初期設定値：0.0dB

リアプレゼンス右

リアプレゼンス右スピーカーからの音量を調節します。

可変範囲：−10.0〜+10.0dB
初期設定値：0.0dB

サブウーファー左

サブウーファー左からの音量を調節します。

可変範囲：−10.0〜+10.0dB
初期設定値：0.0dB

サブウーファー右

サブウーファー右からの音量を調節します。

可変範囲：−10.0〜+10.0dB
初期設定値：0.0dB

ご注意
- 「スピーカーの設定」で「無」に設定されているスピーカーの音量は調節できません。
- 「スピーカーの設定」の「低音出力先」を、「フロントに出力」に設定している場合は、サブウーファーの音量は調節できません。
- 「PEQ選択」の設定により、「スピーカーの音量」の設定は変化します。

音量を設定する（音量の設定）

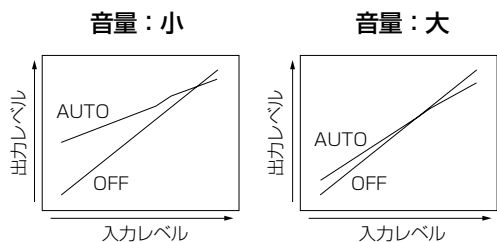
音量に関するさまざまな設定を変更します。

音量とダイナミックレンジを連動させる（Adaptive DRC）

本機の音量とダイナミックレンジ（最大音量から最小音量までの幅）を連動して調節します。夜間の再生時などに音量を小さくすると、ダイナミックレンジは自動的に圧縮され、小さい音量でも聴きやすくなります。

（「マニュアル設定」→「音量の設定」→「Adaptive DRC」）

選択項目：自動、オフ
初期設定：オフ

自動
ダイナミックレンジを自動的に調節します。
オフ
ダイナミックレンジを自動的に調節しません。

ヒント

- 「音の設定」の「ダイナミックレンジ」で、ダイナミックレンジを3段階から選ぶこともできます。
- ヘッドホンを使って再生しているときにも効果的です。

ご注意

・THXサラウンドモード（95ページ）またはピュアダイレクトモード（92ページ）で再生しているときは、「Adaptive DRC」は機能しません。
・「2chステレオ」の「ダイレクト」を「自動」に設定し、2ch Stereoモードで再生しているときは、「Adaptive DRC」が機能しない場合があります。

ダイナミックレンジとは？

再生するソースに含まれる、最小音量から最大音量までの幅を表します。ダイナミックレンジを圧縮して音量幅を小さくすると、小音量域成分は引き上げられ、大音量域成分は引き下げられます。これにより、小音量域成分は聞き取りやすく、大音量域成分は音量を抑えて再生されます。

音量とDSPレベルを連動させる（Adaptive DSP Lvl）

本機の音量とDSPレベル（116ページ）を連動して調節します。音量を小さくすると、DSPレベルは自動的に強くなります。

（「マニュアル設定」→「音量の設定」→「Adaptive DSP Lvl」）

選択項目：自動、オフ
初期設定：オフ

自動
DSPレベルを自動的に調節します。
オフ
DSPレベルを自動的に調節しません。

ご注意

「自動」に設定しても、音場パラメーター「エフェクト量の加減」（116ページ）の設定値は変わりません。

音量の上限を設定する(音量の上限)

音量が間違って上がりすぎないように、音量の最大値を設定します。たとえば、「−5dB」に設定しているときは、音量の可変範囲は−80.0dBから−5.0dBになります。初期設定値(+16.5dB)では、最大音量まで出力します。音量の最大値を制限しない場合は、「+16.5dB」に設定してください。

(「マニュアル設定」→「音量の設定」→「音量の上限」)

選択項目：+16.5dB、+15dB、+10dB、+5dB、0dB、
−5dB、−10dB、−15dB、−20dB、−25dB、−30dB
初期設定値：+16.5dB

ご注意

- 「自動測定メニュー」(63ページ)の測定中は、「音量の上限」の設定にかかわらず音量は自動的に0dBに調節されます。
- 「音量の上限」の設定は「音量の初期値」の設定よりも優先されます。たとえば、「音量の上限」を「−30.0dB」、「音量の初期値」を「−20.0dB」に設定しても、次回電源オン時の音量は自動的に「−30.0dB」に制限されます。

音量の初期値を設定する(音量の初期値)

電源をオンにしたときの音量を設定します。「オフ」に設定すると、前回本機の電源をオフにしたときの音量で再生します。

(「マニュアル設定」→「音量の設定」→「音量の初期値」)

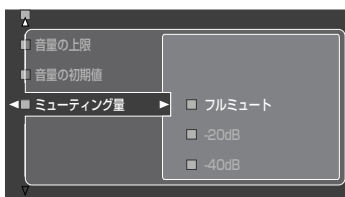
選択項目：オフ、ミュート、−80.0dB〜+16.5dB
初期設定：オフ

ご注意

「音量の上限」の設定は「音量の初期値」の設定よりも優先されます。たとえば、「音量の上限」を「−30dB」、「音量の初期値」を「−20.0dB」に設定しても、次回電源オン時の音量は自動的に「−30.0dB」に制限されます。

ミュート時の音量を設定する(ミューティング量)

ミュート(消音)時に下げる音量を調節します。

(「マニュアル設定」→「音量の設定」→「ミューティング量」)

選択項目：フルミュート、−20dB、−40dB
初期設定：フルミュート

フルミュート
完全に消音し、無音にします。

−20dB
いま聴いている音量よりも、20dB下げて再生します。

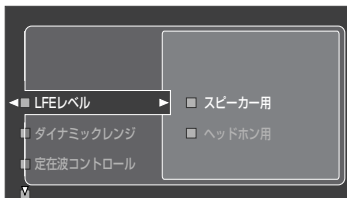
−40dB
いま聴いている音量よりも、40dB下げて再生します。

音声出力の設定を変更する(音の設定)

音質や音色の調整など、音声の出力に関する設定を行います。操作方法について詳しくは、「テレビ画面を見ながら操作する」(61ページ)をご覧ください。

LFEレベル

ドルビーデジタル、DTS、およびAAC信号に含まれる、LFE(低域効果音)の音量を調節します。スピーカーで音を聴く場合と、ヘッドホンで音を聴く場合を個別に調節できます。

(「マニュアル設定」→「音の設定」→「LFEレベル」)

スピーカー用

スピーカーで音を聴く場合のLFEの音量を調節します。

可変範囲：−20.0dB〜0.0dB
初期設定値：0.0dB

ヘッドホン用

ヘッドホンで音を聴く場合のLFEの音量を調節します。

可変範囲：−20.0dB〜0.0dB
初期設定値：0.0dB

ご注意

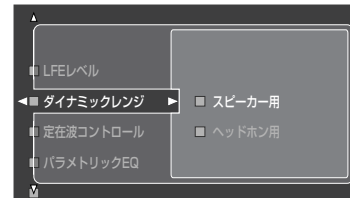
「低音出力先」の設定により、SUBWOOFER PRE OUT端子から一部の信号が出力されない場合があります。

LFE(低域効果音)とは?

映画の爆発シーンなど、意図されたシーンでのみ出力される、重低音による効果音です。

ダイナミックレンジ

ドルビーデジタル、ドルビーTrueHD、DTS、およびAAC再生時のダイナミックレンジを、3段階から選びます。スピーカーで音を聴く場合と、ヘッドホンで音を聴く場合を個別に選べます。

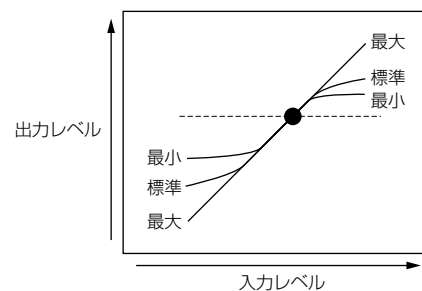
(「マニュアル設定」→「音の設定」→「ダイナミックレンジ」)

スピーカー用

スピーカーで音を聴く場合のダイナミックレンジを選びます。

選択項目：最大、標準、最小／自動
初期設定：最大

ヘッドホン用

ヘッドホンで音を聴く場合のダイナミックレンジを選びます。

選択項目：最大、標準、最小／自動
初期設定：最大

最大

入力された信号を補正せず、そのまま再生するダイナミックレンジです。

標準

一般的な家庭用として推奨するダイナミックレンジです。ドルビーTrueHD信号再生時も、入力信号からの情報にかかわらず常にダイナミックレンジは標準値に保たれます。

最小／自動

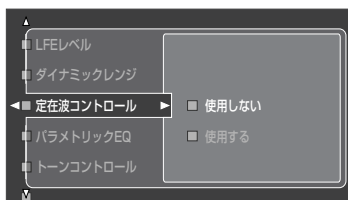
最小：　ドルビーデジタル／DTS／AAC信号再生時に設定されます。小音量でも聴きやすく、夜間に音声を楽しむのに適したダイナミックレンジです。

自動：　ドルビーTrueHD信号再生時に設定されます。入力信号からの情報に基づき、ダイナミックレンジが自動的に調節されます。

ダイナミックレンジとは?

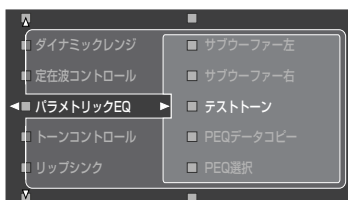
再生するソースに含まれる、最小音量から最大音量までの幅を表します。ダイナミックレンジを圧縮して音量幅を小さくすると、小音量域成分は引き上げられ、大音量域成分は引き下げられます。これにより、小音量域成分は聞き取りやすく、大音量域成分は音量を抑えて再生されます。

定在波コントロール

「自動測定メニュー」で「定在波」の項目を選んで測定・設定した場合に、補正値を使用するか使用しないかを設定します。
（「マニュアル設定」→「音の設定」→「定在波コントロール」）

選択項目：使用しない・使用する
初期設定値：使用しない

使用しない
補正値を使用しません。
使用する
補正値を使用します。定在波の影響を最小限にします。

パラメトリックEQ

パラメトリックイコライザーを使用して、それぞれのスピーカーの音色を合わせます。
（「マニュアル設定」→「音の設定」→「パラメトリックEQ」）

PEQデータコピー

自動測定メニューで得られた3種類のパラメトリックイコライザータイプの中から1種類を選んで手動編集エリアにコピーします。パラメトリックイコライザータイプについて詳しくは132ページをご覧ください。

選択項目：フラット→手動編集、フロント→手動編集、
　　　　　ナチュラル→手動編集
初期設定：フラット→手動編集

PEQ選択

実際に使うパラメトリックイコライザータイプを選びます。

選択項目：手動編集、フラット、フロントに近似、ナチュラル、
　　　　　使用しない
初期設定：手動編集

ご注意
- 自動測定メニュー（63ページ）を実施すると、「PEQセレクト」は自動的に「ナチュラル」に設定されます。
- 「PEQ選択」の設定により、「スピーカーの音量」の設定は変化します。

各スピーカーのパラメトリックイコライザーを手動で編集する

自動測定メニュー（63ページ）での測定結果を「PEQデータコピー」でコピーして、手動編集する際のベースにできます。「PEQ選択」を「手動編集」に設定してください。

1 ***⑨△／▽キーを押して、テストトーン、または調節したいスピーカーを選ぶ***

テストトーン
テストトーンを出力する、しないを選びます。サラウンドバックスピーカーを1台のみ使っている場合は、「サラウンドバック左」で調節してください。

選択項目：出力しない、出力する
初期設定値：出力しない

フロント左
フロント左スピーカーの音色を調節します。

フロント右
フロント右スピーカーの音色を調節します。

センター
センタースピーカーの音色を調節します。

サラウンド左
サラウンド左スピーカーの音色を調節します。

サラウンド右
サラウンド右スピーカーの音色を調節します。

サラウンドバック左
サラウンドバック左スピーカーの音色を調節します。

サラウンドバック右
サラウンドバック右スピーカーの音色を調節します。

フロントプレゼンス左
フロントプレゼンス左スピーカーの音色を調節します。

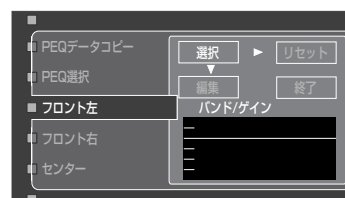
フロントプレゼンス右
フロントプレゼンス右スピーカーの音色を調節します。

リアプレゼンス左
リアプレゼンス左スピーカーの音色を調節します。

リアプレゼンス右
リアプレゼンス右スピーカーの音色を調節します。

サブウーファー左
サブウーファー左の音色を調節します。

サブウーファー右
サブウーファー右の音色を調節します。

2 ***⑨▷キーを押す***

3 ⑨△／▽／◁／▷キーを押して、「選択」を選び、⑨ENTERキーを繰り返し押して、調整したい項目を選ぶ

バンド
あらかじめ7つの中心周波数(#1～#7)を設定してあります(サブウーファーは#1、#2、#3のみ)。希望する中心周波数を選んでゲインを調整します。この機能で周波数を選んだ場合、「周波数」の項目は調節できません。

ゲイン
レベルの強さを表します。0.5dBごとに、−20.0dBから+6.0dBの間で調節できます。

周波数
可変したい中心周波数を31.3Hz～16.0kHzの間で選びます(サブウーファーは31.3Hz～250Hz)。#4～#7のバンドでは、500Hz～16kHzの周波数を選べます。

Q
指定された周波数帯域の帯域幅です。0.500～10.080の間で調節できます。

ヒント
「バンド」を選ぶと、グラフィックイコライザーとして使用できます。

4 ⑨▽キーを押して、「編集」を選び、⑨ENTERキーを押す

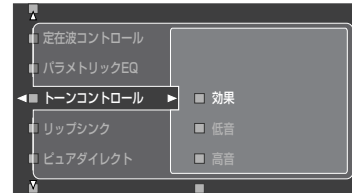
選択された項目がハイライトされます。
・⑨◁／▷キーで、調整するバンド、周波数帯、Qを選びます。
・⑨△／▽キーで、選んだ周波数帯のゲインを調整します。
・ENTERキーを押すと「編集」画面から抜けます

5 手順3、4を繰り返して、他の項目を調整する

選んだスピーカーのパラメーター設定を初期化するには、「リセット」を選び、⑨**ENTER**キーを押します。

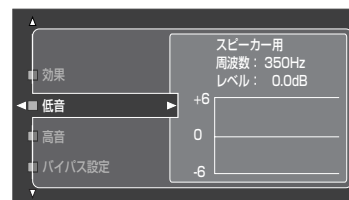
6 ⑨△／▽／◁／▷キーを押して、「終了」を選び、⑨ENTERキーを押す
テストトーン、スピーカー選択画面に戻ります。

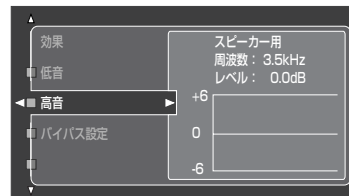
トーンコントロール

スピーカーまたはヘッドホンから出力される音声の低音域と高音域を調節します。
(「マニュアル設定」→「音の設定」→「トーンコントロール」)

効果
スピーカーから出力される音声を調節するか、ヘッドホンから出力される音声を調節するかを選びます。

選択項目：スピーカー用、ヘッドホン用

低音
低音域の音色を調節します。ターンオーバー周波数(変化が始まる周波数)は、125Hz、350Hz、500Hzのいずれかを選べます。

可変範囲：−6.0dB～+6.0dB
初期設定値：0.0dB

高音
高音域の音色を調節します。ターンオーバー周波数(変化が始まる周波数)は、2.5kHz、3.5kHz、8.0kHzのいずれかを選べます。

可変範囲：−6.0dB～+6.0dB
初期設定値：0.0dB

バイパス設定

トーンコントロールでの調節値を適用するか、適用しないかを設定します。

選択項目：自動、オフ
初期設定：自動

自動
トーンコントロールが0.0dBに設定されているときに、入力信号や動作モードを判定し、自動的にトーンコントロール回路をバイパスします。

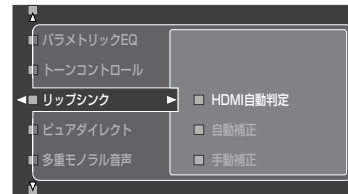
オフ
トーンコントロールの設定値や動作モードに関係なく、入力信号は常にトーンコントロール回路を通ります。

ご注意
ピュアダイレクトモード(92ページ)で再生しているとき、THXサラウンドモード(95ページ)が選択されているとき、MULTI CH INPUT端子に接続した機器を再生しているときは、トーンコントロールで音色を調節できません。

ヒント
スピーカー用とヘッドホン用のトーンコントロール設定は別々に記憶されます。スピーカー用では、フロント左／右、センター、プレゼンス左／右の各スピーカーおよびサブウーファーの音質を調節します。

リップシンク

液晶テレビやハイビジョン対応テレビなどでデジタル処理された映像が、音声よりも遅れて出力されることがあります。この出力タイミングのずれを、音声を遅らせて出力することにより補正します。
音を遅らせる時間を設定します。

(「マニュアル設定」→「音の設定」→「リップシンク」)

HDMI自動判定

リップシンクの自動補正機能に対応しているテレビを本機とHDMI接続している場合に、出力タイミングを自動的に補正します。

選択項目：オフ、オン
初期設定：オフ

テレビが自動補正機能に対応している場合：
「**オン**」に設定します。下記の「自動補正」で、補正時間を微調整できます。

テレビが自動補正機能に対応していない、または自動補正機能を使わない、テレビと本機をHDMI接続していない場合：
「**オフ**」に設定します。下記の「手動補正」で、補正時間を手動で調節してください。

自動補正

「HDMI自動判定」を「オン」に設定している場合に、補正時間を微調整します。

可変範囲：0〜240ms

ヒント
テレビ画面に表示される「オフセット」は、自動補正機能によって調節された時間と、「自動補正」によって微調整された時間の差を表しています。本機はこの「オフセット」の値を記憶して、自動補正機能を持つほかのテレビにも同じ値を適用します。

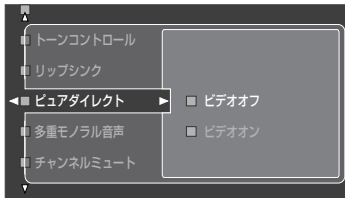
手動補正

「HDMI自動判定」を「オフ」に設定している場合や、テレビがリップシンクの自動補正機能に対応していない場合、テレビと本機をHDMI接続していない場合に、手動で補正時間を調節します。

可変範囲：0〜240ms
初期設定値：0ms

ピュアダイレクト

ピュアダイレクトモードで再生しているときに、本機の映像機能をすべて停止するか、最小限の機能は動作させるかを設定します。

（「マニュアル設定」→「音の設定」→「ピュアダイレクト」）

選択項目：ビデオオフ、ビデオオン
初期設定：ビデオオフ

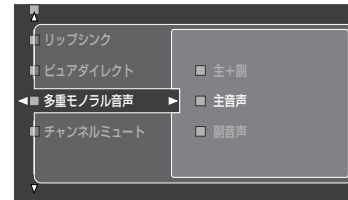
ビデオオフ
映像機能をすべて停止します。より高品位な音声を楽しめます。

ビデオオン
最小限の映像機能が動作します。

ご注意
「ビデオオン」に設定しても、ピュアダイレクトモードで再生中はメニュー画面は表示されません。

多重モノラル音声

BS／地上波デジタル放送などで使われているAACモノラル二重音声入力時に、どの音声を出力するか設定します。

（「マニュアル設定」→「音の設定」→「多重モノラル音声」）

選択項目：主＋副、主音声、副音声
初期設定：主音声

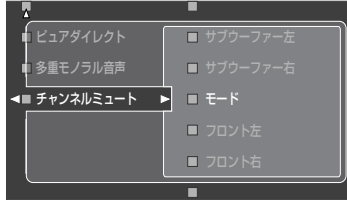
主＋副
主音声と副音声をフロント左／右スピーカーからそれぞれ同時に出力します。PCM信号が入力されている場合のフロント左／右チャンネルへの音声の振り分けは、BSデジタルチューナーの設定によって異なります。詳しくはBSデジタルチューナーの取扱説明書をご覧ください。

主音声
主音声のみをフロント左／右スピーカーから出力します。

副音声
副音声のみをフロント左／右スピーカーから出力します。

ご注意
- モノラルでない二重音声出力は、本機では設定できません。BSデジタルチューナー側で設定してください。
- AAC、ドルビーデジタル信号の二重音声（デュアルモノ）信号およびAACの音声多重（マルチモノ）信号受信時のみ、設定が有効になります。ただし、AAC多重音声の第3、第4チャンネルは選べません。BSデジタルチューナー側で設定してください。
- 地上波放送などのアナログやPCM信号での二重音声は、チューナーやビデオデッキ側で主音声/副音声を選んでください。

チャンネルミュート

チャンネルを指定して、音声をミュート（消音）します。ミュートされていないチャンネルから出力されている音声を確認することができます。
（「マニュアル設定」→「音の設定」→「チャンネルミュート」）

モード

選択項目：禁止、許可
初期設定：禁止

禁止
各チャンネルの設定にかかわらず、ミュートしません。
許可
「ミュートする」に設定したチャンネルの音声をミュートします。

フロント左

フロント左チャンネルの音声をミュートするかしないかを設定します。

選択項目：ミュートする、ミュートしない
初期設定：ミュートしない

フロント右

フロント右チャンネルの音声をミュートするかしないかを設定します。

選択項目：ミュートする、ミュートしない
初期設定：ミュートしない

センター

センターチャンネルの音声をミュートするかしないかを設定します。

選択項目：ミュートする、ミュートしない
初期設定：ミュートしない

サラウンド左

サラウンド左チャンネルの音声をミュートするかしないかを設定します。

選択項目：ミュートする、ミュートしない
初期設定：ミュートしない

サラウンド右

サラウンド右チャンネルの音声をミュートするかしないかを設定します。

選択項目：ミュートする、ミュートしない
初期設定：ミュートしない

サラウンドバック左

サラウンドバック左チャンネルの音声をミュートするかしないかを設定します。

選択項目：ミュートする、ミュートしない
初期設定：ミュートしない

サラウンドバック右

サラウンドバック右チャンネルの音声をミュートするかしないかを設定します。

選択項目：ミュートする、ミュートしない
初期設定：ミュートしない

フロントプレゼンス左

フロントプレゼンス左チャンネルの音声をミュートするかしないかを設定します。

選択項目：ミュートする、ミュートしない
初期設定：ミュートしない

フロントプレゼンス右

フロントプレゼンス右チャンネルの音声をミュートするかしないかを設定します。

選択項目：ミュートする、ミュートしない
初期設定：ミュートしない

リアプレゼンス左

リアプレゼンス左チャンネルの音声をミュートするかしないかを設定します。

選択項目：ミュートする、ミュートしない
初期設定：ミュートしない

リアプレゼンス右

リアプレゼンス右チャンネルの音声をミュートするかしないかを設定します。

選択項目：ミュートする、ミュートしない
初期設定：ミュートしない

サブウーファー左

サブウーファー左の音声をミュートするかしないかを設定します。

選択項目：ミュートする、ミュートしない
初期設定：ミュートしない

サブウーファー右

サブウーファー右の音声をミュートするかしないかを設定します。

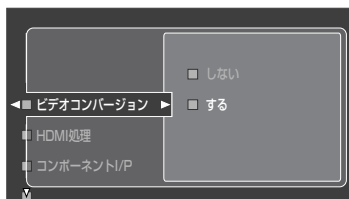
選択項目：ミュートする、ミュートしない
初期設定：ミュートしない

映像出力の設定を変更する（映像の設定）

映像出力や表示に関する設定を行います。操作方法について詳しくは、「テレビ画面を見ながら操作する」(61ページ)をご覧ください。
アドバンストセットアップメニュー「INITIALIZE」の「VIDEO」(184ページ)で、「ショートメッセージ」および「オンスクリーン表示」以外の項目を初期設定に戻せます。

ビデオコンバージョン

入力された映像信号を出力するときに、信号を他の種類の信号に変換するか、変更しないかを設定します。

(「マニュアル設定」→「映像の設定」→「ビデオコンバージョン」)

選択項目：しない、する
初期設定：する

しない
変換しません。

する
変換します。

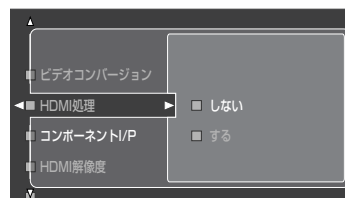
- 映像信号を最適な状態で再生するために、THX社では「ビデオコンバージョン」を「しない」に設定することを推奨しています。「しない」に設定すると、映像信号は入力された端子から同じ種類の端子へ直接出力されます。
- 変換された映像信号は、MONITOR OUT端子およびHDMI OUT端子からのみ出力されます。外部機器を使って録画するときは、再生機器と同じ種類の映像接続を行ってください。たとえば、本機と再生機器をSビデオ接続している場合は、本機と録画機器もSビデオ接続してください。
- 「しない」に設定した場合でも、セットメニューを表示させるときは、各信号が上位変換されて出力されます。

ご注意

- 本機とテレビをビデオまたはSビデオのみで接続している場合、480p以上のコンポーネントビデオ信号はテレビ画面に表示されません。
- 「する」に設定した場合でも、HDMI信号はアナログ信号に変換されません。
- 「しない」に設定した場合、「コンポーネントI/P」、「HDMI解像度」、「HDMI処理」、「HDMIアスペクト」、「ショートメッセージ」の各項目は設定できません。
- ビデオデッキを接続している場合、コンポジットビデオ信号またはSビデオ信号をコンポーネントビデオ信号に変換すると、ビデオデッキの種類によっては画質が劣化する場合があります。
- 「しない」に設定すると、ショートメッセージは表示されません。
- ゲーム機からの信号などの特殊な信号が入力された場合、「する」に設定しても、ショートメッセージは表示されません。
- 映像機器と再生するソフトの組み合わせにより、映像が正しく出力されない場合があります。このような場合は、「しない」に設定してください。

HDMI処理

HDMI IN端子から入力した映像信号を処理するか、処理しないかを設定します。

(「マニュアル設定」→「映像の設定」→「HDMI処理」)

選択項目：しない、する
初期設定：しない

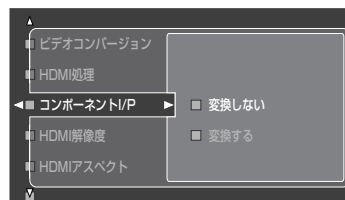
しない
HDMI入力信号を処理しません。HDMI入力信号に対する「HDMI解像度」および「HDMIアスペクト」の設定は無効になります。

する
HDMI入力信号を処理します。HDMI入力信号に対する「HDMI解像度」および「HDMIアスペクト」の設定は有効になります。

「ビデオコンバージョン」が「する」のときに設定できます。

コンポーネントI/P

コンポジット端子、Sビデオ端子、コンポーネント端子から入力されたアナログ映像入力信号をコンポーネント端子から出力するときに、480i信号を480p信号に変換するか変換しないかを設定します。

(「マニュアル設定」→「映像の設定」→「コンポーネントI/P」)

選択項目：変換しない、変換する
初期設定：変換しない

ご注意

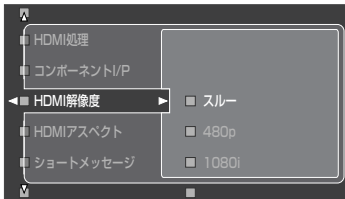
- 480p信号に対応していないテレビをコンポーネント接続のみしている場合は、「変換する」に設定しないでください。セットメニューが表示されなくなります。誤って「変換する」に設定してしまい、セットメニューが表示されなくなった場合は、アドバンストセットアップメニュー「INITIALIZE」の「VIDEO」(184ページ)で、初期設定に戻してください。
- 「HDMI処理」を「する」に設定している場合は、「コンポーネントI/P」を設定できないことがあります。

HDMI解像度

映像入力信号をHDMI OUT端子から出力するときに解像度を変換します。

各入力信号は以下の信号に変換できます。

- 480i → 480p／1080i／720p／1080p
- 480p → 1080i／720p／1080p
- 1080i → 480p／720p／1080p
- 720p → 480p／1080i／1080p

（「マニュアル設定」→「映像の設定」→「HDMI解像度」）

選択項目：スルー、480p、1080i、720p、1080p
初期設定：スルー

スルー
解像度を変換せずにそのまま出力します。

480p
480p信号に変換して出力します。

1080i
1080i信号に変換して出力します。

720p
720p信号に変換して出力します。

1080p
1080p信号に変換して出力します。

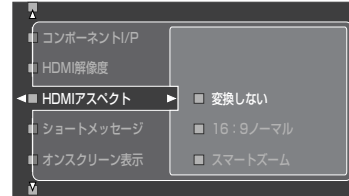
「ビデオコンバージョン」が「する」のときに設定できます。

ご注意

- アドバンストセットアップメニュー「MONITOR CHECK」で、テレビが対応していない解像度を選択できるようにするか、できないようにするかを設定できます（185ページ）。テレビが対応している解像度を本機が検出できない場合は、「MONITOR CHECK」を「SKIP」に設定してから、再度「HDMI解像度」を設定してください。
- 1080iまたは720p、1080p信号に対応していないテレビを接続している場合は、「1080i」または「720p」、「1080p」に設定しないでください。セットメニューが表示されなくなります。誤って「480p」または「1080i」、「720p」、「1080p」に設定してしまい、セットメニューが表示されなくなった場合は、アドバンストセットアップメニュー「INITIALIZE」の「VIDEO」（184ページ）で、初期設定に戻してください。
- 「HDMI解像度」の設定により、入力信号が下位変換されることがあります。

HDMIアスペクト

映像入力信号をHDMI OUT端子から出力するときに、縦横比（アスペクト比）4：3の映像信号を16：9に変換します。

（「マニュアル設定」→「映像の設定」→「HDMIアスペクト」）

選択項目：変換しない、16：9ノーマル、スマートズーム
初期設定：変換しない

変換しない
縦横比を変換せずに、元の比率で映し出します。

16:9ノーマル
テレビ画面の左右に黒い帯をつけて、4:3の映像を16:9のテレビで最適な映像になるように出力します。

スマートズーム
4:3の映像の左右を引きのばして、16:9のテレビで最適な映像になるように出力します。

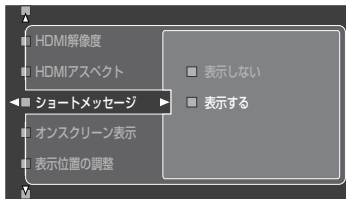
「ビデオコンバージョン」が「する」のときに設定できます。

ご注意

- 「HDMI解像度」で「スルー」を選んでいる場合は、「HDMIアスペクト」の設定は変更できません。
- アスペクト比が4：3以外の映像信号が入力された場合は、「HDMIアスペクト」の設定は無効になります。
- 720pまたは1080i、1080pコンポーネントビデオ信号を入力している場合は、「HDMIアスペクト」を設定してもHDMI OUT端子から出力される映像信号のアスペクト比は変わりません。

ショートメッセージ

ショートメッセージとは、入力ソースの変更や音量の調節などの操作をしたときに、テレビ画面の下部に表示される情報です。このショートメッセージを表示するか、表示しないかを設定します。

（「マニュアル設定」→「映像の設定」→「ショートメッセージ」）

選択項目：表示しない、表示する
初期設定：表示する

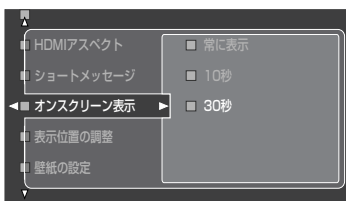
「ビデオコンバージョン」が「する」のときに設定できます。

ご注意

- 入力されている映像信号やお使いのテレビ／プロジェクターによっては、ショートメッセージが乱れて見えることがあります。
- 「表示する」に設定しても、以下の場合はショートメッセージは表示されません。
  - ハイビジョン映像が入力されている
  - HDMI映像信号が入力されている。

オンスクリーン表示

iPodやUSBデバイス、ネットワークオーディオを操作したときに、テレビ画面にメニューを表示する時間を設定します。

（「マニュアル設定」→「映像の設定」→「オンスクリーン表示」）

選択項目：常に表示、10秒、30秒
初期設定：30秒

常に表示
メニューを常に表示します。

10秒
メニューを10秒間表示します。

30秒
メニューを30秒間表示します。

表示位置の調整

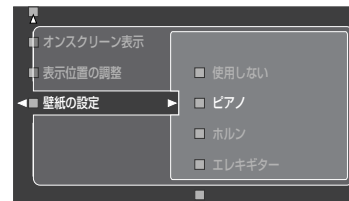
テレビ画面に表示される文字の位置を調節します。

（「マニュアル設定」→「映像の設定」→「表示位置の調整」）

可変範囲：−5〜+5（上下）、−5〜+5（左右）
初期設定値：0

壁紙の設定

映像が入力されていないときに表示する、壁紙を選びます。

（「マニュアル設定」→「映像の設定」→「壁紙の設定」）

選択項目：使用しない、ピアノ、ホルン、エレキギター、灰色無地
初期設定：ピアノ

ご注意

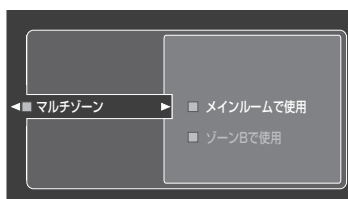
「ビデオコンバージョン」を「しない」に設定している場合は、「使用しない」以外に設定しても壁紙は表示されません。

フロントスピーカーBの設定を変更する(マルチゾーン)

フロントスピーカーBの設置場所を設定します。操作方法について詳しくは、「テレビ画面を見ながら操作する」(61ページ)をご覧ください。フロントスピーカーBの接続について詳しくは、「スピーカーを接続する」(27ページ)をご覧ください。また、フロントスピーカーの切り替えについて詳しくは、「音声を出力するフロントスピーカーを選ぶ」(81ページ)をご覧ください。

スピーカーB

リアパネルのFRONT B端子に接続したフロントスピーカーBの設置場所を設定します。

(「マニュアル設定」→「マルチゾーン」→「スピーカーB」)

選択項目：メインルームで使用、ゾーンBで使用
初期設定：メインルームで使用

メインルームで使用
メインリスニングルームで使うときの設定です。フロントスピーカーAとフロントスピーカーBの出力のオン／オフは、ⒼSPEAKERS A／Bスイッチで切り替えます。

ゾーンBで使用
別の部屋で使うときの設定です。フロントスピーカーAの出力をオフ、フロントスピーカーBの出力をオンにすると、メインルームに設置しているすべてのスピーカーから音が出なくなります。

ご注意

- 「ゾーンBで使用」に設定してお使いの場合、本機のPHONES端子にヘッドホンを差し込むと、ヘッドホンとフロントスピーカーBの両方から音声が出力されます。
- 「ゾーンBで使用」に設定してお使いの場合、音場プログラムを選んで音場効果をかけると、自動的にバーチャルシネマDSPモードでの再生になります(91ページ)。

ネットワークの設定を変更する(ネットワーク設定)

ネットワークに関する設定項目や、パソコンに保存されたファイルを再生するときの方法などを設定します。操作方法について詳しくは、「テレビ画面を見ながら操作する」(61ページ)をご覧ください。
アドバンストセットアップメニュー「INITIALIZE」の「NETWORK」(184ページ)で、すべての項目を初期設定に戻せます。

構成

IPアドレスなどのネットワーク設定値の確認や、ネットワーク設定をします。設定は、DHCPサーバー機能によって自動的に設定する方法と、IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNSサーバーアドレスを手動で設定する方法があります。ルーターにDHCPサーバー機能がある場合は、「DHCP」メニューで「オン」を選べば、簡単に設定できます。
(「マニュアル設定」→「ネットワーク設定」→「構成」)

ご注意
上図はテレビ画面表示の一例です。

1 ⑨△／▽キーを押して、「DHCP」のオン／オフを選ぶ

DHCP

ネットワークを自動的に設定するか、手動で設定するかを選びます。

選択項目：オフ、オン
初期設定：オン

オフ
ネットワークを手動で設定します。
オン
ネットワークを自動で設定します。

ヒント
通常は「オン」を選ぶことをおすすめします。その際、ルーターにDHCPサーバー機能があることをご確認ください。

ご注意
自動設定した数値は手動で変更できません。

2 ⑨ENTERキーを押す

手順1で「オフ」を選んだ場合は、手順3へ進みます。
「オン」を選んだ場合は、手順8へお進みください。

3 ⑨△／▽キーを押して、「IPアドレス」を選ぶ

IP アドレス

IPアドレスを手動で設定します。

4 ⑨▷キーを押す

5 ⑨◁／▷キーで数値の入力位置を合わせる

6 ⑨△／▽キーで数値を変更する

手順5、6を繰り返してください。

7 数値を変更し終わったら、⑨ENTERキーを押す

「ネットワーク設定」画面に戻ります。
下記の4つの項目も同様に設定してください。

サブネット マスク

サブネットマスクを手動で設定します。

ヒント
通常は「255.255.255.0」を入力してください。

デフォルトゲートウェイ

デフォルトゲートウェイを手動で設定します。

DNS サーバー(P)

プライマリーDNSサーバーを手動で設定します。

ヒント
DNSアドレスが1つの場合は、「DNSサーバー(P)」に入力してください。

DNS サーバー(S)

セカンダリーDNSサーバーを手動で設定します。

ヒント
DNSアドレスが2つ以上ある場合は、1つを「DNS サーバー(P)」に、ほかの1つを「DNS サーバー(S)」に入力してください。

8 ⑨△／▽キーを押して、「設定」を選ぶ

「ENTERで設定」と表示されます。

設定

「DHCP」で「オン」を選んだ場合は、自動設定を開始します。手動設定した場合は、上記の5つの項目で変更した数値を設定します。

9 ⑨ENTERキーを押す

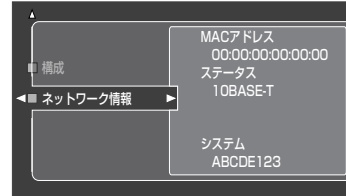
設定を終了します。

ご注意

ネットワーク環境を変更した場合、ネットワークを再設定しなければならないことがあります。

ネットワーク情報

MACアドレスやネットワークとの接続状況を表示します。

（「マニュアル設定」→「ネットワーク設定」→「ネットワーク情報」）

MACアドレス

本機のMACアドレスを表示します。

ステータス

ネットワークとの接続状況を表示します。

表示項目：接続されていません、10BASE-T、100BASE-TX、全二重、半二重

ご注意

ネットワークが接続されていない場合は、「接続されていません」と表示されます。

システム

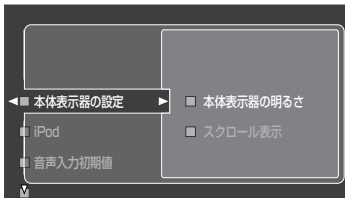
本機に割り当てられたシステムIDを表示します。

その他の設定を変更する（その他の設定）

表示の設定など、さまざまな機能の設定を行います。操作方法について詳しくは、「テレビ画面を見ながら操作する」（61ページ）をご覧ください。

本体表示器の設定

フロントパネルディスプレイ表示の明るさや、スクロール表示の方法を設定します。

（「マニュアル設定」→「その他の設定」→「本体表示器の設定」）

本体表示器の明るさ

フロントパネルディスプレイ表示の明るさを調節します。数値が小さいほど表示が暗くなり、数値が大きいほど表示が明るくなります。

可変範囲：－4～0
初期設定値：0

スクロール表示

iPodやネットワークオーディオ、USBデバイスの曲名や放送局名などがフロントパネルディスプレイに表示されるときに、14文字を超える場合の表示方法を設定します。

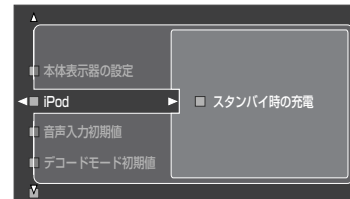
選択項目：継続、1回
初期設定：継続

継続
すべての文字をスクロールしながら、繰り返し表示します。

1回
すべての文字を一度スクロールして表示したあと、スクロールを停止し、最初の文字から14文字目までを表示します。

iPod

本機がスタンバイのときに、本機に接続したヤマハ製ドック（YDS-10など）にセットしたiPodの充電モードを設定します。

（「マニュアル設定」→「その他の設定」→「iPod」）

スタンバイ時の充電

選択項目：オフ、自動
初期設定：自動

オフ
本機がスタンバイのときはiPodを充電しません。

自動
iPodを充電します。

ヒント

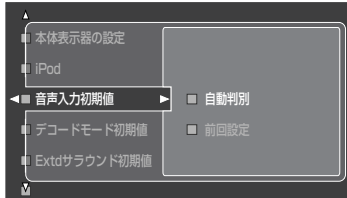
本機の電源がオンのときは、「スタンバイ時の充電」の設定にかかわらず、常にiPodを充電しています。

ご注意

本機が対応していないiPod（iPod（クリックホイール）、iPod nano、iPod mini以外）は充電できません。

音声入力初期値

電源を入れたときに適用する入力モードを設定します。入力モードについて詳しくは、「入力信号を切り替える(入力モード切り替え)」をご覧ください(107ページ)。

(「マニュアル設定」→「その他の設定」→「音声入力初期値」)

選択項目:自動判別、前回設定
初期設定:自動判別

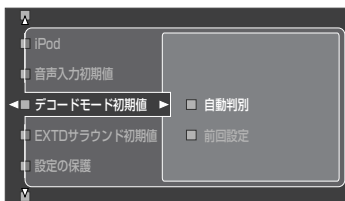
自動判別
電源をオンにしたときに自動的に入力モードを「AUTO」に設定します。

前回設定
前回使っていた入力モードの設定を適用します。

「音声入力選択」で入力モードを設定することができます(146ページ)。

デコードモード初期値

電源を入れたときに適用するデコードモードを設定します。デコードモードについて詳しくは、「入力選択・設定」の「デコードモード」をご覧ください(147ページ)。

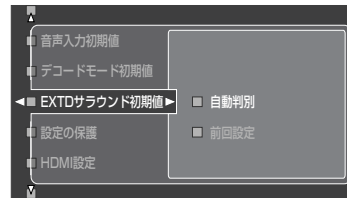
(「マニュアル設定」→「その他の設定」→「デコードモード初期値」)

選択項目:自動判別、前回設定
初期設定:自動判別

自動判別
電源をオンにしたときに自動的にデコードモードを「自動判別」に設定します。

前回設定
前回使っていたデコードモードの設定を適用します。

EXTDサラウンド初期値

電源を入れたときに適用する6.1/7.1チャンネル再生時の再生モード(デコーダー)を設定します。6.1/7.1チャンネル再生時の再生モード(デコーダー)について詳しくは、「ドルビーデジタル/DTSソフトを6.1/7.1チャンネルで楽しむ」をご覧ください(94ページ)。

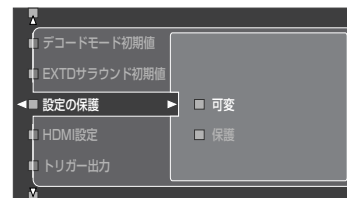
(「マニュアル設定」→「その他の設定」→「EXTDサラウンド初期値」)

選択項目:自動判別、前回設定
初期設定:自動判別

自動判別
電源をオンにしたときに自動的に再生モードを「AUTO」に設定します。

前回設定
前回使っていた再生モードの設定を適用します。

設定の保護

変更した設定値を保護します。「保護」に設定すると、誤操作による設定値の変更を防ぎます。

(「マニュアル設定」→「その他の設定」→「設定の保護」)

選択項目:可変、保護
初期設定:可変

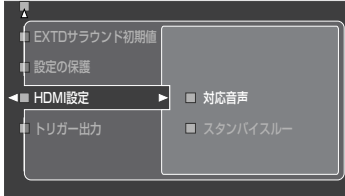
「保護」に設定すると以下の設定が保護されます。
・音場パラメーターの設定(114ページ)
・「自動測定メニュー」の設定(63ページ)
・「設定の保護」以外の「マニュアル設定」の設定
・「システムメモリー」で保存した設定(150ページ)
・スピーカーの音量設定(108ページ)

ヒント

- 「保護」に設定しても、「システム・メモリー」の「設定の呼び出し」で設定を呼び出せます(153ページ)。
- 保護されている設定を変更しようとすると、テレビ画面に「保護されています」と表示されます。

HDMI設定

本機のHDMI IN端子から入力した信号の出力について設定します。

（「マニュアル設定」→「その他の設定」→「HDMI設定」）

対応音声

HDMI音声入力信号を再生する機器を設定します。

選択項目：DSP-Z11、その他機器
初期設定：DSP-Z11

DSP-Z-11
入力信号を本機で再生します。HDMI IN端子に接続したHDMI機器から入力した信号は、HDMI OUT端子に伝送しません。

その他機器
HDMI OUT端子に接続した機器で再生します。本機では再生しません。

ご注意
- 本機の電源がオフのときは、「その他の機器」に設定していてもHDMI IN端子からの入力信号はHDMI OUT端子に伝送されません。
- 接続機器の仕様により、信号が再生できない場合があります。接続機器の仕様については、接続機器の取扱説明書をご覧ください。

スタンバイスルー

本機がスタンバイのときに、HDMI IN端子から入力したHDMI信号をHDMI OUT端子から出力するか出力しないかを設定します。また、信号を入力／出力するHDMI端子を設定します。

選択項目：オフ、オン
初期設定：オフ

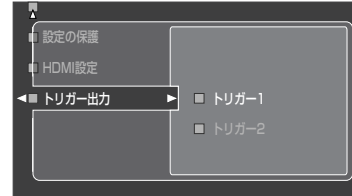
オフ
HDMI入力信号をHDMI OUT端子から出力しません。

オン
HDMI入力信号をHDMI OUT端子から出力します。入力端子は「IN1」～「IN4」および「前面端子」の中から、また、出力端子は「OUT1」または「OUT2」から選んでください。初期設定では、「IN1」および「OUT1」に設定されています。信号に対する処理は行いません。

ご注意
- 「オン」に設定している場合、本機の電源がスタンバイのときに入力したHDMI信号はHDMI OUT 1端子またはHDMI OUT 2端子からのみ出力されます。
- 「オン」に設定している場合は、「オフ」の場合よりも多くの待機時消費電力を必要とします。
- 長時間本機を使用しないときは、Ⓑ**MASTER ON/OFF**スイッチを押して、OFFにしておくことをおすすめします。

トリガー出力

TRIGGER OUT端子に接続した機器のコントロール機能に関する設定をします。TRIGGER OUT端子について詳しくは、55ページをご覧ください。

（「マニュアル設定」→「その他の設定」→「トリガー出力」）

1 ***⑨◁／▷キーを押して、設定するTRIGGER OUT端子を選ぶ***

選択項目：トリガー1、トリガー2
初期設定：トリガー1

2 ***⑨ENTERキーを押す***

3 ***⑨△／▽キーを押して、連動させる動作を選ぶ***

パワー
本機の電源をオンにしたときに電気信号を出力します。「パワー」を選んだ場合、手順3で設定は終了です。

ソース
本機の電源をオンにしたときに電気信号を出力したり、出力を停止したりします。⑨**ENTER**キーを押してから、「ソースを選んだ場合」にお進みください。

マニュアル
手動で電気信号を出力したり、出力を停止したりします。⑨**ENTER**キーを押してから、「マニュアルを選んだ場合」にお進みください。

「ソース」を選んだ場合

4 ***⑨△／▽キーを押して、入力ソースを選ぶ***

5 ***⑨ENTERキーを押す***

6 ***⑨△／▽キーを押して、動作を選ぶ***

選択項目：入力L、入力H
初期設定：入力H

入力L
手順4で選んだソースを入力選択したときに電気信号の出力を停止します。
入力H
手順4で選んだソースを入力選択したときに電気信号を伝送します。

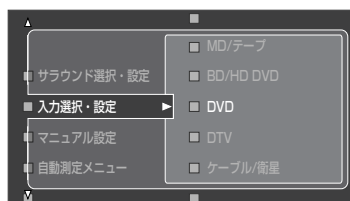
「マニュアル」を選んだ場合

4 ⑨△／▽キーを押して、動作を選ぶ

選択項目：L、H
初期設定：H

L
電気信号の出力を停止します。
H
電気信号を出力します。

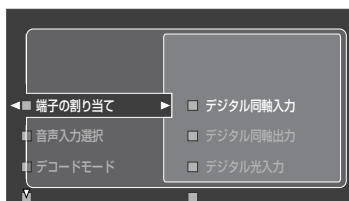
入出力の設定を変更する（入力選択・設定）

各入力ソースごとに、入出力端子の割り当てなど、信号の入出力に関する設定を行います。最初に、以下の中から設定を変更したい入力ソースを選びます。

チューナー	BD/HD DVD	補助入力
マルチCH入力	DVD	ドック
フォノ	DTV	ネット/USB
CD	ケーブル/衛星	→ PC/MCX
CD-R	DVR	→ ネットラジオ
MD/テープ	VCR	→ USB

ご注意
入力ソースにより、設定できるセットメニュー項目は変わります。

端子の割り当て

本機の映像入力端子や音声入力端子に外部機器を接続するときに、外部機器の名称とは違う機器名が書かれている端子に接続すると、入力ソースを外部機器の名称通りに正しく選択できなくなってしまいます。
ここでは、デジタルテレビを「DTV」と書かれていない端子に接続しても、「DTV」キーを押せば正しくデジタルテレビを選択できるように設定する場合を例に説明します。

（「入力選択・設定」→「<入力ソース名>」→「端子の割り当て」）

選択項目：接続しない、デジタル同軸入力⑤～⑧、デジタル光入力①～④、デジタル光出力、デジタル同軸出力、アナログI/O[1]～[5]、コンポーネント映像[A]～[D]、HDMI IN1～IN4
初期設定：デジタル同軸入力⑤－CD、⑥－BD/HD DVD、⑦－DVD、⑧－DTV
デジタル同軸出力－DVR
デジタル光入力①－MD/テープ、②－DVD、③－ケーブル/衛星、④－DVR
デジタル光出力－CD-R
アナログI/O[1]－DVD、[2]－DTV、[3]－ケーブル/衛星、[4]－DVR、[5]－VCR
コンポーネント映像[A]－BD/HD DVD、[B]－DVD、[C]－ケーブル/衛星、[D]－DVR
HDMI [IN1]－BD/HD DVD、[IN2]－DVD、[IN3]－ケーブル/衛星、[IN4]－DVR

例： **デジタルテレビが使う同軸デジタル端子の割り当てを変更する**
デジタルテレビ用の同軸デジタル入力端子は初期設定で⑧に設定されています。
これを⑤に変更したい場合は、「DTV－端子の割り当て－デジタル同軸入力」で⑤を選び、⑨**ENTER**キーを押します。
「⑤CD」が「⑤DTV」へと変わり、割り当てが変更されます。（このときCDプレーヤーの割り当ては、デジタルテレビの割り当てと入れ替わり、「⑧CD」となります。）

ヒント
- ①～⑧、[1]～[5]、[A]～[D]、IN1～IN4の文字は実際にリアパネルの端子に印刷されている文字と対応しています。
- 「コンポーネント映像」は映像系の入力を選んでいるときのみ、端子の割り当てを変更できます。

ご注意
- 選んだ入力ソースの音声は、「接続しない」に設定されている端子からは出力されません。
- フロントパネルのOPTICAL端子およびHDMI端子の入力はV-AUX（補助入力）に固定されています。端子の割り当てを変更することはできません。

音声入力選択

入力モードを切り替えます。音声信号をどの接続端子から入力するかを自動的に切り替えたり、特定の接続端子に固定したりできます。

（「入力選択・設定」→「<入力ソース名>」→「音声入力選択」）

選択項目：自動判別、HDMI、同軸/光、アナログ
初期設定：自動判別

自動判別
自動的に入力端子を選びます。以下の順序で入力端子を選びます。
①HDMI
②同軸デジタル
③光デジタル
④アナログ

HDMI
HDMI端子に固定されます。HDMI信号以外の信号が入力されても再生されません。

同軸/光
同軸／光デジタル信号に固定されます。両方同時に入力している場合は、同軸デジタル信号を優先します。同軸／光デジタル信号以外の信号が入力されても再生されません。

アナログ
アナログ端子に固定されます。アナログ信号以外の信号が入力されても再生されません。

ヒント

- リモコンの㉕**AUDIO SEL**キーを押して、入力モードを切り替えることもできます（107ページ）。
- セットメニュー「音声入力初期値」（143ページ）で、電源を入れたときに適用する入力モードを設定できます。

ご注意

- 各入力端子に外部機器が接続されていない場合、入力モードを指定しても音声は出力されません。
- 「デコードモード」（下記参照）で、「DTS固定」または「AAC固定」を選んでいる場合、「アナログ」にしてもアナログ音声は出力されません。

デコードモード

デコードモードを切り替えます。選んだ音声入力端子から入力する信号を、DTSなどの特定の信号に固定したりできます。

（「入力選択・設定」→「＜入力ソース名＞」→「デコードモード」）

選択項目：自動判別、DTS固定、AAC固定
初期設定：自動判別

自動判別
自動的に入力信号を選びます。
DTS固定
DTS信号に固定されます。DTS信号以外の信号が入力されても再生されません。
AAC固定
AAC信号に固定されます。AAC信号以外の信号が入力されても再生されません。

ヒント

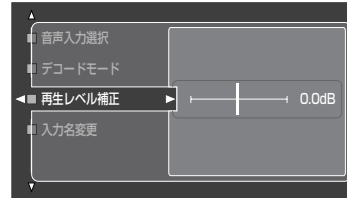
- DTS-CDを再生する場合は、「DTS」に設定して再生することをおすすめします。
- 「デコードモード初期値」で、本機の電源を入れたときに、前回使っていたデコードモードをそのまま使うか、「自動判別」に戻すかを設定できます（143ページ）。

ご注意

- 同軸デジタル入力端子と光デジタル入力端子へ同時にデジタル信号が入力されると、同軸デジタル入力端子への入力信号が優先されます。
- プレーヤーから出力されるデジタル信号に、音量可変などの処理がされている場合は、本機とプレーヤーをデジタル接続しても、DTS音声は再生されません。

再生レベル補正

入力ソース間の音量差を補正します。入力ソースごとに異なる音量を同じレベルに補正すれば、入力ソースを切り替えるたびに音量を微調整する必要がなくなります。

（「入力選択・設定」→「＜入力ソース名＞」→「再生レベル補正」）

可変範囲：－6.0dB～＋6.0dB
初期設定値：0.0dB

「NET/USB」を選んでいる場合は、ネットワークオーディオおよびUSBデバイスの再生レベルを個別に設定できます。

入力名変更

各入力ソース名を変更します。変更後はその名前でテレビ画面に入力名が表示されます。

（「入力選択・設定」→「＜入力ソース名＞」→「入力名変更」）

1　⑨◁／▷キーを押して、文字の入力位置を合わせる

2　⑨ENTERキーを繰り返し押して、入力する文字群を選ぶ

入力できる文字は以下のとおりです。

- 英大文字: A～Z
- 英小文字: a～z
- ラテン大文字: Ä，Ö，Ü など
- ラテン小文字: ä，ö，ü など
- 数字: 0～9
- 記号: ＃＊＋，－．／：＜＞？など
- カナ文字：ア～ー
- スペース（空白）

3 ⑨△／▽キーを押して、入力する文字を選ぶ

文字は最大9文字まで入力できます。手順1〜3を繰り返してください。

4 文字を入力し終わったら、⑨▷キーで「決定」を選び、⑨ENTERキーを押す

ヒント

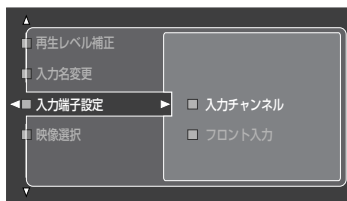
- テレビ画面の表示を日本語以外に設定している場合、入力できる文字は英大文字、英小文字、ラテン大文字、ラテン小文字、数字、記号、スペースです。
- 「リセット」を選んで⑨**ENTER**キーを押せば、変更した名前を初期設定に戻せます。
- リモコンディスプレイに表示される機器名も変更できます。詳しくは、「リモコンに表示される機器の名前を変更する」をご覧ください（176ページ）。

ご注意

フロントパネルディスプレイでの表示は英語のままです。日本語やラテン文字で変更した内容は反映されません。

入力端子設定

MULTI CH INPUT端子に接続された機器の音声を再生するときに、入力する信号のチャンネル数を設定します。ここでは、サブウーファー用のLFE 0.1チャンネルも1チャンネルとして数えます。

（「入力選択・設定」→「マルチCH入力」→「入力端子設定」）

入力チャンネル

入力する信号のチャンネル数を設定します。

選択項目：6チャンネル、8チャンネル
初期設定：6チャンネル

6チャンネル
5.1チャンネル信号を入力するときの設定です。

8チャンネル
7.1チャンネル信号を入力するときの設定です。アナログ音声入力端子をフロントチャンネル用の端子として使います。この設定を選ぶと、右記の「フロント入力」メニューが表示されます。フロントチャンネル用として使うアナログ音声入力端子を設定してください。

フロント入力

左記「入力チャンネル」で「8チャンネル」を選んだ場合に表示されます。フロントチャンネル用の端子として使うアナログ音声入力端子を設定します。「マルチチャンネル出力端子がある機器を接続する」（53ページ）の「7.1チャンネル音声を入力する場合」で、フロントチャンネル用として接続した端子に合わせて設定してください。たとえば、「7.1チャンネル音声を入力する場合」のようにDVRアナログ音声入力端子に接続した場合は、「DVR」に設定してください。

選択項目：BD/HD DVD、DVD、DTV、ケーブル／衛星、DVR、VCR、補助入力、CD、CD-R、MD/テープ
初期設定：DVD

映像選択

MULTI CH INPUT端子に接続された機器の音声を楽しみながら、バックグラウンドビデオ機能（93ページ）を使って映像も楽しむときに、組み合わせる映像入力ソースを選びます。

（「入力選択・設定」→「マルチCH入力」→「映像選択」）

選択項目：前の映像保持、映像なし、BD/HD DVD、DVD、DTV、ケーブル/衛星、DVR、VCR、補助入力
初期設定：前の映像保持

前の映像保持
前回選んだ映像入力ソースを再生します。

映像なし
バックグラウンドビデオ機能を使いません。

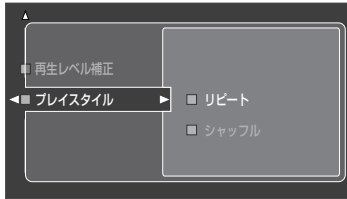
BD/HD DVD〜補助入力
選んだ映像入力ソースを再生します。

ご注意

- 「入力名変更」で入力ソース名を変更した場合、変更した名前が表示されます。
- 「前の映像保持」を選んだ場合、バックグラウンド機能で組み合わせる映像入力ソースはリモコンでのみ選べます。

プレイスタイル

パソコンに保存されている音楽ファイルや、USBデバイスを再生しているときの再生スタイルを設定します。「PC/MCX」の設定と「USB」の設定は連動しているため、どちらかの入力ソースで設定を変更すると、もう一方の入力ソースの設定も自動的に同じ設定に変更されます。

（「入力選択・設定」→「ネット/USB」→「PC/MCX」または「USB」→「プレイスタイル」）

リピート

曲やアルバムを繰り返し再生します。

選択項目：オフ、1曲、全曲
初期設定：オフ

オフ
リピート再生しません。

1曲
選んだ曲を繰り返し再生します。オンスクリーン画面右上に「」が表示されます。

全曲
選んだディレクトリ内のすべての曲を繰り返し再生します。オンスクリーン画面右上に「」が表示されます。

ヒント

「1曲」を選んでいるときに本機の電源をオフにした場合、設定が「オフ」にリセットされます。

シャッフル

曲やアルバムの順番をランダムに再生します。

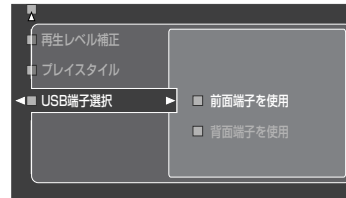
選択項目：オフ、オン
初期設定：オフ

オフ
ランダム再生しません。

オン
選んだディレクトリ内のすべての曲をランダムに再生します。オンスクリーン画面右上に「」が表示されます。

USB端子選択

使用するUSB端子をフロントパネルUSB端子とリアパネルUSB端子のどちらかに設定します。

（「入力選択・設定」→「ネット/USB」→「USB」→「USB端子選択」）

選択項目：前面端子を使用、背面端子を使用
初期設定：前面端子を使用

前面端子を使用

フロントパネルに装備されているUSB端子を使って、USBデバイスを再生します。フロントパネルディスプレイのUSB端子インジケーター「F」が点灯します。

背面端子を使用

リアパネルに装備されているUSB端子を使って、USBデバイスを再生します。フロントパネルディスプレイのUSB端子インジケーター「R」が点灯します。

メニューで設定を変更する

本機の設定を呼び出す・保存する(システムメモリー)

本機の状態(各種設定や音場プログラムなど)を保存し、あとで簡単に呼び出して使うことができます。たとえば、複数のリスニングポジションでYPAOによる測定を行い、それぞれを保存して、あとで使い分けたりすることができます。
また、特性の違うスピーカーを2組接続している場合に、それぞれのスピーカー設定を保存して使い分けたりするときに便利です。
以下の設定を保存できます。

現在の設定を保存する

⑦ SYSTEM MEMORYキーを使って保存する

リモコンの⑦**SYSTEM MEMORY**1～4キーを使って、現在の設定を保存します。

1 ***⑯操作機器選択スイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ***

2 ***設定を保存する⑦SYSTEM MEMORYキーを約4秒間押し続ける***

フロントパネルディスプレイに「Memory1 SAVE」(例)と表示され、押した⑦**SYSTEM MEMORY**キーに現在の設定が保存されます。

ヒント

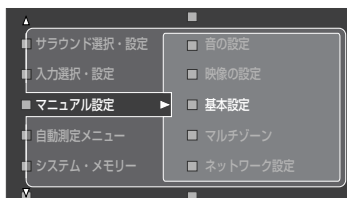
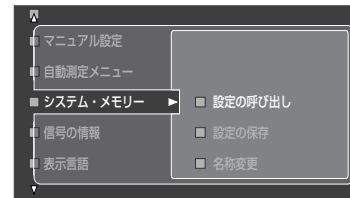
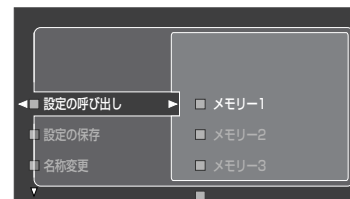
- ⑦**SYSTEM MEMORY**キーに設定がすでに保存されている場合は、新しい設定が上書きされます。
- ⑦**SYSTEM MEMORY**1～4キーの設定は、下記「セットメニューを使って保存する」のメモリー1～4の設定に対応しています。

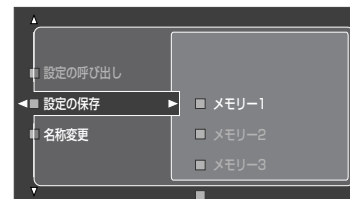
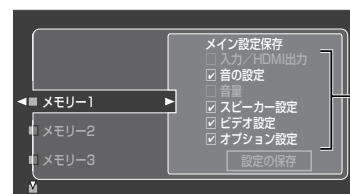
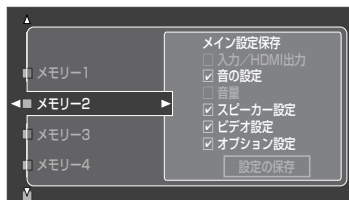
セットメニューを使って保存する

セットメニュー「システムメモリー」を使えば、メモリー1からメモリー10までの10通りの設定を保存できます。

1 ***⑯操作機器選択スイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ***

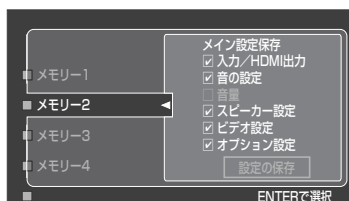
2 ***⑲MENUキーを押す***

テレビ画面にメニューが表示されます。

3 ***⑨△／▽キーを押して、「システムメモリー」を選ぶ***

4 ***⑨ENTERキーを押す***

5 ***⑨△／▽キーを押して、「設定の保存」を選ぶ***

6 ***⑨ENTERキーを押す***

7 ⑨△／▽キーを繰り返し押して、設定を保存するメモリー（メモリー1～10）を選ぶ

ヒント

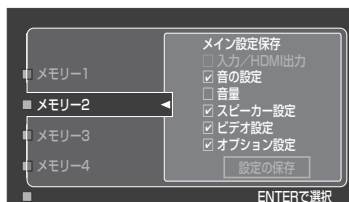
メモリー1～4の設定は、「⑦**SYSTEM MEMORY**キーを使って保存する」（150ページ）の⑦**SYSTEM MEMORY**1～4キーの設定に対応しています。メモリー1からメモリー4までのメモリーに設定を保存すれば、⑦**SYSTEM MEMORY**1～4キーを押して、保存した設定を簡単に呼び出せます。

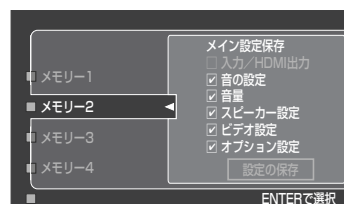
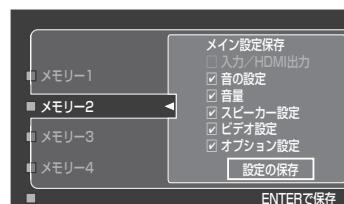
8 ⑨ENTERキーを押す

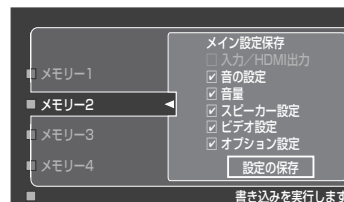
保存する項目の選択画面が表示されます。

ヒント

設定を保存しない場合は、⑨◁キーを押してください。

9 ⑨△ ／ ▽キーを繰り返し押して項目を選ぶ

選んでいる項目は赤字で表示されます。ここでは例として「音量」を選んだ場合をイラストで示します。

10 ⑨ENTERキー押す

保存する項目にチェックマークを入れます。保存しない項目はチェックマークを外します。

11 ⑨▽キーを繰り返し押して、「設定の保存」を選ぶ

12 ⑨ENTERキー押す

手順11で選んだメモリーに現在の設定が保存されます。

ヒント

選んだメモリーに設定がすでに保存されている場合は、新しい設定が上書きされます。

13 設定を終了する場合は、⑲MENUキーを押す

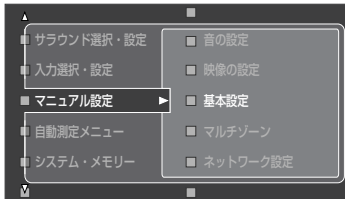
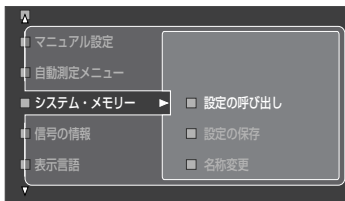
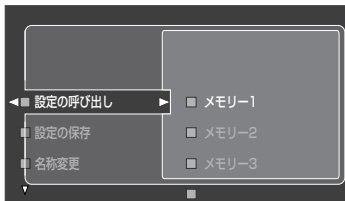
テレビ画面の表示が消えます。

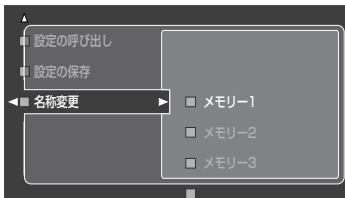
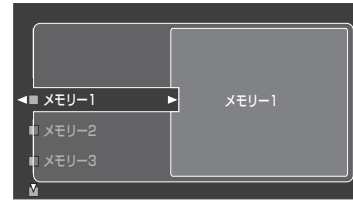
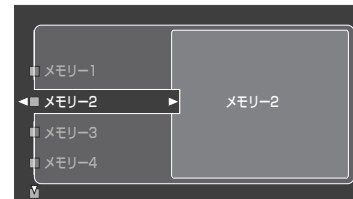
メモリーの名称を変更する

テレビ画面に表示されるメモリー1からメモリー10までの名称を、お好みに合わせて変更できます。

1 ⑯操作機器選択スイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ

2 ⑲MENUキーを押す

テレビ画面にメニューが表示されます。

3 ⑨△／▽キーを押して、「システムメモリー」を選ぶ

4 ⑨ENTERキーを押す

5 ⑨△／▽キーを押して、「名称の変更」を選ぶ

6 ⑨ENTERキーを押す

7 ⑨△／▽キーを繰り返し押して、名称を変更するメモリー（メモリー1～10）を選ぶ

8 ⑨ENTERキーを押す

編集画面が表示されます。

9 ⑨◁／▷キーを押して、文字の入力位置を合わせる

10 ⑨ENTERキーを繰り返し押して、入力する文字群を選ぶ

入力できる文字は以下のとおりです。

- 英大文字: A～Z
- 英小文字: a～z
- ラテン大文字: Ä，Ö，Ü など
- ラテン小文字: ä，ö，ü など
- 数字: 0～9
- 記号: ＃＊＋，－．／：＜＞？など
- カナ文字：ア～ー
- スペース（空白）

11 **⑨△／▽キーで入力する文字を選ぶ**

文字は最大9文字まで入力できます。手順9～11を繰り返してください。

12 **文字を入力し終わったら、⑨▷キーを押して「決定」を選び、⑨ENTERキーを押す**

ヒント

テレビ画面の表示を日本語以外に設定している場合、入力できる文字は英大文字、英小文字、ラテン大文字、ラテン小文字、数字、記号、スペースです。

ご注意

フロントパネルディスプレイでの表示は英語のままです。日本語やラテン文字で変更した内容は反映されません。

13 **設定を終了する場合は、⑲MENUキーを押す**

テレビ画面の表示が消えます。

保存した設定を呼び出す

⑦SYSTEM MEMORYキーを使って呼び出す

リモコンの⑦**SYSTEM MEMORY**1～4キーを使って、保存した設定を呼び出します。

1 **⑯操作機器選択スイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ**

2 **設定を呼び出す⑦SYSTEM MEMORYキーを押す**

フロントパネルディスプレイに「Memory1 LOAD：Press again」（例）と表示されます。

ヒント

選んだメモリーに設定が保存されていない場合は、フロントパネルディスプレイに「EMPTY」と表示されます。

3 **⑦SYSTEM MEMORYキーをもう一度押す**

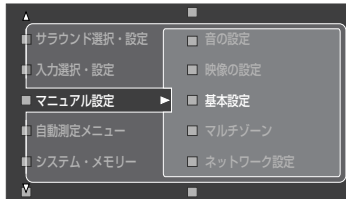
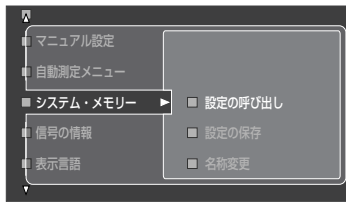
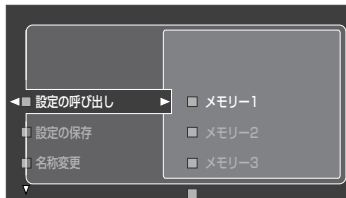
フロントパネルディスプレイに「LOAD」と表示され、押した⑦**SYSTEM MEMORY**キーに保存されている設定を呼び出します。

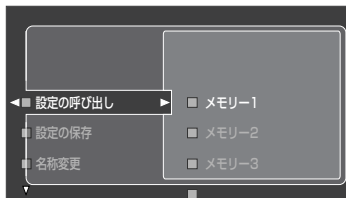
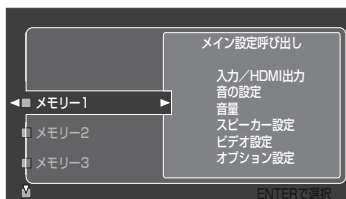
セットメニューを使って呼び出す

セットメニュー「システム・メモリー」を使って、メモリー1からメモリー10に保存した設定を呼び出します。

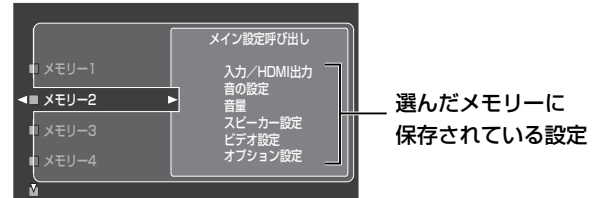
1 ⑯操作機器選択スイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ

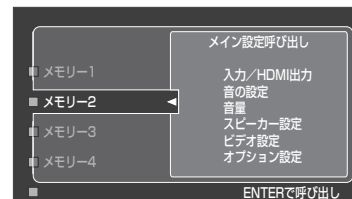
2 ⑲MENUキーを押す

テレビ画面にメニューが表示されます。

3 ⑨△／▽キーを押して、「システムメモリー」を選ぶ

4 ⑨ENTERキーを押す

5 ⑨△／▽キーを押して、「設定の呼び出し」を選ぶ

6 ⑨ENTERキーを押す

7 ⑨△／▽キーを繰り返し押して、設定を呼び出すメモリーを選ぶ

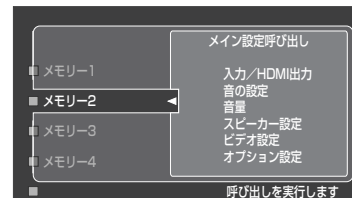
保存されている設定がテレビ画面に表示されます。設定が保存されていない場合は、「保存されていません」と表示されます。

選んだメモリーに保存されている設定

8 ⑨ENTERキーを押す

「ENTERで呼び出し」と表示されます。

ヒント

設定を呼び出さない場合は、⑨◁キーを押してください。

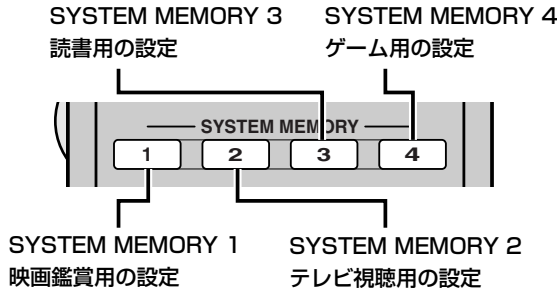
9 ⑨ENTERキーをもう一度押す

「呼び出しを実行します」と表示され、選んだメモリーの設定を呼び出します。

10 設定を終了する場合は、⑲MENUキーを押す

テレビ画面表示が消えます。

メモリー機能の使用例

例1： シチュエーションに合わせて使い分ける

下記の例を参考に、シチュエーションに合わせて設定を変更してください。

SYSTEM MEMORY 1: 映画鑑賞用の設定

映画を鑑賞するときは、以下を参考に設定を保存します。入力ソース、音場プログラム、HDMI出力端子、本体表示器の明るさの各設定を同時に呼び出せます。

おすすめの設定

入力ソース：BD/HD DVD（80ページ）
音場プログラム：サイファイ（88ページ）
HDMI出力端子設定：OUT 2（81ページ）
本体表示器の明るさ：－4（142ページ）

保存される項目

入力／HDMI出力、音の設定、オプション設定

SYSTEM MEMORY 2: テレビ視聴用の設定

テレビ番組を視聴するときに、HDMI IN 3（CBL/SAT）端子から入力した音声信号をHDMI OUT 1端子に接続したテレビのスピーカーから出力したいときは、以下を参考に設定を保存します。入力ソース、HDMI出力端子、HDMI音声出力の各設定を同時に呼び出せます。

おすすめの設定

入力ソース：CBL/SAT（80ページ）
HDMI出力端子設定：OUT 1（81ページ）
HDMI音声出力設定：その他機器（144ページ）

保存される項目

入力／HDMI出力、音の設定

SYSTEM MEMORY 3: 読書用の設定

お気に入りのインターネットラジオ放送を聴きながら読書をするときは、以下を参考に設定を保存します。入力ソース（放送局）、音場プログラム、音量の各設定を同時に呼び出せます。

おすすめの設定

入力ソース：NET/USB（インターネットラジオ）（103ページ）
音場プログラム：11ch Enhancer（89ページ）
音量：やや小さめ（108ページ）

保存される項目

入力／HDMI出力、音の設定、音量

設定を保存する前に、聴きたいインターネットラジオ放送を選局してください（103ページ）。

SYSTEM MEMORY 4: ゲーム用の設定

ロールプレイングゲームを楽しむときは、以下を参考に設定を保存します。入力ソース、音場プログラム、HDMI出力端子の各設定を同時に呼び出せます。

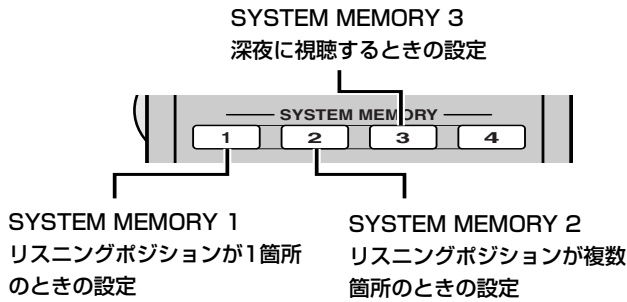
おすすめの設定

入力ソース：CBL/SAT（80ページ）
音場プログラム：Roleplaying Game（88ページ）
HDMI出力端子設定：OUT 2（81ページ）

保存される項目

入力／HDMI出力、音の設定

例2： リスニングルームに合わせて使い分ける

下記の例を参考に、リスニングルームの環境に合わせて設定を変更してください。

SYSTEM MEMORY 1: リスニングポジションが1箇所のときの設定

自動測定メニューで1箇所を測定し、結果を保存します。

おすすめの設定

自動測定メニュー：1箇所で測定した自動測定メニューの測定結果(63ページ)

保存される項目

スピーカー設定

SYSTEM MEMORY 2: リスニングポジションが複数箇所のときの設定

自動測定メニューで複数箇所を測定し、結果を保存します。

おすすめの設定

自動測定メニュー：複数箇所で測定した自動測定メニューの測定結果(63ページ)

保存される項目

スピーカーの設定

SYSTEM MEMORY 3: 深夜に視聴するときの設定

カーテンが開いているか閉まっているかでリスニングルームの音響特性は変化することがあります。深夜に映画を小さな音量で楽しむときは、以下を参考に設定を保存します。

おすすめの設定

自動測定メニュー：カーテンが閉まっている状態で測定した自動測定メニューの測定結果(63ページ)

Adaptive DRC：自動(128ページ)

Adaptive DSP Lvl：自動(128ページ)

保存される項目

音の設定、スピーカー設定

保存できる設定

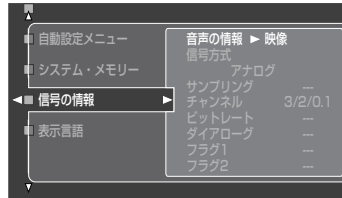
表示	フラグ	参照ページ
入力／HDMI出力 *	音声入力選択	80
	デコードモード	80
	入力ソース	83
	HDMI出力端子設定	81
音の設定	サラウンド選択設定	94
	ピュアダイレクトモード	92
	EXTD SUR. 設定	143
	Adaptive DRC	128
	Adaptive DSP Lvl	128
	LFEレベル	130
	ダイナミックレンジ	130
	トーンコントロール	132
	ピュアダイレクト	92
	CINEMA DSP HD³ モード	91
音量	音量	108
スピーカー設定	定在波コントロール	131
	パラメトリックEQ	131
	THXの設定	123
	スピーカーの設定	124
	スピーカーの距離	126
	スピーカーの音量	127
	設定値情報(自動測定メニュー)	63
	項目選択(自動測定メニュー)	63
	フロントスピーカー設定(A／B)	81
ビデオ設定	ビデオコンバージョン	136
	HDMI処理	136
	コンポーネントI／P	136
	HDMI解像度	137
	HDMIアスペクト	137
	ショートメッセージ	138
	オンスクリーン表示	138
	表示位置の調整	138
	壁紙の設定	138
オプション設定	リップシンク	133
	本体表示器の設定	142
	対応音声	144

* ネットワーク／USBデバイスの再生状態(選んでいる放送局など)も保存されます。

入力信号情報を表示する(信号の情報)

音声入力信号と映像入力信号のさまざまな情報を表示します。操作方法について詳しくは、「テレビ画面を見ながら操作する」(61ページ)をご覧ください。

音声の情報

音声信号のフォーマット、チャンネル数やサンプリング周波数などの情報を表示します。

信号方式

音声入力信号のフォーマット(信号方式)を表示します。

表示	信号方式
アナログ	アナログ信号
PCM	PCM信号
DSD	DSD信号
デジタル	デジタル信号
DD デジタル	ドルビーデジタル信号
DD デジタルEX	ドルビーデジタルEX信号
DD デジタルプラス	ドルビーデジタルプラス信号
DD デジタルプラスEX	ドルビーデジタルプラスEX信号
DD TrueHD	ドルビーTrueHD信号
DTS	DTS信号
DTS 96/24	DTS 96/24信号
DTS-ES Mtrx	DTS ESマトリクス信号
DTS-ES Dscrt	DTS ESディスクリート信号
DTS-96/24 ES Mtrx	DTS 96/24 ESマトリクス信号
DTS-HD MSTR	DTS-HDマスターオーディオ信号
DTS-HD HI RES	DTSハイレゾリューションオーディオ信号
DTS Express	DTS Express信号
AAC	AAC信号
WMA	WMA信号
MP3	MP3信号
– – –	その他の信号や不明な信号

サンプリング

デジタル信号入力時に、音声入力信号のサンプリング周波数を表示します。サンプリング周波数が不明な場合は、「???」と表示されます。

チャンネル

音声入力信号のチャンネル数を表示します。
左から、「フロントチャンネル数/サラウンドチャンネル数/LFEチャンネル」を表しています。たとえば、「3/2/0.1」と表示された場合は、「フロント3チャンネル/サラウンド2チャンネル/LFE0.1チャンネル」の信号が入力されています。
また、「1＋1」と表示された場合は、二カ国語放送などの主＋副の2チャンネルの信号が入力されています。チャンネル数が不明な場合は、「???」と表示されます。また、7.1よりも多いチャンネル数の信号が入力された場合は、「－－－」と表示されます。

ビットレート

音声入力信号の1秒あたりのデータ量(ビットレート)を表示します。ビットレートが不明な場合は、「---」と表示します。

ご注意

AAC信号のビットレートは、再生中に変化することがありますが、正常な動作です。

ダイアローグ

ドルビーデジタル、DTS信号入力時に、音量が異なるさまざまなソフトに対し、自動的に一定の音量で再生されるように調節するダイアローグ・ノーマライゼーション機能がはたらきます。この機能がはたらいている場合に、調節しているレベル量を表示します(－31～0dB)。

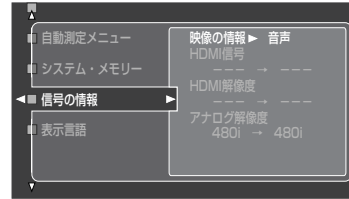
フラグ1／フラグ2

音声入力信号に含まれている、ある動作をさせるための識別信号（フラグ）を表示します。

表示	フラグ
プリエンファシス	プリエンファシス処理されたPCM信号入力時に表示されます。
カラオケ	ドルビーデジタルカラオケ信号入力時に表示されます。
サラウンドEX	ドルビーデジタルEX信号入力時に表示されます。
DPLエンコード	プロロジックエンコードされたドルビーデジタル信号入力時に表示されます。
ESマトリクス	DTS ESマトリクス信号入力時に表示されます。
ESディスクリート	DTS ESディスクリート信号入力時に表示されます。
96 kHz/24 bit	DTS 96/24信号入力時に表示されます。
– – –	フラグが認識できない場合に表示されます。

⑨▷キーを押すと、「映像の情報」画面に切り替わります（159ページ）。

映像の情報

映像信号の方式や解像度などの情報を表示します。

HDMI信号

HDMI出力端子から映像信号を出力しているときに、入出力信号のフォーマット（信号方式）を表示します。

表示	信号方式
HDMI	HDMI信号
DVI	DVI信号
アナログ	アナログ信号
– – –	信号が認識できない場合に表示します。

HDMI解像度

HDMI出力端子から映像信号を出力しているときに入力信号と出力信号の解像度を表示します。

解像度が不明な場合は、「???」と表示されます。

アナログ解像度

D5／コンポーネントビデオ出力端子から映像信号を出力しているときに、入力信号と出力信号の解像度を表示します。

HDMIエラー

HDMI機器を接続したときのエラーメッセージを表示します。

表示	内容
デバイス数超過	制限台数を超えるHDMI機器が接続されています。
HDCP認証失敗	HDCPの認証に失敗しました。

HDMIメッセージ

本機に接続しているテレビがHDMI出力信号の解像度に対応していない場合は、「範囲外の解像度」と表示します。

⑨▷キーを押すと、「音声の情報」画面に切り替わります（158ページ）。

テレビ画面で表示する言語を切り替える(表示言語)

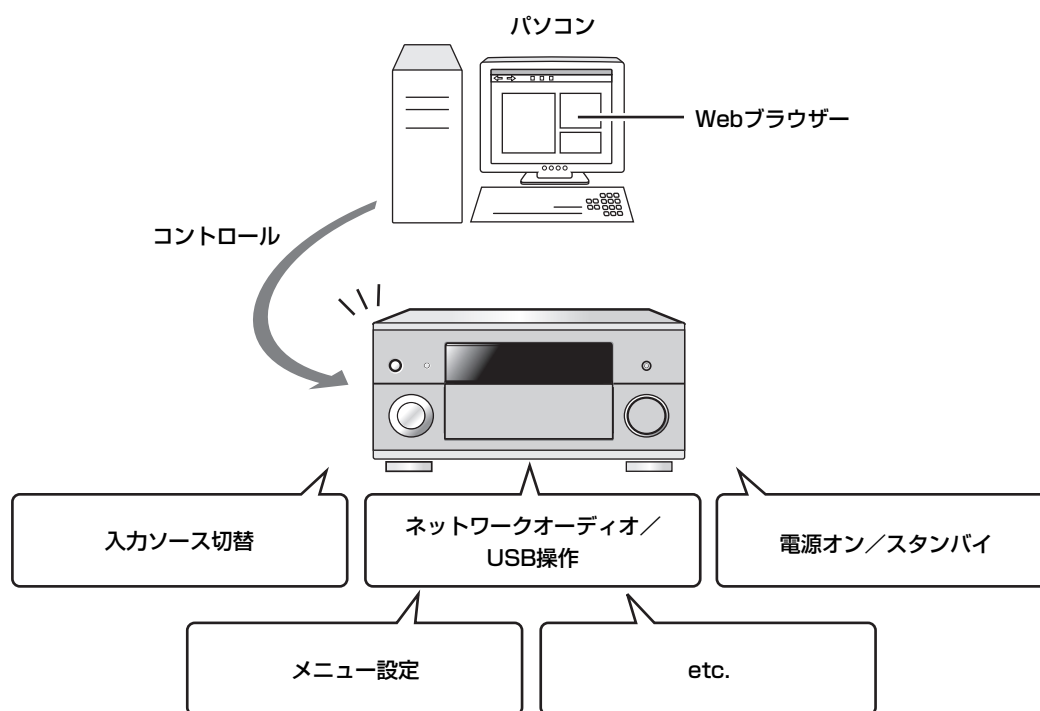
テレビ画面表示を映し出しているときに、表示する言語を6種類の中から選べます。操作方法について詳しくは、「テレビ画面を見ながら操作する」(61ページ)をご覧ください。

選択項目：English、日本語、Français、Deutsch、Español、Русский
初期設定値：日本語

English
英語で表示します。
日本語
日本語で表示します。
Français
フランス語で表示します。
Deutsch
ドイツ語で表示します。
Español
スペイン語で表示します。
Русский
ロシア語で表示します。

- アドバンストセットアップメニュー「LANGUAGE」(185ページ)でも表示言語を切り替えられます。
- 誤って表示言語を切り替えてしまった場合は、アドバンストセットアップメニュー「LANGUAGE」(185ページ)で「JAPANESE」を選べば、日本語の表示に戻せます。
- 日本語以外の言語に切り替えた場合は、フロントパネルディスプレイの表示言語も変わります。

本機をパソコンで操作する

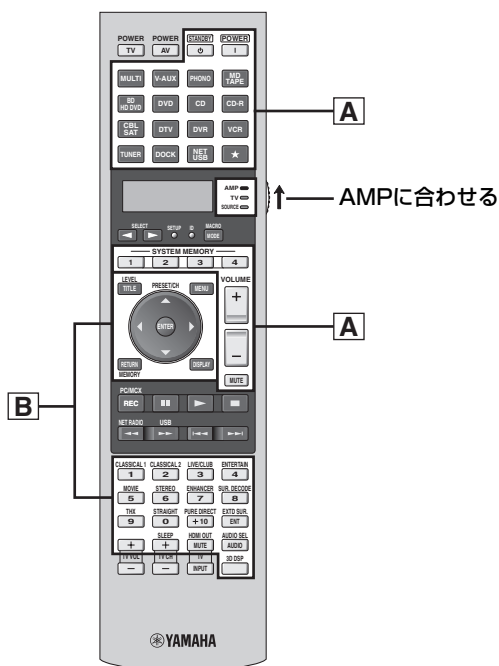
Webブラウザーを利用して本機を操作できます。Webブラウザーに表示される画面（Webメニュー）を見ながら入力ソースや音場プログラムの選択、iPodまたはネットワーク／USBコンテンツの確認、本機の設定などができます。Webブラウザーで本機を操作するために、セットメニュー「ネットワーク設定」（140ページ）で本機のIPアドレスを確認し、Webブラウザーのアドレス欄にアドレスを入力してください。

ヒント

- 本機をパソコンで操作するには、本機とパソコンをホームネットワークに正しく接続してください。接続について詳しくは、「ホームネットワークに接続する」（56ページ）をご覧ください。
- アドバンストセットアップメニュー「NET STANDBY」（183ページ）で、本機がスタンバイのときに、Webブラウザーから本機を起動できるようにするかできないようにするかを設定できます。
- パソコンのMACアドレスを登録して、本機を操作できるパソコンを制限できます。MACアドレスはWebメニューからのみ登録できます。アドバンストセットアップメニュー「MAC FILTER」（185ページ）で、ネットワークからの接続の制限をするかしないかを設定できます。
- Windows XP／VistaのWindows Internet Explorer 6／7でアクセスすることをおすすめします。一部の環境ではアクセスできなかったり、Webメニューが正常に動作しなかったりすることがあります。

リモコンのはたらき

他の機器のリモコン信号を記憶させたり、リモコンコードを設定したりすることにより、本機のリモコンでDVDプレーヤーやCDプレーヤー、テレビなど、本機以外のAV機器を操作することができます。また、マクロ機能を使うと、一連のキー操作を1つのキーでできるようになり、操作性が格段に向上します。

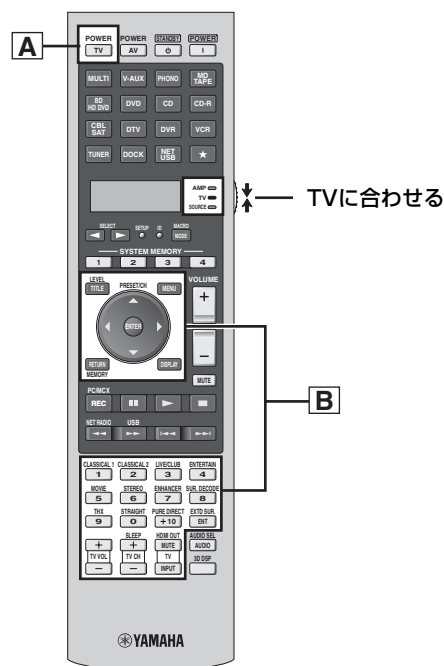
アンプ機能を操作する

アンプ機能の操作に使用するキーは、下図の白色で示した部分です。⑯操作機器選択スイッチで「**AMP**」を選んでください。

A ⑯操作機器選択スイッチの位置にかかわらず、本機のアンプ機能を操作できます。

B ⑯操作機器選択スイッチを「**AMP**」にセットしたときに、本機を操作できます。

テレビを操作する

本機のリモコンにテレビのリモコンコードを設定すれば（165ページ）、テレビを操作できます。テレビの操作に使用するキーは、下図の白色で示した部分です。あらかじめ⑯操作機器選択スイッチの「**TV**」ポジションにテレビのリモコンコードを設定してください。

各キーの機能について詳しくは、「テレビを操作する」をご覧ください（172ページ）。

A ⑯操作機器選択スイッチの位置にかかわらず、テレビを操作できます。
TV POWER：テレビの電源を切り替えます。

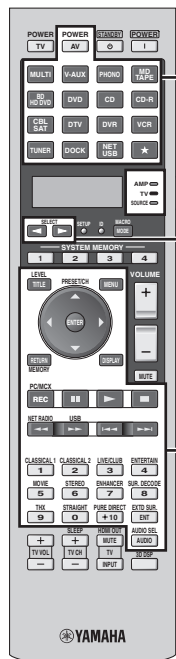
B ⑯操作機器選択スイッチを「**TV**」にセットしたときに、テレビを操作できます。

ヒント

テレビのリモコンコードが⑯操作機器選択スイッチの「**TV**」ポジションに設定されていない場合は、③**DTV**キーに設定したテレビを操作できます。

他の外部機器を操作する

本機のリモコンに他の外部機器のリモコンコードを設定すれば(165ページ)、それらの機器を操作できます。外部機器の操作に使うキーは、下図の白色で示した部分です。⑯操作機器選択スイッチで「**SOURCE**」を選び、入力選択キーを押してください。

各キーの機能について詳しくは、「設定した機器を操作する」をご覧ください(169ページ)。

入力選択キーと☆キーは、リモコンを各機器の操作用に切り替えます。

☆キーは、本機の入力とは関係なく他の機器を操作できます。

初期設定は以下のとおりです。

☆：テープデッキ

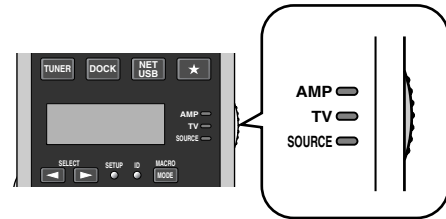
SOURCEに合わせる

SELECT ⊲／⊳キー(164ページ)

入力選択キーおよび☆キーごとにリモコンコードを設定することで、14台までの異なる機器を操作できます(165～168ページ)。

⑤**SELECT**⊲／⊳キーで、入力ソースは切り替えずにリモコンで操作する機器のみ切り替えられます(164ページ)。

操作機器選択スイッチの役割

2つ以上の役割を持つキーの操作内容を切り替えます。

音場プログラムの選択など、本機のアンプ機能の操作主体で使う場合：

「**AMP**」にセットします。

数字キーの入力など、本機のチューナー機能や他の機器の操作主体で使う場合：

「**SOURCE**」にセットします。

本機の操作に関係なく、テレビのリモコンとして使う場合：

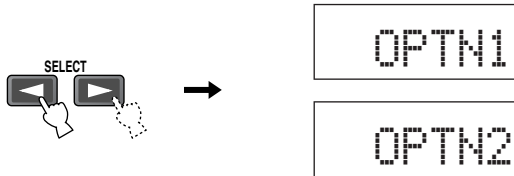
「**TV**」にセットします。

⑯操作機器選択スイッチの「**TV**」ポジションまたは③**DTV**キーにリモコンコードを設定したテレビを操作できます。

操作する機器を切り替える

⑤**SELECT**⊲／⊳キーを押すと、入力ソースは切り替えずに、リモコンで操作する機器だけを切り替えることができます。操作する機器は、リモコンディスプレイに表示されます。

OPTN(オプション)モード

入力選択キーでの切り替えに関係なく操作したい機能をラーニングする場合は、「OPTN」にラーニングすると便利です。⑤**SELECT**⊲／⊳キーを押して「OPTN」を選ぶと、ラーニングした機器を操作できます。

ヒント

マクロ機能(178ページ)だけに使うリモコン信号は、OPTNモードにしてラーニングすることをおすすめします。

バックライトモードを切り替える

本機のリモコンはバックライト機能を搭載しています。バックライトモードを設定し、バックライトが点灯する条件を変更することができます。

1 ***⑰SETUPボタンを押す***

ボールペンなど、先の細いもので押します。
リモコンがセットアップメニューモードに入り、リモコンディスプレイに「SETUP」と表示されます。

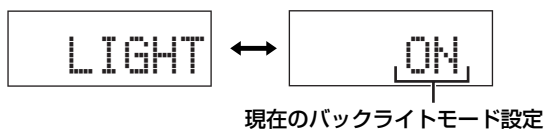
SETUP

2 ***⑨∆／∇キーを押して「LIGHT」を選ぶ***

LIGHT

3 ***⑨ENTERキーを押す。***

リモコンディスプレイに「LIGHT」と現在のバックライトモードが交互に表示されます。

現在のバックライトモード設定

4 ***⑨∆／∇キーを押して、バックライトモードを変更する***

ON：リモコンを持ったときやキーを押したときに点灯します。
OFF：⑯**LIGHT**ボタンを押したときのみ点灯します。リモコンの消費電力を少なくできます。

5 ***⑨ENTERキーを押す。***

6 ***⑰SETUPボタンを押して設定を終了する***

リモコンで操作する機器を設定する

リモコンコードを設定することにより、本機のリモコンで他のメーカーの機器を操作できます。リモコンコードは各入力選択キーまたは☆キーに設定できます。MULTI、MD TAPE、BD HD DVD、DVD、CD、CD-R、DVR、TUNER、DOCK、NET USB、☆の機器操作キーには、工場出荷時にあらかじめヤマハのリモコンコードが設定されています。

初期設定

入力選択キー	機器の種類（ライブラリー）	ヤマハ初期設定コード
MULTI	DVD	04306
V-AUX	–	–
PHONO	–	–
MD TAPE	MD	00409
BD HD DVD	DVD	04306
DVD	DVD	04306
CD	CD	01105
CD-R	CD-R	01405
CBL SAT	–	–
DTV	–	–
DVR	DVR	00707
VCR	–	–
TUNER	SOURCE	00012
DOCK	SOURCE	00012
NET USB	SOURCE	00012
☆	TAPE	00311
TV	–	–

ご注意

- お使いのヤマハ機器によっては、左図の「ヤマハ初期設定コード」では操作できない場合があります。この場合は、他のヤマハリモコンコードをお試しください。
- 付属のリモコンは、市販されているすべてのAV機器（ヤマハAV機器を含む）のリモコンコードを内蔵しているわけではありませんので、お使いの機器を操作できない場合があります。いずれのリモコンコードでも操作ができない場合は、ラーニング機能（174ページ）を利用するか、お使いの機器のリモコンをお使いください。
- 1つの入力選択キーに対して、1つのリモコンコードしか設定できません。
- すでにラーニングを設定している場合、ラーニングによる機能がリモコンコードの機能より優先されます。
- 手順で指定されたキー以外を操作したり、2つ以上のキーを同時に押したりすると、④リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は手順に沿って始めから操作し直してください。

1 ⑯操作機器選択スイッチをスライドさせて、SOURCEを選ぶ

ヒント

テレビのリモコンコードを設定する場合は、⑯操作機器選択スイッチで「**TV**」を選びます。

2 ⑰SETUPボタンを押す

ボールペンなど、先の細いもので押します。
リモコンがセットアップメニューモードに入り、④リモコンディスプレイに「SETUP」と表示されます。

SETUP

3 ⑨∇／∆キーを押して「P-SET」を選ぶ

P-SET

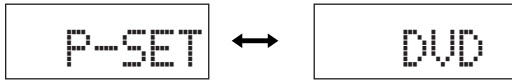
4 ⑨ENTERキーを押す

リモコンがプリセットモードに入ります。④リモコンディスプレイに「P-SET」と、現在リモコンで操作できる機器の名前が交互に表示されます。

P-SET DVR

5 ③入力選択キー、または⑤SELECT◁／▷キーを押して、リモコンコードを設定したい機器を選ぶ

④リモコンディスプレイに「P-SET」と、選んだ機器の名前が交互に表示されます。

P-SET ⟷ DVD

6 ⑨ENTERキーを押す

設定されている5桁のリモコンコードが④リモコンディスプレイに表示されます。

04306

ご注意

選んだ機器にリモコンコードが設定されていない場合は、「00000」と表示されます。

7 ⑫数字キーを押して、5桁のリモコンコードを入力する

リモコンコードについては、「リモコンコード一覧」(167〜168ページ)をご覧ください。

ご注意

リモコンコードが正しく入力されなかった場合は、④リモコンディスプレイに「NG」と表示されます。このような場合は、手順6から操作し直してください。

8 ⑨ENTERキーを押す

リモコンコードが正しく入力されると、④リモコンディスプレイに「OK」と表示されます。

9 ⑰SETUPボタンを押して、リモコンコードの設定を終了する

リモコンが通常の状態に戻ります。

10 動作を確認する

⑯操作機器選択スイッチをスライドさせて「**SOURCE**」または「**TV**」を選び、「⑭**POWER**」や「⑪▶（PLAY）」などの各キーを押して、お使いの機器が正しく動作するか確認してください。正しく動作しないときは、同じメーカーの別のリモコンコードを選んで設定してください。

リモコンコード一覧

本機のリモコンに内蔵のライブラリーは全世界対応です。下表は主に日本で流通しているメーカーのリモコンコードです。下表のメーカー製品であっても形式、年式によって使用できないものがあります。他社のリモコンコードを設定した場合、機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。この場合は、お使いの機器専用のリモコンをご利用ください。

メーカー名	リモコンコード
ケーブルテレビチューナー(CAB)	
LG	00503
PANASONIC	00003　00203　00403
PHILIPS	01003　01103
PIONEER	00503　01603　01903
SAMSUNG	00003　00503
SONY	02103
TOSHIBA	00003
CDプレーヤー(CD)	
DENON	01005
HITACHI	00305
KENWOOD	00105　00405
PANASONIC	00205
PHILIPS	00605
PIONEER	00305　00905
SANYO	00805
SHARP	00405
SONY	00005
YAMAHA	01105　01205
CDレコーダー(CDR)	
KENWOOD	01305
PHILIPS	01305
YAMAHA	01405
DVDプレーヤー(DVD)	
DENON	00006
HITACHI	01106　01906
KENWOOD	00006　00606
LG	02906
MITSUBISHI	00206
ONKYO	00106
PANASONIC	00006　01606　04206
PHILIPS	00106　00706　01706　03906
PIONEER	00406　01006　01506　01606
SAMSUNG	01106　04506
SANYO	02006
SHARP	01406
SONY	00506　04006
TEAC	01006　02606
TOSHIBA	00106　04606(HD DVD)
YAMAHA	00006　00706　00806　04306　04406

メーカー名	リモコンコード
DVDレコーダー(DVR)	
HITACHI	01507
PANASONIC	00007　00107　00207
PHILIPS	00807
PIONEER	00407　00507　00607
SHARP	01207　01307
SONY	00907　01007　01107
TOSHIBA	00307
YAMAHA	00707
LDプレーヤー(LD)	
DENON	00008
MITSUBISHI	00008
PHILIPS	00108
PIONEER	00008
SONY	00208
YAMAHA	00308
MDレコーダー(MD)	
KENWOOD	00109
ONKYO	00309
SHARP	00209
SONY	00009
YAMAHA	00409　00509　00609
チューナー(TUN)	
DENON	03210
KENWOOD	01010　03010
ONKYO	00310　00810　02510
PANASONIC	00010　02310　04210　04710
PHILIPS	01210　01510　01910　02010　02110　02210　02410
PIONEER	00710　00910　03510
SONY	00410　01110　01310　04510　04610
TEAC	03810
YAMAHA	00510　01410　03110　04810　05510　05610　05710　05810

メーカー名	リモコンコード

衛星放送チューナー(SAT)

メーカー名	リモコンコード
HITACHI	01404 02804
MITSUBISHI	02304
PANASONIC	00904 01904 03004 06504
PHILIPS	00204 00704 01404 02004 02204 02304 03104 04104 05104 06904
PIONEER	03104
SAMSUNG	03804 04604 06004 06204
SONY	01704 03004 06704
TOSHIBA	02304 02704 06904

テープデッキ(TAP)

メーカー名	リモコンコード
PHILIPS	00111
PIONEER	00011
SONY	00211
YAMAHA	00311 00411

テレビ(TV)

メーカー名	リモコンコード
BYDESIGN	14301 14401 14501 14601
DENON	01801
FUJITSU	08701 10401
FUNAI	02501 02701 03701
HITACHI	00101 00301 01201 01501 01701 01801 02201 02601 03001 04501 06101 06901 07301 11701 12101
KENWOOD	00301
LG	00301 00401 00901 01601 02601 09001
MITSUBISHI	00301 01301 01601 01901 02001 02601 02701 03101 03401 06701 11201 11901
NEC	00101 00301 00601 02001 02101 02401 02601 05701 06501 13201
PANASONIC	00401 00601 00801 02201 03401 08301 12401
PHILIPS	00001 00301 00401 00601 00801 01201 01601 02601 04901 07001 08801 12601
PIONEER	01701 02201 02301 03801 08601 09501 11301
SAMSUNG	00101 00301 00401 00901 01101 01201 02001 02601 03701 04701 07001 07401 07801 08901 09801 10501 10701
SANYO	01401 02001 02701 02901 04301 10201
SHARP	00301 01301 08301
SONY	00001 08301 11101 11601 12701 12901
TEAC	00101 00401 03701 05101 05201 05701 08501 11401
TOSHIBA	00901 02001 02101 06601 07801 08301 10901 12101 12301 13001 13201
YAMAHA	00301 01801 08301 10001 11001 13501 13601 13701 13801 14001 14101 14201

メーカー名	リモコンコード

ビデオデッキ(VCR)

メーカー名	リモコンコード
DENON	00702
FUJITSU	00002 00902
FUNAI	00002
HITACHI	00002 00402 00602 00702 02002
KENWOOD	00602 01302
LG	00402 00702 00902 02902
MITSUBISHI	00602 00802 01302 01502 03502
NEC	00302 00402 00602 01102 01302 01602
PANASONIC	00302 01802 01902 03102 03702 04502
PHILIPS	00302 01502 03202 03902 04002
PIONEER	00702 01302 01502
SAMSUNG	00902 02002 02802
SANYO	01002 01602 02002
SHARP	01102 03502
SONY	00002 00102 00202 00302 03302 04102
TEAC	00002 00602 02102 02202 03402
TOSHIBA	00602 00802 00902 01302 01502 03602
YAMAHA	00602

その他の機器(TUN)

メーカー名	リモコンコード
YAMAHA(iPod)	05310
YAMAHA(NET)	05410

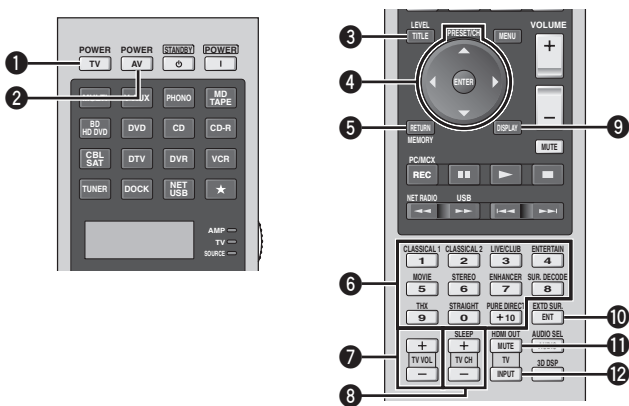
ご注意

お使いの機器の製品名から、その機器に対応するリモコンコードは特定できません。

設定した機器を操作する

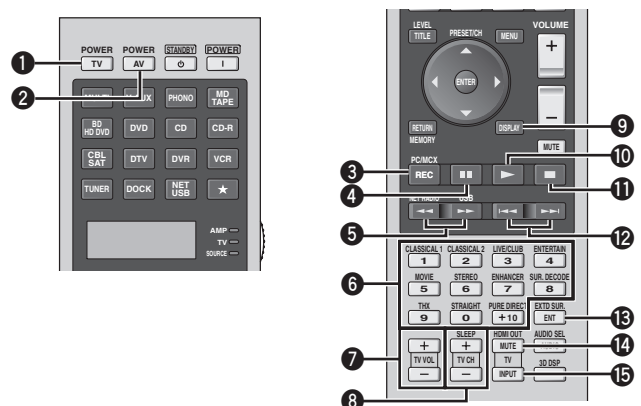
お使いの機器のリモコンコードを設定すれば、その機器を本機のリモコンで操作できます。

- お使いの機器によっては、いくつかのキーが機能しないことがあります。このような場合には、ラーニングをする(174ページ)か、お使いの機器のリモコンをご使用ください。
- お使いの機器によっては、キー操作と説明が一致しないことがあります。
- 本機以外の機器を操作する場合には、あらかじめリモコンコードを設定しておく必要があります。MULTI、MD TAPE、BD HD DVD、DVD、CD、CD-R、DVR、TUNER、DOCK、NET USB、☆の各キーには、工場出荷時にヤマハリモコンコードが設定されていますが、動作しない場合は他のリモコンコードに設定し直してください。

FM／AMチューナーを操作する

⑯操作機器選択スイッチで「**SOURCE**」を選び、③入力選択キーの**TUNER**キーを押すとFM／AMチューナーを操作できます。

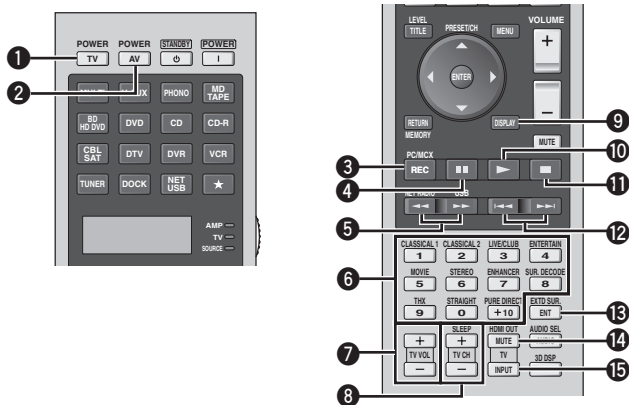
操作例

❶ (テレビ)電源を入／切する
❷ 電源を入／切する
❸ バンド(FM／AM)を切り替える
❹ プリセット番号、グループを切り替える
❺ メモリー
❻ プリセット番号を直接指定する
❼ (テレビ)音量を調整する
❽ (テレビ)チャンネルを切り替える
❾ ディスプレイ
❿ 決定
⓫ (テレビ)消音にする
⓬ (テレビ)入力を切り替える

CDプレーヤーを操作する

⑯操作機器選択スイッチで「**SOURCE**」を選び、③入力選択キーの**CD**キーを押すとCDプレーヤーを操作できます。

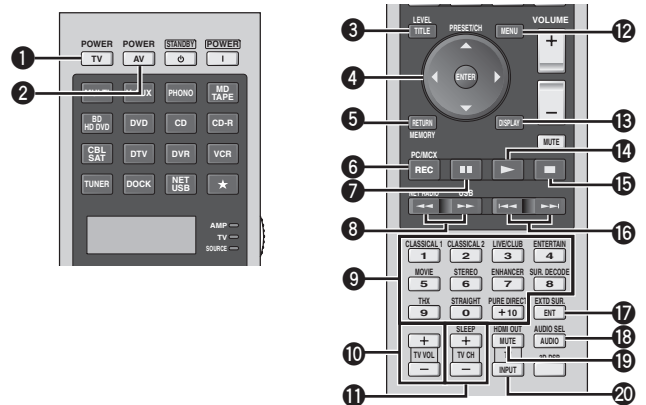
操作例

❶ (テレビ)電源を入／切する
❷ 電源を入／切する
❸ (CDチェンジャー)ディスクを選ぶ
❹ 一時停止する
❺ 早送り／早戻しをする
❻ 数字を入力する
❼ (テレビ)音量を調整する
❽ (テレビ)チャンネルを切り替える
❾ ディスプレイ表示を切り替える
❿ 再生する
⓫ 停止する
⓬ 次／前の曲の頭出しをする
⓭ インデックスを表示する
⓮ (テレビ)消音にする
⓯ (テレビ)入力を切り替える

MDレコーダー／CDレコーダーを操作する

⑯操作機器選択スイッチで「**SOURCE**」を選び、③入力選択キーの**MD/TAPE**キーを押すとMDレコーダーを、**CD-R**キーを押すとCDレコーダーを操作できます。

操作例

❶ （テレビ）電源を入／切する
❷ 電源を入／切する
❸ 録音を開始する
❹ 再生／録音を一時停止する
❺ 早送り／早戻しをする
❻ 数字を入力する
❼ （テレビ）音量を調整する
❽ （テレビ）チャンネルを切り替える
❾ ディスプレイ表示を切り替える
❿ 再生を開始する
⓫ 再生／録音を停止する
⓬ 次／前の曲の頭出しをする
⓭ インデックスを表示する
⓮ （テレビ）消音する
⓯ （テレビ）入力を切り替える

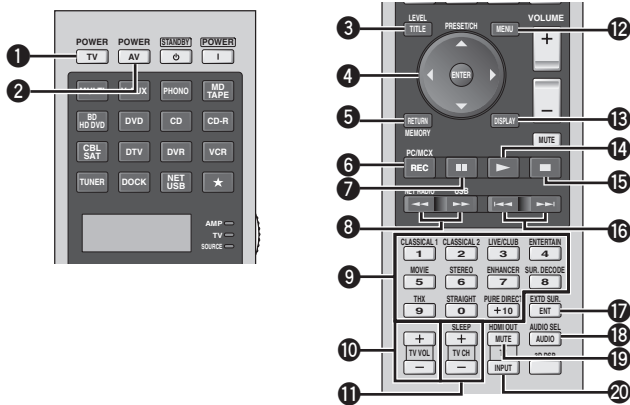
DVDプレーヤー／DVDレコーダーを操作する

⑯操作機器選択スイッチで「**SOURCE**」を選び、③入力選択キーの**DVD**キーを押すとDVDプレーヤーを、**DVR**キーを押すとDVDレコーダーを操作できます。

操作例

❶ （テレビ）電源を入／切する
❷ 電源を入／切する
❸ タイトルメニューを表示する
❹ メニュー項目を選択する／決定する
❺ 前の画面に戻る
❻ （DVDチェンジャー）ディスクを選ぶ
（DVDレコーダー）録画を開始する
❼ 再生／録画を一時停止する
❽ 早送り／早戻しをする
❾ 数字を入力する
❿ （テレビ）音量を調節する
⓫ （テレビ）チャンネルを切り替える
⓬ DVDメニューを表示する
⓭ ディスプレイ表示を切り替える
⓮ 再生を開始する
⓯ 再生／録画を停止する
⓰ 次／前のチャプターの頭出しをする
⓱ インデックスを表示する
⓲ オーディオメニューを表示する
⓳ （テレビ）消音する
⓴ （テレビ）入力を切り替える

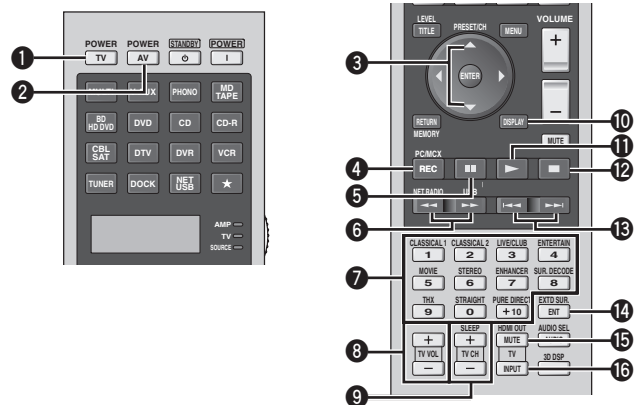
ヒント

③**DVR**キーにDVDレコーダーのリモコンコードを設定している場合、テレビの操作モードで、DVRに切り替えることなくDVDレコーダーを操作できます。

BD／HD DVDプレーヤー、BD／HD DVDレコーダーを操作する

⑯操作機器選択スイッチで「**SOURCE**」を選び、③入力選択キーの**BD/HD DVD**キーを押すとブルーレイディスク／HD DVDプレーヤー、またはブルーレイディスク／HD DVDレコーダーを操作できます。

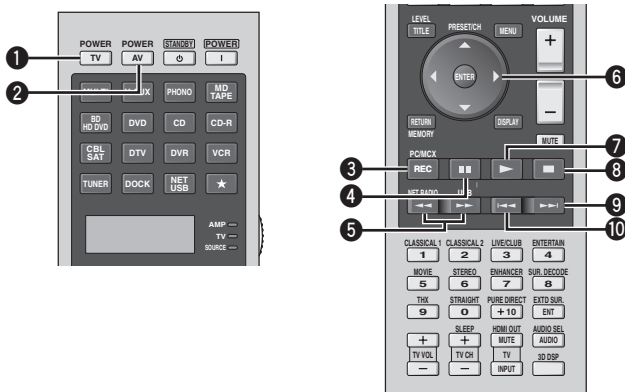
操作例

❶ （テレビ）電源を入／切する
❷ 電源を入／切する
❸ タイトルメニューを表示する
❹ メニュー項目を選択する／決定する
❺ 前の画面に戻る
❻ （BD／HD DVDレコーダー）録画を開始する
❼ 再生／録画を一時停止する
❽ 早送り／早戻しをする
❾ 数字を入力する
❿ （テレビ）音量を調節する
⓫ （テレビ）チャンネルを切り替える
⓬ BD／HD DVDメニューを表示する
⓭ ディスプレイ表示を切り替える
⓮ 再生を開始する
⓯ 再生／録画を停止する
⓰ 次／前のチャプターの頭出しをする
⓱ インデックスを表示する
⓲ オーディオメニューを表示する
⓳ （テレビ）消音する
⓴ （テレビ）入力を切り替える

ビデオデッキを操作する

⑯操作機器選択スイッチで「**SOURCE**」を選び、③入力選択キーの**VCR**キーを押すと、ビデオデッキを操作できます。

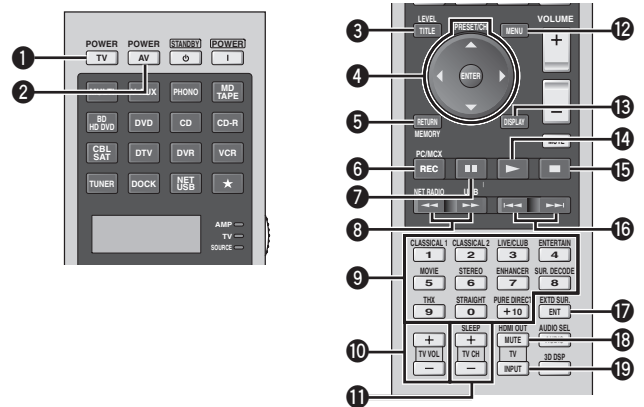
操作例

❶ （テレビ）電源を入／切する
❷ 電源を入／切する
❸ チャンネルを切り替える
❹ 録画を開始する
❺ 再生／録画を一時停止する
❻ 早送り／巻戻しをする
❼ チャンネルを直接指定する
❽ （テレビ）音量を調節する
❾ （テレビ）チャンネルを切り替える
❿ ディスプレイ表示を切り替える
⓫ 再生を開始する
⓬ 再生／録画を停止する
⓭ 次／前の頭出しをする
⓮ チャンネルを決定する
⓯ （テレビ）消音にする
⓰ （テレビ）入力を切り替える

テープデッキを操作する

⑯操作機器選択スイッチで「**SOURCE**」を選び、③入力選択キーの**MD/TAPE**キーを押すと、テープデッキを操作できます。

操作例

❶ (テレビ)電源を入／切する
❷ 電源を入／切する
❸ 録音を開始する
❹ 再生／録音を一時停止する
❺ 早送り／巻戻しをする
❻ A面／B面を切り替える
❼ 再生を開始する
❽ 再生／録音を停止する
❾ B面に切り替える
❿ A面に切り替える

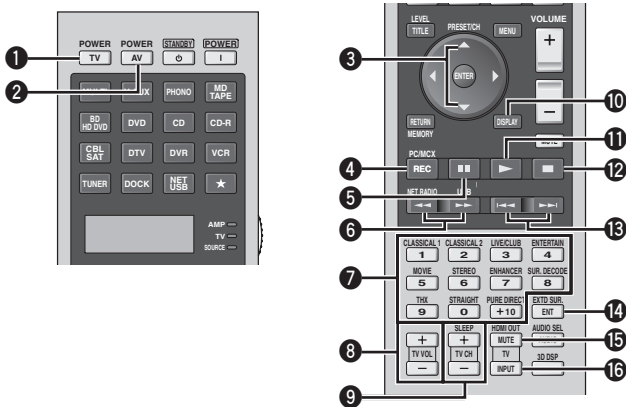
テレビを操作する

⑯操作機器選択スイッチで「**SOURCE**」を選び、③入力選択キーの**DTV**キーを押すと、テレビを操作できます。

操作例

❶ 電源を入／切する
❷ (DVDレコーダー)電源を入／切する
❸ タイトルメニューを表示する
❹ メニュー項目を選択する／決定する
❺ 前の画面に戻る
❻ (DVDレコーダー)録画を開始する
❼ (DVDレコーダー)再生／録画を一時停止する
❽ (DVDレコーダー)早送り／巻戻しをする
❾ チャンネルを直接指定する
❿ 音量を調節する
⓫ チャンネルを切り替える
⓬ メニューを表示する
⓭ ディスプレイ表示を切り替える
⓮ (DVDレコーダー)再生を開始する
⓯ (DVDレコーダー)再生／録画を停止する
⓰ 次／前のチャプターの頭出しをする
⓱ チャンネルを決定する
⓲ 消音にする
⓳ 入力を切り替える

ヒント

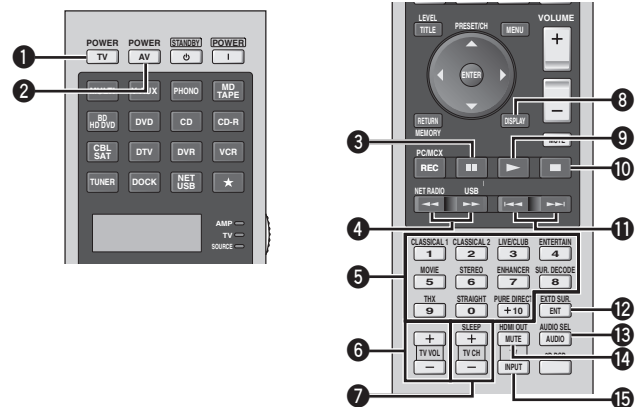
- ③**DTV**キーにテレビ以外の機器のリモコンコードを設定して操作する場合、③**PHONO**キーにテレビのリモコンコードを設定することにより、他の機器の操作モードでもテレビを操作できます。
- ③**DTV**キーと③**PHONO**キーの両方にリモコンコードを設定している場合、他の機器の操作モードでは③**DTV**キーに設定したリモコンコードが有効になります。
- ③**DVR**キーにDVDレコーダーのリモコンコードを設定している場合、DVDレコーダーを操作できます。

ケーブルテレビ／衛星放送チューナーを操作する

⑯操作機器選択スイッチで「**SOURCE**」を選び、③入力選択キーの**CBL/SAT**キーを押すと、ケーブルテレビ／衛星放送チューナーを操作できます。

操作例

❶ （テレビ）電源を入／切する
❷ 電源を入／切する
❸ チャンネルを切り替える
❹ （DVDレコーダー）録画を開始する
❺ （DVDレコーダー）再生／録画を一時停止する
❻ （DVDレコーダー）早送り／巻戻しをする
❼ チャンネルを直接指定する
❽ （テレビ）音量を調節する
❾ （テレビ）チャンネルを切り替える
❿ ディスプレイ表示を切り替える
⓫ （DVDレコーダー）再生を開始する
⓬ （DVDレコーダー）再生／録画を停止する
⓭ （DVDレコーダー）次／前のチャプターの頭出しをする
⓮ チャンネルを決定する
⓯ （テレビ）消音にする
⓰ （テレビ）入力を切り替える

ヒント

③**DVR**キーにDVDレコーダーのリモコンコードを設定している場合、DVDレコーダーを操作できます。

LDプレーヤーを操作する

⑯操作機器選択スイッチで「**SOURCE**」を選び、LDプレーヤーを接続した端子に対応する③入力選択キーを押すと、LDプレーヤーを操作できます。

操作例

❶ （テレビ）電源を入／切する
❷ 電源を入／切する
❸ 再生を一時停止する
❹ 早送り／早戻しをする
❺ 数字を入力する
❻ （テレビ）音量を調節する
❼ （テレビ）チャンネルを切り替える
❽ ディスプレイ表示を切り替える
❾ 再生を開始する
❿ 停止する
⓫ 次／前のチャプターの頭出しをする
⓬ チャプターを決定する
⓭ オーディオメニューを表示する
⓮ （テレビ）消音する
⓯ （テレビ）入力を切り替える

他の機器のリモコン機能を記憶させる(ラーニング)

リモコンコードを設定してもお使いの機器を操作できない場合や、お使いの機器のリモコンコードがない場合は、その機器のリモコン信号を本機のリモコンに記憶(ラーニング)させることで操作ができるようにします。入力選択した機器ごとに別の機能をラーニングできます。

1 ⑯操作機器選択スイッチをスライドさせて、SOURCEを選ぶ

ヒント

テレビのリモコン機能をラーニングする場合は、⑯操作機器選択スイッチで「**TV**」を選びます。

2 操作したい機器の③ 入力選択キーまたは☆キーを押す

リモコンディスプレイに、選んだ機器の名前が表示されます。

DVD

ご注意

「**AMP**」を選んでラーニングすると、本機を操作できなくなります。

ヒント

⑤**SELECT** ◁／▷キーを押して、操作したい機器を選ぶこともできます。

3 ⑰SETUPボタンを押す

ボールペンなど、先の細いもので押します。

④リモコンディスプレイに「SETUP」と表示されます。

SETUP

4 ⑨△／▽キーで「LEARN」を選ぶ

LEARN

5 ⑨ENTERキーを押す

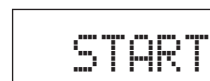
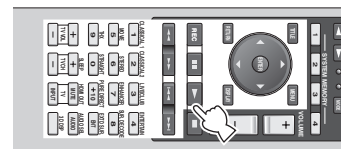
リモコンがラーニングモードに入り、④リモコンディスプレイに「LEARN」と、選んだ機器の名前が交互に表示されます。

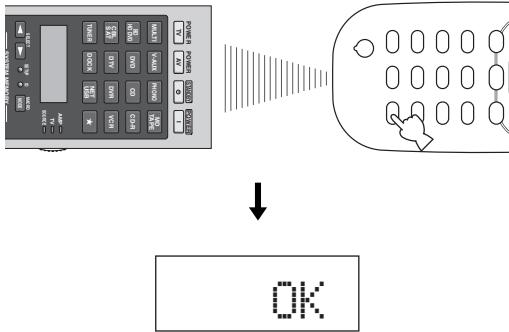
6 本機のリモコンと、外部機器のリモコンを約5〜10cm離して、赤外線送受信部が互いに対向するように置き、⑨ENTERキーを押す

④リモコンディスプレイに「L-KEY」と表示されます。

7 新しい機能をラーニングしたい、本機のリモコンキーを押す

白枠で囲まれているキーにラーニングできます。

④リモコンディスプレイに「START」と表示されます。

8 ④リモコンディスプレイに「OK」と表示されるまで、外部機器のリモコンのラーニングさせたい機能のキーを押し続ける

OK

ご注意

- 「NG」と表示されたときは、正しくラーニングされていません。手順6から操作をやり直してください。
- メモリー容量がいっぱいになっている場合は、④リモコンディスプレイに「FULL」と表示され、それ以上のラーニングはできません。新しいラーニングをするときは、ラーニング済みのキーから不要なものを消去してください。

ヒント

- 別の機能をラーニングするには、続けて手順6〜8を繰り返します。
- 別の機器に機能をラ−ニングする場合は、⑤**SELECT**⊲／⊳キーを押して機器を変更し、手順7〜8を繰り返します。

9 ⑰SETUPボタンを押して、ラーニングを終了する

リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意

- 以下の場合は、ラーニングできないことがあります。
  - 本機のリモコンまたは外部機器のリモコンの乾電池が消耗している
  - 2台のリモコンの間隔が近すぎる、または離れすぎている
  - リモコンの受光部の角度が適切でない
  - リモコンに直射日光が当たっている
  - 信号が特殊だったり、連続している
- 手順で指定されたキー以外を操作したり、2つ以上のキーを同時に押したりすると、④リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は、手順に沿って始めから操作し直してください。

リモコンに表示される機器の名前を変更する

入力選択キーを押して④リモコンディスプレイに表示される機器名は、入力機器を接続した端子名に対応しています。端子名と異なった機器を本機に接続したときや、お使いのシステムに合ったわかりやすい名前をつけたいときなどに、リモコンに表示される機器名を変更できます。

1 ***⑯操作機器選択スイッチをスライドさせてSOURCEを選ぶ***

2 ***③入力選択キーを押して、名前を変更したい機器を選ぶ***

④リモコンディスプレイに、選んだ機器の名前が表示されます。

BD/HD

ヒント

⑤SELECT ⊲／⊳キーを押して、操作したい機器を選ぶこともできます。

3 ***⑰SETUPボタンを押す***

ボールペンなど、先の細いもので押します。

④リモコンディスプレイに「SETUP」と表示されます。

SETUP

4 ***⑨△／▽キーを押して「RNAME」を選ぶ***

RNAME

5 ***⑨ENTERキーを押す***

リモコンがリネーミングモードに入り、④リモコンディスプレイに「RNAME」と、選んだ機器の名前が交互に表示されます。

RNAME BD/HD

ヒント

③入力選択キー、または⑤SELECT⊲／⊳キーを押して、名前を変更したい機器を変更できます。

6 ***⑨△／▽キーを押して、変更する名前の文字数(3文字または5文字)を選ぶ***

3文字 BD ⟷ 5文字 BD/HD

7 ***⑨ENTERキーを押す***

④リモコンディスプレイに、機器名の編集画面が表示されます。

BD/HD

8 ***⑨⊲／⊳キーを押して、文字を入力したい位置にカーソルを移動する***

9 ***⑨△／▽キーを押して、入力する文字を選ぶ***

入力できる文字は以下のとおりです。

- アルファベット大文字：A〜Z
- アルファベット小文字：a〜z
- 数字：1〜9、0
- 記号：+、−、；、/
- スペース(空白)

10 ***必要に応じて手順8、9を繰り返す***

11 ***入力が完了したら、⑨ENTERキーを押す***

名前が正しく変更されると、④リモコンディスプレイに「OK」と表示されます。

12 ***⑰SETUPボタンを押して、名前の変更を終了する***

リモコンが通常の状態に戻ります。

HDDVD

ご注意

名前が正しく変更されなかった場合は、④リモコンディスプレイに「NG」と表示されます。このような場合は、手順6から設定をやり直してください。

マクロ機能を使う

マクロ機能とは、ソースを再生するときに行う一連のキー操作を1つのキーでできるようにする機能です。
たとえばCDを再生する場合、通常、(1)システムの電源を入れる→(2)入力ソースをCDに切り替える→(3)再生を開始する…などの操作が必要です。マクロ機能を使うと、マクロキーの③**CD**キーを押すだけでこのような一連の操作を済ますことができます。
下のリストに表示されたマクロキーにはマクロ機能があらかじめ登録されていますが、オリジナルのマクロ操作を設定することもできます。

<table>
<tr><th>マクロキー</th><th>1番目</th><th>2番目</th></tr>
<tr><td>STANDBY</td><td>本機がスタンバイになる</td><td>—</td></tr>
<tr><td>POWER</td><td>本機の電源が入る(接続した機器の電源が入る)*1</td><td>テレビの電源が入る*2</td></tr>
<tr><td>MULTI</td><td rowspan="16">本機の電源が入る(接続した機器の電源が入る)*1</td><td>入力ソースの切り替え(MULTI CH IN)</td></tr>
<tr><td>V-AUX</td><td>入力ソースの切り替え(V-AUX)</td></tr>
<tr><td>PHONO</td><td>入力ソースの切り替え(PHONO)</td></tr>
<tr><td>MD/TAPE</td><td>入力ソースの切り替え(MD/TAPE)</td></tr>
<tr><td>BD/HD DVD</td><td>入力ソースの切り替え(BD/HD DVD)</td></tr>
<tr><td>DVD</td><td>入力ソースの切り替え(DVD)</td></tr>
<tr><td>CD</td><td>入力ソースの切り替え(CD)</td></tr>
<tr><td>CD-R</td><td>入力ソースの切り替え(CD-R)</td></tr>
<tr><td>CBL/SAT</td><td>入力ソースの切り替え(CBL/SAT)</td></tr>
<tr><td>DTV</td><td>入力ソースの切り替え(DTV)</td></tr>
<tr><td>DVR</td><td>入力ソースの切り替え(DVR)</td></tr>
<tr><td>VCR</td><td>入力ソースの切り替え(VCR)</td></tr>
<tr><td>TUNER</td><td>入力ソースの切り替え(TUNER)</td></tr>
<tr><td>DOCK</td><td>入力ソースの切り替え(DOCK)</td></tr>
<tr><td>NET/USB</td><td>入力ソースの切り替え(NET/USB)*3</td></tr>
<tr><td>☆</td><td>—</td></tr>
</table>

*1 本機に接続した機器の電源を本機に連動させて入れるには、接続機器の電源プラグを本機のAC OUTLETSに接続します(機器によっては電源の入／切が本機に連動しないものもあります。接続する機器の取扱説明書を参照してください)。
*2 ③**DTV**キーまたは③**PHONO**キーにテレビのリモコンコードを設定した場合、入力ソースを切り替えなくてもテレビの電源を入れられます。③**DTV**キーと③**PHONO**キーの両方にテレビのリモコンコードを設定した場合は、③**DTV**キーに設定したリモコンコードが優先されます。
*3 最後に再生した曲や、インターネットラジオを自動的に再生します。

マクロを設定する

オリジナルのマクロを設定します。

ご注意
- 新しいマクロを設定しても、工場出荷時に登録されているマクロは消去されません。新しく設定したマクロの内容を消去すると、工場出荷時に登録されているマクロを使うことができます。
- 工場出荷時に登録されているマクロに新しい信号を追加することはできません。マクロを設定すると、すべて新しい内容に変わります。
- マクロ設定は、本リモコンにラーニングや登録済み(またはヤマハプリセット)のキー信号をマクロキーに設定(転送)させて行います。必要に応じて、あらかじめ他の機器のキーをラーニングしておいてください。
- 音量の操作など、連続的に出力される信号は、本リモコンでは短時間のコードとして記憶されます。従って、そのようなキーをマクロ設定に入れることはおすすめしません。

1 ⑰SETUPボタンを押す

ボールペンなど、先の細いもので押します。
④リモコンディスプレイに「SETUP」と表示されます。

SETUP

2 ⑨△／▽キーで「MACRO」を選び、⑨ENTERキーを押す

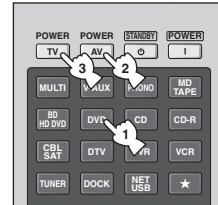
リモコンがマクロ設定モードに入り、④リモコンディスプレイに「MACRO」と「M:マクロキーの名前(例：「M:DVD」)」が交互に表示されます。

3 設定したいマクロキーを押し、⑨ENTERキーを押す

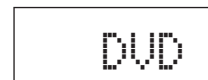
④リモコンディスプレイに「M:マクロキーの名前」と表示されます。⑭**STANDBY**と⑮**POWER**を選んだときは、「M:STB」、「M:PWR」と表示されます。

4 マクロの内容を設定する

例：入力をDVDに切り替える → DVDプレーヤーの電源を入れる → TVの電源を入れる

ステップ1(「MCR1」)：**DVD**を押す
ステップ2(「MCR2」)：**AV POWER**を押す
ステップ3(「MCR3」)：**TV POWER**を押す

MCR 1 番号が表示されます。

M:DVD 登録するマクロキーが表示されます。

↕

DVD 選択機器が表示されます。

ご注意
お使いの機器によっては、マクロの設定通りに作動しない場合があります。

5 ⑱MACROボタンを押して、設定したマクロを確定する

最大10種類のキー信号を設定することができます。最大まで設定すると④リモコンディスプレイに「FULL」と表示されます。

6 ⑲SETUPボタンを押して、マクロ設定を終了する

リモコンを初期化する

登録したライブラリーやマクロ操作、リモコンコードやラーニングした操作を取り消して、初期設定に戻せます。

1 ⑰SETUPボタンを、ボールペンなどの細いもので押す

④リモコンディスプレイに「SETUP」と表示されます。

SETUP

2 ⑨△／▽ キーで「CLEAR」を選んでから、⑨ENTERキーを押す

リモコンが消去モードに入り、④リモコンディスプレイに「CLEAR」と「L:選択機器の名前」が交互に表示されます。

3 ⑨△／▽キーを押して、消去モードを選ぶ

消去モードは以下の8種類です。

L：(機器名)：	表示されている入力機器の操作キーにラーニングされた機能をすべて消去します。⑯操作機器選択スイッチで「**SOURCE**」を選び、③入力選択キー、または⑤**SELECT**△／▽キーを押して、消去する入力機器を選んでください。
L：AMP：	本機の操作キーにラーニングされた機能をすべて消去します。⑯操作機器選択スイッチで「**AMP**」を選んでください。
L：TV：	TVの操作キーにラーニングされた機能をすべて消去します。⑯操作機器選択スイッチで「**TV**」を選んでください。
L：ALL：	入力機器にかかわらず、ラーニングされた機能をすべて消去します。
M：(キー名)：	選んだキーのマクロの設定を消去します。
M：ALL：	マクロの設定をすべて初期設定に戻します。
RNAME：	変更した入力ソースの名前をすべて初期設定に戻します。
FCTRY：	リモコンコードを含む、すべてのリモコンの設定を初期設定に戻します。

4 ⑨ENTERキーを3秒以上押し続ける

手順3で選んだ機能や設定が正しく消去されると、④リモコンディスプレイに「OK」と表示されます。

OK

ご注意

- 正しく消去されなかった場合は、④リモコンディスプレイに「C：NG」と表示されます。このような場合は、手順3から消去をやり直してください。
- 「L：ALL」と「FCTRY」は、完了までに約30秒かかります。

5 ⑰SETUPボタンを押して、消去を終了する

リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意

手順で指定されたキー以外を操作したり、2つ以上のキーを同時に押したりすると、④リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は、手順に沿って始めから操作し直してください。

ラーニングされた機能を消去する

登録したライブラリーやマクロ操作、リモコンコードやラーニングした操作を取り消して、初期設定に戻します。

1 ⑯*操作機器選択スイッチをスライドさせて* **SOURCE***を選ぶ*

アンプ機能の操作キーや、テレビ用の操作キーにラーニングした機能を消去する場合は、「**AMP**」または「**TV**」を選んでください。

2 ⑰**SETUP***ボタン押す*

ボールペンなど、先の細いもので押します。
④リモコンディスプレイに「SETUP」と表示されます。

SETUP

3 ⑨△／▽*キーで「ERASE」を選ぶ*

ERASE

4 ⑨**ENTER***キーを押す*

リモコンがラーニングモードに入り、④リモコンディスプレイに「ERASE」と、現在選んでいる機器の名前が交互に表示されます。

5 ③*入力選択キーを押して、消去したい機器を選ぶ*

④リモコンディスプレイに「ERASE」と、選んだ機器の名前が交互に表示されます。

ヒント

⑤**SELECT**◁／▷キーを繰り返し押して、機器を選ぶこともできます。

6 ⑨**ENTER***キー押す*

④リモコンディスプレイに「E-KEY」と表示されます。

E-KEY

7 *機能を消去したいキーを約3秒押し続ける*

消去が成功すると、④リモコンディスプレイに「ERASE」と「OK」が交互に表示されます。

ヒント

ラーニングされた機能を消去すると、キーの機能は工場出荷時の状態に戻ります（リモコンコードを設定している場合は、設定しているメーカーの機能に戻ります）。

8 ⑰**SETUP***ボタンを押して終了する*

ご注意

手順で指定されたキー以外を操作したり、2つ以上のキーを同時に押したりすると、④リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は、手順に沿って始めから操作し直してください。

簡易リモコンについて

付属の簡易リモコンで、本機の基本的な機能を簡単に操作できます。

STANDBY
フロントパネルのⒷMASTER ON/OFFスイッチがオンのとき、本機の電源をスタンバイにします（58ページ）。

SYSTEM MEMORY
お気に入りの音場プログラムやYPAOの設定、プリセット局などを簡単に保存したり呼び出したりします（150ページ）。

PRESET +/–
登録したネットワークオーディオ／USBのショートカットを呼び出します（105ページ）。

■（停止）／►（再生）／⏮（前の曲／チャプターの頭出し）／⏭（次の曲）
iPodやネットワークオーディオ／USBを操作します（97、100ページ）。

STANDBY
POWER
SYSTEM MEMORY
1 2 3 4
INPUT
INT SOURCE
PRESET
VOLUME
MUTE
YAMAHA

POWER
フロントパネルのⒷMASTER ON/OFFスイッチがオンのとき、本機の電源をオンにします（58ページ）。

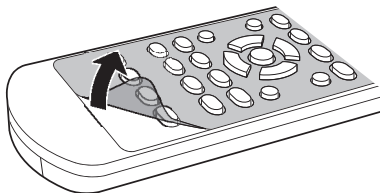
INPUT◁ / ▷
再生する入力ソースを選びます（80ページ）。

VOLUME +/–
本機の音量を調整します。

MUTE
消音にします。

絶縁シートを外してからお使いください。

ご注意
NET/USBを入力選択した場合は、前回選んでいたソースが選択されます。

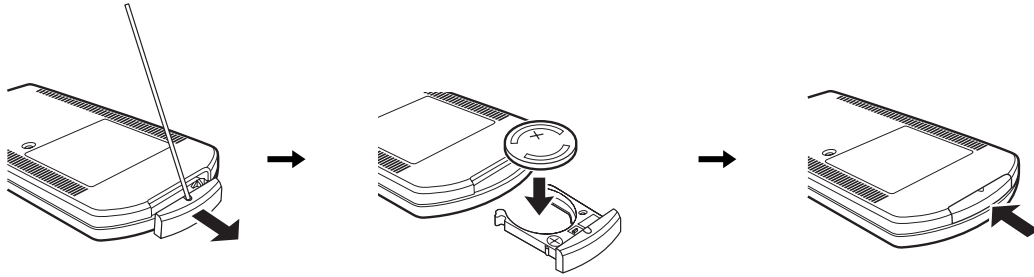
ヒント
保護シートをはがしてからお使いください。

リモコンIDの設定

簡易リモコンの⏮キーを押しながら、1キーまたは2キーを3秒以上押してリモコンのIDを選びます。

リモコンIDについて詳しくは183ページをご覧ください。

リモコンを使いこなす

簡易リモコンの電池を交換する

リモコンで操作しづらくなった場合は、電池を新品と交換してください。

丈夫なピンなどで、電池ケースを取り外す。

新品のCR2025電池に入れ替える。

電池ケースを戻す。

ご注意

- ＋と－の向きを間違えないよう正しく入れてください。
- 使い切った電池はすぐに電池ケースから取り出してください。電池が破裂したり、電池から液がもれたりすることがあります。
- 電池が液もれした場合は、液に触れないように注意して廃棄してください。
- 新しい電池を入れる前に電池ケースや電池ケース受内をきれいに拭いてください。
- 電池を一般のゴミといっしょに捨てないでください。地域の決まりに従って正しく処置してください。

アドバンストセットアップメニューを設定する

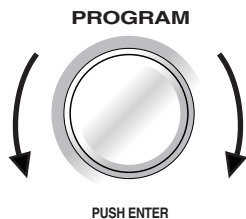
フロントパネルディスプレイに表示されているメニューで、さまざまな項目を設定します。

1 ***本機の電源がオフになっていることを確認する***

2 ***ⓘPROGRAMダイヤルを押しながら、ⒷMASTER ON/OFFスイッチを押す***

フロントパネルディスプレイに「ADVANCED SETUP」が表示されるまでⓘ**PROGRAM**ダイヤルを押し続けます。

3 ***ⓘPROGRAMダイヤルを回して、変更したい項目を選ぶ***

フロントパネルディスプレイに表示された項目が切り替わります。

4 ***ⓘPROGRAMダイヤルを押して、設定を変更する***

5 ***ⒷMASTER ON/OFFスイッチを押して、本機の電源をオフにする***

設定が保存されます。

次に電源をオンにしたときから、変更した設定が有効になります。

REMOTE SENSOR

リモコンでの本体操作を有効にするか無効にするかを設定します。

選択項目：ON、OFF
初期設定：ON

ON
リモコンの操作を有効にします。本機をリモコンで操作できます。通常はこの設定でお使いください。
OFF
リモコンの操作を無効にします。本機をリモコンで操作できません。

RS232C STANDBY

本機がスタンバイのときに、RS-232C端子からのデータを受信するか、受信しないかを設定します。

選択項目：NO、YES
初期設定：NO

NO
RS-232C端子からのデータを受信しません。
YES
RS-232C端子からのデータを受信します。

ご注意
RS-232C端子はサービス用の端子です。ユーザーは使用しません。通常は「NO」に設定してください。

NET STANDBY

本機がスタンバイのときに、ネットワークからのコントロール信号を受信するか、受信しないかを設定します（161ページ）。

選択項目：NO、YES
初期設定：NO

NO
ネットワークからのコントロール信号を受信しません。
YES
ネットワークからのコントロール信号を受信します。

ご注意
「NET STANDBY」を「YES」に設定した場合、本機の待機時消費電力は増加します。

REMOTE CON AMP

本機のリモコンIDを変更します。

選択項目：ID1、ID2
初期設定：ID1

ID1
リモコンのアンプ操作用コード「ID1」に対応します。
ID2
リモコンのアンプ操作用コード「ID2」に対応します。

リモコンのアンプ操作用コードを変更する

リモコンのアンプ操作用コードを本機のリモコンIDに合わせて変更します。

⑰IDボタンを押す

⑰IDボタンを押すたびに④リモコンディスプレイの「ID1」と「ID2」インジケーターが切り替わります。

簡易リモコンのIDを変更する場合は181ページをご覧ください。

FAN MODE

冷却用ファンの設定をします。

選択項目：AUTO、CONT.
初期設定：AUTO

AUTO
本機の温度を感知して、冷却用ファンが自動的に回転／停止します。
CONT.
本機の温度にかかわらず、冷却用ファンが常時回転します。

BI-AMP

スピーカーをバイアンプ接続（28ページ）して、バイアンプ機能を使うか使わないかを設定します。

選択項目：OFF、ON
初期設定：OFF

OFF
バイアンプ機能を使いません。
ON
バイアンプ機能を使います。ウーファーとツィーターを別々のアンプで駆動します。

PREAMP MODE

本機をプリアンプとして使用するか使用しないかを設定します。「PREAMP MODE」を「ON」に設定した場合、通常モードに比べて消費電力が少なくなります。

選択項目：ON、OFF
初期設定：OFF

ON
本機をプリアンプとして使用します。スピーカー端子からは信号が出力されません。
OFF
本機を通常モードで使用します。

RECOV./BACKUP

本機の設定を保存したり、呼び出したりします。システムメモリー機能よりも多くの設定を一括して保存できます。

選択項目：RECOVERY、BACKUP、CANCEL
初期設定：CANCEL

RECOVERY
保存した設定を呼び出します。
BACKUP
現在の本機の設定を保存します。
CANCEL
設定を保存したり、呼び出したりしません。

ご注意
- 「RECOVERY」で設定を呼び出した場合、呼び出す前の設定には戻せません。
- 「BACKUP」で設定を保存していない場合、「RECOVERY」は選べません。
- ネットワーク／USBのプリセット設定は保存されません。

INITIALIZE

本機の設定を初期設定に戻します。

選択項目：DSP PARAM、VIDEO、NETWORK、ALL、CANCEL
初期設定：CANCEL

DSP PARAM
音場パラメーターをすべて初期設定に戻します。
VIDEO
セットメニュー「映像の設定」の「ショートメッセージ」（138ページ）、「オンスクリーン表示」（138ページ）以外の「映像の設定」（136ページ）項目を初期設定に戻します。
NETWORK
セットメニュー「ネットワーク設定」（140ページ）で変更した全項目を初期設定に戻します。
ALL
本機の設定をすべて初期設定に戻します。
CANCEL
本機の設定を初期設定に戻しません。

ご注意
設定を初期化した場合、初期化前の設定には戻せません。

ヒント
音場プログラムパラメーターを個別に初期化したいときは「サウンド選択・設定」の「初期化」を選んでください。

MAC FILTER

ネットワークからの接続を、特定のMACアドレスのパソコンからに制限するか制限しないかを設定します。

選択項目：OFF、ON
初期設定：OFF

OFF
MACアドレスによる制限をしません。
ON
特定のMACアドレスのパソコンからに制限します。

「MAC FILTER」を「ON」に設定した場合に制御可能なPCのMACアドレスは、Webメニューで設定できます（161ページ）。

TV FORMAT

お使いのテレビに合わせて、本機のMONITOR OUT端子およびHDMI OUT端子から出力される壁紙の信号方式を切り替えます。

選択項目：PAL、NTSC
初期設定：NTSC

PAL
PAL方式に切り替えます。
NTSC
NTSC方式に切り替えます。通常はこの設定でお使いください。

MONITOR CHECK

セットメニュー「映像の設定」の「HDMI解像度」（137ページ）で、本機とHDMI接続したテレビが対応していない解像度を選択できるようにするか、選択できないようにするかを設定します。

選択項目：YES、SKIP
初期設定：YES

YES
テレビが対応していない解像度を選択できないようにします。
SKIP
テレビが対応していない解像度を選択できるようにします。

LANGUAGE

テレビ画面やフロントパネルディスプレイで表示する言語を切り替えます。

選択項目：JAPANESE、FRENCH、GERMAN、SPANISH、RUSSIAN、ENGLISH
初期設定：JAPANESE

JAPANESE
日本語で表示します。
FRENCH
フランス語で表示します。
GERMAN
ドイツ語で表示します。
SPANISH
スペイン語で表示します。
RUSSIAN
ロシア語で表示します。
ENGLISH
英語で表示します。

ご注意
「LANGUAGE」で「JAPANESE」を選んだ場合、フロントパネルのメッセージは英語で表示されます。

セットメニュー「表示言語」でも表示言語を切り替えられます。

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は下記の点をご確認ください。対処しても正常に動作しない場合や、下記以外で異常が認められた場合は、本機をスタンバイ状態にし、電源プラグをコンセントから抜いてからお買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせください。

全般

症状	原因	対策	参照ページ
電源を入れてもすぐに切れてしまう	電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードをACコンセントおよび本体AC IN端子にしっかりと差し込んでください。	57
	(再度電源を入れたときに、「CHECK SP WIRES!」と表示されるとき)スピーカーケーブルがショートした状態で電源を入れたため、保護回路により電源が切れた。	すべてのスピーカーケーブルが正しく接続されているか確認してください。	27
	内部マイコンが外部電気ショック(落雷または過度の静電気)、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	—
STANDBY/ONキー(POWERキー)を押しても電源が入らない	電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードをACコンセントおよび本体AC IN端子にしっかりと差し込んでください。	57
	内部マイコンが外部電気ショック(落雷または過度の静電気)、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	—
使用中に突然電源が切れる	機器内部の温度が上昇したため、保護回路がはたらき電源が切れた。	温度が下がるのを待って(約1時間程度)、電源を入れ直してください。	—
	スリープタイマーが作動した。	電源を入れてソースを再生し直してください。	—
ショート表示が出ない	マニュアル設定「映像の設定」の「ショートメッセージ」を「表示しない」に設定している。	「表示する」に設定してください。	138
	マニュアル設定「映像の設定」の「ビデオコンバージョン」を「しない」に設定している。	「する」に設定してください。	136
	HDMI映像信号を再生している。		—
	ハイビジョン映像が入力されている。		—
音声や画像が出ない	再生機器がしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	40
	スピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	27
	再生するフロントスピーカーが正しく選ばれていない。	⑥SPEAKERS A/Bキーを押して、再生するフロントスピーカーを選んでください。	81
	再生したいソースが正しく選ばれていない。	ⒹINPUTセレクターや③入力選択キーで、再生したいソースを正しく選んでください。	80
	音量が小さい。	音量を大きくしてください。	108
	消音されている。	リモコンの㉒MUTEキーまたは⑳VOLUME＋／－キーを押して消音を解除し、音量を調節してください。	108
	CD-ROMなど本機で再生できない信号が入力されている。	本機で再生可能な信号のソースを再生してください。	—
	HDMI接続時に音声を再生する機器が本機に設定されていない。	マニュアル設定「対応音声」を「DSP-Z11」に設定してください。	144
	制限台数を超えるHDMI機器を接続している。	接続しているHDMI機器の数を減らしてください。	—
	接続しているHDMI機器が著作権保護(HDCP)に対応していない。	著作権保護に対応した機器を接続してください。	—

症状	原因	対策	参照ページ
音声や画像が出ない	テレビをHDMI接続していて、テレビが対応していない映像信号を本機が出力している。	アドバンストセットアップメニュー「INITIALIZE」で「VIDEO」を選び、映像に関する設定を初期化してください。	184
		アドバンストセットアップメニュー「MONITOR CHECK」を「YES」に設定してください。	185
	テレビの入力が正しく選ばれていない。	テレビの入力を本機に切り替えてください。	80
	ピュアダイレクトモードで再生している。	㉓PURE DIRECTキーを押して、ピュアダイレクトモードをオフにしてください。	92
		マニュアル設定「音の設定」の「ピュアダイレクト」を「ビデオオン」に設定してください。	134
	非標準信号が入力されている		—
	テレビに接続しているHDMI OUT端子が出力端子として選ばれていない。	リモコンの⑬HDMI OUTキーを押して、テレビが接続されているHDMI OUT端子を選んでください。	81
音声が突然出なくなる	消音された。	リモコンの㉒MUTEキーまたは⑳VOLUME＋／－キーを押して消音を解除し、音量を調節してください。	108
片側のチャンネルの音声がほとんど出ない	再生機器やスピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。また、スピーカーケーブルが断線していないか確認してください。	27
	マニュアル設定「スピーカーの音量」が正しく設定されていない。	同じ音量で出るように調節してください。	127
エフェクトスピーカー（センター、サラウンド左／右、サラウンドバック左／右）から音声が出ない	音場効果をかけずに再生している。	㉘STRAIGHTキーを押して、音場効果をかけて再生してください。	90
	再生するソースと音場プログラムの組み合わせによっては、音が出ないチャンネルがあります。	ほかの音場プログラムをお試しください。	83
センタースピーカーから音声が出ない	センタースピーカーの音量が絞られている。	センタースピーカーの音量を調節してください。	108
	マニュアル設定「スピーカーの設定」の「センター」を、「無」に設定している。	お使いのセンタースピーカーに合わせて、「大」または「小」に設定してください。	124
	11ch Stereo以外のHiFi DSP音場プログラムを選んでいる。	ほかの音場プログラムをお試しください。	83
サラウンド左／右スピーカーから音声が出ない	サラウンド左／右スピーカーの音量が小さい。	サラウンド左／右スピーカーの音量を調節してください。	108
	マニュアル設定「スピーカーの設定」の「サラウンド」を、「無」に設定している。	お使いのサラウンド左／右スピーカーに合わせて、「大」または「小」に設定してください。	124
	ストレートモードで、サラウンド音声を含まないソースを再生している。	㉘STRAIGHTキーを押してストレートモードを解除してください。	90
サラウンドバックスピーカーから音声が出ない	サラウンドバックスピーカーの音量が小さい。	サラウンドバックスピーカーの音量を調節してください。	108
	マニュアル設定「スピーカーの設定」の「サラウンド」を、「無」に設定している。	「サラウンド」を「無」に設定すると、自動的に「サラウンドバック」も「無」に設定されます。「サラウンド」の設定を、「大」または「小」に設定してください。	124
	マニュアル設定「スピーカーの設定」の「サラウンドバック」を、「無」に設定している。	お使いのサラウンドバックスピーカーに合わせて、「大2台」、「大1台」、「小2台」、「小1台」のいずれかに設定してください。	124

症状	原因	対策	参照ページ
サブウーファーから音声が出ない	マニュアル設定「スピーカーの設定」の「低音出力先」を「フロントに出力」に設定したまま、ドルビーデジタル、DTSおよびAAC信号を再生している。	「サブウーファーのみ」または「フロントとサブウーファー」に設定してください。	125
	マニュアル設定「スピーカーの設定」の「低音出力先」を「サブウーファーのみ」または「フロントに出力」に設定したまま、2チャンネル信号を再生している。	「フロントとサブウーファー」に設定してください。	125
	再生しているソースにLFEや低音信号が含まれていない。		—
	2チャンネルソースをピュアダイレクトモードで再生している場合は、サブウーファーから音が出ません。	㉓PURE DIRECTキーを押して、ピュアダイレクトモードをオフにしてください。	92
音声入力信号をお好みの音声フォーマットで再生できない(フロントパネルディスプレイに入力ソースやデコーダーインジケーターが点灯しない)	接続したプレーヤーなどのデジタル音声出力が正しく設定されていない。	お使いのプレーヤーの取扱説明書を参照し、正しく設定してください。	—
	入力モードを「ANALOG」に設定している。	「AUTO」に設定してください。	107
AACソフトの再生ができない(本機のディスプレイにAACインジケーターが点灯しない)	入力モードを「ANALOG」に設定している。	「AUTO」に設定してください。	107
	接続したチューナーなどの設定が「AAC自動」または「AAC出力」に設定されていない。	お使いのチューナーの取扱説明書を参照し、正しく設定してください。	—
アナログ音声の再生ができない	入力モードを「ANALOG」以外に設定している。	「ANALOG」に設定してください。	107
低音の再生不良	セットメニュー「スピーカーの設定」の「クロスオーバー」が正しく設定されていない。	お使いのスピーカーシステムに合わせて正しく設定してください。	125
	セットメニュー「スピーカーの設定」の設定が、実際のスピーカーシステムの構成と一致していない。	お使いのスピーカーシステムに合わせて各スピーカーを正しく設定してください。	124
ハム音が出る	ステレオピンケーブルがしっかり接続されていない。	ステレオピンケーブルをしっかり差し込んでください。	40
	レコードプレーヤーのアースがSIGNAL GND端子に接続されていない。	アースコードを本機のSIGNAL GND端子に接続してください。	50
レコードの再生音が小さい	MCカートリッジが装着されたレコードプレーヤーで再生している。	MCヘッドアンプまたはMCトランスを介してレコードプレーヤーを本機に接続してください。	50
音量を上げることができない、または音が歪んでいる	本機のOUT(REC)端子に接続された機器の電源が入っていない。	AVアンプという製品ジャンルの特性上、OUT(REC) 端子に接続している機器の電源が切れている場合に、再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。本機に接続しているすべての機器の電源を入れてください。	—
サラウンドと音場効果を付加した音を録音できない	サラウンドと音場効果を付加した音は録音できません。		—
録音できない	デジタル録音時にアナログで信号を入力している。	デジタル接続をして、デジタルで信号を入力してください。	—
	本機と再生機器および録音機器がデジタル接続されていない。	デジタル接続をしてください。	40
	アナログ録音時にデジタルで信号を入力している。	アナログ接続をして、アナログで信号を入力してください。	—
	本機と再生機器および録音機器がアナログ接続されていない。	アナログ接続をしてください。	40
	録音機器によっては、ドルビーデジタル、DTSおよびAACなどのデジタルデータを録音できません。		—
音場パラメーターやセットメニューなどを変更できない	セットメニュー「設定の保護」を「保護」に設定している。	「可変」に設定してください。	143

症状	原因	対策	参照ページ
セットメニューなどの設定内容が消えている	1週間以上電源コンセントを抜いていたり、外部タイマーが切れたままになっていた。	1週間以上電源コンセントを抜いたままにしておくと、内蔵メモリの内容が消えてしまうことがあります。もう一度設定し直してください。	—
本機が正常に作動しない	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	—
本機に接続している機器にヘッドホンを接続して聴いていると、音が歪む	本機の電源がスタンバイになっている。	本機の電源を入れてください。	58
デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている	本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。	本機をそれらの機器から離して設置してください。	—

リモコン

症状	原因	対策	参照ページ
リモコンで操作できない	リモコン操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光部から6ｍ以内、角度30°以内の範囲で操作してください。	14
	受光部に日光や照明（インバーター蛍光灯やストロボライトなど）が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	—
	乾電池が消耗している。	乾電池をすべて交換してください。	13
	⑯操作機器選択スイッチの設定が正しくない。	⑯操作機器選択スイッチを正しく設定してください。	163
	リモコンのアンプ操作用ライブラリーコードと本体のリモコンIDが一致していない。	ライブラリーコードまたはリモコンIDの設定を変更してください。	183
	リモコンでの本体操作が無効になっている。	本体操作を有効にしてください。	183
外部機器がリモコンで操作できない	操作する機器が選ばれていない。	③入力選択キーを押して、操作したい機器を選んでください。	82
	リモコンコードが正しく設定されていない。	リモコンコードを設定し直すか、同じメーカーのコードの中から別のコードを設定してください。	165
	リモコンコードを正しく設定しても、メーカーまたは機器によっては操作できない場合があります。	リモコンコードで操作できない機能は、機器のリモコンから本機のリモコンに記憶（ラーニング）させてください。	174
リモコンが新しい機能を記憶（ラーニング）しない	本機のリモコンまたは他の機器のリモコンの電池が消耗している。	電池を交換してください。	13
	2台のリモコン間の距離が離れすぎているか、近すぎる。	2台のリモコンを5～10cmの距離に配置してください。	174
	他の機器のリモコンの信号コードと本機のリモコンとの互換性がない。	記憶（ラーニング）はできません。	—
	メモリ容量がいっぱいになっている。	ラーニングされている機能のうち、不要なものを消去してください。	180
乾電池が消耗しやすい	マンガン乾電池を使用している。	アルカリ乾電池を使用してください。	—
	バックライトモードが「ON」になっている。	「OFF」にしてください。	164

ネットワークオーディオ／USBデバイスの再生

症状	原因	対策	参照ページ
パソコンおよびインターネットラジオが正しく動作しない	IPアドレスが正しく設定されていない。	ルーターのDHCP機能をオンにするか、ネットワーク環境に合わせて、セットメニュー「ネットワーク/USB設定」を手動で設定してください。	140
	ネットワークケーブルが接続されていない。	ネットワーク接続を確認してください。	56
パソコンの音楽ファイルが再生できない	パソコンにWindows Media Player 11またはWindows Media Connect 2.0がインストールされていない。	パソコンにWindows Media Player 11またはWindows Media Connect 2.0をインストールしてください。	—
	音楽ファイルがMP3、MPEG-4 AAC、WAV(PCMのみ)、WMA以外のフォーマットで記録されている。	MP3、MPEG-4 AAC、WAV(PCMのみ)、WMAで記録された音楽ファイルを再生してください。	—
		MP3、MPEG-4 AAC、WAV(PCMのみ)、WMAで記録された音楽ファイルであっても、本機で再生できないものがあります。	—
インターネットラジオが再生できない	ネットワーク機器のファイアウォールがはたらいている。	ネットワーク機器のファイアウォールの設定を確認してください。	—
	インターネットの接続が切断されている。	ネットワーク機器の設定が正しいことを確認し、必要に応じてネットワーク接続業者にお問い合わせください。	—
USBデバイスの音楽ファイルやディレクトリがブラウズできない	音楽ファイルやディレクトリがFAT領域以外の場所に保存されている。	音楽ファイルやディレクトリをFAT領域に保存してください。	—
	ディレクトリに500を超えるディレクトリ／ファイルが保存されている。	1つのディレクトリにつき、500以内のディレクトリ／ファイルを保存してください。	—
USBデバイスを認識できない	USBオーディオプレーヤーを接続している。	USBデバイスを一度抜いてから、再度接続してください。	—
USBデバイスを接続しているが、「Disconnected」と表示される	本機がUSBデバイスを不正と認識している。	ⒷMASTER ON／OFFスイッチを押して1度本機の電源をオフにしたのち、再びオンにしてください。	58
数字キーを押してもショートカットが呼び出されない	USBデバイスが正しく接続されていない。	正しく接続してください。	57
	パソコンの電源が入っていない。	電源を入れてください。	—
	ラジオ局に一時的にアクセスできない。	しばらく待ってから再度お試しください。	—
	ラジオ局がサービスを停止した。		—
	ショートカットを登録したときとは違うUSBデバイスを接続している。	ショートカットを登録したUSBデバイスを接続してください。	104
ショートカットキーを押すと、登録していない曲やラジオ局が呼び出される	ショートカットを登録したときとは違うUSBデバイスを接続している。	ショートカットを登録したUSBデバイスを接続してください。	104
	ショートカットを登録した音楽ファイルを別の場所に移動した。	ショートカットを再設定してください。	104
	ショートカットを登録した音楽ファイルが保存されているディレクトリに、別の音楽ファイルを追加した、またはディレクトリ内の別の音楽ファイルを削除した。	ショートカットを再設定してください。	104

音声フォーマット編

ドルビーサラウンド

ドルビーサラウンドは、ダイナミックで臨場感豊かな音響効果のために、フロントL／Rチャンネル(ステレオ音声)、会話などを再生するセンターチャンネル(モノラル音声)、効果音のサラウンドチャンネル(モノラル音声)の、アナログ4チャンネル方式を採用しています。サラウンドチャンネルの再生域は狭くなっています。
現在、ほとんどのソフトに普及している方式です。本機内蔵のドルビープロロジックデコーダーは、各チャンネルの音量を自動的に調整して安定させ、音の移動感や方向性を強調して、より正確なデジタル処理を行います。

ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、完全に独立したマルチチャンネル音声を再生できるデジタルサラウンドシステムです。全帯域の音声成分を持つフロント3チャンネル(フロントL／R、センター)と、サラウンド2チャンネル(サラウンドL／R)、低音域専用のLFEチャンネルの合計5.1チャンネルで構成されます。
サラウンド2チャンネルがステレオで収録されているため、ドルビーサラウンドと比較して、音の移動感や周囲の環境音がより明確になります。全帯域の5チャンネルの幅広いダイナミックレンジと正確な音の定位によって、これまでにない迫力と現実感を再現できます。

ドルビーデジタルサラウンドEX

本機は5.1チャンネルのソースに、サラウンドバックチャンネルを加えて6.1チャンネル再生を可能にする、ドルビーデジタルサラウンドEXソフト対応のドルビーデジタルEXデコーダーを内蔵しています(サラウンドバックチャンネルはサラウンドLとサラウンドRチャンネルから作られます)。
ドルビーデジタルサラウンドEXで録音された映画のサウンドトラックを再生する際に、最良の音声を再生できます。この追加チャンネルにより、特に飛び越えたり飛び回ったりといった動きのあるシーンで、よりダイナミックでリアルな動作音をお楽しみいただけます。

ドルビーデジタルプラス

ブルーレイディスクやHD DVDなどの次世代光ディスクやデジタルテレビ放送向けに開発された高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクではオプション採用、HD DVDでは標準採用され、最大7.1チャンネルのディスクリート音声信号を最大転送レート6Mbpsで収録可能です。従来のドルビーデジタルと互換性があるため、ドルビーデジタル対応の機器でも再生できます。

ドルビープロロジックII

2チャンネルで記録された音声を信号処理し、優れた分離感を保ったまま5.1チャンネル音声に変換します。映画用のMovieモードと、音楽などのステレオソース用のMusicモード、ゲーム用のGameモードが用意されています。従来の2チャンネル音声(モノラル音声を除く)だけで記録された古い映画も、5.1チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

ドルビープロロジックIIx

2チャンネルで記録された音声はもちろん、マルチチャンネルで記録された音声をも信号処理し、自然な7.1チャンネル音声をフルレンジで再生します。映画用のMovieモード、音楽用のMusicモード、ゲーム用のGameモードが用意されています。

ドルビーTrueHD

ブルーレイディスクやHD DVDなどの次世代光ディスク向けに開発されたロスレス(可逆型)高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクではオプション採用、HD DVDでは標準採用され、96kHz／24bit時には最大8チャンネル、192kHz／24bit時には最大6チャンネルのディスクリート音声信号を最大転送レート18Mbpsで収録可能です。従来のドルビーデジタルと互換性があるため、ドルビーデジタル対応の機器でも再生できます。ダイアローグノーマライゼーションやダイナミックレンジコントロールをサポートしています。スタジオマスター品質の音声が楽しめます。

AAC(アドバンスト・オーディオ・コーディング)

MPEG-2オーディオ規格の1つで、BS／地上波デジタル放送で採用されています。モノラル音声から最大で7チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。
本機はAACデコーダーを搭載しているので、BS／地上波デジタルチューナーで受信した番組の5.1チャンネル音声をデコード(復調)して再生できます。

DSD(Direct Stream Digital)

スーパーオーディオCDに採用されている音声フォーマットです。シンプルな回路構成とすることで、再生周波数範囲100kHz、ダイナミックレンジ120dB以上を実現しています。

DTSデジタルサラウンド

DTSデジタルサラウンドは、アナログの映画音声に取って代わる5.1チャンネル方式のデジタルサウンドトラックとして開発された技術です。この技術を家庭用に調整したものが、本機で採用しているDTSシステムです。
極めて劣化が少なく、クリアな音質の6チャンネル(フロントL／R、センター、サラウンドL／Rチャンネル、サブウーファー用LFE0.1チャンネルを加えた5.1チャンネル)で構成されています。

DTS-ES

本機は5.1チャンネルのソースに、サラウンドバックチャンネルを加えて6.1チャンネル再生を可能にする、DTS-ESデコーダーを内蔵しています。5.1チャンネルの信号と独立して記録されたサラウンドバックチャンネル信号を再生する、ディスクリート方式と、サラウンドL／Rチャンネル信号からサラウンドバックチャンネル信号を生成して再生する、マトリクス方式の2つの方式に対応しています。
DTS-ESで録音された音楽や、映画のサウンドトラックを再生する際に、最良の音声を再生できます。

DTS Express

ブルーレイディスクやHD DVDなどの次世代光ディスク向けに開発された音声フォーマットで、ネットワーク・ストリーミング用に最適化された低ビットレート信号です。ブルーレイディスクではセカンダリーオーディオ、HD DVDではサブオーディオで使用され、本編の再生を楽しみながらインターネットを経由して映画制作者のコメントなどを楽しめます。

DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ

ブルーレイディスクやHD DVDなどの次世代光ディスク向けに開発された高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクおよびHD DVDでオプション採用され、96kHz／24bitで最大7.1チャンネルのディスクリート音声信号を、ブルーレイディスクでは最大転送レート6Mbps、HD DVDでは最大3Mbpsで収録可能です。従来のDTSデジタルサラウンドと互換性があるため、DTSデジタルサラウンド対応の機器でも再生できます。

DTS-HD マスターオーディオ

ブルーレイディスクやHD DVDなどの次世代光ディスク向けに開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクおよびHD DVDで標準採用され、96kHz／24bitで最大7.1チャンネルのディスクリート音声信号を、ブルーレイディスクでは転送レート最大24.5Mbps、HD DVDでは最大18Mbpsで収録可能です。従来のDTSデジタルサラウンドと互換性があるため、DTSデジタルサラウンド対応の機器でも再生できます。スタジオマスター品質の音声が楽しめます。

DTS Neo：6

2チャンネル信号のソースを、サラウンドバックを含めた7チャンネルで再生できます。再生するソースに合わせて、音楽用のMusicモードと、映画用のCinemaモードが用意されています。すべてのチャンネルを全帯域で再生できるだけでなく、ディスクリート方式で記録されたソースのようなチャンネルの分離感を体感できます。

DTS 96/24

DTS 96/24フォーマットで収録されたソフトに記録されている、DTS信号の拡張用データを使用して「サンプリング周波数96kHz／量子化ビット数24ビット」の高音質での5.1チャンネル再生が可能です。

PCM（リニアPCM）

MP3形式やATRAC形式のようにアナログ音声信号を圧縮せずに、そのまま符号化して録音・伝送する方式です。
「PCM」は、パルス・コード・モジュレーションの略で、デジタル信号をパルスの符号にして変調記録するという意味です。
音楽CDや、DVDオーディオの録音方法などで採用されています。PCM方式では、非常に短く区切った単位時間あたりの信号の大きさを数値に置き換える（サンプリング）手法を用いています。

SRS CS Ⅱ（SRS Circle Surround Ⅱ）

SRS CS Ⅱ（SRS Circle Surround Ⅱ）は、6.1チャンネルマトリクス処理を行う高性能デコーディングシステムです。オリジナルのSRS Circle Surroundシステムの次の世代を担うこの技術により、セリフをより明瞭に再生したり、フロントチャンネルとサブウーファーから映画館さながらの低音を再生したりすることができます。再生するソースに合わせて、音楽用のMusicモードと、映画用のCinemaモードが用意されています。

MPEG-4 AAC

MPEG-4オーディオ規格の1つで、MPEG-2 AACより低いビットレートでデータを圧縮できることから、携帯電話や携帯音楽プレーヤーなどの小容量、高品質が求められる機器にも利用されています。
また、上記の機器以外にもインターネット上のコンテンツ配信など、パソコンやメディアサーバーなどでも多く利用されている規格です。

MP3

MPEGで利用される音声圧縮方式の一つです。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用しています。音楽CD並の音質を保ったままデータ量を約1／10に圧縮できると言われています。

WAV

Windows標準の音声ファイルの形式です。デジタル音声信号の保存形式などを規定しています。通常は非圧縮（PCM）のデータが使用されますが、任意の圧縮方式も利用できます。

WMA（Windows Media Audio）

Microsoft社が開発した音声圧縮方式です。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用しています。音楽CD並の音質を保ったまま約1／20に圧縮できると言われています。

音場プログラム編

サイレントシネマ

ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場プログラムを擬似的に再現するための、ヤマハ独自のシステムです。音場プログラムごとにヘッドホン用の設定値が用意されているため、自然で立体感あふれる音場プログラムをヘッドホンでもお楽しみいただけます。

シネマDSP（デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサー）

ドルビーサラウンドやDTSのシステムは、本来映画館用に設計されているため、ご家庭では部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差が出てしまいます。
ヤマハシネマDSPは、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、さまざまなデジタル音声フォーマッ

トと組み合わせて音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。

バーチャルシネマDSP

サラウンドL／Rスピーカーを設置していなくとも、仮想的にサラウンドL／Rスピーカーの音場を再現することで、音場プログラムを楽しめます。
センタースピーカーを設置できない場合でも、フロントL／Rスピーカーだけで、バーチャルシネマDSPをお楽しみいただけます。

THX編

RECOMMENDED USE

Larger Home Theater, Living Room, etc.

THX CERTIFICATION FEATURES

THX Loudness Plus featuring:
- Multichannel Spectral Balancing
- Dynamic Ambience Preservation

THX Cinema, Music, Games modes using:
- Re-Equalization
- Timbre Matching
- Adaptive Decorrelation
- ASA Technology

Boundary Gain Compensation

ADDITIONAL THX TECHNOLOGIES

Neural-THX Surround

THX PERFORMANCE

Capable of THX Reference Level at approx. 12 feet (4 meters) viewing/listening distance

Visit www.thx.com for further technical details.

Advanced Speaker Array（アドバンスト・スピーカー・アレイ）

最適なサラウンド空間を再現するために、2本のサラウンドスピーカーと2本のサラウンドバックスピーカーへ出力される音を処理する、THX独自の技術です。8つのスピーカー（フロントL、センター、フロントR、サラウンドR、サラウンドバックR、サラウンドバックL、サラウンドL、サブウーファー）でホームシアターシステムをセットアップしている場合に、2本のサラウンドバックスピーカーを近接して、部屋の前方に向かって設置することにより、最も広い視聴エリアを得ることができます。2本のサラウンドバックスピーカーを離して設置しなければならない場合は、「THXの設定」メニューで、実際のスピーカー配置に最も近い設定を選ぶ必要があります。これにより、サラウンド空間が最適化されます。
Advanced Speaker Arrayは、以下のTHXサラウンドモードで使用されます。
・THX Ultra2 Cinema
・THX Ultra2 Music
・THX Ultra2 Games

Boundary Gain Compensation（バウンダリー・ゲイン・コンペンセーション）

THX Ultra2対応のサブウーファーや、低域再生能力がある（周波数特性が20Hz程度まで伸びている）サブウーファーを使用しているときに、壁面の影響で、低音のレベルが大きくなる場合があります。Boundary Gain Compensationは、このように持ち上がってしまう低域のレベルを、聴感上、フラットに補正する技術です。
「BGC」は「THXの設定」の「THXサブウーファー」が「ウルトラ2対応」に設定されている場合のみ設定できます。

THX

THXは、世界的に有名な映画制作会社であるルーカスフィルム社が開発した独自規格と技術を集約したものです。「映画館でも家庭でも、映画監督の思い描いたサウンドトラックをできる限り忠実に再現したい」という、ジョージ・ルーカス監督の情熱により開発されました。

THX Cinema processing

映画のサウンドトラックは、ダビングステージと呼ばれるミキシング専用の大型映画館で制作されます。これらのサウンドトラックは、同じ装置を備える映画館での上映のために制作されていますが、DVDなどに収録する際も、一切変更を加えず、そのまま収録されています。
THX Cinemaは、映画館向けのサウンドトラックを、映画館と家庭との空間的な違いによる音色の差を補正することで、一般家庭でも映画館と同等の臨場感で再生します。

- **Adaptive Decorrelation（アダプティブ・デコリレーション）**

映画館では、多数のサラウンドスピーカーが作り出す、包み込むようなサラウンドサウンドが体験できます。しかし、ホームシアターでは通常2本のスピーカーしか使われないため、空間的な広がりや、サラウンド感に欠けてしまったり、また近接したスピーカーにサラウンドサウンドを取り込まれてしまいます。アダプティブ・デコリレーションは、サラウンドチャンネル間の時間と位相を微妙に変化させることにより、2本のスピーカーだけを使って、映画館と同様の広がりがあるサウンドを再現します。

- **Timbre Matching（ティンバー・マッチング）**

人間の耳は、音の来る方向によって音の感じ方が変わります。映画館

では、サラウンドスピーカーが聴衆を囲むように配置されているため、音が全方向から来ますが、ホームシアターでは、リスナーの両側2本のみが使われます。ティンバー・マッチングは、サラウンドスピーカーからの音を、フロントスピーカーの音の特性に合わせることで、フロントーサラウンド間の音のつながりをスムーズにし、広がりがあるサウンドを再現します。

- Re-Equalization(リ・イコライゼーション)

映画のサウンドトラックは、映画館での上映用に制作されているため、家庭用の機器で再生すると、明るすぎたり、うるさく聞こえてしまいます。リ・イコライゼーションは、このような映画のサウンドトラックを小型のホームシアターで、最適な音のバランスを再現して再生します。

THX Games Mode

THX Gamesモードは、ゲームプレイにおいて欠かすことのできない「方向性」を完全に維持しつつ、低い音量においても正確なゲーム・リスニングを可能にする、THX独自のさまざまな技術に加え、THX Loudness Plusの効果も発揮します。

THX Loudness Plus

THX Loudness Plusとは、THX Ultra2 Plus™とTHX Select2 Plus™の承認レシーバで採用されている新しい音量コントロール技術です。THX Loudness Plusを利用すれば、ホームシアターの視聴者はどの音量においてもサラウンドミックスの豊かな詳細部まで体験できます。音量レベルを「基準レベル」より下に落とすと、リスナーには特定の音が聞こえなくなったり、違った聞こえかたをしたりするようになります。THX Loudness Plusは、音量が下げられたときの音色や空間的広がりの変動を、サラウンドチャンネルのレベルと周波数特性を的確に調節することによって補正します。これにより、ユーザーは音量設定にかかわらずサウンドトラックの真の効果を体験できます。THX Loudness Plusは、どのTHXリスニングモードを選んでいても自動的に適用されます。新しいTHX Cinema、THX Music、THX Gamesの各モードは、コンテンツの種類に応じて、それぞれに適したTHX Loudness Plusの設定を適用します。

THX MusicMode

THX Musicモードは、音楽リスニングの効果を高めるために適切なTHX処理を行ないます。また、映画ソースやTVソースに比べ、かなり異なっていることの多い、音楽ソースのさまざまなミックスレベルに合わせてデザインされたＴＨＸ Loudness Plusの専用音楽プロファイルを適用します。さらに、サラウンドスピーカーチャンネルに対してティンバー・マッチングを適用します。

THX Surround EX

THX Surround EXは、ドルビーラボラトリーズとTHX社の共同開発です。
映画館では、ドルビーデジタルサラウンドEX技術でエンコードされたサウンドトラックにより、ミキシング時に追加されたサラウンドバックチャンネルを再現することが可能です。従来のフロントL/R、センター、サラウンドL/R、サブウーファーという5.1チャンネルに、サラウンドバックチャンネルを加えることにより、後方部の広がり感をより緻密に再現し、音の定位感ももたらします。
THX Surround EXは、ドルビーデジタルサラウンドEX技術でエンコードされたサウンドトラックを、映画館で上映されたときの臨場感のまま、一般家庭で再生します。
ドルビーデジタルサラウンドEX技術を使って制作された映画は、DVDなどで市場で販売される際、そのパッケージに効果に関する説明を表示しているものがあります。ドルビーデジタルサラウンドEX技術を使って制作された映画の一覧、およびドルビーデジタルサラウンドEX技術を使ってエンコードされたDVDタイトルの一覧は、下記のウェブサイトでご覧になれます。
映画一覧：http://www.dolby.com

THX Ultra2

THX Ultra2の認証を取得したホーム・シアター・コンポーネントは、いずれも一連の厳しい品質/性能試験に合格しています。このような製品にのみ付与されているTHX Ultra2のロゴは、ご購入いただいたホーム・シアター製品が、長期間にわたって卓越した性能を発揮することを保証するものです。
THX Ultra2の要件には、パワーアンプ性能、プリアンプ性能、デジタル/アナログ空間での動作などをはじめとする、何百ものパラメーターが定義されています。

THX Ultra2 Cinema mode

THX Ultra2 Cinema modeは、8本のスピーカーを使用して5.1チャンネルの映画ソースを再生する場合に最適なサラウンドモードです。このモードでは、2本のサラウンドスピーカーと2本のサラウンドバックスピーカーの音をブレンドする新しいTHX処理により、サラウンドの広がり感と方向感を同時に再現し、最適なサラウンド空間を生み出します。
THX Ultra2 Cinema modeで再生中は、DTS ES(マトリクスおよびディスクリート)や、ドルビーデジタルサラウンドEXでエンコードされたサウンドトラックに認識信号(フラグ)が含まれている場合には、自動的に識別されます。
ドルビーデジタルサラウンドEXでエンコードされたサウンドトラックには、このようなフラグが含まれていないものがあります。このようなソースを再生する場合は、ソースがドルビーデジタルサラウンドEXでエンコードされているかどうかをパッケージなどで確認したうえで、手動でSurround EXモードに切り替えることができます。ソースがドルビーデジタルサラウンドEXでエンコードされていない場合は、THX Ultra2 Cinema modeで再生します。

THX Ultra2 Games Mode

THX Ultra2 Games Modeは、ステレオやマルチチャンネルで記録されたゲーム用オーディオ再生のためのモードです。このモードでは、THX ASA処理がアナログ、PCM、DTS、Dolby Digitalなどの、すべての5.1チャンネルや2

チャンネルでエンコードされたゲームソースのサラウンド・チャンネルに適用されます。これにより、THX Games Modeでは、360度の再生環境を提供しながら、すべてのゲームオーディオ・サラウンド情報を最適なチャンネルに振り分けて再生します。サラウンド音場のスムーズな音のトランジションがTHX Ultra2 Games Modeの特徴です。

THX Ultra 2 Music Mode

THX Ultra 2 Music Modeは、5.1チャンネルの音楽ソースを再生する場合に最適なサラウンドモードです。DTS、ドルビーデジタルなどで収録された5.1チャンネルの音楽ソースに対して、Advanced Speaker Arrayの処理をすることにより、広がりのある安定したサラウンド空間を再現します。

ダイアローグ・ノーマライゼーション

DialNorm・・+4dB

「ダイアローグ・ノーマライゼーション」とは、ドルビーデジタルおよびDTSにおいて、音声信号に含まれている情報(THX推奨値)に基づいて各ソフトの音量を自動的に補正する機能です。この機能が作動すると、再生開始時に上図のように一定時間表示されます。ここでの数値はダイアローグ・ノーマライゼーションによって補正された音量を表しています。

音声•映像編

インターレース

一画面の走査線を奇数段、偶数段に分け、交互に表示する走査方式です。通常のテレビなどに使われています。

コンポジットビデオ信号

輝度を表すY信号と、色を表すC信号を一つにまとめて伝送する方式です。テレビのNTSC信号などが採用しています。

コンポーネントビデオ信号

映像信号を、輝度を表すY信号と、色を表すPB／CB信号およびPR／CR信号の3系統に分けて伝送する方式です。それぞれの信号を独立して伝送するため、色をより忠実に再現できます。また、コンポーネントビデオ信号は、色を表す信号から輝度を表す信号を引いているので、色差信号とも呼ばれます。

サンプリング周波数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、1秒間にサンプリング(信号の大きさを数値に置き換えること)を行う回数をサンプリング周波数と言います。
再生できる周波数帯は「サンプリング周波数」で決まり、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がることになります。

ディープカラー

HDMI 1.3がサポートしている映像技術です。RGBまたはYcbCr信号の処理を、従来の8ビットに対して10／12／16ビットで処理することで、より豊かな色調表現が可能です。表現できる色の数が従来の数百万色から数億色に増えたことにより、グラデーションの表現力や暗部のディテール再現力が向上し、カラーバンディング(しま模様状になる色の変化)の少ない画像を楽しめます。

プログレッシブ

一画面すべての走査線を、一度に表示する走査方式です。走査線を分けて交互に表示するインターレース方式に比べ、ちらつきの少ない、滑らかな映像を映し出すことができます。

量子化ビット数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、音の大きさを数値化するときのきめ細かさを量子化ビット数と言います。音量の差を表すダイナミックレンジは「量子化ビット数」で決まり、量子化ビット数が大きいほど音の大きさの変化をきめ細かく再現できることになります。

D端子

コンポーネントビデオ信号とコントロール信号(走査線、アスペクト比、インターレース／プログレッシブの情報)を、1本の専用ケーブルで接続できます。その性能に応じてランクがD1からD5に分けられています。本機にはD5ビデオ端子が装備されており、D1からD5の規格に対応しています。

HDMI

High-Definition Multimedia Interfaceの略です。パソコンディスプレイなどで使われているDVI(Digital Video Interface)端子を拡張した、次世代テレビ向けのデジタルインターフェースの規格です。HDMI対応機器とHDMI対応のプラズマディスプレイなどを接続することで、圧縮されていないデジタル映像と音声(ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AAC、またはリニアPCM)を1本のケーブルで伝送できます。接続にはHDMIケーブルをお使いください。

LFE(ロー・フリケンシー・エフェクト)0.1チャンネル

音声成分の帯域が20〜120Hzの、低音域専用チャンネルです。ドルビーデジタルとDTS、AACで、全帯域用の5チャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているので、0.1と表現されます。

Sビデオ信号

映像信号を、輝度を表すY信号と、色を表すC信号に分けて伝送する方式です。S ビデオ端子で接続すると、コンポジットビデオ信号より美しい映像で録画／再生をお楽しみいただけます。

xvYCC

HDMI 1.3がサポートしている映像技術です。色空間規格の一つで、sRGB規格より広い色空間を持っているため、今までできなかった色の表現が可能です。sRGB規格の色域との互換性を確保しながら色空間を拡張し、より鮮明で自然な映像になっています。特に静止画やCGで高い効果が得られます。

その他

リップシンク（Lip sync）

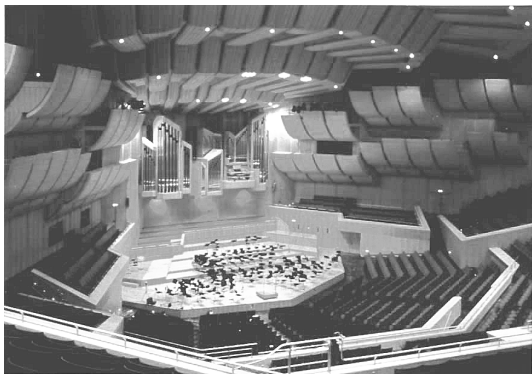
HDMI 1.3がサポートしている、音声と映像の出力タイミングのずれを自動的に補正する技術です。映像信号の大容量化に伴う信号処理の複雑化により、音声出力に対して映像出力が遅れてしまうことがあります。この映像出力の遅延を自動的に検知し、遅延時間に合わせて音声を遅らせて出力することにより、音声と映像の出力タイミングを同期させています。

ブルーレイディスク

ハイビジョン時代に対応した次世代光ディスクです。
CDやDVDで使用されている赤色レーザーよりも波長が短い青紫色レーザーを使用することで、CDやDVDと同じ12 cmサイズのディスクでありながら、ＤＶＤの約５倍の大容量（５０ＧＢ、２層）を実現しています。また、５４Ｍｂｐｓ～72Mbpsの高転送レートにより、デジタルハイビジョンの高画質映像を余すところなく再生できます。

HD DVD

ハイビジョン時代に対応した次世代光ディスクで、ＤＶＤフォーラムによって策定されています。
CDやDVDで使用されている赤色レーザーよりも波長が短い青紫色レーザーを使用することで、CDやDVDと同じ12 cmサイズのディスクでありながら、ＤＶＤの約3倍の大容量（30GB、2層）を実現しています。また、最大データ転送レートは36.55Mbpsです。現行のDVDと同じディスク構造を採用しているため、既存のDVD規格との高い互換性を持ち、また、低コストを実現しているのが特長です。

音場とは？

「その空間が持つ特有の音の響き」を「音場」と呼んでいます。
コンサートホールなどで、私達は、楽器の音や歌手の声が直接聴こえてくる「直接音」のほかに、床や壁・天井などに1回反射してから聴こえてくる「初期反射音」、さらに何回も反射を繰り返しながら次第に減衰してゆく「後部残響音」を聴くことになります。建物内部の形状や広さ、それに内装材料の種類などによって、初期反射音や残響音の構成が異なり、そのホール特有の響きが生まれます。それが「音場」です。
ヤマハでは、世界の著名なコンサートホールやオペラハウスなどで、反射音の方向・強さ・帯域特性・遅延時間などの音場情報を実際に測定し、その膨大なデータを蓄積しています。
本機では、この音場測定の実測データを基に作成された音場プログラムを自由に選んで、著名ホールやライブハウスなどの音場をリスニングルームに再現することができます。

音場を構成する要素

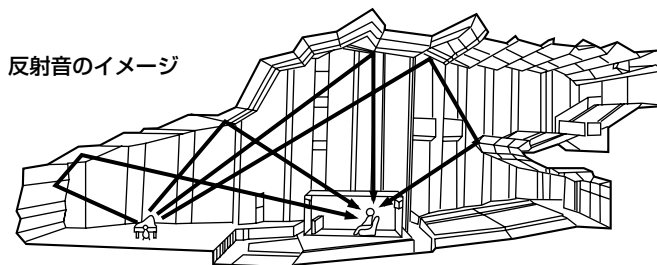
直接音

楽器やボーカルなどの音源からどこにも反射することなく、直接リスナーの耳に届く音です。

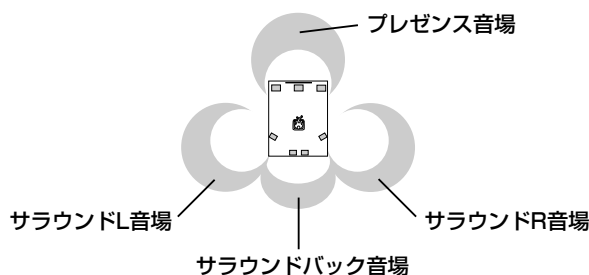
初期反射音

壁や天井などに1回反射してからリスナーの耳に到達する音です。初期反射音は直接音が発生してから50msから80msくらいあとに耳に届きます。初期反射音により、直接音に明瞭さが付加されます。

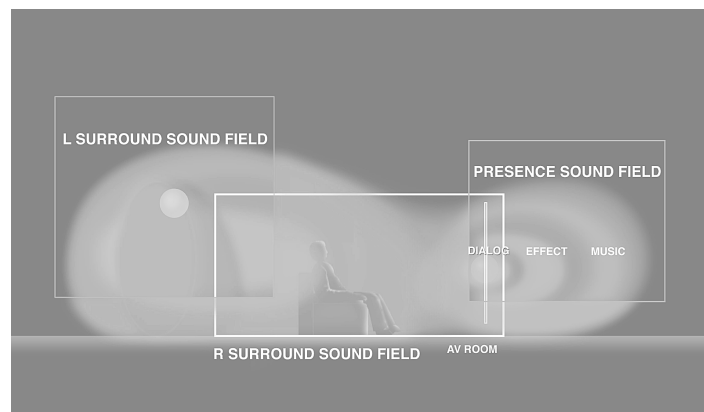
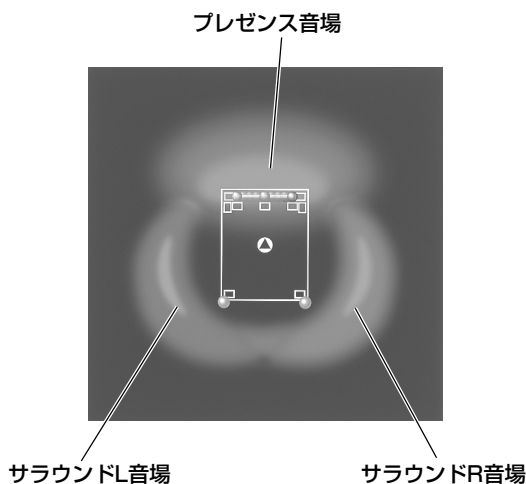
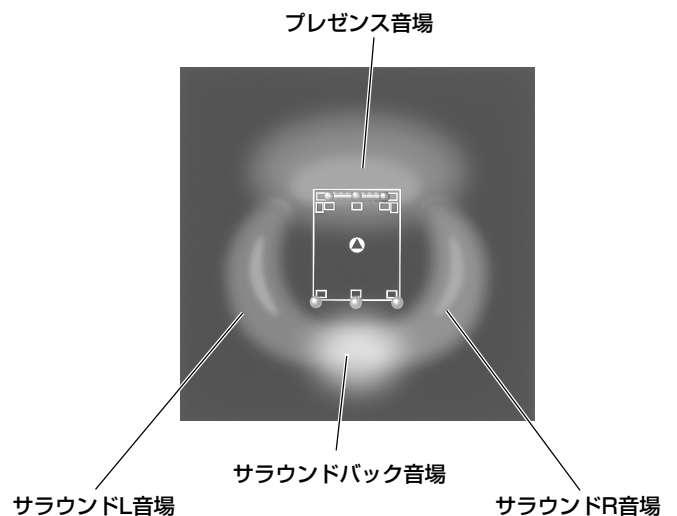
後部残響音

壁や天井、部屋の後部などに2回以上反射を繰り返しながら、多数の反響音がひとまとめになり、連続した音響の余韻となる音です。これらの反射音は方向性がなく、直接音の鮮明さを劣化させます。

直接音、初期反射音、後部残響音が一つになることで、リスナーは演奏会場や劇場をイメージすることができます。デジタル音場プロセッサーはこの反射音、残響音を再現することで、音場を作り出します。
また、リスニングルームにおいて適切な反射音や後部残響音を再現できれば、独自のリスニング音場を作り出すことができます。つまりリスニングルームをコンサートホール、ダンスフロア、大聖堂などさまざまな演奏会場や劇場の音響効果に変えることができるのです。意のままに音場を再現する能力こそ、デジタル音場プロセッサーを通じてヤマハがこれまでに実践してきたことです。

音場の種類

本機が作り出す音場は大きく分けて以下の3つです。
プレゼンス音場：前方を中心に広がる音場です。
サラウンド音場：後方から左右独立して広がる音場です。
サラウンドバック音場：後方中央に作り出される音場です。

CINEMA DSP音場プログラム

CINEMA DSP音場プログラムのサウンドデザイン

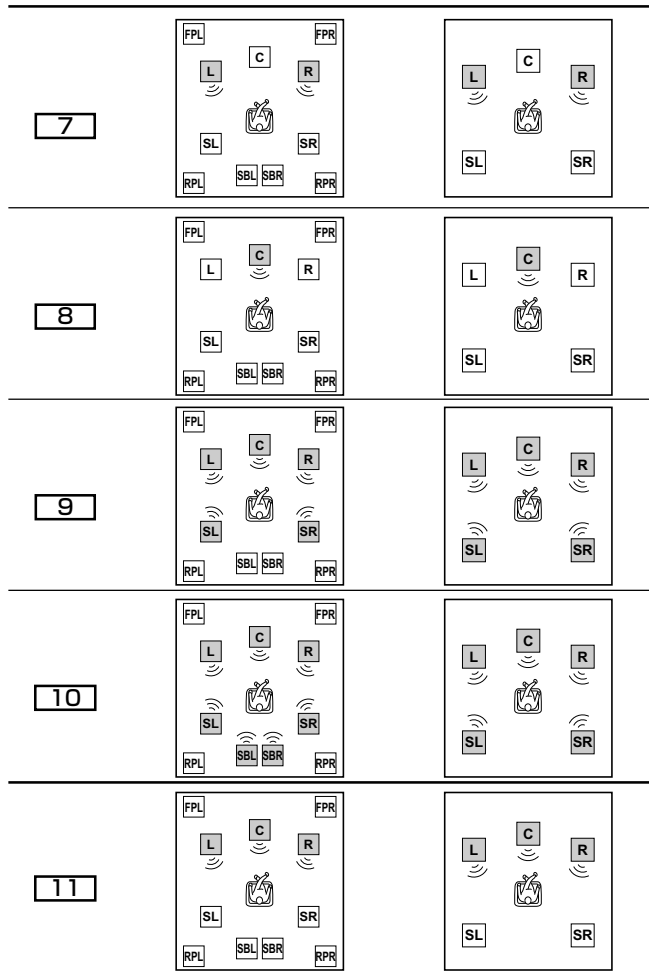
映画製作者の意図するサウンドは、セリフは明瞭にスクリーン上に定位し、効果音はその奥に、音楽はさらにその奥に広がり、そしてサラウンドは視聴者を取り囲んでスクリーンの映像と一体になるようにデザインされています。
ヤマハDSPをAV再生用に進化させたプログラムが「CINEMA DSP音場プログラム」です。映画サラウンドデコーダーであるドルビープロロジック、ドルビーデジタルやDTS、またBS／地上波デジタル放送の音声フォーマットであるAACなどの各デコーダーとヤマハDSPを融合し、映画のサウンドを最良の状態でデザインするダビングステージ（最終的な映画のサウンドデザインを完成させるファイナルミックス）でのクオリティをAVルームに再現します。
CINEMA DSP音場プログラムでは、ヤマハDSP処理による音場を加えることで、視聴者はセリフの実在感や効果音、音楽の奥行き感とともに、スムーズな音源の移動感とスクリーンまで回り込むサラウンド音場に包まれます。プレゼンススピーカーを使用すれば、よりはっきりとしたセリフの定位が得られるとともに、さらなる音場の立体感を演出できます。

3音場
ドルビーデジタル、DTSなどの5.1チャンネルソースに対して、前方のプレゼンス音場と、後方の左右それぞれに独立したサラウンド音場を付加します。

4音場
ドルビーデジタルEX、DTS-ES、ドルビーTrueHD、DTS-HDなど、6.1／7.1チャンネルソースに対応して、3音場にサラウンドバック音場を加えた4つの音場を付加します。

音場プログラムと再生スピーカー対応表

音場プログラムにより、下図で示されたスピーカーから音声が出力されます。音声を出力するスピーカーは入力信号の種類により異なります。下図の 1 ～ 11 の番号は200ページ表中の番号と対応しています。

ご注意
音場プログラムや入力信号の種類により、スピーカーから音が出なかったり、小さい音しか出なかったりする場合があります。映画の効果音など、シーンに合わせて部分的にしか使用されないチャンネルもあります。

表中のイラストは以下の内容を表しています。

L	フロント左スピーカー
C	センタースピーカー
R	フロント右スピーカー
PL	プレゼンス左スピーカー
PR	プレゼンス右スピーカー
SL	サラウンド左スピーカー
SR	サラウンド右スピーカー
SBL	サラウンドバック左スピーカー
SBR	サラウンドバック右スピーカー
FPL	フロントプレゼンス左スピーカー
FPR	フロントプレゼンス右スピーカー
RPL	リアプレゼンス左スピーカー
RPR	リアプレゼンス右スピーカー
	音が出るスピーカー
	音が出ないスピーカー

	スピーカー設置図	
	11.2／11.1チャンネル構成	5.2／5.1チャンネル構成
1		—
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		

上図の「11.2／11.1チャンネル構成」では、スピーカーを11本接続している場合を表しています。

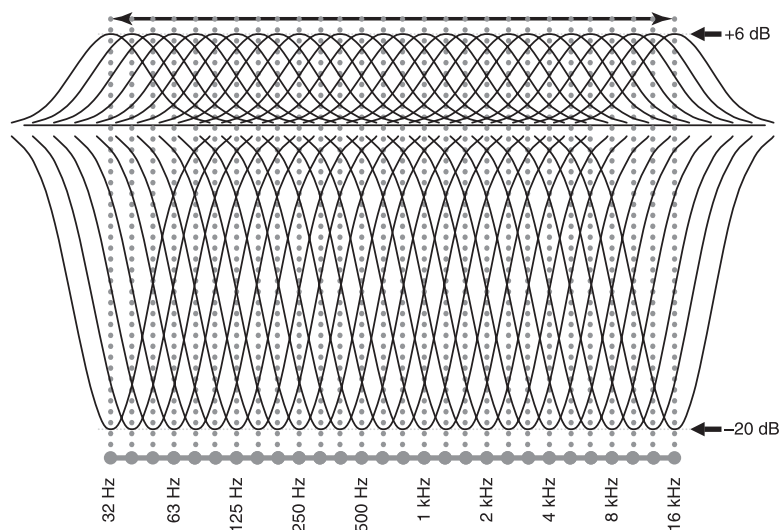
その他の情報

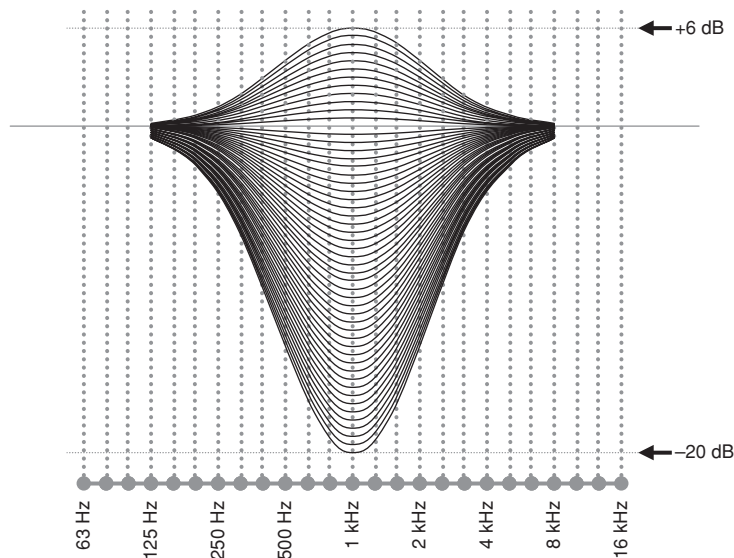
音場プログラム	HD^3	入力信号			
		2チャンネル音声（モノラル）	2チャンネル音声（ステレオ）	5.1チャンネル音声（DDEX／DDPLⅡx／ES インジケーター消灯時）	6.1/7.1チャンネル音声（DDEX／DDPLⅡx／ES インジケーター点灯時）
CLASSICAL1 Hall in Munich A Hall in Munich B Hall in Frankfurt Hall in Stuttgart Hall in Vienna Hall in Amsterdam CLASSICAL2 Hall in USA A Hall in USA B Chamber Church in Tokyo Church in Freiburg Church in Royaumont LIVE/CLUB Village Gate Village Vanguard The Bottom Line Cellar Club The Roxy Theatre Warehouse Loft Arena	ON	1	1	3	4
	OFF	2	2	3	4
ENTERTAINMENT Sports Music Video Recital/Opera Pavilion Disco Action Game Roleplaying Game MOVIE Standard Spectacle Sci-Fi Adventure Drama	ON	3	4	3	4
	OFF	5	4	3	4
MOVIE Mono Movie	ON	3	3	3	4
	OFF	5	6	3	4
STEREO 2ch Stereo	−−	7	7	7	7
STEREO 11ch Stereo MUSIC ENHANCER 11ch Enhancer	−−	4	4	4	4
SUR. DECODE Surround Decoder (Pro Logic)	−−	8	9	9	10
SUR. DECODE Surround Decoder (PLⅡx Movie/PLⅡ Movie) (PLⅡx Game/PLⅡ Game) (Neo:6 Cinema) (CSⅡ Cinema) (CSⅡ Music) (neural THX)	−−	8	10	9	10
SUR. DECODE Surround Decoder (PLⅡx Music/PLⅡ Music) (Neo:6 Music)	−−	11	10	9	10
THX Cinema	−−	8	10	10	10
THX Music	−−	11	10	10	10
THX Games	−−	8	10	10	10
STRAIGHT Pure Direct MUSIC ENHANCER Straight Enhancer	−−	7	7	9	10

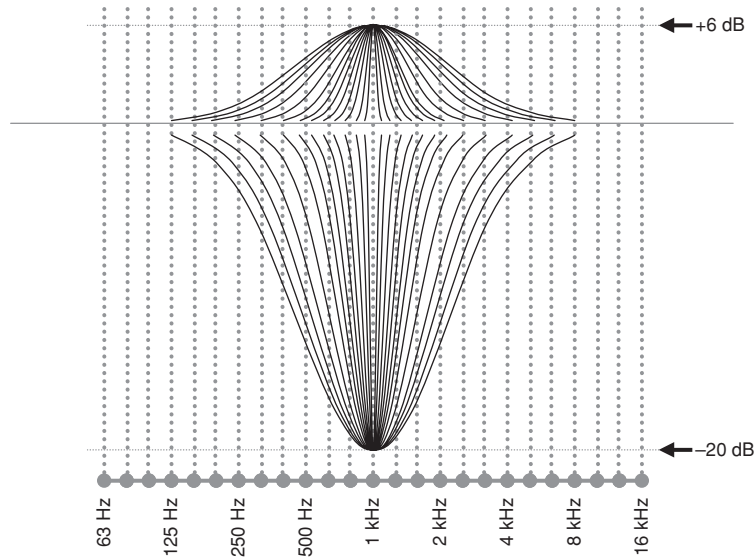
パラメトリックイコライザーについて

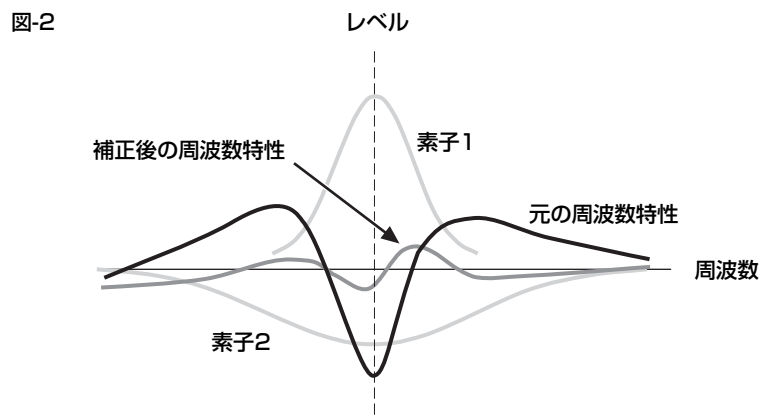
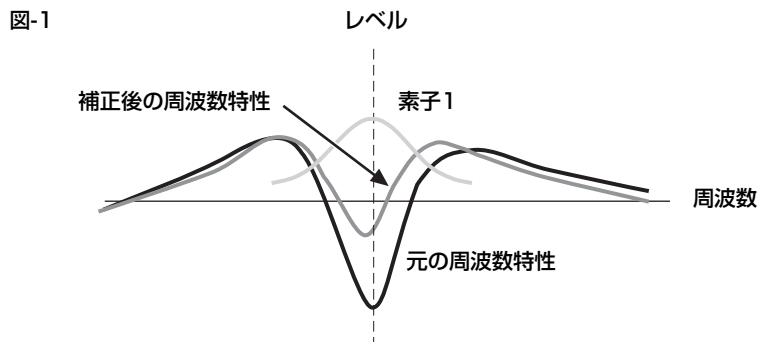
本機に搭載の視聴環境最適化システム「YPAO」(Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer)では、パラメトリックイコライザーを使用して周波数特性を補正しています。周波数、レベル、Qファクターの3つのパラメーターを組み合わせて、より精度の高い周波数特性の補正を行っています。

パラメーター1:周波数

1/3オクターブごとに、32Hzから16kHzの間で、可変できます。

パラメーター2:レベル

0.5dBごとに、−20dBから+6dBの間で、可変できます。

パラメーター3:Qファクター

Qファクターとは指定された周波数帯域の、帯域幅のことです。0.5から10の間で、可変できます。

3つのパラメーター(周波数、レベル、Qファクター)を組み合わせて設定できるイコライザー素子により、周波数特性を最適に補正します。本機は、このイコライザー素子を、1チャンネルにつき7個持っています。

複数のイコライザー素子を使うことで、1個のイコライザー素子では補正しきれない周波数特性(図-1)も、最適に補正することができます(図-2)。

定在波

波長、周波数、速度が同じで、進行方向が逆向きの二つの波が重なり合うことによって発生する波で、一定の位置において振動するだけで、進行せずに止まっているように見える合成波のことです。
スピーカーから出た音と、部屋の壁などで反射した音は、ある条件の下で共鳴します。このとき、室内の周波数特性に大きな影響を与え、視聴位置によっては特定の周波数の音が大きく聞こえたり、逆に聞こえにくくなったりすることがあります。

主な仕様

オーディオ部

定格出力(6Ω、20Hz～20kHz、0.04% THD)
フロント左／右 ..... 140W+140W
センター 140W
サラウンド左／右 ..... 140W+140W
サラウンドバック左／右 ..... 140W+140W
フロントプレゼンス左／右 ..... 50W+50W
リアプレゼンス左／右 ..... 50W+50W

実用最大出力(JEITA、6Ω、1kHz、10% THD)
フロント左／右 ..... 210W+210W
センター 210W
サラウンド左／右 ..... 210W+210W
サラウンドバック左／右 ..... 210W+210W
フロントプレゼンス左／右 ..... 85W+85W
リアプレゼンス左／右 ..... 85W+85W

ダンピングファクター(8Ω、1kHz)
フロント左／右 150以上

入力感度／入力インピーダンス(1kHz、100W、8Ω)
PHONO(MM) ..... 3.5mV／47kΩ
CD他 ..... 200mV／47kΩ
MULTI CH INPUT ..... 200mV／47kΩ

最大許容入力
PHONO(MM)(1kHz、0.1% THD) 60mV以上
CD他(1kHz、0.5% THD) 2.4V以上

出力電圧／インピーダンス
AUDIO OUT ..... 200mV／900Ω
PREOUT ..... 1.0V／500Ω
SUBWOOFER ..... 2.0V／500Ω

ヘッドホン出力／インピーダンス ..... 150mV／100Ω

周波数特性
CD他(PURE DIRECT時)－フロント左／右(10Hz～100kHz)
..... －3.0dB

全高調波歪率(20Hz～20kHz)
PHONO(MM)－AUDIO OUT(1V) 0.02%以下
CD他－フロントSP OUT(70W／8Ω) 0.02%以下

S／N比(IHF-Aネットワーク、入力ショート)
PHONO(MM)(2.5mV入力)－SP OUT 80dB以上
PHONO(MM)(5mV入力)－SPOUT 86dB以上
CD他(250mV入力)－SP OUT 100dB以上

残留ノイズ(IHF-Aネットワーク)
フロントSP OUT 70μV以下

チャンネルセパレーション(1kHz／10kHz)
PHONO(入力ショート) ..... 70dB以上／60dB以上
CD他(5.1kΩ入力ショート) ..... 70dB以上／60dB以上

トーンコントロール特性
BASS ..... ±6dB／50Hz
TREBLE ..... ±6dB／20kHz

A／Dコンバーター
..... デルタシグマ方式192kHz対応24ビットA／Dコンバーター

D／Aコンバーター
..... 192kHz対応24ビットD／Aコンバーター

ビデオ部

ビデオ信号方式(壁紙) ..... NTSC／PAL

ビデオ信号方式(ビデオコンバージョン) ..... NTSC／PAL

コンポジットビデオ信号レベル ..... 1Vp-p／75Ω

Sビデオ信号レベル
Y ..... 1Vp-p／75Ω
C (NTSC) ..... 0.286Vp-p／75Ω
C (PAL) ..... 0.3Vp-p／75Ω

コンポーネントビデオ信号レベル
Y ..... 1Vp-p／75Ω
P_B、P_R ..... 0.7Vp-p／75Ω

ビデオ最大許容入力(ビデオコンバージョンオフ) 1.5Vp-p以上

S／N比(ビデオコンバージョンオフ) 70dB以上

周波数帯域(MONITOR OUT)(ビデオコンバージョンオフ)
COMPONENT VIDEO ..... 5Hz～100MHz、±3dB
D5 VIDEO ..... 5Hz～100MHz、±3dB

総合

電源電圧 ..... AC100V、50／60Hz

消費電力 630W

待機時消費電力 0.1W以下

ACアウトレット(電源スイッチ連動×2) 合計100W

寸法(幅×高さ×奥行き) ..... 435×210×497mm

質量 34.0kg

* 仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。
JIS C 61000-3-2適合品とは、日本工業規格「電磁両立性第3-2部：限度値一高調波電流発生限度値(1相当たりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

音楽を楽しむエチケット
楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

ブロックダイアグラム

オーディオ部

ビデオ部

HDMI IN
IN (Front)
IN 1
IN 2
IN 3
IN 4
HDMI Selector
HDMI Rx
HDMI
Selector
Video I/P Converter
Video Selector
Selector
HDMI Tx
HDMI Tx
HDMI OUT
OUT 1
OUT 2
D VIDEO IN
BD/HD DVD
DVD
CBL/SAT
DVR
* Exclusive use
MONITOR OUT (D VIDEO)
MONITOR OUT 1
COMPONENT VIDEO IN
BD/HD DVD
DVD
CBL/SAT
DVR
INPUT Selector
Video Decoder
GUI Processor
Video ip Converter
Video Encoder
YPbPr
SEL
MONITOR OUT (COMPONENT VIDEO)
MONITOR OUT 1
MONITOR OUT 2
S VIDEO IN
V-AUX
DVD
DTV
CBL/SAT
DVR
VCR
DOCK
INPUT Selector
REC Selector
REC
Source/Main
Y/C
SEL
MONITOR OUT (S VIDEO)
MONITOR OUT
Source/REC Selector
REC OUT (S VIDEO)
DVR
VCR
VIDEO IN
V-AUX
DVD
DTV
CBL/SAT
DVR
VCR
DOCK
INPUT Selector
REC Selector
REC
Source/Main
CVBS
SEL
MONITOR OUT (VIDEO)
MONITOR OUT
REC Selector
REC OUT (VIDEO)
DVR
VCR

索引

A

B

C

D

E

F

H

I

L

M

P

R

S

T

U

V

W

X

ア行

カ行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

マ行

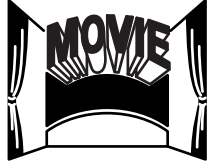
ラ行

何を見ますか、何を聴きますか？

本機でお楽しみいただける音場プログラムの一覧です。見たい／聴きたいものに合わせて、音場プログラムを選び、再生してみましょう。音場プログラムについて詳しくは83～91ページをご覧ください。

効果的にお楽しみいただくには

音場を選びます

映画館の感覚で聴きたい

MOVIE 5 **MOVIE**

- Standard ―― 88ページ
- Spectacle ―― 88ページ
- Sci-Fi ―― 88ページ
- Adventure ―― 88ページ
- Drama ―― 89ページ
- Mono Movie ―― 89ページ

雰囲気良く聴きたい

ENTERTAIN 4 **ENTERTAIN**

- Sports ―― 87ページ

大ホール感覚で聴きたい

CLASSICAL 1 1 **CLASSICAL1**

- Hall in Munich A ―― 84ページ
- Hall in Munich B ―― 84ページ
- Hall in Frankfult ―― 85ページ
- Hall in Stuttgart ―― 85ページ
- Hall in Vienna ―― 85ページ
- Hall in Amsterdam ―― 85ページ

CLASSICAL 2 2 **CLASSICAL2**

- Hall in USA A ―― 85ページ
- Hall in USA B ―― 85ページ
- Church in Tokyo ―― 85ページ
- Church in Freiburg ―― 86ページ
- Church in Royaumont ―― 86ページ
- Chamber ―― 85ページ

ライブハウス/コンサート感覚で聴きたい

LIVE/CLUB 3 **LIVE/CLUB**

- Village Gate ―― 86ページ
- Village Vanguard ―― 86ページ
- The Bottom Line ―― 86ページ
- Cellar Club ―― 86ページ
- The Roxy Theatre ―― 86ページ
- Warehouse Loft ―― 86ページ
- Arena ―― 87ページ

ENTERTAIN 4 **ENTERTAIN**

- Music Video ―― 87ページ
- Recital/Opera ―― 87ページ
- Pavilion ―― 87ページ
- Disco ―― 87ページ

豊かな音声で聴きたい

ENHANCER 7 **ENHANCER**

- Straight Enhancer ―― 89ページ
- 11ch Enhancer ―― 89ページ

ゲームの世界に浸りたい

ENTERTAIN 4 **ENTERTAINMENT**

- Action Game ―― 88ページ
- Roleplaying Game ―― 88ページ

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://www.yamaha.co.jp/audio/

■ AVお客様ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 市内通話料金でOK ナビダイヤル 0570-01-1808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-3409

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受 付 日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：10:00～12:00、13:00～18:00

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ電気音響製品修理受付センター

ナビダイヤル（全国共通） 市内通話料金でOK ナビダイヤル 0570-01-2808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-4830

FAX（053）463-1127

受 付 日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：月～金曜日 9:00～19:00　土曜日 9:00～17:30

修理お持ち込み窓口
受 付 日：月～金曜日（祝日および弊社の休業日を除く）
受付時間：9:00～17:45

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

浜松 〒435-0016 浜松市東区和田町200
ヤマハ(株)和田工場内
FAX (053)462-9244

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪 〒564-0052 吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

● 保証期間
お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み
技術料　故障した製品を正常に修復するための料金です。
技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。
別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品修理受付センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ･リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！

こんな症状はありませんか？
- 電源コード･プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常･故障がある。

すぐに使用を中止してください。
事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検･修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社

© 2007 YAMAHA CORPORATION　All Rights Reserved.

Printed in Malaysia　WK97690-2